前橋市上泉町664－4
前橋市教育委員会文化財保護課

群馬県前橋市

芳賀北曲輪遺跡

住宅団地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1990

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、北に赤城山西に榛名山を望む関東平野の北部を市域とした県都であります。北から南に貫流する利根川の清流は「水と緑と詩の街」を潤し、かつては「糸の町」として養蚕製糸で栄えました。今人口は２８万を擁し生涯教育都市を目指し教育・文化・商工業の調和のある、より豊かですばらしい街づくりが進められています。この施策の一環でもある勝沢住宅団地の造成地（前橋市勝沢町字北曲輪地内）芳賀北曲輪遺跡は、中心市街地から北東約5.5km の地に在り、四季折々に姿の美しい赤城山が北に聳え、古代より人々の信仰の対象として、その姿を今に伝えています。

赤城南面に拡がる火山斜面には、多くの放射谷が開析発達し、尾根に当る部分が舌状台地を形成し、古くから集落の発達した地域であります。東側を南下する藤沢川支流左岸の高花台一、二丁目など、公営の近代的な中高層住宅や高級住宅の立ち並ぶ芳賀団地は、国策事業の一環である首都圏整備事業を導入し、近代都市前橋を目指す「消費都市から生産都市へ」の市の施策の一つとして、前橋工業団地造成組合による団地造成事業であります。この工事に先がけて、前橋市教育委員会のもとに組織した『芳賀団地造成地内埋蔵文化財発掘調査団』が埋蔵文化財発掘調査を昭和45年度から始め、多くの成果を上げ、昭和55年には調査が完了しています。

この芳賀北曲輪遺跡についても、前橋工業団地造成組合の要請を受た前橋市埋蔵文化財発掘調査団のもとで、勝沢住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査業務を実施したものであります。

調査では、縄文時代の住居跡25軒、土坑17基、古墳時代の群集墳 6基の遺構と、縄文式土器・土器片26,348点、石斧 118点、石鏃39点、その他の石器など 3,659点古墳時代太刀 1点、刀子 2点、土師器 7点、須恵器39点、の遺物を検出することができました。

この調査報告書を刊行するにあたり、多くの方々の御理解と御協力を得たことに対し厚く御礼申し上げます。

平成２年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　二　瓶　益　巳

例　　言

1　本書は、前橋工業団地造成組合の住宅団地の造成工事にさきがけて実施した埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、前橋市教育委員会のもとに組織された前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長二瓶益巳）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（前橋市青柳町２１１－１代表取締役須永眞弘）が実施した。

3　調査担当者　遠藤和夫（前橋市埋蔵文化財発掘調査団事務局主任）
　　金子正人（スナガ環境測設株式会社埋蔵文化財部総括チーフ）
　　長島郁子（スナガ環境測設株式会社埋蔵文化財部第３チーフ）

4　遺　跡　名　芳賀北曲輪（はがきたくるわ）遺跡略称６３Ｃ－７

5　所　在　地　前橋市勝沢町47-1・2, 49, 50-1・2, 51-1・2, 57-1・2・3・4・5　地内

6　調査期間　試掘　昭和 63 年 12 月　1 日～平成元年　1 月　9 日
　　発掘　平成元年　1 月 17 日～平成元年　3 月 25 日
　　整理　平成元年　8 月　1 日～平成 2年　3 月 31 日

7　調査面積　8,500 ㎡

8　出土遺物は、前橋市教育委員会に保管する。

9　本書は調査団の指導のもとに、スナガ環境測設株式会社が作成に当り、執筆と編集を金子正人が、執筆を長島郁子が担当し、遺物の復元・実測・計測・遺構のトレースを長島郁子・佐々木智恵子・角田朱美・小林裕美、版下作成を鈴木赳夫・金子恵子・須永薫子、作業事務を須永豊・柴崎信江が担当した。調査の指導補助に荻野博巳（第１チーフ）・白石光男（第２チーフ）が当った。

10　測量・調査計画を須永眞弘（測量士第５２６１４号）が行い、調査の指揮指導を金子正人（調査担当）が、測量は板垣宏（測量設計チーフ）・勝田貞幸・樺沢高幸が当った。発掘調査の安全管理は、石島正二（総務役）が行った。

11　調査に協力を戴きました前橋工業団地造成組合を始め、地元の方々及び調査並びに整理に際して指導、助言を賜った各方面の方々に記して感謝申し上げます。（順不同）
　　群馬県教育委員会文化財保護課　　群馬県埋蔵文化財調査事業団　　群馬県立歴史博物館
　　東京工芸大学

凡　　例

1　遺構の略号
　　シは柄鏡型敷石住居跡、ＪＨは縄文土器を伴う竪穴式住居跡、Ｄは土坑、P_1・P_2 は柱穴番号
　　Ｗは溝、Ｍは古墳、Ｏは風倒木跡を表す。

2　遺構実測図の縮尺　住居跡・土坑・井戸は 1/60 を原則とした。

3　遺構実測図中の出土遺物につけた番号は、遺物実測図の番号と一致する。

4　挿図中の方位は座標北を使用した。

5　土器・石器の実測図・投影図は 1/3　を原則とし、それ以外はそのつど表示した。

6　遺構・遺物写真図版の縮尺は任意である。

7　遺物出土状況実測図中土器は●石器は×で表した。

目　次

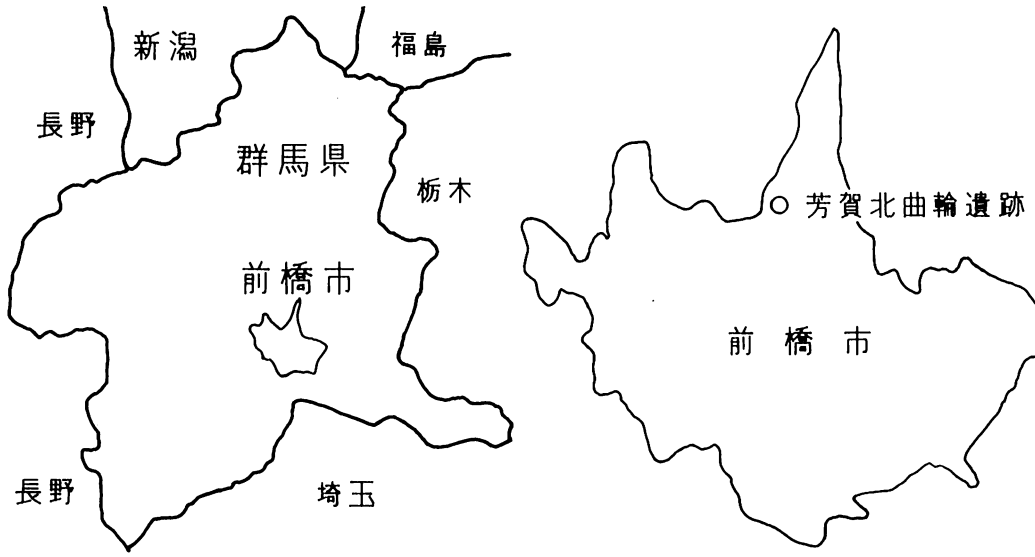
序
例言
凡例
第１章　調査の概要……1
　１．遺跡の位置と環境……1
　２．調査に至る経緯……2
　３．調査の方法と概要……2
　４．基本層序……3
第２章　検出された遺構と遺物……4
　１節　縄文時代の遺構・遺物……4
　　１　敷石住居跡……4
　　２　縄文時代の竪穴住居跡……１１
　　３　縄文時代の土坑について……２１
　　４　縄文時代の出土遺物……２３
　２節　古墳時代以降の遺構・遺物……１２３
　　１　古墳について……１２３
　　２　その他の遺構・平面図・出土遺物実測図……１２７
第３章　成果と問題点……１３２
　　１　縄文時代……１３２
　　２　古墳時代……１３４

挿図目次

芳賀北曲輪遺跡位置図……Fig1
芳賀北曲輪遺跡周辺図……3
芳賀北曲輪遺跡標準土層図……4
芳賀北曲輪遺跡遺構全体図……5
出土遺物観察表……２５
柄鏡型敷石住居跡・環状配石住居跡の遺物分布……４５
縄文時代の住居跡
柄鏡型敷石１号住居　平面図……(47)　遺物実測図……(64)　写真図版……(PL 1･2)
　　２号住居　平面図……(48)　遺物実測図……(65)　写真図版……(PL　2)
　　３号住居　平面図……(49)　遺物実測図……(66)　写真図版……(PL　2)
　　４号住居　平面図……(50)　遺物実測図……(70)　写真図版……(PL 1･2)
環状配石２２号住居　平面図……(51)　遺物実測図……(72)　写真図版……(PL　3)

１号住居跡	平面図・・・(52)	遺物実測図・・・(73)	
２号住居跡	平面図・・・(52)	遺物実測図・・・(73)	写真図版・・・(PL 3)
５号住居跡	平面図・・・(53)	遺物実測図・・・(73)	写真図版・・・(PL 3)
６号住居跡	平面図・・・(53)	遺物実測図・・・(75)	写真図版・・・(PL 3)
７号住居跡	平面図・・・(55)	遺物実測図・・・(75)	
８号住居跡	平面図・・・(54)	遺物実測図・・・(75)	
９号住居跡	平面図・・・(55)	遺物実測図・・・(78)	
１０号住居跡	平面図・・・(56)	遺物実測図・・・(79)	
１１号住居跡	平面図・・・(56)	遺物実測図・・・(79)	
１２号住居跡	平面図・・・(57)	遺物実測図・・・(79)	写真図版・・・(PL 3)
１３号住居跡	平面図・・・(58)	遺物実測図・・・(81)	
１４号住居跡	平面図・・・(58)	遺物実測図・・・(81)	
１５号住居跡	平面図・・・(59)	遺物実測図・・・(82)	写真図版・・・(PL 4)
１６号住居跡	平面図・・・(60)	遺物実測図・・・(85)	
１７号住居跡	平面図・・・(60)	遺物実測図・・・(85)	
１８号住居跡	平面図・・・(61)	遺物実測図・・・(86)	写真図版・・・(PL 4)
１９号住居跡	平面図・・・(61)	遺物実測図・・・(86)	
２０号住居跡	平面図・・・(62)	遺物実測図・・・(86)	
２１号住居跡	平面図・・・(62)	遺物実測図・・・(87)	
土坑	平面図・・・(63)	遺物実測図・・・(87)	写真図版・・・(PL 8)
遺構外の出土遺物		実測図・・・(89)	写真図版・・・(PL 13)
石器		実測図・・(101)	写真図版・・・(PL 16)

１・３号墳平面図・・・１２４
２・４号墳平面図・・・１２６
５号墳平面図・・１２８
６号墳平面図・・１２９
その他の遺構・平面実測図・・１３０
古墳時代以降の遺物実測図・遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３１



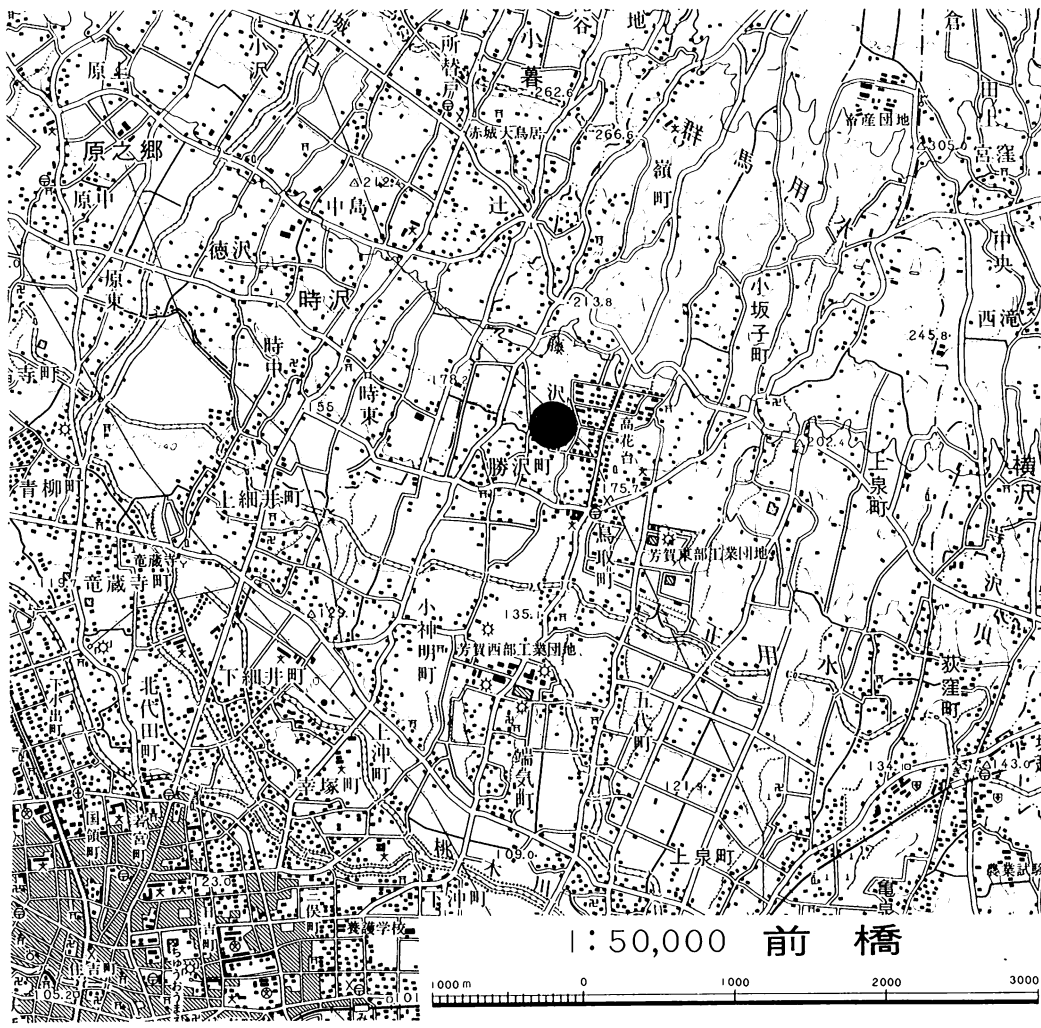


Fig. 1　芳賀北曲輪遺跡位置図

第1章　調査の概要

1．遺跡の位置と環境

芳賀北曲輪遺跡は前橋市の中心市街地から北東へ約5．5㎞、県道四ツ塚・原之郷・前橋線が通る高花台団地の北西方向に位置し、更に北側には主要地方道、渋川・大胡線が東西に通っている。当遺跡は前橋市勝沢町５７番地他に所在する。

勝沢町は昭和２９年に前橋市に合併されたもので、それまでは勢多郡芳賀村大字勝沢であった。旧芳賀村は、関東平野の北端に悠然と構える赤城山の南麓斜面にあって、南北に細長い三角形状を呈している。頂点に当たる北端は標高６２０ｍで、底辺に当たる南端は旧利根川の河川敷とされる沖積地で、その標高は１１０ｍ、平均傾斜ほぼ5/100である。

芳賀の地形は、北端に位置する鶏山を頂点として、火山砕屑岩層によって扇状地状に形成されている。標高３６０m以下の土地は、傾斜変換線付近の涌水を源とする川水によって浸触が目立ち、ここを谷頭とする開析谷が、地区南端の旧利根川河川敷の沖積地に向かってよく発達している。こうした開析谷の低地には水田が、丘陵性の台地上には集落と周辺に畑が開かれ、人間生活に直接深い係わりを持つ所と考えられ、芳賀地区の殆どが遺跡地であり、今日にみる芳賀地区の人間生活の舞台としての歴史は、遠く原始・古代社会にまで遡ることを示している。

芳賀地区では昭和１０年の古墳調査において６４基の古墳があるとされ、そのうち勝沢では9基とされている。しかし他に芳賀西部団地遺跡で３１基の古墳が調査され、西田・芳賀東部団地・嶺町東公田地内にもあり、少なくとも７～８基の古墳の存在が新たに確認されている。これらの古墳を併せると芳賀地区には実に１００基もの古墳が存在することになり、赤城山南麓は古墳の集中する地域の一つとされる。

赤城火山斜面は緩斜面で各種の火山砕屑層からなっている。樹枝状の放射谷はかなり密に発達しているが、それぞれの谷は、比較的浅いものが多く、かなり高いところまで水田化されており、尾根に当たる部分には古くから集落が発達している。斜面の末端は比高差１０m前後の直線的な段丘崖をなしており、旧利根川のつくった広瀬川低地帯に接している。

遺跡の所在する地域は赤城山南麓の緩斜面上で、標高１７５．３０mから１７９．８０mの、北西方向から南東方向に緩やかな傾斜を持つ地形である。

周囲には縄文時代から中・近世に至る遺跡が密集している。例えば芳賀東部団地遺跡・芳賀西部団地遺跡・芳賀北部団地遺跡・端気遺跡・大日塚古墳・倉本遺跡・九料遺跡・西田遺跡・大神明遺跡・東公田古墳・オブ塚古墳・オブ塚西古墳・丑子塚古墳・南田之口遺跡・九十九山古墳・青柳宿上遺跡・青柳寄居遺跡等がある。

以上のように旧利根川左岸の台地には、縄文時代から弥生・古墳・奈良・平安時代までの遺跡が確認されている。当遺跡においても、縄文時代と終末期の群集墳の存在することが判明した。

２．調査に至る経緯

芳賀北曲輪遺跡は、前橋工業団地造成組合による芳賀北部住宅団地勝沢町拡張計画に伴う、文化財保護法（昭和25年　法律第214号）第５７条の３に規定する、土木工事に先駆けての発掘調査を実施するもので、前橋市教育委員会が前橋工業団地造成組合（管理者　群馬県知事　清水一郎）と協議調整し、昭和６３年１２月１日より作業を実施することとなった。試掘調査の結果、縄文時代の住居跡と土坑、古墳時代後期の群集墳と考えられる石室及び周堀が確認された。この結果に基づいて平成元年１月１７日より３月２５日まで本調査を実施した。

調査経過（調査日誌より）

１２月	１日	発掘調査機材・作業員休憩施設の設置
	９日	グリット基準杭打ち開始
	１３日	トレンチ位置設定開始
	１９日	トレンチ掘削開始
	２６日	平面実測（１：２０）開始、安全防護柵設置
１月	６日	水準ＢＭ設置
	１７日	本調査開始、全面表土排除作業開始
	２１日	遺構確認開始
	２５日	平面実測（遺物上げ、１：２０）、古墳周堀調査開始
２月	６日	住居跡発掘開始、住居跡平面実測１：２０開始
	９日	古墳石室内精査開始
	１３日	敷石遺構調査開始
	１４日	古墳平面実測（１：２０、１：１０）
	１６日	敷石遺構付近調査区拡張、出土遺物の集中するグリットにトレンチを入れる。
３月	１０日	気球による空中撮影、全体図（１：２００）平面実測
	１３日	敷石遺構内炉掘り開始
	１７日	埋め戻し作業開始（南西部から）
	２０日	敷石１・２号住居の敷石を前橋市埋蔵文化財保護室へ運搬
	２２日	敷石１・３住居内炉石を　　〃
	２３日	深掘りトレンチを入れる。
	２５日	埋め戻し作業完了

３．調査の方法と概要

調査区域の北西隅に公共座標のＸ＝４７，５１０ｍ、Ｙ＝－６５，３２０ｍを測定しＡ－０グリットを設定し、５ｍメッシュで区画し、東方向をアラビア数字、南方向をアルファベットで表すことにした。標高は勢多郡富士見村にある四等三角点（０６）時東より測定して、１７９ｍを遺跡内に設定しＢＭとした。試掘調査の結果西側 約２，７２０㎡は調査前、養鶏養豚のし尿施設や

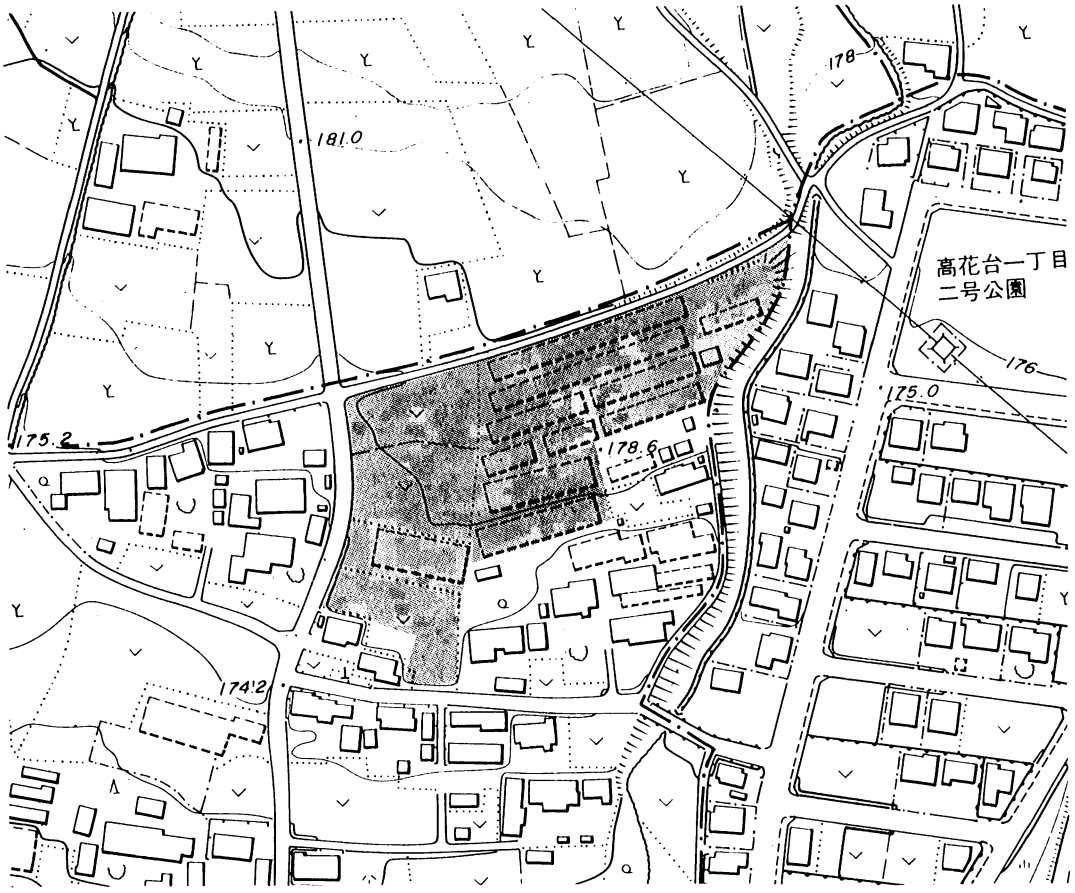


Fig. 2　芳賀北曲輪遺跡周辺図

病死した鳥獣の埋設により、深堀されているので調査対象から外した。

縄文時代竪穴住居跡１９軒、柄鏡型敷石住居跡４軒、環状配石住居跡１軒が検出され、調査対象地全域から、多数の縄文土器及び石器が検出された。各遺物は遺構とグリットに大別し、S＝１：２０の平面図に位置を記録し、標高を計測して取り上げた。時代としては縄文時代前期（黒浜式・諸磯式）中期（勝坂式・加曽利E式・大木９式）後期（称名寺式・堀之内式）等が出土している。その他石器類（磨製石斧・分銅型石斧・撥形石斧・短冊形石斧・石鏃・石棒・磨石・玦状耳飾）と土偶１点が検出された。当遺跡が濃密な遺構と豊富な遺物の出土から縄文時代の人々の生活環境として好条件の場であったことが伺われる。

古墳時代終末期の円墳６基が確認され、内４基について残存状態は悪いが石室の調査をすることが出来た。周堀は円形を呈するが羨道部方向が途切れた状態で確認された。遺物は５号墳の周堀から須恵器、石室内から鉄剣・刀子・鉄鏃・人骨（臼歯４個とその他の部位）、３号墳石室から鉄鏃１点が検出された。この他に井戸１基・土坑２０基・溝２状・道跡１ケ所が確認された。

４．基本層序

今回の調査で確認された基本層序については、昭和４８年～昭和５５年にかけて発掘調査がされた、芳賀東部団地遺跡Ｉに報告された基本層序と概ね同一と思われる。

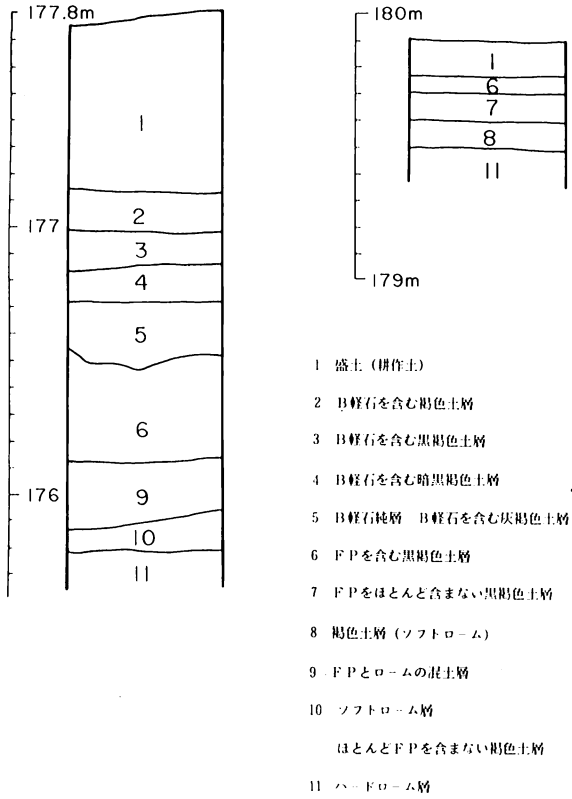


Fig. 3　芳賀北曲輪遺跡標準土層図

遺跡全体に耕作と攪乱が至る所に見られたが、特に舌状台地の中央部から西側は、耕作と人為的削平と攪乱により遺構の確認は出来なかった。中央部やや東寄りでは、耕作土から遺構面迄が２０～４０cmで、縄文時代住居跡の床面ぎりぎりで確認することが出来た。

（左図）台地の東・南端と古墳の周堀内では、左側柱状図に示したように浅間山噴出によるＢ軽石層や榛名山の二ツ岳に係わるＦＰ層を確認することが出来た。

第2章　検出された遺構と遺物

1節　縄文時代の遺構・遺物

縄文時代の遺構・遺物は、舌状台地の東側傾斜面から中央部にかけて検出された。竪穴住居跡２５軒の内、前期前半が６軒、前期後半の諸磯期の住居が５軒、中期末から後期後半に属する住居が７軒、時期不明の住居が７軒であった。

土坑は２１基調査し、その内土器を伴うものが７基であった。Ｌ－２４グリット内に２２号住居と８号土坑の間に焼土跡１カ所が確認されたが、住居跡との係わりは確認できなかった。Ｊ・Ｋ－１４両グリットに風倒木跡１カ所が確認され、多量の土器が出土し、炭化物と焼土も確認された。包含層については第３図に示した通りである。

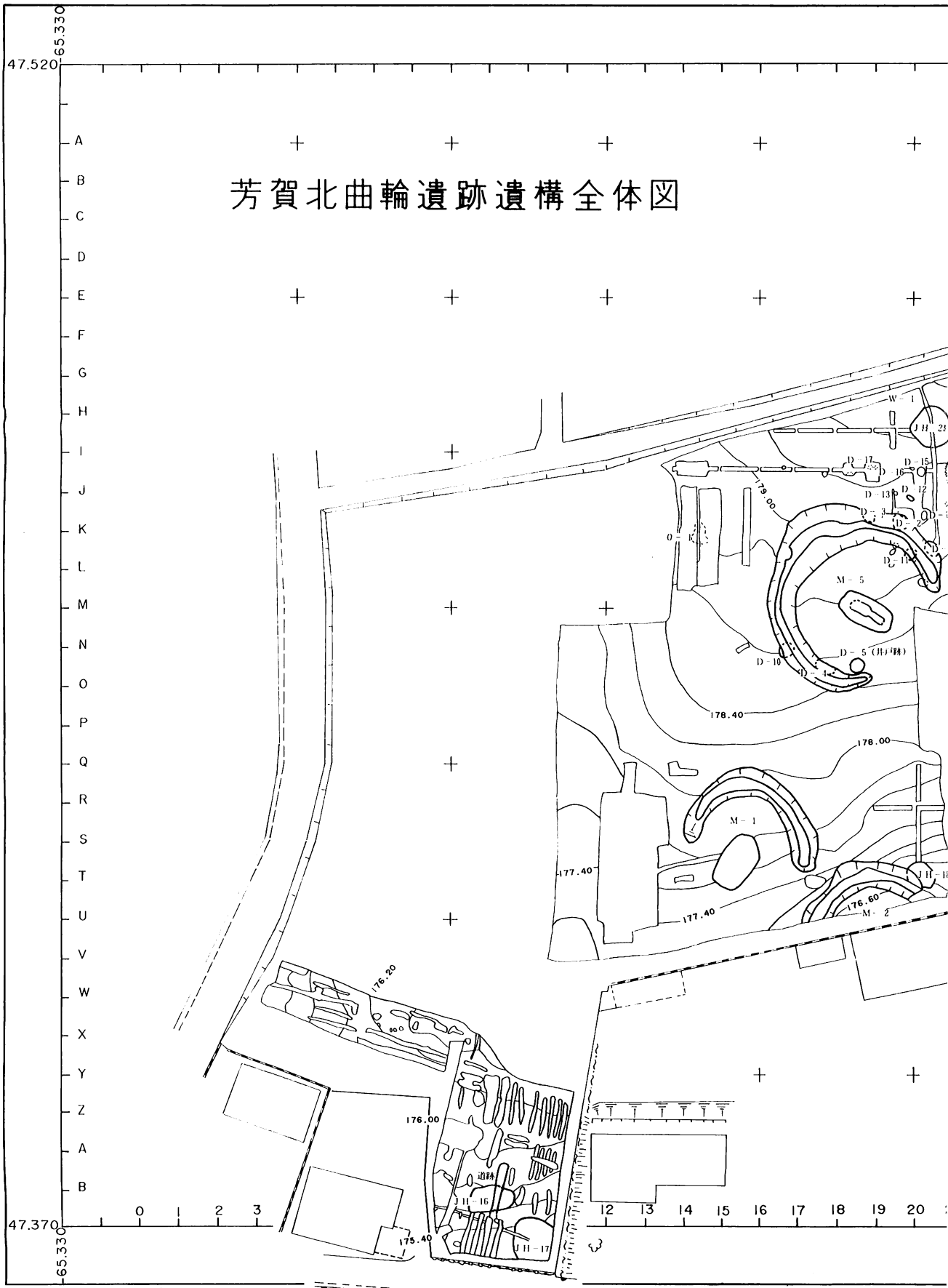
1　敷石住居跡

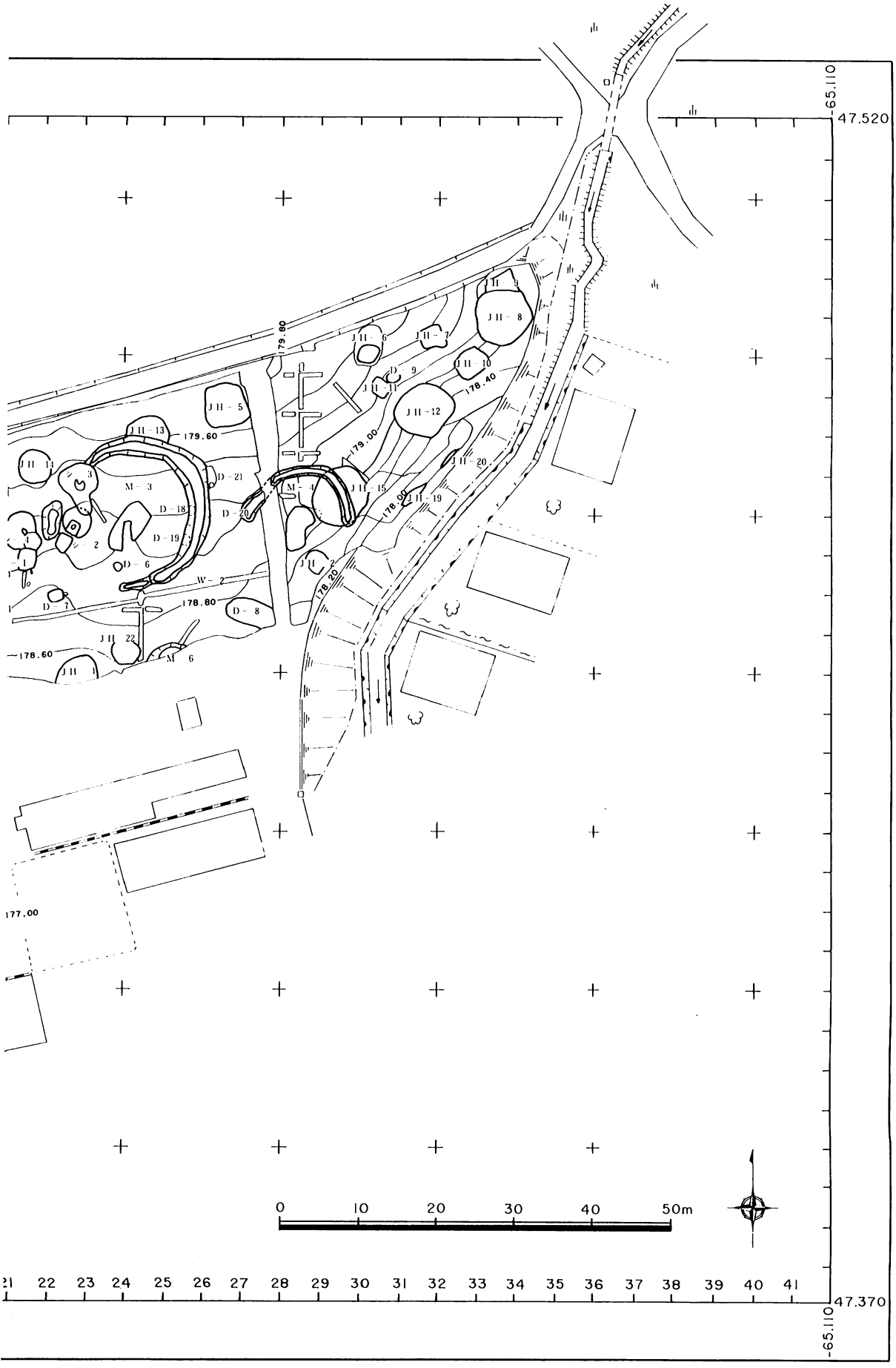
柄鏡型敷石１号住居跡（Fig7　ＰＬ１・２）

位置　Ｈ－２１、Ｉ－２０･２１、Ｊ－２１グリット　調査地のほぼ中央にあり、柄鏡型敷石４号住と重複している。本住居跡の方が古い。

形状　南南東方向に張り出し部を持つ柄鏡型の敷石住居である。敷石４号住と主体部同士がほとんど重複し、壊されているので推定の形である。全長は主軸方向で約７．６ｍである。主体部は

芳賀北曲輪遺跡遺構全体図




-65.110
47.520
47.370
-65.110
21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
0 10 20 30 40 50m
179.80
179.60
179.00
178.40
178.00
178.20
178.80
178.60
177.00
J II - 8
J II - 6
J II - 7
D - 9
J II - 10
J II - 11
J II - 12
J II - 5
J II - 13
J II - 14
M - 3
D - 21
M - 4
J II - 15
J II - 19
J II - 20
D - 18
D - 20
D - 19
D - 6
W - 2
D - 7
D - 8
J II - 22
M - 6
J II - 1

主軸方向が５．４ｍ、横位が５．２ｍを測る。ほぼ中央部から石囲い炉が検出されている。張り出し部はほぼ円形で直径２．２～２．４ｍを測る。敷石は張り出し部全体と主体部の所々に見られる。主体部の西側には長軸１５～３５cmの楕円形の石が６点、１．６ｍの直線上に並べられているのが認められた。張り出し部は中央に石１点程の空間があり廻りは縁石状に立石で囲まれていた。また張り出し部基部石の東脇にも立石がある。張り出し部基部から主軸線上で１ｍ程主体部内の所から埋設土器が検出された。底部を欠損したものと底部のみのもの２点が検出されている。埋設坑は長軸７０cm、短軸５０cm、深さ４５cmを測る。また張り出し部から０．５ｍ南東寄りのところから、灰白色の自然石で２条の明青灰色を呈する石が検出された。周礫の様子は不明である。主体部と張り出し部の差は１０～２０cmで堀り方では３０cmの差が確認された。面積は２６．９１㎡。

柱穴　主体部の円形に沿う形でピット１０個が検出された。土坑等で壊されたためか主体部南東隅では確認出来なかった。

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P_1	23	18	11	P_2	30	27	29	P_3	48	25	16
P_4	25	22	16	P_5	30	27	19	P_6	25	22	12
P_7	25	22	28	P_8	23	20	14	P_9	31	25	12
P_{10}	30	25	13								

炉　主体部のほぼ中央に位置し、「コ」の字状に方形の石を配した形で検出された。

遺物　(Fig24 PL5･9)本住居跡からは加曽利EⅣ式の埋設土器と称名寺Ⅰ式・堀之内Ⅰ式土器が出土している。No.1,12は別個体ながら同じ埋設坑から出土した。No.1は口縁部と胴下半部まで残存する。口縁部に横位の微隆起帯をもち器面全体に縄文を充塡し、アーチ状文様内は磨り消されている。加曽利EⅣ式と考えられるが、東北地方の大木10式の影響が考えられる。４単位構成。No.12は胴下半部で僅かに沈線を有する底部で、後期後半のものと思われる。No.2,4,9,11は文様から称名寺Ⅰ式。No.6,7,8は堀之内Ⅰ式で、No.6,7は沈線のみ施文。No.5,10は口縁部で称名寺から堀之内式のものと考えられる。No.3は諸磯ｃ式の土器である。

柄鏡型敷石２号住居跡（Fig８　ＰＬ２）

位置　Ｈ－２２、Ｉ－２２･２３、Ｊ－２２グリット　調査地のほぼ中央にあり柄鏡型敷石３号住居跡の張り出し部の一部と重複している。

形状　南西方向に張り出し部を持つ柄鏡型の敷石住居である。全長は主軸方向で約６．４ｍである。主体部は主軸方向が４．６ｍ、横位が４．８ｍを測る。ほぼ中央部から石囲い炉が検出されている。張り出し部は幅、長さとも約１．６ｍの方形である。敷石は張り出し部から主体部にかけて敷設されている。張り出し部は全面に敷石がなされており、左右に縁石とも思われる立石が１対認められた。主体部と張り出し部との接点付近は５０cm程敷石が抜けており、主体部はそこから主軸方向で北東方向に向かって炉を取り囲むように二等辺三角形状に石が敷設されていた。幅1.3

ｍ、長さ２．２ｍ程である。 張り出し部と主体部との接点には長辺２５cm短辺１８cm深さ３０cmの長方形の石囲いがされており、底部には半円形の石が敷かれている。主体部の縁石として周礫がなされているが残存状態は良くなく、敷石３号住の張り出し部と３号墳周堀によって切られており、床面より幅６０～７０cm、高さ５～１０cmに盛り上げられている。周礫の総数は１５６点でこれらの内８％に当たる１４点は剝落等がみられた。３号墳周堀の為一部壊されているが縁石として小礫が配されていた。おもに炉の部分から張り出し部にかけて敷石が認められる。張り出し部は縦１．８ｍ横１．９ｍ範囲にほぼ正方形の敷石が認められる。また張り出し部の基部から主体部の敷石までは０．５ｍ程空いている。面積は１８．４９㎡。

柱穴　主体部の小礫に沿う形で、ピットが９個検出された。

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P1	30	25	11	P2	30	25	10	P3	35	28	14
P4	20	16	9	P5	30	25	11	P6	36	33	12
P7	35	30	9	P8	30	28	9	P9	30	28	9

炉　主体部のほぼ中央に位置し、ほぼ五角形に石を配した形で検出された。

遺物　(Fig25･26 PL5･9)本住居跡は称名寺式と堀之内式が中心である。No.13,14は沈線間縄文の称名寺Ⅰ式。沈線のみで文様構成されている、No.16,30は堀之内Ⅰ式、No.27は称名寺Ⅱ式、No.21,22,24,25,26は無文で同時期のものと考えられる。No.15,18,19,20は前期、No.29は中期の土器と考えられる。

柄鏡型敷石３号住居跡（Fig9　ＰＬ２）

位置　Ｇ－２２･２３、Ｈ－２２･２３、Ｉ－２２･２３グリット　調査地のほぼ中央にあり、柄鏡型敷石２号住の主体部の一部と重複している。

形状　南南東方向に張り出し部を持つ柄鏡型の敷石住居である。全長は主軸方向で約７．０ｍである。主体部主軸方向が５．２ｍ、横位５．０ｍを測り、壁高は１０～２０cmである。ほぼ中央部から石囲い炉が検出されている。張り出し部は長方形で長さ１．８ｍ幅１．５ｍ程である。敷石は張り出し部全体と主体部の基部、周礫の内側に認められる。主体部の奥部には直線上に小礫が１．８ｍならんでいるのが見られた。張り出し部と主体部との接点には長辺４４cm、短辺３４cm、深さ１２cm程の長方形の土坑が認められた。底部から石が１点検出された。土坑の廻りは石囲いされている。敷石２号住、４号住の様に四角囲いされてはいない。また炉の南側の敷石の下からも長辺４８cm、短辺３６cm、深さ１１cmの土坑が検出されている。また張り出し部の先端には多孔石が置かれていた。主体部の縁石として周礫がなされている。張り出し部基部付近は土坑のため崩され残存状態は良くない。床面より幅４５～８０cm、高さ１５～２０cmに盛り上げられている。４軒の柄鏡型敷石住居の中では一番残りが良い。

周礫の総数は３，７１４点で、これらの内１１％に当たる４１２点は加熱を受け剝落等がみられた。

面積は２１．７６㎡。

柱穴　主体部から小礫部分に沿って１４個の柱穴が検出された。

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P1	46	38	31	P2	34	28	17	P3	28	24	11
P4	33	18	14	P5	28	25	10	P6	50	36	29
P7	44	33	17	P8	35	25	24	P9	47	38	42
P10	70	50	23	P11	75	46	17	P12	42	35	19
P13	31	27	15	P14	35	30	10				

炉　主体部のほぼ中央に位置した石囲い炉。配石は６点認められた。内部から土器片が７点検出された。

遺物　(Fig26～30 PL5･9･10)本住居跡は称名寺式から堀之内式が中心で、炉の近くからはNo.32の沈線で文様構成された堀之内Ⅰ式土器が出土。底部欠損。口径２１cm。No.65は口縁から胴部が残存する破片で僅かな沈線施文。またNo.31,39は大きめの胴部破片でともに沈線＋刺突の称名寺Ⅱ式土器。ほかに同類のものはNo.33,35,36,37,43,62がある。またNo.60は沈線＋縄文の称名寺Ⅰ式土器。No.38は沈線のみ。No.48,69は沈線＋刺突で、ともに堀之内Ⅰ式土器。No.70は内側に渦巻文のある称名寺式土器と思われる。称名寺Ⅱ式から堀之内式と考えられるものは、No.41,51,54,56で沈線を主に文様構成されている。無文のものはNo.50,65,66で口縁から胴部残存。No.65,66は底部、後期のものか。No.52,61は把手、No.34,40,55,59,63,68は口縁部で称名寺から堀之内式期に当たると思われる。他にNo.44,46,49,53は前期、No.45,47,57,58,67が中期と考えられる。

柄鏡型敷石４号住居跡（Fig１０　ＰＬ１・２）

位置　Ｈ－２１、Ｉ－２０･２１、Ｊ－２１　調査地のほぼ中央にあり柄鏡型敷石１号住と重複している。

形状　南東方向に張り出し部を持つ柄鏡型敷石住居である。敷石１号住と重複しているが、本住居跡の方が上面にある。全長は主軸方向で約６．４ｍである。主体部は主軸方向が４．６ｍ、横位が５．０ｍを測る。やや張り出し部寄りの所から石囲い炉が検出されている。張り出し部は正方形に推定される。長さ幅とも１．６ｍを測る。敷石は張り出し部と主体部の接点付近に認められる。張り出し部内の敷石は攪乱を受けているようである。張り出し部基部と主体部との接点には長辺３０cm、短辺２５cm、深さ２０cm程の長方形の石囲いが見られた。主体部の縁石として周礫がなされている。幅４０～５０cmで敷かれている。周礫の総数は２，３３４点で、これらの内９％に当たる２１０点は剝落片がみられた。また張り出し部には長軸２．５ｍ、短軸２．３ｍ、深さ２０～４０cmの掘り方がみられた。面積は１９．４８㎡。

柱穴　敷石１号と重複するので本住居としては確認できなかった。

炉　主体部中央から張り出し部寄りのところで検出された。攪乱されているらしく、配石は、

はっきりしない。

遺物 (Fig30～32 PL10)本住居跡は称名寺式から堀之内式土器を主体とする。称名寺Ⅰ式土器はNo.73,75,87,90でNo.90以外は沈線＋縄文。No.87は隆起帯を持つ口縁部。No.90は８字状貼付け文＋縄文で口縁部の一部。No.71,79,82は称名寺Ⅱ式。No.79,82は沈線のみ、No.71は刺突文が施文されている。No.85は称名寺式の把手部分。No.80,81,83,93は堀之内Ⅰ式土器である。No.80は沈線、No.81は沈線の渦巻状文。No.83は刺突文。No.93は波状口縁で把手付き。No.84は堀之内式の把手部分。No.72,88,89,92は後期前半に含まれる。口縁部、把手部分。No.74,78,86は沈線施文。称名寺式から堀之内式に含まれるか。他に浅い集合沈線施文のNo.77、口縁部無文で胴部を沈線で区画し、その内側には縄文が施文されているNo.76がある。No.91は胴部が無文で撫でられている。No.94,95,96は底部が無文の後期のものと推定される。

環状配石住居（ＪＨ－２２号）（Fig１１　ＰＬ３）

位置　Ｌ－２３・２４グリット　調査地の中央部南端でＪＨ－１号住と６号墳の間に位置する。

形状　北西～南東にかけて長軸を持つ楕円形で、周囲は自然石で囲まれている。長軸は３．４ｍ、短軸は２．９ｍを測る。炉から南へ６０cmの所から埋設土器が検出された。面積は７．６７㎡を測る。

壁　４５個の自然石（７～２５cm）で周囲を区画している。

覆土　粒状焼土、炭化物を含む、黒色土を主体に堆積している。

床面　ローム層を床面としほぼ平坦である。南西部周石の外側から土坑が１基検出された。

柱穴　本住居跡のピットは配石の内側から７ヶ所、外側で４ヶ所検出された。

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P1	65	40	14	P2	65	40	17	P3	50	30	28
P4	32	28	20	P5	50	36	76	P6	38	28	51
P7	28	22	31	P8	35	32	6	P9	26	23	26
P10	25	20	19	P11	40	36	17				

炉　中央部やや南西寄りに、ほぼ円形に自然石を配した石囲い炉が確認された。

遺物 (Fig32・33 PL5・6・10)本住居跡は加曽利ＥⅣ式と称名寺Ⅰ式が中心である。No.104は埋設土器で口縁部の一部と底部を欠損する加曽利ＥⅣ式土器で口唇部に二条の沈線あり。文様は沈線間縄文充塡で５単位構成で口径27.7cm、高さ20.3cmを測る。No.97,98も加曽利ＥⅣ式。ともに口縁から胴部残存で微隆起＋縄文。以上の３体は大木１０との関連が考えられる。No.103,108,110,111は沈線＋縄文の称名寺Ⅰ式土器。No.99は微隆起＋円形刺突の口縁部で同じく称名寺Ⅰ式土器。No.102は沈線＋刺突で口頸部のくびれた堀之内Ⅰ式土器。No.107は沈線＋縄文の堀之内Ⅱ式土器である。No.100は口縁部で称名寺式土器。他にNo.101,106が前期。北壁の外側に配石の頭頂部とほぼ同じ高さに６個の自然石がみられた。

2　縄文時代の竪穴住居跡

1号住居跡（Fig１２）

位置　Ｌ－２２･２３、Ｍ－２２･２３グリット　調査地のほぼ中央南寄りに位置する。

形状　住居跡の北側部分を調査した状況では、半分以上が今回の発掘調査区域外にかかる為に不明ではあるが、本住居跡は円形を呈するものと思われる。調査出来た部分の面積は１１．１３㎡を測る。

壁　ローム層を壁面としており、立ち上がりは比較的急角度である。壁高は確認面から１０～２５cmを測る。

覆土　軽石粒を含む黒褐色土を主体に堆積し、下層はローム粒を含む黄褐色土が堆積する。

床面　ローム層を床面としている。ほぼ平坦だが、中央部に向かってやや傾斜している。

柱穴　調査した範囲から３個所の柱穴が確認された。P1は径55×42cm、深さ27cmP2は径67cm深さ9cmP3は径76cm深さ17cmであった。

炉　確認されなかった。

遺物　(Fig33 PL10)ＪＨ－１号住居跡は前期の土器が中心で、No.113,115,116は黒浜式、No.112,114は集合沈線施文の諸磯ｃ式期のものである。

2号住居跡（Fig１２　ＰＬ３）

位置　Ｉ－２８、Ｊ－２８･２９グリット　調査地の東より南端に位置し、一部は発掘調査区域外にかかる。

形状　住居跡の北西部分を調査した状況から本住居跡は北西から南東へかけて長軸を持つ楕円形を呈するものと思われる。調査できた部分の面積は６．２４㎡であった。

壁　ローム層を壁面としている。立ち上がりは南東壁では緩やかであるが、北西壁では急角度で立ちあがる。壁高は１０～２０cmである。

覆土　大部分、明褐色土が堆積しており、下層には暗褐色土が堆積している。

床面　ローム層を床面とし、床面は中央に向かって傾斜しているが凹凸は少なく平坦である。

柱穴　住居跡の周囲からピットが８個検出された。

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P1	30	28	35	P2	25	22	9	P3	38	30	39
P4	29	26	8	P5	34	30	10	P6	28	26	39
P7	33	30	9	P8	33	30	6				

炉　調査部分のほぼ中央で確認された。土器を埋めた埋甕炉である。堀込みは長軸１００cm、短軸８０cm程である。

遺物　(Fig33 PL6･10)ＪＨ－２号住居跡は前期の土器が中心。No.117は炉体土器で、口縁から胴部のみ残存。口径１９．６cmの集合沈線＋ボタン文、棒状文、貼付け文の諸磯ｃ式土器。No.125,126

も同時期のものと思われる。 No.130も同時期だが沈線のみ。No.118,124は沈線＋爪形文の諸磯ｂ式土器。No.119～122、No.129は縄文施文の黒浜式土器。No.129は２原体使用。No.123の口唇部は半截竹管で深くえぐられ、その下は沈線で文様構成される興津Ｉ式土器。他にNo.127,128は沈線の施文された後期の土器である。

５号住居跡（Fig１３　ＰＬ３）

位置　Ｅ－２６・２７、Ｆ－２５・２６・２７グリット　舌状台地の傾斜面から中央平坦面に移行した地点に位置する。

形状　南西方向にやや膨らみを持つが、ほぼ隅丸方形を呈する。長軸６．１０ｍ、短軸４．８０ｍを測る。面積は２５．２４㎡。

壁　ローム層を壁面とし壁高は５～１０cmで比較的急角度で立ち上がっている。

覆土　暗黒褐色土、黄褐色土、褐色土を主体に堆積している。

床面　ローム層を床面としており、西側から土坑が１基確認された。若干の凹凸がみられた。

柱穴　本住居は１３個の柱穴が確認された。住居跡の北西部からはピットが検出されなかった。

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P1	50	42	17	P2	50	47	30	P3	48	34	17
P4	47	35	20	P5	35	23	19	P6	43	37	11
P7	58	47	24	P8	35	27	29	P9	31	25	16
P10	34	27	11	P11	40	30	13	P12	41	27	15
P13	70	43	21								

炉　確認されなかった。

遺物　(Fig33～35 PL6・10) ＪＨ－５号住居跡は関山式、黒浜式土器を中心とする。No.148は梯子状沈線文＋貼付け文の関山Ｉ式土器。No.132,134は組紐、No.141,151はコンパス文＋縄文施文の関山Ⅱ式土器、黒浜式土器はNo.133,135～139,142～145。No.133,135,137は２原体、No.135,136,138,139,143,144,145は羽状縄文。No.137～144は口縁から胴部のもの。No.140,146,149は底部でやや上げ底。１５２は胴部から底部あり。他にNo.147,150は縄文＋沈線の諸磯ｂ式。No.131は後期のものと思われる。

６号住居跡（Fig１３　ＰＬ３）

位置　Ｄ－２９・３０、Ｅ－２９・３０グリット　調査地の北東寄りの所に位置する。

形状　北側に丸味を帯びる円形に近い方形を呈する。長軸は２．５８ｍ、短軸は２．４０ｍを測る。面積は６．９６㎡。

壁　ローム層を壁面としている。南壁は急角度で立ち上がる。壁高は２０～３０cmを測る。

覆土　上層では粒状軽石を含む黒褐色土が堆積し、下層では粒状軽石を含む褐色土が堆積する。

床面　ローム層を床面としている。全体的に凹凸がみられる。

柱穴・炉　ともに確認されなかった。

遺物　(Fig35 PL6・10)No.153,155は縄文施文の底部。前期前半の土器。No.154は前期の浅鉢の体部。No.156は隆起文を持つ中期の口縁から胴部の一部と思われる。

7号住居跡（Fig１５）

位置　D－３１・３２グリット　調査地の北東部に位置する。

形状　南東部コーナーが膨らみ、他のコーナーもやや丸味を持ち長方形を呈する。長軸３．１０ｍ、短軸２．４３ｍを測る。面積は７．８０㎡。

壁　ローム層を壁面としており、西壁と北壁の立ち上がりは垂直に近く、壁高は５～１５cm。

覆土　粒状の軽石を含む黒褐色土が堆積している。

床面　ローム層を床面としており、南東側にやや傾斜している。土坑は４基検出された。

柱穴・炉　ともに確認されなかった。

遺物　(Fig35 PL10)No.157,158は沈線＋縄文で後期前半の土器。No.159は沈線＋縄文で諸磯ｂ式土器。

8号住居跡（Fig１４）

位置　C－３３・３４、D－３２・３３・３４グリット　調査地の北東部に位置し、９号住居跡の南側と重複している。本住居跡の方が新しい。

形状　東側は発掘調査区域外までかかると思われる。全体に丸味を持ちほぼ隅丸方形を呈すると考えられる。長軸７．１２ｍ、短軸６．７０ｍを測る。面積は４０．２７㎡。

壁　ローム層を壁面としており、立ち上がりは比較的急角度である。北壁はＪＨ－９号住と重複している。壁高は２５～８０cmを測る。

覆土　上・中層は粒状軽石、炭化物を含み、上層は黒褐色土、中層は褐色土が堆積している。下層は粒状ローム、炭化物を含む黒褐色土が堆積しており自然堆積と考えられる。

床面　ローム層を床面とし中央に向かって緩やかに傾斜し、北東部に土坑１基が確認された。

柱穴　本住居跡では６個の柱穴が確認された。

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P1	55	45	76	P2	55	47	77	P3	38	30	10
P4	64	60	69	P5	70	45	58	P6	46	38	65

炉　中央部やや北西寄りの所と、さらに５０cm程西へ寄った所の２ケ所から焼土が確認された。ともに径６０～８０cm程の範囲である。地床炉と考えられる。

遺物　(Fig35～38 PL7・11)ＪＨ－８号住居跡は諸磯ｃ式土器を主体とする。No.161,162,164,166,167,168,169,173,174,185,188,190,196,201,203は諸磯ｃ式土器である。No.161,162,164,166,167,168,173,174,201は半截竹管使用の集合沈線＋ボタン文棒状文の貼付けが見られる。No.161は推定口径３１cmで４単位構成、一部が住居跡東側の土坑から出土、No.162は推定口径44.5cmで口縁部

の約1/2が残存する。No.164は口縁部から胴部。No.166は推定口径46cmの口縁から胴部のものと底部付近のもの２点で、口縁から胴部の一部は住居跡東部の土坑から出土している。文様形態から１個体のものと推定される。ＪＨ－１２号住居のものと接合関係あり。No.167,174は口縁から胴部。No.168は底部で東側の土坑から出土した。No.173,201は胴部。No.169,185,188,190,196,203は集合沈線のみ施文。No.169,185,190は口縁部。No.189,191～195,199は諸磯ｂ式。No.191～195,199は刻目を持つ浮線文。No.191は波状口縁の先端部が外側に巻き込んでいる。No.199は底部。No.189,192,193は刻目を持つ浮線文＋縄文。No.194は刻目を持つ浮線文＋円形竹管施文。No.176,177,181,182は関山Ⅰ式土器。No.176,182は縄文施文。No.177,181は縄文＋梯子状沈線＋貼付け文。No.172,175,179,180は関山Ⅱ式土器。No.172,179はコンパス文＋縄文。No.175は組紐。No.180は沈線＋貼付け文。No.183,184,187は縄文施文の黒浜式土器。No.178は波状貝殻文。No.160はＪＨ－１５住居跡との接合関係を持つ輪積み痕の顕著な土器である。No.165は沈線＋半截竹管施文の浮島・興津式土器。No.200は波状爪形文で浮島Ⅱ式土器。No.163,170,171,198は底部で無文。No.208,209は中期の土器。No.208は集合沈線上に渦巻文を施文。No.209は口縁部で隆帯と沈線で文様構成。No.186は口縁部で縄文＋貼付け文。No.202は有孔口縁。No.206は口縁部で貼付け文あり。No.204,205の口縁は前期後半の土器と思われる。No.207は無文の口縁。

９号住居跡（Fig１５）

位置　Ｂ－３３、Ｃ－３３グリット　調査地の北東部に位置し、８号住居跡と重複している。

形状　東西に長軸を持つ。ほぼ隅丸長方形を呈する。壁の長さは北側３．４０ｍ、南側３．９６ｍ、東西径１．８４ｍ。面積は１０．３１㎡を測る。

壁　ローム層を壁面としており、立ち上がりは東壁では緩やかであるが他は比較的急角度である。壁高は１０～３５cmを測る。

覆土　ロームブロック、焼土、炭化物を僅かに含む。黒褐色土を主体に堆積している。壁際はロームを多量に含む、黄褐色土で一次堆積層である。

床面　ローム層を床面としほぼ平坦で南東方向へやや傾斜している。

柱穴　ピットが４個検出された。

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P1	46	40	22	P2	50	39	31	P3	35	30	22
P4	49	36	33								

炉　確認されなかった。

遺物　(Fig38･39 PL11)本住居跡は前期の土器が中心である。No.211は梯子状沈線＋貼付け文の関山Ⅰ式土器。No.214はコンパス文＋縄文、No.216は組紐施文でともに関山Ⅱ式土器。No.212,213,215,217,218は縄文施文の黒浜式土器。No.212,215,218は二原体の縄文施文。

１０号住居跡（Fig１６）

位置　Ｄ－３２･３３、Ｅ－３２･３３グリット　調査地の北東部に位置し、８号住の南西に存在する。

形状　長軸３．５４ｍ、短軸３．１６ｍ、面積は１１．４３㎡を測り、隅丸長方形を呈する。

壁　ローム層を壁面としており、立ち上がりは比較的急角度である。壁高は５～２０cmを測る。

覆土　粗い黒褐色土を主体に堆積している。下層はロームを含む黄褐色土が堆積している。

床面　ローム層を床面としている。平坦であり南東方向にやや傾斜している。

柱穴・炉　ともに確認されなかった。

遺物　(Fig39 PL11)本住居跡は関山式と黒浜式土器が中心である。No224,230は梯子状沈線＋貼付け文。No228は梯子状沈線＋円形竹管文施文の関山Ⅰ式土器。No233,234は縄文＋コンパス文。No221,229,231は二原体縄文で共に関山Ⅱ式土器。No222,225,226は羽状縄文。No222,226は底部付近で、No220は二原体縄文で黒浜式土器。No226は有尾系、No235は縄文＋沈線で諸磯ｂ式土器、No.227,236は沈線施文で諸磯ｃ式土器。

１１号住居跡（Fig１６）

位置　Ｅ－３０、Ｆ－３０グリット　調査地の北東部、９号土坑の南西に隣接し、６号住居跡の南東に位置する。

形状　一部土坑の為膨らみを持つが、ほぼ隅丸方形を呈する。長軸２．５１ｍ、短軸２．１６ｍ面積は５．２１㎡を測る。

壁　ローム層を壁面としている。壁高は２～５cmと低い。

覆土　軽石を含む褐色土が堆積している。

床面　ローム層を床面としており、土坑が４基検出された。南東方向へやや傾斜している。

柱穴・炉　ともに確認されなかった。

遺物　(Fig39 PL11)No237は関山Ⅱ式土器でコンパス文＋二原体縄文。No238は集合沈線で諸磯ｃ式土器。No239は口縁部で沈線＋縄文施文の称名寺Ⅰ式土器。No240は口縁部の内面に沈線＋刻目、堀之内Ⅱ式土器。

１２号住居跡（Fig１７　ＰＬ３）

位置　Ｅ－３１、Ｆ３０･３１･３２、Ｇ－３１グリット　調査地の北東部に位置し１０号住居跡の南西にある。

形状　西側がやや円形になるがほぼ隅丸方形を呈する。長軸７．２４ｍ、短軸６．２４ｍ、面積は３９．７２㎡を測る。

壁　ローム層を壁面としており、西壁、北壁は立ち上がりが急角度だが、東壁、南壁は緩やかである。壁高は１０～６５cmを測る。

覆土　上層は焼土と炭化物を含む黒褐色土、中層は粗いロームを含む黒褐色土、下層は軽石粒を含む褐色土が堆積している。自然堆積と考えられる。

床面　ローム層を床面としている。土坑は２基検出された。床中央部に向かってやや傾斜している。凹凸は少なく平坦である。

柱穴　ピットは５個検出された。住居跡の北から南西方向にかけては検出されなかった。

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P1	70	50	15	P2	40	28	33	P3	36	28	51
P4	40	38	59	P5	74	55	86				

炉　中央やや北西よりの所から径８０×９０cm程の焼土の範囲が確認された。地床炉と考えられる。

遺物　(Fig39～41 PL7･8･11･12) ＪＨ－１２号住居跡は諸磯ｃ式土器が中心である。No.242, 247, 249, 250, 252, 258, 273が諸磯ｃ式土器。No.249, 252, 273は集合沈線＋貼付文施文、No.249は底部、No.252は口縁部から底部まで残存しほぼ完形に近い。No.273は口縁部、No.247, 250は集合沈線施文、No.247は口縁部、No.250は胴部1/3程残存。No.246, 256, 257, 268は諸磯ｂ式土器。No.246, 256は刻目のある浮線文、No.246は底部、No.268は縄文＋平行沈線間爪形文。No.257, 272は縄文＋集合沈線。No.241, 262, 267は関山Ⅱ式土器、No.241はコンパス文＋縄文、No.267は組紐、No.262は組紐＋平行沈線。No.245は羽状縄文の口縁部、No.265は二原体縄文で黒浜式土器、No.254, 266, 269は縄文施文、No.266は隆起線、No.271は口縁部で沈線＋爪形文の浮島Ⅰ式土器、No.248, 260は有孔土器、No.248は口頸部に小孔を持つ土器で住居跡内西側の２号土坑から出土。No.260は浅鉢の口縁部、No.243, 244は中期の土器、隆帯区画文＋爪形文＋沈線文。No.263, 264, 270は沈線＋縄文、No.253, 259は沈線＋刺突文、No.261は円形の口縁部の飾り。No.251は顔と下半身を欠損した前期の土偶である。

１３号住居跡（Fig１８）

位置　Ｆ－２４･２５、Ｇ－２４･２５グリット　調査地の中央部北寄りに位置する。南側が３号墳周堀により壊されている。

形状　住居跡の南側が３号墳により破壊されているが隅丸方形を呈するものと思われる。調査時点で残存する住居跡の面積は１３．３７㎡である。

壁　ローム層を壁面としている。立ち上がりは垂直に近く壁高は４～８cmと低い。

覆土　褐色土（ソフトローム層）が堆積している。

柱穴　ピットは調査範囲内から１２個検出された。

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P1	63	49	49	P2	55	33	8	P3	42	38	19
P4	42	38	27	P5	43	39	15	P6	45	39	11
P7	58	43	16	P8	43	40	23	P9	56	40	15
P10	34	26	8	P11	45	36	18	P12	22	20	13

床面　ローム層を床面としている。中央部付近に土坑が１基検出された。

炉　確認されなかった。

遺物　(Fig41 PL12)No274,275,276は縄文施文、No277,278は口縁部でNo277は沈線施文。No279,280は縄文＋沈線施文の後期の土器。その他に滑石製の玉が出土している。本住居跡は前期と思われる。

１４号住居跡（Fig１８）

位置　Ｇ－２１・２２、Ｈ－２１・２２グリット　調査地の中央部北寄りに位置する。柄鏡型敷石３号住居の北西にある。

形状　長円形を呈する。長軸４．４２ｍ、短軸４．０２ｍ、面積は１４．６８㎡を測る。

壁　ローム層を壁面としており、北壁は立ち上がりが緩やかだが西壁、東壁、南壁は、ほぼ垂直に立ち上がっている。壁高は６～１２cmと低い。

覆土　黒褐色土を主体に堆積している。

床面　ローム層を床面としている。土坑は大小で５基検出された。ピット、土坑等が多くみられ凹凸も多い。

柱穴　柱穴と考えられるピットは北壁に１個、東壁に２個だけ検出された。西と南側は土坑により攪乱されているため検出できなかった。

P1長径33cm、短径23cm、深さ16cm、P2長径25cm、短径18cm、深さ10cm、P3長径40cm、短径32cm、深さ12cmが確認された。

炉　確認されなかった。

遺物　(Fig41・42 PL12)No282は沈線＋縄文で称名寺Ⅰ式土器。No284は沈線、No285は沈線区画＋隆起帯＋円形刺突で称名寺Ⅱ式土器。No287は口縁部に刻目のある微隆起＋縄文＋沈線で堀之内Ⅱ式土器。No281,286,288,290は後期の土器。No281は沈線施文、No286は口縁部飾りで沈線の渦巻文。No288は沈線＋隆起文、No290は口唇部に円形竹管文施文。No291は微隆起＋縄文で加曽利EⅣ式期の土器。No283とNo289は隆起文＋平行沈線＋縄文で同一個体の中期のものと考えられる。

１５号住居跡（Fig１９　ＰＬ４）

位置　Ｇ－２９、Ｈ－２８・２９・３０、Ｉ－２８・２９グリット　調査地の東寄りに位置し１０号住居跡の南西に所在する。

形状　南壁は直線に近いが全体としてほぼ円形を呈する。南壁は３．９６ｍ、長軸６．８０ｍ、短軸６．７２ｍ、面積は３７．１８㎡を測る。

壁　ローム層を壁面としており、立ち上がりは垂直に近い。壁高は２５～５０cmを測る。

覆土　全体的に粒状軽石、ローム粒を含む。黒褐色土を主体に、床面に近づくほど焼土粒を多く含み、赤褐色化する堆積であった。１～３層が後期の住居跡の覆土になるものと思われる。

床面　ローム層を床面とし南東方向にやや傾斜している。凹凸は少なくほぼ平坦である。

柱穴　埋設炉を囲うように９個の柱穴が検出された。これらの柱穴は１５号住居の上面にもう

1軒の住居の存在が考えられ、P1～P9は後期の住居跡のものと考えるのが妥当と思われる。

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P1	83	47	80	P2	25	22	62	P3	35	26	49
P4	28	20	29	P5	30	28	42	P6	65	60	64
P7	21	18	75	P8	55	48	34				

炉　後期の住居跡はやや東寄りの所から埋設土器を伴う埋設炉と考えられる。前期の住居跡の炉は確認されなかった。

遺物　(Fig42～45 PL8･12)ＪＨ－１５号住居跡からは前期から後期の土器が出土している。前期の中心となっているものは諸磯ｃ式土器、後期の中心となっているものは称名寺式土器である。従って住居の重複が推定される。No292,293,295,297,298,299,300は諸磯ｃ式土器である。No292は口縁部付近で平行沈線＋半截竹管文の微隆起文。No293は平行沈線施文。No295は底部で集合沈線＋貼付け文施文。No297は口縁部の飾り。No298は胴部で集合沈線＋貼付け文。No299は平行沈線。No300は胴部で集合沈線＋貼付け文、ＪＨ－８号住居の土器と接合する。No301～305,314は諸磯ｂ式土器。No301,304は平行沈線＋爪形文。No302は刻目を持つ浮線文＋爪形文。No303,305は刻目を持つ浮線文＋縄文。No314は爪形文。No311,333は前期の縄文施文。No309は縄文施文で関山式土器。No307,308はコンパス文＋縄文。No310は組紐で関山Ⅱ式土器。No312は羽状縄文。No313は二原体縄文で黒浜式土器。No296,306は浮島式土器。No296は口唇部に刻目を持ち沈線施文。No306は無文の口縁部にその下が条線状沈線文。他に前期のものはNo332の有孔口縁。No346の黄鉄鉱を含む浅鉢。No325は早期の尖底土器。No345は隆帯区画文＋縄文で勝坂式土器。No348が加曽利Ｅ式のもので縄文＋沈線。No331,344,349,353は縄文＋微隆起文。No350は縄文＋隆起帯＋沈線＋爪形文で加曽利Ｅ式土器。No351は縄文＋隆帯文で勝坂から加曽利Ｅ式土器と考えられる。No315は沈線＋縄文。No316は口縁部飾りで上面に縄文施文の８の字状の貼付け文。共に称名寺式土器。No294は縦状に浅い沈線が施文された胴部で敷石の下から出土したことから称名寺式の埋設土器と考えられる。No317,318,320,328,329,330は称名寺Ⅱ式土器。No329,330は沈線のみ施文、No317,318,320,328は沈線＋刺突文施文。No321～324,326,327,338,352は口縁部飾りで沈線と円形刺突が施文された後期の土器である。No319は口縁部で刺突文施文、称名寺Ⅱ式～堀之内式土器と思われる。他に後期のものとしてNo335,336,339,340,347がある。No337は胴部、No341～343は底部で無文である。

①称名寺様式の無文の土器である。

②埋設炉と考えられる周辺にはNo.１～９の集石が検出された。

③この９個の集石は海抜（１７８．３７～１７８．４８ｍ）でその差が１１．０cmである。

④周辺のＨ－３０，Ｉ－２９・３０グリットは南東に傾斜し自然石の散乱が見られた。

以上４点から敷石住居の存在が考えられる。しかし敷石の大半が４号墳の周堀構築の時点で取り除かれ、炉の周辺のみが周堀の外側であったため残ったものと考えられる。

１６号住居跡（Fig２０）

位置　Ａ－８・９、Ｂ－８・９グリット　調査地の南西部に位置し、１７号住居跡と隣接している。中央部は道跡により切られている。

形状　東西方向に長軸を持ち楕円形を呈する。長軸４．３４ｍ、短軸３．６４ｍ、面積は１５．５９㎡を測る。

壁　ローム層を壁面としている。東西の壁は緩やかに立ち上がり南北の壁は比較的急角度で立ち上がっている。壁高は１０～２０cmを測る。

覆土　黒褐色土を主体にし、攪乱部分にはＦＰやブロック状ロームが確認された。

床面　ローム層を床面とし小さな凹凸がみられる。南東方向へ緩やかに傾斜している。

柱穴　**炉**　ともに確認されなかった。

遺物　(Fig45 PL8・12)本住居跡は前期の土器が中心である。No.357は胴～底部1/3程度残存、羽状縄文、No.354も羽状縄文の口縁部でともに黒浜式土器。No.355は縄文＋梯子状沈線。No.356は縄文＋貼付け文で関山Ⅰ式土器。No.358は縄文＋沈線で諸磯ｂ式土器。No.360は底部で前期のもの。No.359は縄文＋沈線で中期土器と思われる。

１７号住居跡（Fig２０）

位置　Ｂ－９・１０、Ｃ－９・１０グリット　調査地の最南端部に位置し、一部は発掘調査区域外にかかる。

形状　住居跡の北西部を調査した状況から、隅丸長方形を呈するものと考えられる。面積は２３．１９㎡を測る。

壁　ローム層を壁面としており、立ち上がりは比較的急角度である。壁高は５～２０cmを測る。

覆土　耕作の溝により攪乱を多く受ける。黒褐色土を主体に堆積している。

床面　ローム層を床面とし小さな凹凸がみられる。中央部へ向かってやや傾斜している。

柱穴　**炉**　ともに確認されなかった。

遺物　(Fig45 PL12・13)本住居跡の出土遺物は前期のものが中心である。No.361は底部。No.362～No.364は口縁部。No.362,365は羽状縄文で黒浜式土器。No.368は縄文＋平行沈線＋爪形文で関山Ⅱ式土器。No.366,367は沈線文様構成の諸磯ｃ式土器である。No.363は沈線施文の土器で前期のものと思われる。

１８号住居跡（Fig２１　ＰＬ４）

位置　Ｓ－１９・２０、Ｔ－２０グリット　調査地の中央やや西寄りに位置する。南側は２号古墳周堀に寄って切られている。

形状　住居跡の北東部分を調査した状況からほぼ隅丸方形を呈するものと考えられる。面積は１０．１５㎡を測る。

壁　ローム層を壁面としている。北壁の立ち上がりは垂直に近い。南壁は２号墳周堀により切られているため不明。壁高は４０～５０cmを測る。

覆土　全体的に軽石、細かいローム粒を含む。上から灰黒褐色土、黒褐色土、褐色土、ロームブロックを含む黄褐色土の順に堆積している。壁際にハードロームに近い黄褐色土の一次堆積層がある。自然堆積の状態を示す。

床面　ローム層を床面とし、凹凸は少なくほぼ平坦である。南側へ緩やかに傾斜している。

柱穴　確認されなかった。

炉　調査部分の南西寄りの所から２０×３０cmの焼土範囲と３０×５０cmの焼土と炭化物の範囲が認められた。隣接して埋設土器が検出された。埋設炉と考えられる。

遺物　(Fig46 PL8・13)本住居跡の出土土器は諸磯ｂ式土器が中心で、No369～374,378,369,370,372,373,378は縄文＋沈線施文。No369は炉体土器で口縁と底部を欠損。No372,373は口縁部。No371,374は刻目のある浮線文。No375,376は縄文施文。No376は底部。No377は羽状縄文で黒浜式土器。

１９号住居跡（Fig２１）

位置　Ｈ－３１グリット　調査地東寄りの端に位置する。住居跡の大部分が発掘調査区域外にある。（河川改修時に確認されたものに該当すると考えられる。）

形状　コーナーの状況から隅丸方形の住居跡と考えられる。西側の壁は３．４２ｍ、面積は確認できた範囲で４．１４㎡を測る。

壁　ローム層を壁面としており、北西壁は比較的急角度で立ち上がっている。大部分が調査区域外のため他は不明。壁高は５０～６０cmを測る。

覆土　攪乱を受けている。黒褐色土、焼土、炭化物、ローム粒を含む褐色土が堆積している。下層はロームを含む黄褐色土で一次堆積層である。

床面　ローム層を床面としており、やや南側へ傾斜している。

柱穴・炉　ともに確認されなかった。

遺物　(Fig46 PL13)本住居跡の出土遺物は諸磯式土器が中心である。No379,380は諸磯ｂ式土器。No379は刻目のある浮線文。No380は地文に縄文＋浮線文の諸磯ｂ式土器。No381～384は沈線施文の諸磯ｃ式土器。No385は縄文＋貼付け文で関山Ｉ式。No386は底部。

２０号住居跡（Fig２２）

位置　Ｇ－３２グリット　調査地東寄りの南東端に位置する。住居跡の大部分が発掘調査区域外にある。（１９号住居跡と同じく河川改修時に確認されたものに該当するものと考えられる。）

形状　コーナーの状況から隅丸長方形を呈するものと考えられる。西側壁は２．９２ｍ。調査出来た面積は１．７５㎡である。

壁　ローム層を壁面としており、北西壁は比較的急角度で立ち上がっている。大部分が調査区域外のため他は不明。壁高は２０～５０cmを測る。

覆土　ＪＨ－１９号と同じく、黒褐色土、焼土、炭化物、ローム粒を含む褐色土が堆積している。下層はロームを含む黄褐色土で一次堆積層である。

床面　ローム層を床面としており、やや南側へ傾斜している。

柱穴　炉　ともに確認されなかった。

遺物　(Fig46･47 PL13)No.387は底部で無文。No.388は口縁部で沈線施文。No.389は集合沈線で諸磯ｃ式土器。No.390は胴部で縦状沈線。No.391は梯子状沈線文＋縄文＋貼付け文＋刺突文で関山Ⅰ式土器。

２１号住居跡（Ｆｉｇ２２）

位置　Ｇ－２０、Ｈ－２０グリット　調査地のほぼ中央北側に位置する。本住居跡は現代の溝が南北に走っているため中央部を切られている。

形状　円形に近い隅丸方形を呈する。長軸５．０２ｍ、短軸４．９０ｍ、面積は２０．２２㎡を測る。

壁　ローム層を壁面としており、立ち上がりは比較的急角度である。壁高は５～１５cmと低い。

覆土　軽石粒とローム粒を含む黒褐色土を主体に堆積している。

床面　ローム層を床面としている。西側から土坑が１基検出された。南側へやや傾斜している。

柱穴　ピットは７個検出された。

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P1	—	—	13	P2	58	45	19	P3	79	49	12
P4	38	30	23	P5	50	34	16	P6	53	39	20
P7	47	37	32								

炉　確認されなかった。

遺物　(Fig47 PL13)No.392、No.393は２原体縄文の黒浜式土器、No.394は縄文＋刻目施文の諸磯ｂ式土器、No.395は集合沈線＋貼付文。No.396は集合沈線のみで共に諸磯ｃ式土器。No.397は沈線＋縄文、No.398は沈線＋刺突文。No.399は沈線のみ。No.400は直線的沈線と渦巻文による深鉢形土器の口縁部で中期の土器。

３　縄文時代の土坑について（Ｆｉｇ２３）(Fig47～49 PL8～13)

芳賀北曲輪遺跡では、土坑、風倒木の遺構が検出された。その総数は土坑２１基風倒木跡１基、住居跡と重複しないものについてのみ土坑番号を付し全体図に掲載した。このため住居内の土坑については住居跡の所に平面図と遺物を掲載した。

土坑の分布は調査地のほぼ全面に認められたが、特に柄鏡型敷石住居の周辺に集中する傾向があるかと思われる。陥し穴は今回の調査では確認されなかった。遺物を出土する土坑は７基、そのほとんどが覆土中からの出土である。完形に近い大形の土器を出土する土坑は少ない。これらの土器は、掘り方の深い土坑の底面に置かれた状態で出土している。石器は打製石斧、石鏃、剝片等が比較的多く出土し、石皿･磨石･凹石等の出土は少ない。

３号土坑はＪ－１９グリットに位置する。長軸１６０cm、短軸１５０cm、深さ２４～５１cm、

５号墳周堀と接する。No.402～No.409の土器とNo.234～No.237の石器が出土している。

６号土坑はＪ－２３グリットに位置する。長軸１２８cm、短軸１１７cm、深さ５０～５７．５cm、ほぼ円形、No.417,418の土器とNo.28の石器が出土している。

７号土坑はＪ・Ｋ－２２グリットに位置する。長軸１８５cm、短軸１６０cm、深さ５２cm、ほぼ円形、No.411～No.416の土器が出土している。

８号土坑はＫ－２６・２７グリットに位置する。長軸３２５cm、短軸６３７cm、深さ５６cm。ＦＰを含む黒色土で自然堆積層からすると古墳の周堀とも思われるが床に傾斜があり東側の川の方向に進むので丸みを示さない。

９号土坑はＥ－３０グリットに位置する。長軸１７６cm、短軸１５０cm、深さ３～１０．５cm、No.419,420の土器が出土している。

１０号土坑はＭ・Ｎ－１６グリットに位置する。長軸１８６cm、短軸１６７cm、深さ２０～８４cm、No.421～424の土器が出土している。

１１号土坑はＫ－１９・２０グリットに位置する。長軸１１６cm、短軸１１５cm、深さ５０～７６cm、No.425～437の土器が出土している。

１２号土坑はＪ－１９・２０グリットに位置する。長軸８８cm、短軸７２cm、深さ３０～３５cm、楕円形、No.438～441の土器とNo.238,239の石器が出土している。

１３号土坑はＪ－１９グリットに位置する。長軸１６０cm、短軸１５０cm、深さ１４～５１．５cm、であった。

１４号土坑はＪ－２０グリットに位置する。長軸１１３cm、短軸６２cm、深さ１４～１６cm、長方形。

１５号土坑はＩ－２０グリットに位置する。長軸１２５cm、短軸８３cm、深さ１８～２５cm、ほぼ円形を呈する。

１６号土坑はＩ－１９グリットに位置する。長軸４８cm、短軸４０cm、深さ２０cm、でほぼ円形である。

１７号土坑はＩ－１８グリットに位置する。長軸６５cm、短軸６０cm、深さ２３cm、で円形を呈する。

１８号土坑はＨ・Ｉ－２５グリットに位置する。長軸１３０cm、短軸１０６cm、深さ２３～４５cm、楕円形を呈し３号墳周堀内にあってその大半が破壊されている。

１９号土坑はＩ－２５グリットに位置する、３号墳周堀の東壁側に存在する。長軸８０cm、短軸６５cm、深さ１４．５～４８cm、楕円形を呈す。

２０号土坑はＩ－２７グリットに位置し長軸３６cm、短軸３４cm、深さ５８．５cm、４号墳周堀の西側末端部で確認された。

２１号土坑はＧ・Ｈ－２６グリットに位置する。長軸１８７cm、短軸１７６cm、深さ6·5cm、であり、３号周堀東壁に隣接して確認された。

4 縄文時代の出土遺物

(1) 土器

芳賀北曲輪遺跡で出土した縄文時代の土器は26,348点である。これらの土器の主体となるのは、前期中葉と後期初頭のものであり、検出された遺構の時期と深く関係するものと考えられる。これらの出土遺物の全てを図化し掲載することは不可能であったので、本遺跡から出土した代表的な遺物６６６点について下記の分類表に基づいて掲載した。

(2) 石器

本遺跡から出土した石器類は3,989点以上になる。これらの内明らかに石器として使用されたと思われる石鏃３９点、分銅形石斧１９点、その他の打製石斧９７点と、その他の石器類１２１点について出土遺構順、他はグリット順に掲載した。その内訳は凹石・多孔石（蜂の巣石）・石匙・石棒・石皿・磨製石斧・磨石・敲石・岩版・使用痕を有する自然石、剝片・岩脈を利用したと思われる採色石・石器製作用母岩。

土器分類

Ⅰ群　早期後半と思われる土器群、胎土に繊維を含み尖底部と思われる土器。

Ⅱ群　前期前半に属する胎土に繊維を含む土器（関山式・有尾式・黒浜式土器）

1類a　関山Ⅰ式土器　梯子状沈線文か半截竹管による平行沈線施文。刺突文、円形竹管文、貼付け文、コンパス文等施文。

b　関山Ⅱ式土器　コンパス文、半截竹管による平行沈線施文。縄文は組紐が主体。

2類a　黒浜式土器　半截竹管による爪形文、条線文施文、あるいは全面縄文施文、羽条、菱形状に施文。

b　有尾系土器　文様が菱形、三角形の構成を持つ。

3類　前期前半に属する土器
主に縄文のみの土器と無文土器で１・２類の各型式に属する。

Ⅲ群　前期後半諸磯式・浮島・興津式・大木式土器及びそれらに属する前期末葉の土器。

1類　諸磯b式土器（一部aと思われるものを含む）　半截竹管による平行沈線施文。縄文や刻目を持つ浮線文。縄文を地文に持つものあり。縄文を地文とし、集合沈線文を施文。

2類　諸磯c式土器　半截竹管による集合沈線文施文。集合沈線文に各種貼付け文付加。

3類　浮島・興津式に属する土器。半截竹管による平行沈線文、爪形文を施文。半截竹管を４５°程度で差込み、えぐって施文。

4類　前期後半　有孔土器、浅鉢型土器。

5類　前期後半に属する縄文施文及び無文土器（十三菩堤式土器を含む）

Ⅳ群　1類　中期前半に属する土器

a　勝坂式土器　隆帯を施す。隆線で渦巻文や区画文を構成し、半截竹管で平行沈線、

爪形刺突文を施文。獣類の形象あり。

b　阿玉台式土器　隆帯を施す。半截竹管、櫛状工具で爪形文等を施文。懸垂文施文。

2類　中期中葉に属する土器。

a　加曽利EⅡ式土器　口縁部は隆線、頸部は無文帯、沈線による渦巻文施文、胴部は地文に縄文、撚糸文を施文し隆線、沈線により縦位線、クランク状線等を施文。

b　加曽利EⅢ式土器　口縁部は隆線、頸部無文帯なし、沈線による渦巻文等施文、胴部は地文に縄文、撚糸文を施文し隆線、沈線により縦位線、クランク状線等を施文。磨消し縄文帯を持つものもあり。

3類　加曽利EⅣ式土器、中期後半に属する土器。口縁部文様帯なし、沈線か微隆起線で文様区画、磨消し縄文帯あり。

4類　中期に属する縄文施文の土器と無文の土器。1～3類の各型式を含む。

Ⅴ群　1類　後期初頭に属する土器

a　称名寺Ⅰ式土器　J字状、M字状渦巻状文の沈線で区画、沈線間は縄文で充塡される。口縁部に隆線により施文。口縁下部に沈線を施文し、その下位に縄文・条線を施文。

b　称名寺Ⅱ式土器　簡素化されたJ字状、M字状文の沈線で区画、沈線間は刺突で充塡される。簡素化されたJ字状、M字状文の沈線のみ施文。

2類　後期前半に属する土器

a　堀之内Ⅰ式土器　沈線で文様を施文し沈線間は縄文で充塡される。口唇部に沈線文施文、垂下文施文。

b　堀之内Ⅱ式土器　沈線で文様施文し沈線間は縄文で充塡される。刻みのある隆線と8字形の貼付け文あり。

3類a　加曽利B式土器　平行沈線と縄文帯施文、斜格子沈線文施文。

b　後期に属する無文土器、1～2類の型式を含む。

参考文献

前橋市史第1巻	前橋市「地形地質」		1971年
芳賀団地遺跡群第1巻	前橋市教育委員会		1984年
熊野谷遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団		1989年
糸井宮前遺跡Ⅰ、Ⅱ	群馬県教育委員会	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1987年
上大屋・樋越地区遺跡群	大胡町教育委員会		1986年
中畦遺跡・諏訪西遺跡	群馬県教育委員会	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1986年
勝保沢・中ノ山遺跡	群馬県教育委員会	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1988年
荒砥前原遺跡・赤石城	群馬県教育委員会	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1985年
中棚遺跡	昭和村教育委員会		1985年

出土遺物観察表

注：法量は①口径②胴部径③底径④器高 （）は①②③推定値④残存高

番号	位置	分類	胎土	焼成	色調	文様の観察
1	ｼｷ-1	Ⅳ－3	細粒	良好	浅黄橙	①32.5④43.5口縁～胴上位ほぼ完、底部なし。胴部中位から底部にかけてすぼまる。口縁部は無文で横位の微隆起帯につながってアーチ状の文様をつくる。器面全体に縄文を充填文様内は縄文を磨消す。４単位構成（片寄りあり）大木10との類似性が考えられる。
2	ｼｷ-1	Ｖ－1a	細粒	良好	浅黄橙	口縁部　浮線文間に円形刺突＋縄文ＬＲ
3	ｼｷ-1	Ⅲ－2	中粒	良好	浅黄橙	沈線＋半截竹管の刺突を持つ浮線文あり。
4	ｼｷ-1	Ｖ－1a	粗粒	良好	黄橙	縄文施文＋沈線＋磨消し。
5	ｼｷ-1	Ｖ－3b	細粒	良好	橙	円形竹管で先端部施文　波状口縁　把手
6	ｼｷ-1	Ｖ－2a	粗粒	良好	橙	口縁部　沈線区画で文様構成　接合関係２点
7	ｼｷ-1	Ｖ－2a	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線施文波状口縁　接合関係２点
8	ｼｷ-1	Ｖ－2a	細粒	良好	黄橙	口縁部　肋骨文　沈線＋縦状隆線の上に刺突文あり。
9	ｼｷ-1	Ｖ－1a	中粒	良好	橙	沈線間縄文施文　接合関係３点
10	ｼｷ-1	Ｖ－3b	細粒	良好	橙	口縁部　沈線＋円形刺突
11	ｼｷ-1	Ｖ－1a	中粒	良好	浅黄橙	沈線間縄文充填　表面煤付着
12	ｼｷ-1	Ｖ－3b	細粒	良好	赤褐色	胴下半部に沈線あり。No.1と同時に出土
13	ｼｷ-2	Ｖ－1a	細粒	良好	黄橙	沈線間を縄文で充填
14	ｼｷ-2	Ｖ－1a	細粒	良好	浅黄橙	縄文施文＋沈線で三角文施文　口唇部内側に横位沈線あり。薄手の土器
15	ｼｷ-2	Ⅱ－3	中粒	良好	黄橙	撚糸文施文　胴下半部　内面煤付着
16	ｼｷ-2	Ｖ－2a	細粒	良好	淡橙	沈線で文様構成　接合関係３点
17	ｼｷ-2	Ｖ－1	粗粒	良好	橙	口縁部　横位沈線＋縦に２列の竹管文
18	ｼｷ-2	Ⅲ－3	細粒	良好	浅黄橙	沈線＋半截竹管で深めに施文　薄手の土器
19	ｼｷ-2	Ⅲ－2	細粒	良好	浅黄橙	集合沈線文
20	ｼｷ-2	Ⅱ－2a	中粒	良	黄橙	羽状縄文＋３cmの間隔をおいて平行に縄文を施文　繊維土器
21	ｼｷ-2	Ｖ－3b	細粒	良好	黄橙	口縁部無文　箆状工具により器面調整。接合関係２点
22	ｼｷ-2	Ｖ－3b	粗粒	良好	橙	胴部～底部　内面に炭化物の付着が見られる。
23	ｼｷ-2	Ｖ－2b	中粒	良好	浅黄橙	幅３mmの沈線　口唇部に幅２mm深さ１mm程の溝施文　径５mmの円形刺突文施文
24	ｼｷ-2	Ｖ－3b	粗粒	良好	黄橙	無文　外面は箆状工具でよく撫でられている。接合関係２点
25	ｼｷ-2	Ｖ－3b	粗粒	良好	黄橙	胴下半部　外面赤色塗採　接合関係２点
26	ｼｷ-2	Ｖ－3b	中粒	良好	橙	胴下半部　胴部に沈線が僅かにみられる。接合関係５点
27	ｼｷ-2	Ｖ－1b	中粒	良	浅黄橙	深鉢形の口縁部で平行沈線により区画構成する。接合関係２点
28	ｼｷ-2	Ｖ－2a	粗粒	良好	橙	口唇部に円形刺突文（径1.1cm）が連続して施文される。
29	ｼｷ-2	Ⅳ－4	中粒	良好	橙	浅鉢　沈線＋円形刺突　内面赤色塗採　穿孔
30	ｼｷ-2	Ｖ－2a	細粒	良好	浅黄橙	④(9.0)　浅い沈線施文。
31	ｼｷ-3	Ｖ－1b	細粒	良好	浅黄橙	②28④(16.5)　胴部　２条の平行沈線で直線とＪ字文の区画構成　沈線区画内を刺突で充填、接合関係８点
32	ｼｷ-3	Ｖ－2a	粗粒	良好	橙	①21②10.3④(16.6)　深鉢の口縁に横位の沈線あり、突起部が2ケ所でその中央に穴あり、胴部は緩やかに反り全体に直線の沈線で文様構成される。口縁～胴部、底部なし。接合関係９点その内６点が炉内より出土
33	ｼｷ-3	Ｖ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	胴部　沈線＋刺突文　接合関係２点
34	ｼｷ-3	Ｖ－3b	粗粒	良好	橙	口縁部　口唇部に円形刺突、頸部以下に沈線施文。
35	ｼｷ-3	Ｖ－1b	中粒	良好	浅黄橙	胴部　平行沈線間に一列の刺突文あり。接合関係２点
36	ｼｷ-3	Ｖ－1b	中粒	良好	浅黄橙	胴部　平行沈線間に一列の刺突文あり。接合関係２点
37	ｼｷ-3	Ｖ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	沈線によるＪ字文＋刺突文　補修用の穿孔途中である。
38	ｼｷ-3	Ｖ－2a	細粒	良好	橙	深鉢の頸部から胴部　幅３mmの沈線施文　内外面箆調整
39	ｼｷ-3	Ｖ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	①(43)口縁～胴部　細い沈線による文様構成　口縁部に１条の横位沈線　胴部は沈線懸垂文と列点文を施す。接合関係１０点
40	ｼｷ-3	Ｖ－3b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部の飾り、幅５mm深さ２mmの沈線あり。
41	ｼｷ-3	Ｖ－3b	細粒	良好	浅黄橙	沈線で円施文＋浮線文　内外面丁寧な箆調整　角閃石の微砂粒を多量に含む。
42	ｼｷ-3	Ⅲ－3	粗粒	良	橙	沈線区画＋６本の櫛歯状の工具で区画内を所々施文　接合関係２点
43	ｼｷ-3	Ｖ－1b	中粒	良好	黄橙	口縁部　沈線＋刺突＋微隆起　接合関係２点
44	ｼｷ-3	Ⅱ－3	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　横位沈線＋縦位斜位沈線　接合関係２点
45	ｼｷ-3	Ⅳ－2	粗粒	良好	橙	縄文＋沈線
46	ｼｷ-3	Ⅱ－1	細粒	良好	橙	沈線によるコンパス文＋２種類の縄文原体による施文　内面は丁寧な器面調整
47	ｼｷ-3	Ⅳ－4	中粒	良好	浅黄橙	斜格子沈線施文
48	ｼｷ-3	Ｖ－2a	細粒	良好	浅黄橙	胴部　沈線間に刺突文施文
49	ｼｷ-3	Ⅱ－3	中粒	良好	浅黄橙	集合沈線　接合関係２点
50	ｼｷ-3	Ｖ－3b	粗粒	良好	橙	口縁～胴部　無文　外面は粗雑な作りである。接合関係３点
51	ｼｷ-3	Ｖ－3b	中粒	良好	橙	口縁部　沈線区画　接合関係２点
52	ｼｷ-3	Ｖ－2b	細粒	良好	浅黄橙	口縁部把手、半截竹管状工具で沈線施文　先端部捻りあり。
53	ｼｷ-3	Ⅱ－1	細粒	良好	橙	２原体縄文による施文。
54	ｼｷ-3	Ｖ－3b	中粒	良好	淡黄	沈線区画＋櫛歯状沈線文　接合関係３点
55	ｼｷ-3	Ｖ－3b	細粒	良好	橙	口縁部　隆起＋円形刺突＋沈線＋Ｊ字状に縄文を残す。
56	ｼｷ-3	Ｖ－3b	粗粒	良好	橙	深鉢の胴部　沈線で文様構成　接合関係２点

番号	位置	分類	胎土	焼成	色調	文様の観察
57	汴-3	Ⅳ－1	粗粒	良好	橙	胴下半部　縄文施文
58	汴-3	Ⅳ－3	粗粒	良好	浅黄橙	小型壺の胴部　浮線間縄文＋貼付文
59	汴-3	Ⅴ－3b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　隆起帯あり　径6～7mm程の孔あり
60	汴-3	Ⅴ－1a	細粒	良好	橙	口縁部　沈線間縄文施文
61	汴-3	Ⅴ－1a	粗粒	良好	浅黄橙	浅鉢形土器把手　口縁部は無文で体部に縄文　大木10ａに類似
62	汴-3	Ⅴ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	沈線区画＋刺突　接合関係４点
63	汴-3	Ⅴ－3b	中粒	良好	橙	口唇部に4mmと8mmの沈線あり。接合関係３点
64	汴-3	Ⅴ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	①(15.5)④(20.3)口縁～胴部　口縁部は僅かに内傾し２本の沈線を施文、外面は粗雑な器面調整　接合関係５点
65	汴-3	Ⅴ－3b	中粒	良好	黄橙	③ 9.0　底部　無文
66	汴-3	Ⅴ－3b	粗粒	良好	浅黄橙	③ 10.7　底部　無文
67	汴-3	Ⅳ－4	粗粒	良好	黄橙	口縁～胴部　胴部に沈線を斜格子状に施し口頸部には横位沈線を施す。
68	汴-3	Ⅴ－3b	細粒	良好	浅黄橙	口唇部に円形刺突文あり。内面丁寧な器面調整
69	汴-3	Ⅴ－2a	中粒	良好	浅黄橙	口縁～胴部　口頸部にくびれあり、２本の沈線の間に刺突文、内面煤付着。
70	汴-3	Ⅴ－1	粗粒	良好	黄橙	口縁部に沈線を施し内側は渦巻文状を呈す。接合関係５点
71	汴-4	Ⅴ－1b	細粒	良好	浅黄橙	沈線間に一列の刺突文を施文、煤付着。
72	汴-4	Ⅴ－3b	細粒	良好	黄橙	口縁部　沈線で文様構成
73	汴-4	Ⅴ－1a	細粒	良好	橙	口縁部　沈線間を縄文で充填（磨消し縄文）
74	汴-4	Ⅴ－3b	粗粒	良好	黄橙	胴部　沈線で文様構成
75	汴-4	Ⅴ－1a	粗粒	良好	黄橙	沈線区画内を縄文で充填（磨消し縄文）
76	汴-4	Ⅴ－3b	粗粒	良好	橙	口縁～胴部　口縁部無文、胴上位と中位に縄文施文幅4.5cmの沈線で区画
77	汴-4	Ⅳ－4	細粒	良好	黄橙	胴部　集合沈線文
78	汴-4	Ⅴ－3b	粗粒	良好	浅黄橙	胴部　粗雑な器面調整、沈線文施文。
79	汴-4	Ⅴ－1b	中粒	良好	浅黄橙	頸～胴部　沈線文で構成
80	汴-4	Ⅴ－2a	粗粒	良好	浅黄橙	頸～胴部　沈線で文様構成
81	汴-4	Ⅴ－2a	中粒	良好	浅黄橙	小型壺の頸～胴部　沈線で渦巻状の文様構成
82	汴-4	Ⅴ－2b	細粒	良好	浅黄橙	波状口縁で口唇部に渦巻文を有し胴部は沈線で文様構成する。胎土に石英の溶解あり。
83	汴-4	Ⅴ－2a	細粒	良好	浅黄橙	小型壺の頸～胴部1/3残　沈線間を刺突文で充填　接合関係３点
84	汴-4	Ⅴ－2	細粒	良	浅黄橙	把手部分
85	汴-4	Ⅴ－1	中粒	良好	浅黄橙	口縁部把手部分　沈線＋円形刺突文あり。
86	汴-4	Ⅴ－3b	粗粒	良好	浅黄橙	小型壺の頸～胴部　沈線で文様構成
87	汴-4	Ⅴ－1a	中粒	良好	浅黄橙	波状口縁＋隆起帯＋沈線間縄文施文
88	汴-4	Ⅴ－3b	細粒	良好	浅黄橙	口縁部と頸部に沈線施文
89	汴-4	Ⅴ－3b	細粒	良好	橙	口縁部把手
90	汴-4	Ⅴ－1a	中粒	良好	橙	８の字状の貼付でその上面に縄文施文、口縁部は波状口縁を呈す。
91	汴-4	Ⅳ－1b	細粒	良好	浅黄橙	無文で粗雑な撫であり。
92	汴-4	Ⅴ－3b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部把手の飾り部分。
93	汴-4	Ⅴ－1a	細粒	良好	浅黄橙	波状の口縁で沈線あり。
94	汴-4	Ⅴ－3b	細粒	良好	浅黄橙	深鉢の底部1/3残　無文　指押え痕あり。
95	汴-4	Ⅴ－3b	中粒	良好	黒灰色	深鉢底部　無文　外面撫で僅かに煤付着。
96	汴-4	Ⅴ－3b	粗粒	良好	橙	胴から底部、無文、細い箆による器面調整　内面炭化物付着、胴中位に沈線施文。
97	JH-22	Ⅳ－3	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部は横位隆起、胴部は縄文＋平行隆起線で区画し内側は磨消す。（大木10）
98	JH-22	Ⅳ－3	粗粒	良好	橙	口唇部横位の微隆起　胴部縄文＋微隆起＋微隆起の集合点に刺突、大木10に類似。
99	JH-22	Ⅴ－1a	中粒	良好	黄橙	口縁部　平行の微隆起帯＋円形刺突
100	JH-22	Ⅴ－1	粗粒	良好	黄橙	口縁部　隆帯文
101	JH-22	Ⅲ－3	中粒	良好	浅黄橙	櫛状工具による連続文
102	JH-22	Ⅴ－2a	粗粒	良	黄橙	口縁～胴部、口頸部でくの字状にくびれる。隆帯文の集合点に刺突文を有す。
103	JH-22	Ⅴ－1a	粗粒	良好	橙	浅鉢の口縁～胴部　沈線で区画しその内側は縄文を充填。
104	JH-22	Ⅳ－3	粗粒	良好	浅黄橙	①28.0 ④20.0 口縁部は内傾し胴中位で僅かにくびれる。口唇部に二条の沈線があり、一条は胴部の模様とつながる。胴部懸垂沈線文の間に縄文を充填。その他の部分は磨消し、５単位構成。口縁の一部欠損、底部なし。大木９に類似。
105	JH-22	Ⅳ－3	細粒	良好	浅黄橙	口縁部　環状把手の飾り、把手の内側に朱色塗採。
106	JH-22	Ⅲ－1	細粒	良好	浅黄橙	平行沈線＋爪形文
107	JH-22	Ⅴ－2b	細粒	良好	淡黄	胴部　沈線＋縄文
108	JH-22	Ⅴ－1a	粗粒	良好	橙	口縁部　沈線＋縄文
109	JH-22	Ⅴ－1a	細粒	良好	浅黄橙	深鉢の口縁～胴部　沈線内縄文充填。
110	JH-22	Ⅴ－1a	細粒	良好	橙	「く」字状の頸部　沈線区画内を縄文で充填。内面煤付着
111	JH-22	Ⅴ－1a	細粒	良好	黄橙	薄手の小型土器、沈線区画内を縄文で充填。
112	JH-1	Ⅲ－2	中粒	良好	明赤褐色	集合沈線
113	JH-1	Ⅱ－2a	中粒	良好	橙	縄文
114	JH-1	Ⅲ－2	粗粒	良	明黄褐色	集合沈線
115	JH-1	Ⅱ－2a	粗粒	良好	黄橙	縄文
116	JH-1	Ⅱ－2a	粗粒	良好	黄橙	縄文

番号	位置	分類	胎土	焼成	色調	文様の観察
117	JH-2	Ⅲ－2	粗粒	良好	橙	口縁部は内湾し胴部は緩やかに反る。幅2㎜の半截竹管を数本単位に連続して平行沈線を施文。口頸部は横位の沈線にボタン文貼付け。口縁部は矢羽根状と横位の沈線上に棒状の粘土を2本貼付け上から半截竹管で連続して刺突。
118	JH-2	Ⅲ－1	細粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋爪形文
119	JH-2	Ⅱ－2a	粗粒	良好	にぶい黄橙	縄文RL
120	JH-2	Ⅱ－2a	中粒	良	黄橙	羽状縄文
121	JH-2	Ⅱ－2a	粗粒	良好	黄橙	2原体の縄文を使って施文。
122	JH-2	Ⅱ－2a	粗粒	良	明赤褐色	口縁部縄文
123	JH-2	Ⅲ－3	粗粒	良好	浅黄橙	口唇部半截竹管で帯状に深くえぐる。横位沈線＋縦位沈線施文
124	JH-2	Ⅲ－1	中粒	良好	浅黄橙	平行沈線＋爪形文
125	JH-2	Ⅲ－2	中粒	良好	黄橙	集合沈線文＋棒状貼付け文。
126	JH-2	Ⅲ－2	粗粒	良好	黄橙	集合沈線文＋ボタン状文貼付け。
127	JH-2	Ⅴ－3b	細粒	良好	浅黄橙	沈線で文様構成。
128	JH-2	Ⅴ－3b	粗粒	良好	浅黄橙	沈線
129	JH-2	Ⅱ－2a	粗粒	良好	橙	縄文
130	JH-2	Ⅲ－2	中粒	良好	橙	集合沈線
131	JH-5	Ⅴ－3b	中粒	良好	浅黄橙	円形刺突＋縄文
132	JH-5	Ⅱ－1b	細粒	良好	浅黄橙	組紐
133	JH-5	Ⅱ－2a	細粒	良好	浅黄橙	2種類原体の縄文
134	JH-5	Ⅱ－1b	細粒	良好	浅黄橙	口縁部　組紐
135	JH-5	Ⅱ－2a	粗粒	良好	橙	羽状縄文の2原体
136	JH-5	Ⅱ－2a	中粒	良好	浅黄橙	羽状縄文
137	JH-5	Ⅱ－2a	中粒	良好	黄褐色	口縁～胴部　撚糸縄文
138	JH-5	Ⅱ－2a				①(16.4)④(15.0)口縁～胴部　1/2弱残
139	JH-5	Ⅱ－2a	粗粒	良好	橙	口縁部　羽状縄文
140	JH-5	Ⅱ－3	細粒	不良	橙	底部　縄文
141	JH-5	Ⅱ－1b	細粒	良好	橙	縄文＋コンパス文
142	JH-5	Ⅱ－2a	粗粒	良	橙	縄文　口縁～胴部1/4残
143	JH-5	Ⅱ－2a	粗粒	良好	浅黄橙	胴部2/3残　羽状縄文、胴部ですぼまる。
144	JH-5	Ⅱ－2a	粗粒	良好	浅黄橙	②(27.0)③(23.2)口縁～胴部　羽状縄文
145	JH-5	Ⅱ－2a	粗粒	良好	浅黄橙	胴部　羽状縄文　接合関係6点
146	JH-5	Ⅱ－3	粗粒	良好	黄橙	底部　縄文
147	JH-5	Ⅲ－1	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　縄文＋カーブ状平行沈線
148	JH-5	Ⅱ－1a	粗粒	良好	黄橙	口縁部　梯子状沈線文＋貼付文
149	JH-5	Ⅱ－3	粗粒	良好	橙	③8.8縄文　やや上げ底
150	JH-5	Ⅲ－1	粗粒	良好	にぶい黄橙	縄文＋沈線
151	JH-5	Ⅱ－1b	細粒	良好	黄橙	口縁～胴部　縄文＋コンパス状文
152	JH-5	Ⅱ－3	粗粒	不良	明赤褐色	胴～底部 縄文
153	JH-6	Ⅱ－3	粗粒	不良	橙	③(10.5) 胴部　胴～底部　縄文
154	JH-6	Ⅲ－4	粗粒	良好	赤褐色橙	①(18.4)②(26.6)③(7.7)④(10.6)浅鉢　外面は良く磨かれ、口縁部はくの字状に屈曲し沈線が施されている。剝がれで器形全体は観察できない。底部も僅か残存す。縄文。
155	JH-6	Ⅱ－3	粗粒	良好	橙	胴～底部　浅い縄文
156	JH-6	Ⅳ－4	中粒	良好	暗赤褐色	口縁部　縄文＋隆起帯
157	JH-7	Ⅴ－3b	中粒	良好	浅黄橙	沈線＋縄文
158	JH-7	Ⅴ－3a	細粒	良好	浅黄橙	沈線＋縄文
159	JH-7	Ⅲ－1	中粒	良好	浅黄橙	沈線＋縄文
160	JH-8	Ⅲ－5	粗粒	良好	黄褐色	口縁～胴部　輪積み痕　接合関係3点
161	JH-8	Ⅲ－2	粗粒	良好	赤褐色	①31.0 ④17.0幅3～4㎜の半截竹管を束ねた原体による平行沈線、4単位区画。口縁部
162	JH-8	Ⅲ－2	粗粒	良好	にぶい橙	①44.5深鉢　口縁部(1/2程度)　集合沈線＋棒状、ボタン状貼付け文 接合関係5点
163	JH-8	Ⅲ－5	粗粒	良	浅黄橙	③11.7底部
164	JH-8	Ⅲ－2	粗粒	良好	浅黄橙	①21.4 口縁部横位平行沈線(13本)、胴部は斜位弧状の集合沈線施文、棒状の貼付け文。
165	JH-8	Ⅲ－3	中粒	良好	明褐色	①(16.0)口唇部は縦状沈線施文。その下、半截竹管で施文。胴体は縄文の上に平行沈線施文　接合関係2点
166	JH-8	Ⅲ－2	粗粒	良好	橙	③11.0胴部～底部(底抜け)　胴部横位集合沈線、内側から外側にかけて棒状貼付け文を4本づつ施文、耳状のものを両脇に貼付ける。胴部上位は横位下位は矢羽根状、ボタン文＋棒状貼付け文、中位に段差あり。接合関係3点
	JH-8	Ⅲ－2	粗粒	良好	浅黄橙	①46.0 ④(30.5) 口縁部幅3～4㎜の半截竹管使用、横位の平行沈線施文。棒状、ボタン文貼付け。内側25cm入り込んで斜位　沈線＋棒状、ボタン状貼付け文を交互に施文、4ヶ所に大きめのもの貼付け、口頸部斜位沈線　幅3～4㎜。胴部は緩やかに反り幅2～3㎜斜位沈線を10～13本を単位に施文。その上へ上部は棒状、下位はボタン状貼付け文。底部は内側に曲がり、横位沈線幅3～4㎜施文。接合関係7点

番号	位置	分類	胎土	焼成	色調	文様の観察
167	JH-8	Ⅲ－2	粗粒	良好	褐色	①30.0口縁～胴部一部残　幅3～4mmの半截竹管を数本単位に連続して平行沈線を施文、口縁部上位は横位の沈線、途中から斜線の沈線、更にボタン状・棒状貼付け文あり。接合関係10点
168	JH-8	Ⅲ－2	粗粒	良	浅黄橙	③11.7底部　集合沈線＋棒状貼付け文
169	JH-8	Ⅲ－2	中粒	良好	黄橙	①(10.6)口縁　2本の平行沈線で施文
170	JH-8	Ⅲ－5	細粒	良好	赤褐色	胴下半部～底部残　無文　ヘラ調整、内面炭化物付着　接合関係3点
171	JH-8	Ⅲ－5	粗粒	良	浅黄橙	③8.2底部
172	JH-8	Ⅱ－1b	細粒	良好	にぶい橙	半截竹管のコンパス文＋縄文
173	JH-8	Ⅲ－2	粗粒	良好	橙	胴部　集合沈線＋棒状、ボタン状貼付け文
174	JH-8	Ⅲ－2	粗粒	良好	赤褐色	④20.0　口縁～胴部　平行沈線＋貼付け文、口縁部横位沈線、胴部は縦状＋斜状沈線で区画棒状の貼付け文。接合関係4点
175	JH-8	Ⅱ－1b	細粒	良好	浅黄橙	口縁部　組紐
176	JH-8	Ⅱ－1a	細粒	良好	浅黄橙	①(19.5)口縁部　縄文
177	JH-8	Ⅱ－1a	細粒	良	明黄褐色	縄文＋梯子状沈線文＋貼付け文
178	JH-8	Ⅲ－3	粗粒	良好	浅黄橙	波状貝殻文
179	JH-8	Ⅱ－1b	中粒	良好	橙	縦長のコンパス文施文＋縄文RL
180	JH-8	Ⅱ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	縄文　沈線＋円形貼付け文
181	JH-8	Ⅱ－1a	細粒	良好	浅黄橙	梯子状沈線文＋貼付け文＋縄文
182	JH-8	Ⅱ－1a	中粒	良好	明褐色	口縁部　縄文LR
183	JH-8	Ⅱ－2a	中粒	良	にぶい黄橙	胴部　縄文RL
184	JH-8	Ⅱ－2a	粗粒	良好	黄橙	縄文　接合関係6点
185	JH-8	Ⅲ－2	粗粒	不良	にぶい橙	口縁部　集合沈線　靴先状を呈す。
186	JH-8	Ⅱ－3	粗粒	良	黄橙	口縁部　口縁部に貼付け文あり。縄文＋波状文　接合関係3点
187	JH-8	Ⅱ－2a	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　波状口縁、縄文RL　接合関係2点
188	JH-8	Ⅲ－2	中粒	良好	橙	口縁部　縄文＋平行沈線施文(横位、弧状)
189	JH-8	Ⅲ－1	粗粒	良好	橙	口縁部　平行沈線
190	JH-8	Ⅲ－2	粗粒	良好	橙	口縁部のみ　口唇部横位の平行沈線(幅1～2mm)その下斜位、横位の平行沈線施文
191	JH-8	Ⅲ－1	中粒	良好	浅黄橙	刻目を持つ浮線文あり。円形の隆起あり　口縁部は外反する。
192	JH-8	Ⅲ－1	中粒	良好	浅黄橙	刻目を持つ浮線文＋縄文
193	JH-8	Ⅲ－1	中粒	良好	黄橙	縄文の地文＋刻目を持つ浮線文
194	JH-8	Ⅲ－1	細粒	良	浅黄橙	刻目を矢羽根状に施文＋円形竹管で施文
195	JH-8	Ⅲ－1	粗粒	良好	橙	浮線文の上に矢羽根状で区画、刻目を施文
196	JH-8	Ⅲ－2	中粒	良好	黄橙	平行沈線施文(横位、弧状)　接合関係2点
197	JH-8	Ⅲ－5	粗粒	良好	黄橙	③11.0　底部　縄文LR
198	JH-8	Ⅲ－5	中粒	良	浅黄橙	③11.2底部　接合関係3点
199	JH-8	Ⅲ－1	粗粒	良好	浅黄橙	③12.7 ④6.0　底部　刻目を持つ浮線文あり。
200	JH-8	Ⅲ－3	中粒	良好	明赤褐色	①19.7口縁の一部　半截竹管による波状爪形文施文
201	JH-8	Ⅲ－2	粗粒	良好	にぶい黄橙	胴部　幅1～2mmの平行沈線＋棒状、ボタン状貼付け文
202	JH-8	Ⅲ－4	細粒	良好	明黄褐色	口縁部　径5mmの穴
203	JH-8	Ⅲ－2	粗粒	良	明赤褐色	平行沈線施文。
204	JH-8	Ⅲ－5	粗粒	良好	橙	①(29.8)口縁の一部　平行沈線で三角文を施文
205	JH-8	Ⅲ－5	粗粒	良好	浅黄橙	①(15.2) ④9.5 口縁部　口縁部は波状刺突、刻目のまとまりが交互に施文。口頸部は幅2mmの横位沈線3本あり。胴部は沈線で山形状に3本施文
206	JH-8	Ⅱ－3	中粒	良好	浅黄橙	①(20.0)口縁部　貼付け文
207	JH-8	Ⅲ－5	粗粒	良好	黄橙	口縁部
208	JH-8	Ⅳ－4	中粒	良好	橙	地文は幅2～3mmの平行沈線、その上に幅4mmの沈線で渦巻文を施文
209	JH-8	Ⅳ－4	中粒	良好	浅黄橙	①35.4口縁部のみ　渦巻状隆帯及び隆帯文と沈線文で区画、　胴部 縄文LR
210	JH-9	Ⅲ－5	粗粒	良好	浅黄橙	縄文＋沈線
211	JH-9	Ⅱ－1a	粗粒	良好	浅黄橙	梯子状沈線文＋貼付け文＋羽状縄文
212	JH-9	Ⅱ－2a	中粒	良好	橙	縄文2原体で施文
213	JH-9	Ⅱ－2a	粗粒	良好	橙	縄文
214	JH-9	Ⅱ－1b	細粒	良好	黄橙	コンパス文＋縄文
215	JH-9	Ⅱ－2a	中粒	良	黄橙	2原体縄文
216	JH-9	Ⅱ－1b	中粒	良好	黄橙	組紐
217	JH-9	Ⅱ－2a	粗粒	良好	浅黄橙	縄文
218	JH-9	Ⅱ－2a	中粒	良好	橙	2原体縄文
219	JH-9	Ⅱ－3	中粒	良好	浅黄橙	縄文　平行沈線
220	JH-10	Ⅱ－2a	細粒	良好	にぶい黄橙	口縁部　2種類の縄文原体
221	JH-10	Ⅱ－1b	粗粒	良好	橙	縄文
222	JH-10	Ⅱ－2a	中粒	良好	黄橙	羽状縄文
223	JH-10	Ⅱ－3	細粒	良好	黄橙	口縁部　ややくびれあり
224	JH-10	Ⅱ－1a	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　縄文＋沈線＋貼付け文
225	JH-10	Ⅱ－2a	細粒	良好	橙	羽状縄文
226	JH-10	Ⅱ－2b	細粒	良好	橙	羽状縄文

番号	位置	分類	胎土	焼成	色調	文様の観察
227	JH-10	Ⅲ－2	粗粒	良好	橙	沈線
228	JH-10	Ⅱ－1a	中粒	良好	黄橙	沈線間に刻目あり＋竹管文
229	JH-10	Ⅱ－1b	中粒	良好	浅黄橙	２原体縄文
230	JH-10	Ⅱ－1a	細粒	良好	黄橙	平行沈線＋爪形文＋貼付け文
231	JH-10	Ⅱ－1b	細粒	良好	明黄褐色	縄文２原体
232	JH-10	Ⅲ－2	粗粒	良好	浅黄橙	沈線施文
233	JH-10	Ⅱ－1b	細粒	良好	淡橙	縄文＋コンパス状文
234	JH-10	Ⅱ－1b	粗粒	良好	にぶい黄橙	縄文＋コンパス状文
235	JH-10	Ⅲ－1	粗粒	良好	橙	集合沈線＋縄文ＲＬ
236	JH-10	Ⅲ－2	粗粒	良好	浅黄橙	沈線施文
237	JH-11	Ⅱ－1b	細粒	良好	にぶい橙	２原体縄文＋半截竹管のコンパス文
238	JH-11	Ⅲ－2	粗粒	良好	橙	集合沈線
239	JH-11	Ⅴ－1a	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋縄文　口唇部くの字曲がり
240	JH-11	Ⅴ－2b	細粒	堅(良好)	浅黄橙	口縁部　沈線文＋押圧痕あり　内面に刻目あり
241	JH-12	Ⅱ－1b	細粒	良好	にぶい黄橙	微隆起線　５本単位の縦長コンパス文＋縄文ＬＲ
242	JH-12	Ⅲ－2	中粒	良好	橙	半截竹管の平行沈線あり。
243	JH-12	Ⅳ－1a	粗粒	良好	明赤褐色	隆帯区画文に沿って爪形文を施文。
244	JH-12	Ⅳ－1a	粗粒	良好	明赤褐色	隆帯区画文上に刺突文あり。区画に沿って渦巻状の平行沈線。
245	JH-12	Ⅱ－2a	粗粒	良好	橙	①(2.1)　羽状縄文
246	JH-12	Ⅲ－1	粗粒	良好	黄橙	③(12.4)底部　矢羽根状の刻目。
247	JH-12	Ⅲ－2	粗粒	良好	黄橙	①(13.2)口縁部数本の横位平行沈線、その下は縦状の平行沈線。
248	JH-12	Ⅲ－4	粗粒	良好	浅黄橙	口縁～胴部　口頸部に有孔
249	JH-12	Ⅲ－2	粗粒	良好	淡黄色	③ 9.5 底部より高さ７．５cmの部分まで残存する。幅２mmの半截竹管を数本単位に連続して平行沈線を施文。文様は縦に区画した後、矢羽根状、斜線などの文様を施文。更にボタン状貼付け文、棒状貼付け文あり、ボタン状貼付け文には半截竹管の刺突あり。底部は無文。１単位５～１０本の縦線が３ヶ所矢羽根状の沈線は１０～１２本　接合関係２点
250	JH-12	Ⅲ－2	粗粒	良好	浅黄橙	②(18.5)④(25)胴部1/3残　胴部は幅３～４mmの半截竹管を数本束ねた原体で縦の沈線斜位の沈線で矢羽根状文様を施文、底部付近は横位の沈線を施文。
251	JH-12		中粒	良好	橙	残存高10.5 幅11.2 厚さ1.6表面は箆で撫でられており、その後赤色塗採されている。顔と乳房と下半身は欠如、欠損部分は黒色を呈す。首の接合状況がわかる。
252	JH-12	Ⅲ－2	粗粒	良好	橙	①87.0　③13.0 ④85.0　ほぼ完　口縁は内湾し胴部は緩やかに傾斜する。平らな口縁は４cm幅で３単位構成、幅２～４mmの半截竹管で平行沈線施文、更に口縁は棒状の貼付けで縁取りされ、矢羽根状の沈線上に棒状の貼付け文。胴部は縦、斜位の沈線施文＋ボタン文貼付け。口縁から胴部にかけて段差あり。縦２５本 斜め７本。接合関係２１点
253	JH-12	Ⅴ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	①(36)沈線間に刺突文あり。
254	JH-12	Ⅰ	粗粒	やや良	浅黄橙	縄文
255	JH-12	Ⅳ－4	粗粒	良好	橙	直交する幅７mm程の隆線で施文。
256	JH-12	Ⅲ－1	粗粒	良好	黄橙	横位に矢羽根状刻目あり。接合関係３点
257	JH-12	Ⅲ－1	粗粒	良好	明赤褐色	数本単位の平行沈線で文様構成。
258	JH-12	Ⅲ－2	粗粒	良好	橙	口唇部横位に２条の沈線、その下に縦状沈線施文。
259	JH-12	Ⅴ－1b	粗粒	良好	にぶい黄橙	①(27.4)口縁部横位沈線刺突文あり。
260	JH-12	Ⅲ－4	粗粒	良好	橙	①(16.7)口唇直下に３cm間隔で径５mmの穴が穿たれる。有孔浅鉢
261	JH-12	Ⅴ－3b	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部の一部と思われる。円形の口縁部の飾り（直径２cm、深さ１．３cm）
262	JH-12	Ⅱ－1b	細粒	良好	橙	２mm間の沈線が２条づつ１．７～２cmの長さで施文。沈線間は組紐。
263	JH-12	Ⅴ－3	粗粒	良好	浅黄橙	①(16.1)横位沈線、口縁部円形刺突文あり。
264	JH-12	Ⅴ－1a	粗粒	良好	灰白色	①(24.2)口縁部　横位３mm位の沈線２本あり。沈線間縄文ＬＲ施文
265	JH-12	Ⅱ－2a	粗粒	良好	橙	③(11.7)縄文施文２種類の原体使用。
266	JH-12	Ⅳ－4	粗粒	良好	明赤褐色	波状の隆起線あり。縄文ＲＬ
267	JH-12	Ⅱ－1b	細粒	良好	にぶい橙	組紐
268	JH-12	Ⅲ－1	粗粒	良好	明黄褐色	横位の平行沈線、沈線間に爪形文あり、縄文。
269	JH-12	Ⅲ－5	粗粒	良好	橙	縄文ＲＬ
270	JH-12	Ⅴ－1a	粗粒	良好	浅黄橙	沈線間に縄文の施文あり。
271	JH-12	Ⅲ－3	粗粒	良好	にぶい黄橙	①(27.4)口縁部
272	JH-12	Ⅲ－1	粗粒	良好	明赤褐色	撚糸文
273	JH-12	Ⅲ－2	粗粒	良好	明黄褐色	①(33.1) ④22.0口縁～胴部1/8程度残　口縁部横位の矢羽根状沈線、途中から縦方向に矢羽根状の沈線区画あり。棒状貼付け文あり。
274	JH-13	Ⅳ－4	粗粒	良好	橙	縄文ＬＲ
275	JH-13	Ⅱ－3	粗粒	良好	橙	縄文　撚糸文
276	JH-13	Ⅲ－5	中粒	良好	淡黄	縄文
277	JH-13	Ⅲ－4	粗粒	良好	橙	口縁部　横位沈線
278	JH-13	Ⅴ－3b	中粒	良好	にぶい橙	口縁部　口唇部少々くびれあり。
279	JH-13	Ⅴ－1a	中粒	良好	浅黄橙	沈線＋縄文
280	JH-13	Ⅴ－1a	中粒	良好	橙	幅３mmの沈線で区画し、内側は縄文で施文。

番号	位置	分類	胎土	焼成	色調	文様の観察
281	JH-14	Ⅴ－3b	中粒	良好	浅黄橙	沈線で文様構成
282	JH-14	Ⅴ－1a	中粒	良好	黄橙	沈線＋縄文
283	JH-14	Ⅳ－4	粗粒	良好	浅黄橙	沈線＋縄文
284	JH-14	Ⅴ－1b	粗粒	良好	黄橙	沈線文様
285	JH-14	Ⅴ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	④21.8胴部　沈線区画文　一部に円形刺突文あり。
286	JH-14	Ⅴ－3b	粗粒	良好	浅黄橙	沈線の渦巻文　刻目あり。
287	JH-14	Ⅴ－2b	中粒	良好	浅黄橙	口唇部に刻目あり、沈線間に縄文施文。
288	JH-14	Ⅴ－3b	粗粒	良好	黄橙	沈線＋浮線
289	JH-14	Ⅳ－4	粗粒	良好	にぶい黄橙	縄文＋平行沈線
290	JH-14	Ⅴ－3b	中粒	良好	浅黄橙	口唇部に円形竹管で施文＋沈線あり。
291	JH-14	Ⅳ－3	粗粒	良好	浅黄橙	微隆起＋縄文
292	JH-15	Ⅲ－2	粗粒	良	黄橙	横位平行沈線＋半截竹管施文の微隆起
293	JH-15	Ⅲ－2	粗粒	良好	橙	平行沈線施文
294	JH-15	Ⅴ－3b	粗粒	不良	浅黄橙	縦状に浅く沈線施文
295	JH-15	Ⅲ－2	粗粒	良好	橙	底部　集合沈線＋ボタン状・棒状貼付け文。接合関係3点
296	JH-15	Ⅲ－3	中粒	良好	黄橙	①(14.0)口唇部に刻目あり、斜位横位沈線施文。
297	JH-15	Ⅲ－2	中粒	良	浅黄橙	口縁部飾り、棒状の貼付けの間は平行沈線。
298	JH-15	Ⅲ－2	粗粒	良好	橙	胴部　集合沈線＋ボタン状・棒状貼付け文。接合関係2点
299	JH-15	Ⅲ－2	粗粒	良好	浅黄橙	沈線施文
300	JH-15	Ⅲ－2	粗粒	良好	浅黄橙	胴部　集合沈線＋ボタン状・棒状貼付け文。接合関係8号住居の3点
301	JH-15	Ⅲ－1	中粒	良好	黄橙	沈線＋爪形文
302	JH-15	Ⅲ－1	粗粒	良好	黄橙	矢羽根状刻目を持つ浮線文＋半截竹管状工具による幅広の内側は爪形文。
303	JH-15	Ⅲ－1	細粒	良好	浅黄橙	縄文地文＋刻目を持つ浮線文。
304	JH-15	Ⅲ－1	細粒	良好	橙	平行沈線間に爪形文施文。
305	JH-15	Ⅲ－1	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　縄文＋口唇部は刻目を持つ浮線文。
306	JH-15	Ⅲ－3	中粒	良好	橙	口縁部無文、その下は条線状沈線文。
307	JH-15	Ⅱ－1b	中粒	良好	浅黄橙	縦長コンパス文＋縄文
308	JH-15	Ⅱ－1b	細粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線のコンパス文＋縄文。
309	JH-15	Ⅱ－1	細粒	良好	明黄褐色	縄文施文、2種以上の原体。
310	JH-15	Ⅱ－1b	細粒	良好	浅黄橙	組紐
311	JH-15	Ⅱ－3	中粒	良好	黄橙	縄文施文
312	JH-15	Ⅱ－2a	粗粒	良	橙	羽状縄文
313	JH-15	Ⅱ－2a	中粒	良	黄橙	縄文施文、2種類の原体を用いて施文。
314	JH-15	Ⅲ－1	粗粒	良	橙	半截竹管文による内側は爪形文、器面に対してかなり深く施文。
315	JH-15	Ⅴ－1a	中粒	良好	橙	沈線＋縄文
316	JH-15	Ⅴ－1a	中粒	良好	浅黄橙	口縁部飾り　波状口縁の一部で8の字状の隆起帯の表面は縄文＋円形刺突文。
317	JH-15	Ⅴ－1b	中粒	良好	橙	沈線＋刺突文、接合関係15住居の2点。
318	JH-15	Ⅴ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋刺突
319	JH-15	Ⅴ－3b	細粒	良好	橙	口縁部　刺突文
320	JH-15	Ⅴ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	沈線＋刺突
321	JH-15	Ⅴ－3b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線
322	JH-15	Ⅴ－3b	粗粒	良好	橙	口縁部　沈線施文
323	JH-15	Ⅴ－3b	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋円形刺突文
324	JH-15	Ⅴ－3b	細粒	良好	黄橙	口縁部　沈線
325	JH-15	Ⅰ	粗粒	良好	浅黄橙	尖底部
326	JH-15	Ⅴ－3b	粗粒	良好	黄橙	沈線施文
327	JH-15	Ⅴ－3b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線で文様構成。
328	JH-15	Ⅴ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	沈線施文
329	JH-15	Ⅴ－1b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線施文
330	JH-15	Ⅴ－1b	粗粒	良好	黄橙	沈線施文
331	JH-15	Ⅳ－3	中粒	良好	明赤褐色	縄文＋隆起文
332	JH-15	Ⅲ－4	中粒	良好	橙	有孔浅鉢の口縁　口唇直下に径5mmの孔が焼成前に穿たれる。
333	JH-15	Ⅲ－5	中粒	不良	橙	縄文施文、田隔あり。
334	JH-15	Ⅳ－4	粗粒	良好	橙	縄文＋波状沈線文
335	JH-15	Ⅴ－3b	粗粒	良好	浅黄橙	口唇部に4本の平行沈線あり。
336	JH-15	Ⅴ－3b	粗粒	良	黄橙	沈線＋一部沈線文微隆起あり。
337	JH-15	Ⅴ－3b	粗粒	良	浅黄橙	無文部　接合関係 No.210
338	JH-15	Ⅴ－3b	中粒	良	浅黄橙	口縁部の飾り　把手部分　2本の棒状粘土を重ね合わせ中央は空洞＋沈線施文。
339	JH-15	Ⅴ－3b	中粒	良好	明黄褐色	口縁部　微隆起あり。
340	JH-15	Ⅴ－3b	中粒	良好	浅黄橙	浮線文あり。
341	JH-15	Ⅲ－5	粗粒	良	浅黄橙	③8.2 無文部　底部中央部は上げ底。
342	JH-15	Ⅲ－5	粗粒	良	橙	③10.7 底部　無文
343	JH-15	Ⅲ－5	粗粒	良	橙	③9.8 底部　無文
344	JH-15	Ⅳ－4	粗粒	良	橙	縄文の上に浮線施文。
345	JH-15	Ⅳ－1a	中粒	良好	橙	隆帯区画の上に縄文施文＋沈線施文。

番号	位置	分類	胎土	焼成	色調	文様の観察
346	JH-15	Ⅲ－4	中粒	良好	明赤褐色	浅鉢　黄鉄鉱を含む。
347	JH-15	Ⅴ－3b	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋縄文
348	JH-15	Ⅳ－4	粗粒	良好	橙	縄文ＬＲの地文＋半截竹管あるいは棒状工具により平行沈線３本施文。
349	JH-15	Ⅳ－4	中粒	良好	にぶい橙	縄文施文部と無文部を隆起で区画。
350	JH-15	Ⅳ－4	粗粒	良	橙	隆起帯は渦巻状の爪形文＋縄文施文。
351	JH-15	Ⅳ－4	粗粒	良好	橙	縄文＋隆帯
352	JH-15	Ⅴ－3b	中粒	良好	にぶい黄橙	口縁部　把手部分径５㎜程の孔あり＋沈線文。
353	JH-15	Ⅳ－4	中粒	良好	橙	隆起文＋縄文
354	JH-16	Ⅱ－2a	細粒	良好	橙	口縁部　羽状縄文。接合関係２点
355	JH-16	Ⅱ－1a	粗粒	良好	黄橙	梯子状沈線文＋縄文
356	JH-16	Ⅱ－1a	粗粒	良好	にぶい黄橙	縄文＋貼付け文
357	JH-16	Ⅱ－2a	粗粒	不良	明赤褐色	胴～底部　縄文やや上げ底。接合関係７点
358	JH-16	Ⅲ－1	粗粒	良好	にぶい橙	縄文＋沈線
359	JH-16	Ⅳ－4	中粒	良好	浅黄橙	沈線＋縄文
360	JH-16	Ⅱ－3	粗粒	不良	橙	底部　やや上げ底。接合関係３点
361	JH-17	Ⅱ－3	粗粒	良好	橙	底部　縄文
362	JH-17	Ⅱ－2a	粗粒	良好	浅黄橙	羽状縄文
363	JH-17	Ⅲ－5	粗粒	良好	橙	口縁部　沈線
364	JH-17	Ⅱ－3	粗粒	良好	橙	縄文
365	JH-17	Ⅱ－2a	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　縄文
366	JH-17	Ⅲ－2	粗粒	良好	黄橙	平行沈線施文
367	JH-17	Ⅲ－2	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線
368	JH-17	Ⅱ－1b	粗粒	良好	橙	胴部　縄文＋平行沈線＋爪形文
369	JH-18	Ⅲ－1	細粒	良好	赤橙	②19.0 ④16.9 胴部 胴中位には幅２～３㎜の半截竹管で横位に施文（５～６本）。縦位の沈線は５本。胴下半部は菱形と弧状の沈線で文様構成される（７本と４本）。地文にはＲＬの斜行縄文が施される。
370	JH-18	Ⅲ－1	粗粒	良好	橙	胴部　３～４本の平行沈線で弧状及び渦巻き状の文様を施文。地文は縄文。
371	JH-18	Ⅲ－1	中粒	良好	浅黄橙	刻目を持つ浮線文＋縄文。
372	JH-18	Ⅲ－1	細粒	良好	橙	口縁部　沈線＋縄文
373	JH-18	Ⅲ－1	中粒	良好	橙	口縁部　沈線＋縄文
374	JH-18	Ⅲ－1	中粒	良好	橙	刻目のある浮線文。
375	JH-18	Ⅲ－1	中粒	良好	黄橙	縄文
376	JH-18	Ⅲ－1	粗粒	良好	浅黄橙	底部　縄文
377	JH-18	Ⅱ－2a	中粒	良好	橙	羽状縄文
378	JH-18	Ⅲ－1	中粒	良好	黄橙	縄文＋集合沈線
379	JH-19	Ⅲ－1	粗粒	良好	橙	刻目のある浮線文。
380	JH-19	Ⅲ－1	粗粒	良好	橙	縄文＋刻目のある浮線文。
381	JH-19	Ⅲ－2	粗粒	良好	橙	沈線
382	JH-19	Ⅲ－2	中粒	良好	浅黄橙	集合沈線
383	JH-19	Ⅲ－2	粗粒	良好	にぶい橙	沈線
384	JH-19	Ⅲ－2	粗粒	良好	黄橙	集合沈線
385	JH-19	Ⅱ－1a	中粒	良好	にぶい黄橙	縄文＋貼付け文
386	JH-19	Ⅲ－5	粗粒	良好	橙	③9.0底部　底はほぼ平。
387	JH-20	Ⅲ－5	粗粒	良好	浅黄橙	胴～底　無文
388	JH-20	Ⅴ－3b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線
389	JH-20	Ⅲ－2	粗粒	良好	浅黄橙	集合沈線
390	JH-20	Ⅱ－3	粗粒	不良	橙	胴部　浅い縦状沈線
391	JH-20	Ⅱ－1a	中粒	良好	にぶい橙	口縁部　平行沈線＋爪形文＋貼付け文＋縄文＋刺突文
392	JH-21	Ⅱ－2a	中粒	良好	浅黄橙	２原体の縄文。
393	JH-21	Ⅱ－2a	中粒	良	浅黄橙	縄文２原体
394	JH-21	Ⅲ－1	粗粒	良好	橙	沈線＋半截竹管による刻目。
395	JH-21	Ⅲ－2	粗粒	良好	黄橙	口縁部は集合沈線＋棒状及びボタン文貼付け、内側に文様が入り込む。
396	JH-21	Ⅲ－2	粗粒	良好	橙	集合沈線
397	JH-21	Ⅴ－1a	粗粒	良好	浅黄橙	沈線間に縄文施文。
398	JH-21	Ⅴ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	沈線＋刺突文
399	JH-21	Ⅴ－2	細粒	良好	浅黄橙	沈線施文
400	JH-21	Ⅳ－1a	中粒	良好	浅黄橙	浅鉢形土器の口縁部　沈線と直線的Ｊ字文により把手部分の文様を構成する。（１．５㎝の孔あり）
401	JH-21	Ⅲ－5	中粒	良好	橙	口縁部　沈線あり。

番号	位置	分類	胎土	焼成	色調	文様の観察
402	D-3	Ⅱ－3	中粒	良好	黄橙	口縁　縄文ＲＬ
403	D-3	Ⅲ－2	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　集合沈線
404	D-3	Ⅲ－1	粗粒	良好	浅黄橙	底部　沈線＋縄文
405	D-3	Ⅴ－2	粗粒	良好	黄橙	口縁　波状口縁＋沈線＋円形刺突
406	D-3	Ⅴ－2	中粒	良好	黄橙	沈線間縄文施文
407	D-3	Ⅲ－1	粗粒	良好	橙	刻み目のある隆線＋縄文
408	D-3	Ⅲ－5	粗粒	良好	橙	底部　無文　外面赤色塗彩
409	D-3	Ⅲ－5	中粒	良好	浅黄橙	底部　無文　内面煤付着
410	D-5	Ⅴ－1a	粗粒	良好	浅黄橙	沈線＋円形刺突
417	D-6	Ⅴ－1b	粗粒	良好	橙	口縁～胴部　沈線文区画
418	D-6	Ⅴ－1	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線の渦巻＋刺突文
411	D-7	Ⅱ－1a	中粒	良好	黄橙	縄文
412	D-7	Ⅱ－2a	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　羽状縄文
413	D-7	Ⅱ－1b	中粒	良好	浅黄橙	縄文＋コンパス状文
414	D-7	Ⅱ－2a	中粒	良好	黄橙	羽状縄文
415	D-7	Ⅴ－2a	中粒	良好	黄橙	縄文＋沈線
416	D-7	Ⅴ－1a	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋縄文
419	D-9	Ⅱ－1a	中粒	良好	橙	縄文＋沈線　貼付け文
420	D-9	Ⅳ－3	粗粒	良好	明赤褐色	隆起文＋縄文
421	D-10	Ⅴ－1a	中粒	良好	浅黄橙	沈線＋縄文
422	D-10	Ⅴ－3b	粗粒	良好	橙	無文
423	D-10	Ⅴ－1b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部の飾り
424	D-10	Ⅴ－2	中粒	良好	橙	③7.6胴～底部　胴中央部に沈線＋縄文　接合関係４点
425	D-11	Ⅴ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線
426	D-11	Ⅴ－1a	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　縄文＋円形刺突＋沈線
427	D-11	Ⅴ－2a	中粒	良好	浅黄橙	円形刺突＋貼付け文
428	D-11	Ⅳ－4	粗粒	良好	浅黄橙	浮線
429	D-11	Ⅴ－1b	中粒	良好	橙	沈線施文
430	D-11	Ⅴ－1a	粗粒	良好	浅黄橙	①(41.2) ④37.5 口縁～胴部　口縁部横位の微隆起文、途中に円形の貼付け文様あり。胴部は縦状の微隆起線あり。1/5弱残
431	D-11	Ⅴ－3b	粗粒	良好	浅黄橙	ミニチュア土器　完形
432	D-11	Ⅴ－1b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋円形刺突
433	D-11	Ⅴ－2a	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　波状口縁に沈線と縄文を施文。
434	D-11	Ⅴ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	沈線＋刺突
435	D-11	Ⅴ－1a	粗粒	良好	浅黄橙	①(36.5) ④54.5　口縁～胴部　沈線区画内を縄文で充填。沈線間の縄文は擦り消されている。胴下半部は文様なし。胴中位にくびれあり。1/2弱残
436	D-11	Ⅴ－1b	中粒	良好	浅黄橙	沈線＋刺突文
437	D-11	Ⅴ－2a	細粒	良好	黄橙	②12.1沈線で文様構成する。頸部に一条の横位沈線と渦巻文あり。頸部3/4残
438	D-12	Ⅴ－1a	中粒	良好	黄橙	沈線間縄文施文
439	D-12	Ⅴ－1b	中粒	良好	浅黄橙	沈線＋刺突
440	D-12	Ⅴ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	沈線＋円形刺突
441	D-12	Ⅴ－3b	粗粒	良好	浅黄橙	底部　表は無文　内側に縦状に箆の痕あり。
442	D-34	Ⅲ－1	粗粒	良好	黄橙	刻み目を持つ浮線文＋ボタン状貼付け文
443	D-33	Ⅱ－2a	粗粒	良好	にぶい橙	羽状縄文
444	E-28	Ⅱ－2a	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　縄文
445	E-28	Ⅳ－1a	中粒	良好	橙	隆帯＋爪形文
446	E-28	Ⅳ－4	粗粒	良好	橙	隆帯＋爪形文＋沈線
447	E-28	Ⅳ－4	中粒	良好	橙	微隆起帯＋縄文　渦巻文
448	E-28	Ⅴ－1b	粗粒	良好	にぶい橙	沈線
449	E-28	Ⅴ－2a	中粒	堅	浅黄橙	沈線＋刺突文
450	E-28	Ⅴ－2b	細粒	堅	にぶい黄橙	沈線＋縄文　微隆起あり。
451	E-29	Ⅱ－1a	細粒	良好	浅黄橙	口縁部　平行沈線＋刻目＋縄文
452	E-31	Ⅴ－1b	粗粒	良好	浅黄橙	沈線＋刺突　焼成後に径1.3cmの補修用と考えられる孔が両面から穿たれている。
453	E-31	Ⅲ－1	粗粒	良好	黄橙	刻目のある浮線文
454	E-32	Ⅱ－1a	中粒	良好	黄橙	沈線＋縄文＋貼付け文
455	E-32	Ⅱ－3	粗粒	良好	橙	縄文
456	E-32	Ⅱ－2a	中粒	良好	黄橙	２原体の縄文施文(羽状縄文)

番号	位置	分類	胎土	焼成	色調	文様の観察
457	E-32	Ⅳ－1a	粗密	良好	橙	口縁部飾り　沈線
458	E-32	Ⅴ－1b	中粒	良好	浅黄橙	沈線＋刺突文
459	E-32	Ⅴ－1b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線文＋刺突文
460	E-32	Ⅴ－2a	粗密	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋刺突文
461	E-32	Ⅴ－2b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部はくの字状を呈し刻目の浮線文。
462	E-32	Ⅴ－2a	中粒	良好	浅黄橙	口縁部はくの字形を呈す、沈線＋刺突文
463	F-28	Ⅴ－2a	粗密	良好	浅黄橙	渦巻状の沈線
464	F-28	Ⅱ－3	中粒	良好	橙	縄文
465	F-28	Ⅳ－1a	粗密	良好	明赤褐色	浅鉢の口縁部　刻目＋縄文
466	F-28	Ⅴ－2b	中粒	堅	にぶい黄橙	沈線＋刺突文
467	F-29	Ⅳ－1a	粗密	良好	明赤褐色	口縁部飾り　隆帯で文様を描く。
468	F-30	Ⅱ－1b	中粒	良好	にぶい橙	縄文＋鋸歯状平行沈線文
469	F-31	Ⅲ－4	中粒	良好	浅黄橙	浅鉢の口縁部　胴中位に段差あり。
470	F-31	Ⅲ－1	粗密	良好	にぶい橙	縄文＋刻目のある浮線文。
471	F-31	Ⅴ－2b	粗密	良好	浅黄橙	幅広い沈線文
472	F-31	Ⅴ－3b	粗密	良好	橙	底部　縦状の沈線あり。
473	G-20	Ⅴ－1a	粗密	良好	浅黄橙	地文に縄文を施文し後から沈線を施す。
474	G-22	Ⅳ－4	細密	良好	橙	火焔土器の口縁部の飾り　紐状粘土の貼合わせ。
475	G-22	Ⅴ－2a	粗密	良好	黄橙	口縁～胴部　口縁に片寄って二つの円形小突起あり、頸部のくびれ部分に２本の沈線、胴部はＪ字状の沈線で構成される。
476	G-23	Ⅳ－1a	粗密	良好	明赤褐色	胴～底部　胴部両端に1.2cmの隆起文を持ち刻目が入る。地文に撚糸文
477	G-25	Ⅴ－2a	粗密	良好	浅黄橙	口縁部飾り　８の字状の貼付け文
478	G-26	Ⅱ－2b	中粒	良好	明黄褐色	集合沈線
479	G-27	Ⅱ－2a	粗密	良好	黄橙	羽状縄文
480	G-28	Ⅲ－2	粗密	良好	浅黄橙	平行沈線
481	G-30	Ⅱ－1a	中粒	良好	橙	梯子状沈線文＋貼付け文
482	G-31	Ⅱ－2b	粗密	良好	浅黄橙	集合沈線
483	H-17	Ⅴ－1a	中粒	良好	橙	波状口縁　沈線＋刺突＋縄文＋微隆起
484	H-18	Ⅴ－1b	粗密	良好	黄橙	浅鉢の胴部　沈線施文
485	H-19	Ⅴ－1a	粗密	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋縄文　口唇部ややくの字状を呈す。
486	H-20	Ⅲ－1	粗密	良好	橙	縄文＋集合沈線
487	H-20	Ⅴ－2	中粒	良好	橙	沈線
488	H-20	Ⅳ－2b	粗密	良好	橙	沈線＋縄文　接合関係２点
489	H-20	Ⅴ－1a	粗密	良好	黄橙	口縁部飾り　８の字状の貼付け文
490	H-20	Ⅴ－2a	粗密	良	橙	口縁部は平に撫でられ突起あり。沈線＋刺突文
491	H-23	Ⅲ－4	粗密	良好	橙	口縁部　磨消し縄文　浅鉢
492	H-23	Ⅴ－1b	粗密	良好	淡黄	沈線＋刺突文
493	H-26	Ⅲ－5	細密	良好	橙	縄文と半截竹管による平行沈線。
494	H-27	Ⅴ－2a	粗密	良好	黄橙	口縁部突起あり。沈線間には縄文充填
495	H-28	Ⅴ－2a	粗密	良好	橙	沈線区画内縄文充填
496	H-28	Ⅳ－1a	粗密	良好	橙	口縁部飾り、鳥獣の形象部　沈線＋刺突　有孔
497	H-28	Ⅴ－2a	粗密	良好	浅黄橙	口縁部　２本の横位沈線あり。
498	H-30	Ⅱ－3	中粒	良好	橙	縄文
499	H-30	Ⅱ－3	中粒	良好	黄橙	荒い縄文
500	H-30	Ⅲ－2	中粒	良好	浅黄橙	集合沈線
501	H-30	Ⅴ－3b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部
502	H-30	Ⅴ－1b	粗密	良好	浅黄橙	口縁部　沈線文＋刺突文
503	H-30	Ⅴ－2a	粗密	良好	橙	渦巻状沈線＋貼付け文
504	H-31	Ⅱ－3	中粒	良好	浅黄橙	縄文
505	H-31	Ⅴ－2	中粒	良好	浅黄橙	深鉢胴部　縄文＋集合沈線
506	H-31	Ⅲ－2	粗密	良好	浅黄橙	集合沈線
507	I-14	Ⅱ－2a	粗密	良好	浅黄橙	口縁部　縄文
508	I-14	Ⅲ－1	中粒	良好	橙	刻目を持つ浮線文
509	I-14	Ⅳ－1a	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線
510	I-14	Ⅴ－2a	粗密	良好	浅黄橙	口縁部　横位沈線＋円形刺突
511	I-14	Ⅴ－2a	粗密	良好	浅黄橙	沈線＋縄文
512	I-15	Ⅴ－1b	粗密	良好	浅黄橙	沈線＋刺突文
513	I-16	Ⅴ－2b	細密	良好	浅黄橙	口縁の形象部　沈線＋円形刺突
514	I-17	Ⅲ－1	粗密	良好	橙	口縁部　縄文＋浮線文
515	I-18	Ⅴ－3b	粗密	良好	淡黄	底部　網代
516	I-20	Ⅴ－1a	粗密	良好	橙	口縁部飾り　貼付け文＋沈線＋縄文
517	I-20	Ⅴ－1b	粗密	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋刺突文

番号	位置	分類	胎土	焼成	色調	文様の観察
518	I-20	IV－1a	中粒	良好	明赤褐色	沈線＋縄文＋刺突
519	I-21	V－3b	粗粒	良好	橙	口縁部　無文
520	I-21	V－3b	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　無文
521	I-21	V－1	中粒	良好	浅黄橙	口唇部に沈線あり。
522	I-25	III－2	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部の貼付け文は内面に及ぶ、外面は集合沈線。
523	I-27	III－1	中粒	良好	浅黄橙	縄文＋刻目を持つ浮線文
524	I-27	V－1a	中粒	良好	浅黄橙	地文の縄文に沈線を施す。
525	I-28	V－1	中粒	良好	橙	集合沈線
526	I-28	V－1b	粗粒	良好	浅黄橙	沈線＋刺突文
527	I-30	V－2a	粗粒	良好	浅黄橙	波状口縁　波頂部に貼付け文＋刺突文で装飾を施しその間を沈線と刺突で連結する。
528	J-13	IV－3	粗粒	良好	橙	微隆起＋縄文
529	J-14	II－3	粗粒	良好	橙	台部
530	J-14	IV－3	粗粒	良好	暗赤褐色	口縁～胴部　縄文＋隆帯文　接合関係４点
531	J-14	IV－1a	中粒	良好	橙	沈線
532	J-14	V－1a	粗粒	良好	暗赤褐色	浅鉢口縁部　外面に僅か煤付着　沈線＋円形刺突
533	J-14	IV－3	粗粒	良好	黄橙	沈線＋縄文
534	J-14	V－2	粗粒	良好	浅黄橙	沈線＋円形刺突＋縄文
535	J-14	IV－3	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　微隆起帯＋沈線＋縄文
536	J-14	V－1a	粗粒	良好	橙	口縁部飾り、貼付け文＋沈線文＋円形刺突文
537	J-14	V－3b	粗粒	良好	浅黄橙	把手部分
538	J-14	V－1a	細粒	良好	にぶい黄橙	口縁部　沈線＋縄文
539	J-15	IV－3	中粒	良好	橙	微隆起文＋縄文　　口縁～胴部　1/2弱残
540	J-16	II－3	粗粒	良好	橙	縄文＋円形刺突　有孔
541	J-16	IV－1a	粗粒	良好	橙	鋸歯状平行沈線
542	J-19	V－2a	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　円形刺突文
543	J-19	V－2	中粒	良好	黄橙	口縁部　微隆起文＋刺突文＋沈線文
544	J-19	V－1b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　集合沈線文
545	J-20	III－2	粗粒	良好	橙	集合沈線文　接合関係２点
546	J-21	V－1b	粗粒	良好	橙	沈線＋刺突文　有孔
547	J-21	V－2	粗粒	良好	橙	口縁部　沈線＋刺突文
548	J-21	V－1a	粗粒	良好	橙	口縁部　沈線＋縄文　接合関係２点
549	J-21	IV－4	粗粒	良好	浅黄橙	無文　胴下半部　接合関係５点
550	J-21	V－2a	粗粒	良好	浅黄橙	沈線　接合関係２点
551	J-21	II－2a	粗粒	良好	橙	胴部　縄文　接合関係２点
552	J-27	II－1a	中粒	良好	黄橙	縄文＋平行沈線文＋梯子状沈線文
553	K-13	V－1b	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋刺突文
554	K-14	V－1a	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　地文にＲＬの縄文、その上に円形刺突文施文。
555	K-14	V－1a	粗粒	良好	浅黄橙	①(35.7) ④(18.2) 口縁部は波状で４単位、８字状貼付け文あり、口縁に沿って円形刺突文。垂下するＪ字状文は磨消し縄文。８字状貼付け文の上面と胴部はＲＬの縄文。
556	K-14	V－3b	粗粒	良好	橙	口唇部に円形刺突文と沈線を巡らす。
557	K-14	V－1a	中粒	良好	浅黄橙	口縁部飾り　８の字状貼付け文＋円形刺突文＋縄文＋沈線
558	K-14	II－3	粗粒	良好	浅黄橙	縄文
559	K-14	V－2b	細粒	堅	浅黄橙	口縁部は平縁で組状隆線に刻目を持つ。器面は薄く堅緻　沈線＋縄文
560	K-14	II－3	粗粒	良好	浅黄橙	縄文
561	K-14	V－1a	細粒	良好	にぶい橙	口縁部　突起部に貼付文＋沈線文＋刺突文
562	K-14	V－1a	粗粒	良好	黄橙	口縁部　沈線＋円形刺突文
563	K-14	V－3b	粗粒	良好	にぶい橙	無文　深鉢の胴下半部
564	K-14	IV－3	粗粒	良好	黄橙	口縁～胴部　微隆起帯を境に胴部はＲＬの縄文。
565	K-14	V－1a	粗粒	良好	橙	沈線で区画された内側は縄文を施文。
566	K-14	V－2a	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　波状口縁を呈し貼付け文と刺突文が見られる。
567	K-14	V－1	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部の飾り　突起部に沈線と円形刺突
568	K-14	IV－3	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部直下に微隆起帯あり、胴部はＬＲの縄文
569	K-15	IV－1a	中粒	良好	明赤褐色	波状の沈線
570	K-15	V－3b	細粒	良好	浅黄橙	口縁部　縄文ＬＲ＋微隆起文＋円形刺突
571	K-15	V－1a	粗粒	良好	浅黄橙	沈線＋縄文
572	K-15	V－3b	粗粒	良好	橙	口縁部　沈線＋円形刺突
573	K-15	V－3b	粗粒	良好	黄橙	口縁部飾り　環状把手　円形刺突文あり。
574	K-18	IV－3	粗粒	良好	浅黄橙	沈線＋縄文
575	K-18	V－1b	粗粒	良好	浅黄橙	沈線区画内に刺突文あり。
576	K-18	IV－4	粗粒	良好	黄橙	隆起帯＋沈線　渦巻文施文
577	K-18	IV－4	粗粒	良好	浅黄橙	刻目を持つ隆線＋沈線＋縄文
578	K-18	V－2b	粗粒	良好	浅黄橙	口縁は先端がくの字状に内折し、刻目のある隆線を持ち、沈線間は縄文を充填。
579	K-18	V－1b	粗粒	良好	黄橙	沈線区画文
580	K-19	III－1	粗粒	良好	黄橙	縄文＋刻目のある浮線文

番号	位置	分類	胎土	焼成	色調	文様の観察
581	K-19	V－1	中粒	良好	橙	口唇部は貼付けの突起を持つ。刺突文＋沈線文＋縄文
582	K-19	V－1b	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線施文
583	K-19	V－1a	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　波状口縁＋渦巻状沈線
584	K-21	Ⅲ－2	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　集合沈線
585	K-21	Ⅳ－3	粗粒	良好	橙	口縁部　微隆起文＋縄文
586	K-22	Ⅱ－2b	中粒	良好	橙	羽状縄文
587	K-22	Ⅱ－1a	細粒	良好	黄橙	口縁部　縄文＋浅い沈線＋貼付け文
588	K-22	Ⅲ－2	粗粒	良好	黄橙	集合沈線
589	K-22	V－2a	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　口唇部はややくの字状に曲がる。沈線施文
590	K-22	V－2a	中粒	良好	浅黄橙	沈線＋縄文
591	K-22	Ⅱ－2b	粗粒	良	黄橙	羽状縄文
592	K-23	Ⅲ－5	中粒	良好	橙	縄文＋矢羽根状刻目の間に円形刺突あり。
593	K-24	Ⅱ－2a	中粒	良好	浅黄橙	羽状縄文
594	K-24	Ⅲ－2	中粒	良好	橙	集合沈線
595	K-24	V－3b	粗粒	良好	にぶい黄橙	口縁部　口頸部にくびれあり。
596	K-24	Ⅳ－3	粗粒	良好	黄橙	口縁部　羽状縄文＋円形突起
597	K-24	V－1b	粗粒	良	黄橙	沈線区画内を刺突文で施文
598	K-24	V－1b	粗粒	良好	黄橙	沈線間に刺突文あり。
599	K-24	V－2	中粒	良好	橙	口縁部飾り、貼付け文＋刺突文
600	K-24	V－2a	粗粒	良好	橙	波状口縁部　沈線施文。
601	K-24	V－3b	粗粒	良好	浅黄橙	底部　無文
602	K-25	V－3b	粗粒	良好	浅黄橙	波状沈線文
603	K-25	Ⅳ－3	粗粒	不良	橙	①(34.5) 口縁～胴部　口縁部に横位微隆起線あり。沈線＋縄文
604	K-25	V－1a	粗粒	良好	黄橙	波状口縁部の飾り　8の字状貼付け文
605	K-25	Ⅲ－2	細粒	良好	浅黄橙	集合沈線＋ボタン状棒状貼付け文
606	K-25	V－3b	粗粒	良好	黄橙	口縁部　無文
607	K-25	Ⅳ－3	粗粒	良好	黄橙	口縁部　微隆起文＋竹管文で口縁部を施文。
608	L-14	Ⅳ－3	粗粒	良好	橙	微隆帯＋縄文
609	L-14	Ⅳ－3	粗粒	良好	橙	微隆起帯＋縄文　口縁部は無文
610	L-17	V－2	中粒	良好	黄橙	口縁部　沈線＋刺突文
611	L-18	V－3b	粗粒	良好	橙	底部
612	L-18	V－1	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　微隆起＋刺突文
613	L-19	V－2	中粒	良好	黄橙	口縁部　沈線＋円形刺突　接合関係2点
614	L-19	V－2	粗粒	良好	黄橙	波状口縁部　沈線＋円形刺突
615	L-19	V－2	粗粒	良好	黄橙	口縁部　沈線＋円形刺突
616	L-24	V－1	粗粒	良好	浅黄橙	口縁～胴部　集合沈線
617	L-24	V－1	粗粒	良好	浅黄橙	胴部　集合沈線
618	L-24	Ⅱ－1	粗粒	良好	明黄褐色	縄文
619	L-24	V－1b	中粒	良好	浅黄橙	沈線＋刺突文
620	L-24	Ⅳ－3	粗粒	良好	浅黄橙	微隆起文
621	L-26	Ⅲ－1	細粒	良好	浅黄橙	平行沈線＋爪形文
622	L-28	V－2a	中粒	良好	浅黄橙	波状口縁　貼付け文＋刺突＋沈線
623	M-16	V－2b	粗粒	堅	浅黄橙	沈線間縄文施文
624	M-24	V－2a	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線文
625	O-16	Ⅲ－1	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　刻目のある浮線文＋貼付け文
626	O-19	Ⅱ－1a	粗粒	良好	橙	羽状縄文＋平行沈線文＋爪形文
627	P-18	Ⅲ－1	細粒	良好	浅黄橙	平行沈線＋爪形文＋縄文
628	Q-20	Ⅱ－1a	中粒	良好	にぶい黄橙	梯子状沈線文＋貼付け文
629	R-19	Ⅱ－3	細粒	不良	橙	胴部　縄文
630	R-20	Ⅱ－1a	粗粒	良好	黄橙	縄文＋平行沈線＋爪形文
631	S-19	Ⅱ－2a	細粒	良好	橙	羽状縄文
632	S-20	Ⅲ－5	粗粒	良好	黄橙	浅鉢の胴部　段差あり。
633	T-19	Ⅱ－2a	粗粒	良好	橙	胴～底部　縄文
634	T-20	Ⅱ－2a	粗粒	良好	黄橙	底部　縄文
635	T-20	Ⅱ－1b	粗粒	良	橙	平行沈線文＋内側は爪形文
636	W-5	Ⅲ－3	中粒	良好	橙	口縁部　沈線
637	W-6	Ⅲ－5	粗粒	良好	黄橙	集合沈線

番号	位置	分類	胎土	焼成	色調	文様の観察
638	1号墳	V－2	粗粒	良好	橙	波状口縁部　沈線＋円形刺突
639	2号墳	V－2	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　円形刺突
640	2号墳	II－1a	中粒	良好	黄橙	梯子状沈線文
641	3号墳	IV－3	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　微隆起＋縄文
642	3号墳	III－2	粗粒	良好	浅黄橙	三角形の沈線
643	3号墳	V－2a	粗粒	良好	橙	口縁部　沈線＋円形刺突＋縄文
644	3号墳	IV－4	粗粒	良好	橙	口縁部　隆帯＋沈線
645	3号墳	V－1b	粗粒	良好	黄橙	口縁部　沈線＋刺突文
646	4号墳	II－2a	中粒	良好	浅黄橙	羽状縄文
647	4号墳	III－2	中粒	良好	橙	集合沈線
648	4号墳	III－5	粗粒	良好	橙	細い粘土紐の貼付けが見られる。
649	4号墳	II－3	粗粒	良好	浅黄橙	縄文
650	4号墳	V－2	粗粒	良好	橙	沈線＋円形刺突
651	4号墳	V－1a	粗粒	良好	浅黄橙	沈線＋縄文
652	5号墳	V－3b	細粒	良好	浅黄橙	口唇部 微隆起あり。
653	5号墳	V－1a	粗粒	良好	浅黄橙	沈線間縄文
654	5号墳	II－1a	中粒	良好	橙	半截竹管による幅広の内側は爪形文
655	5号墳	IV－4	粗粒	良好	浅黄橙	隆帯＋縄文
656	5号墳	V－2a	中粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋刺突文
657	5号墳	III－2	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　刷毛状工具による集合沈線
658	5号墳	IV－3	粗粒	良好	橙	口縁部　先端の尖った円形刺突＋口縁部と平行方向の微隆帯＋細かい縄文ＬＲ
659	全体	IV－3	中粒	良好	橙	浮線＋沈線＋縄文＋貼付け文
660	全体	IV－2	中粒	良好	橙	渦巻状沈線＋縄文
661	全体	IV－1a	中粒	良好	浅黄橙	口縁部の飾り　沈線＋刺突　動物の形象と思われる。
662	全体	V－2	粗粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋縄文＋円形刺突文
663	表採	IV－1a	粗粒	良好	橙	貼付けの微隆帯＋縄文
664	表採	III－1	粗粒	良好	浅黄橙	縄文＋集合沈線
665	表採	V－2b	細粒	良好	浅黄橙	口縁部　沈線＋縄文
666	表採	II－1	細粒	良好	浅黄橙	鋸歯状口縁部＋縄文

石鏃観察表

註：大きさの単位　cm・g・（ ）は現存値

番号	位置	器種	長	幅	厚	重量	石材	形状・調整加工の特徴
1	ｼｷ-1	凹基無茎鏃	2.1	1.6	0.3	0.89	黒色頁岩	摩耗痕、中期の粗雑な作り。
2	ｼｷ-2	平基無茎鏃	2.4	1.7	0.5	2.48	変成岩	中期の石鏃
3	ｼｷ-2	凹基無茎鏃	2.7	2.2	0.5	2.67	黒色頁岩	中期の粗雑な作り。
4	ｼｷ-3	凹基無茎鏃	2.5	1.8	0.2	0.57	黒色頁岩	後期の無茎鏃。
5	ｼｷ-4	凹基無茎鏃	2.5	1.1	0.2	0.50	チャート	暗赤褐色　後期　一部欠損
6	ｼｷ-4	凹基無茎鏃	1.7	1.2	0.3	0.56	チャート	灰オリーブ　後期茎部が広く外側は剝離し内傾している。
7	JH-2	凹基無茎鏃	2.2	1.2	0.2	0.50	黒曜石	早期の石鏃と思われる。
8	JH-5	平基無茎鏃	1.7	1.2	0.3	0.58	黒曜石	早～前期の石鏃と思われる。
9	JH-5	石錐	2.2	1.8	0.3	1.20	黒曜石	摘みを持ち細身に尖らせた先端の一部欠損。
10	JH-5	凹基無茎鏃	1.9	1.4	0.3	0.62	チャート	表面は浅黄橙、基部の一部欠損、前期の石鏃
11	JH-6	凹基無茎鏃	(1.3)	(1.1)	0.3	0.32	変成岩	中期の石鏃、先端と右脚の一部欠損。
12	JH-6	凹基無茎鏃	2.1	1.4	0.3	0.72	黒色頁岩	中期の石鏃
13	JH-6	石錐	3.0	1.0	0.7	2.37	チャート	断面は三角形を呈し石錐の先端部と考えられる。
14	JH-8	凹基無茎鏃	2.5	1.6	0.3	0.71	黒曜石	前期
15	JH-8	凹基無茎鏃	3.5	1.4	0.5	3.10	黒色頁岩	後期の石鏃
16	JH-12	凹基無茎鏃	2.2	1.1	0.2	0.66	黒色頁岩	表面は灰色
17	JH-12	凹基無茎鏃	2.2	(1.4)	0.3	0.56	黒曜石	前期　一部欠損

番号	位置	器種	長	幅	厚	重量	石材	形状・調整加工の特徴
18	JH-12	凹基無茎鏃	2.3	1.9	0.4	1.86	黒色頁岩	にぶい浅黄橙、中期
19	JH-12	削器	2.6	0.7	0.3	0.76	チャート	褐色、先端部が傾斜し基部に石匙の様な摘みをもつ。
20	JH-13	玉	1.8		0.8	1.66	滑石	オリーブ灰。石の切取り痕を残す。
21	JH-14	凹基無茎鏃	1.7	1.0	0.3	0.43	チャート	中期の石鏃、一部欠損。
22	JH-15	平基無茎鏃	2.2	1.5	0.4	0.94	黒曜石	後期のものと思われる。
23	JH-15	平基無茎鏃	3.6	2.1	0.4	2.51	黒色頁岩	草創期～早期の石鏃
24	JH-15	凹基無茎鏃	2.5	1.2	0.5	1.11	チャート	一部欠損
25	JH-15	凹基無茎鏃	2.9	1.5	0.6	2.02	チャート	中期
26	JH-22	凹基無茎鏃	(2.3)	1.7	0.4	1.54	黒色頁岩	中期の粗雑な作り、摩耗痕。
27	JH-22	凸基有茎鏃	3.8	1.2	0.5	2.63	黒色安山岩	表面は暗青灰色、後期未完成品。
28	D-6	平基無茎鏃	1.5	1.3	0.2	0.37	黒曜石	後期
29	G-32	円基鏃	2.5	1.6	0.7	3.32	チャート	暗青灰色、中期
30	H-28	凹基無茎鏃	2.6	2.5	0.4	3.87	黒色頁岩	表面は灰白色、中期、一部欠損。
31	I-14	剥片	1.5	2.4	0.2	0.81	黒曜石	早～前期
32	I-18	凹基無茎鏃	1.9	1.4	0.3	0.66	黒曜石	後期
33	I-29	管玉未完成	2.0		1.5	7.52	瑪瑙	
34	J-28	平基無茎鏃	2.8	1.7	0.3	1.79	黒色頁岩	後期、表面はオリーブ灰色
35	K-25	平基無茎鏃	2.0	1.3	0.3	0.57	黒曜石	
36	M-16	凸基無茎鏃	(3.8)	1.5	0.3	1.76	黒色頁岩	晩期 表面は灰オリーブ色、一部欠損。
37	M-19	玦状耳飾	3.1		0.8	6.00	滑石	
38	N-18	凹基無茎鏃	2.1	1.7	0.3	0.89	黒色頁岩	中期、表面はオリーブ灰色。井戸跡。
39	J-23	凹基無茎鏃	(2.2)	1.9	0.4	1.57	チャート	赤褐色、草創期の三角鏃に類似する。

分銅形石斧

註：大きさの単位 cm・g・（ ）は現存値

番号	位置	器種	長	幅	厚	重量	石材	形状・調整加工の特徴
40	ｼﾄ-2	分銅形石斧	7.8	6.4	1.4	88.6	黒色頁岩	一部酸化して褐色を呈す。
41	ｼﾄ-3	分銅形石斧	9.7	5.6	2.3	160.0	泥岩	剥片を利用、自然石面を残す。
42	ｼﾄ-3	分銅形石斧	8.3	5.4	1.4	66.2	黒色頁岩	（青灰色） 一部褐色を呈す。
43	JH-8	分銅形石斧	14.8	9.4	3.5	465.0	黒色安山岩	片面は自然面をそのまま利用。
44	JH-14	分銅形石斧	8.2	5.9	1.6	76.3	黒色頁岩	一部欠
45	JH-15	分銅形石斧	13.0	6.6	1.4	160.0	安山岩	オリーブ灰 片面は自然面をそのまま利用。
46	JH-22	分銅形石斧	9.9	6.6	1.5	140.5	黒色頁岩	刃部に自然面を一部残す。
47	C-33	分銅形石斧	15.3	8.8	3.5	460.0	安山岩	灰白
48	G-32	分銅形石斧	(6.0)	6.0	2.1	96.5	青灰色	1/2残
49	H-26	分銅形石斧	11.1	7.4	1.7	150.0	黒色頁岩	表面は酸化して黄褐色を呈す。
50	I-14	分銅形石斧	10.5	6.6	1.3	130.0	黒色頁岩	暗青灰色
51	L-19	分銅形石斧	(10.0)	8.1	2.5	260.0	灰色頁岩	石鍬 刃部に摩耗痕あり。1/2強残
52	P-11	分銅形石斧	(11.0)	6.9	1.9	198.0	安山岩	灰色 くびれ部、刃部等に使用した摩耗痕あり。
53	M-3	分銅形石斧	10.6	5.7	1.3	89.9	黒色安山岩	暗青灰色
54	M-4	分銅形石斧	6.5	7.5	1.5	87.4	泥岩 1/2残	堆積面での剥離が見られる。
55	M-5	分銅形石斧	11.5	7.5	1.7	185.0	黒色頁岩	
56	一括	分銅形石斧	(7.3)	7.7	2.5	178.0	黒色頁岩	表面は緑灰色を呈す。1/2残
57	一括	分銅形石斧	13.6	7.0	2.2	258.0	安山岩	オリーブ灰、一部欠、基部中央に自然面あり。典型的な剥片石斧。
58	一括	分銅形石斧	8.0	5.8	2.5	170.0	灰白色頁岩	中央は黒色頁岩 1/2強残 刃部に自然面を残す。
59	J-18	分銅形石斧	3.3)	4.8	1.3	27.1	黒色頁岩	表面は青灰色を呈す。
60	I・J-20	分銅形石斧	3.8	4.6	1.2	25.9	黒色頁岩	表面は青灰色を呈す。（同類 25・35・72）
61	I-16	分銅形石斧	9.3	5.9	2.7	190.5	黒色頁岩	三ケ所自然面を残す。

打製石斧観察表

註：大きさの単位 cm・g・（）は現存値

番号	位置	器種	長	幅	厚	重量	石材	形状・調整加工の特徴
62	ｻｲ-3	敲石	9.1	3.9	1.4	75.8	緑泥変岩	
63	ｻｲ-3	磨製石斧	(17.6)	5.2	3.3	430.0	安山岩	蛤刃型
64	ｻｲ-3	撥形石斧	4.4	3.2	0.8	19.0	黒色頁岩	基部上端
65	ｻｲ-3	用途不明	10.2	3.6	1.1	56.1	緑泥変岩	
66	ｻｲ-3	敲石	7.5	4.2	1.1	53.8	変成岩	緑泥変岩
67	ｻｲ-3	撥形石斧	6.8	3.3	1.2	36.2	黒色頁岩	
68	ｻｲ-3	敲石	10.5	4.4	1.8	112.5	緑泥変岩	
69	ｻｲ-4	短冊形石斧	10.9	5.6	2.2	138.0	黒色頁岩	自然面が一部に見られる。
70	ｻｲ-4	短冊形石斧	9.0	4.6	1.5	97.6	安山岩	青黒色表面は緑灰。片面に自然摩耗面の見られる。片刃石斧
71	ｻｲ-4	打製石斧	10.3	5.3	2.7	199.0	黒色頁岩	自然面が一部残る。
72	ｻｲ-4	撥形石斧	(6.8)	5.2	1.2	67.3	黒色頁岩	表面は青灰色,刃部が摩耗している。
73	JH-2	短冊形石斧	10.1	3.6	0.7	46.1	蛇紋岩	黒色、一部自然面を残す。
74	JH-5	打製石斧	8.4	3.9	1.3	55.6	黒色安山岩	東北地方から北海道で言う石篦の製法に類似する。
75	JH-5	直刃斧	4.1	3.9	1.2	21.5	チャート	
76	JH-6	削器	7.5	4.3	1.4	54.6	黒色頁岩	表面は灰白色、サイドスクレイパー
77	JH-7	撥形石斧	3.2	4.8	1.0	24.6	黒色安山岩	基部中央部のみ。
78	JH-8	円形打製石斧	8.8	7.4	2.4	180.5	黒色頁岩	チャートの様な光沢を持つ。
79	JH-8	短冊形石斧	9.1	4.3	1.9	88.1	黒色頁岩	表面は緑灰
80	JH-8	直刃斧	7.8	7.0	3.3	220.0	黒色頁岩	表面は灰白色、五角形を呈する。
81	JH-8	短冊形石斧	6.6	3.3	1.1	33.2	黒色頁岩	自然面を残す。
82	JH-8	掻器	3.0	4.2	0.8	11.0	黒色頁岩	
83	JH-8	撥形石斧	6.3	4.8	2.2	90.9	褐色チャート	未完成品
84	JH-8	撥形石斧	9.6	3.8	1.3	55.5	黒色頁岩	基部上端側面に自然面あり。
85	JH-12	短冊形石斧	6.7	4.2	1.1	49.4	黒色頁岩	表面は浅黄色を呈す。
86	JH-12	短冊形石斧	6.4	3.5	1.5	50.7	頁岩	青灰色を呈す
87	JH-12	撥形石斧	8.0	4.6	1.7	86.2	安山岩	表面灰色。微細黒色雲母を含む。
88	JH-12	打製石斧	9.3	4.1	0.7	39.2	黒色安山岩	
89	JH-12	撥形石斧	7.8	3.5	1.3	67.0	玄武岩	黒色を呈す。刃部欠損
90	JH-13	打製石器	8.7	5.0	1.5	96.7	黒色安山岩	表面は酸化により黄橙色を呈す。
91	JH-14	削器	(2.6)	2.4	0.6	5.7	黒色頁岩	表面は暗緑灰色
92	JH-14	撥形石斧	10.8	5.5	0.9	88.1	黒色安山岩	
93	JH-14	打製石斧	9.0	4.2	2.5	105.6	蛇紋岩	表面は灰色
94	JH-15	短冊形石斧	9.4	4.3	1.3	77.6	頁岩	灰色、自然面を多量に残す。
95	JH-15	剥片	14.5	5.8	1.2	170.0	黒色安山岩	
96	JH-15	磨製石斧	(10.0)	4.6	2.7	165.0	安山岩	表面は火受けし赤褐色を呈す。蛤刃型
97	JH-15	打製石器	8.0	5.0	1.6	81.8	黒色頁岩	側面に自然面を残す、表面は暗緑灰色を呈す。
98	JH-16	不明	9.4	3.2	0.8	43.9	緑泥変岩	
99	JH-18	撥形石斧	7.3	5.2	1.3	66.0	黒色頁岩	直刃斧に類似。表面はオリーブ灰色。
100	JH-21	撥形石斧	5.4	4.9	1.2	42.3	黒色頁岩	使用痕　表面褐色
101	G-7	撥形石斧	6.5	4.5	1.5	61.1	黒色頁岩	刃部欠損
102	D-31	撥形石斧	5.4	4.6	1.6	58.9	黒色頁岩	
103	G-30	打製石斧	7.1	7.0	3.2	210.0	黒色安山岩	表面は浅黄色、石核石器、粗い剥離が顕著。
104	G-31	打製石器	8.8	6.8	3.5	240.5	黒色安山岩	片面は全体に自然面がみられる。
105	G-32	楔形石器	6.7	1.9	4.4	67.1	黒色頁岩	
106	H-20	打製石器	10.0	6.2	2.5	178.0	黒色頁岩	基部頂部に自然面。
107	H-24	ｽｸﾚｲﾊﾟｰ	7.7	4.6	1.5	58.6	頁岩	灰色、掻器
108	H-26	打製石斧	11.3	4.6	1.7	140.5	黒色安山岩	表面は灰黄色、一部自然面が見られる。
109	H-28	石器	8.5	3.7	0.9	61.2	緑泥変岩	ＪＨ－３と同様矢柄研磨に使用したものと思われる。
110	H-28	撥形石斧	6.5	4.8	2.1	100.2	安山岩	
111	H-28	剥片	8.2	3.9	1.5	41.3	黒色頁岩	表面は浅黄色。

番号	位置	器種	長	幅	厚	重量	石材	形状・調整加工の特徴
112	H-30	短冊形石斧	12.2	4.6	1.3	108.2	安山岩	黒雲母を含む。基部上端部に自然面あり。
113	I-14	短冊形石斧	6.1	4.7	2.1	98.7	黒色頁岩	短冊の中央部刃部基部等に欠損、片面は自然面。
114	I-16	撥形石斧	6.4	5.4	2.3	109.7	黒色頁岩	表面は灰オリーブ、刃部の摩耗使用損を伺わせる。
115	I-20	撥形石斧	6.9	6.2	1.9	130.0	頁岩	表面浅黄色　刃部の摩耗顕明瞭。1/2残基部欠損。
116	I-22	撥形石斧	10.6	5.0	10.9	94.2	黒色頁岩	基部上端欠損
117	I・J-20	削器	4.2	1.8	0.7	5.3	チャート	
118	J-19	スクレイパー	5.7	4.7	1.5	59.5	黒色頁岩	円形蛋器。皮なめし用に用いられた。
119	J-23	短冊形石斧	7.4	2.3	1.0	21.7	黒色頁岩	先土器末期の片刃石斧に類似する。
120	K-15	撥形石斧	5.7	5.3	1.7	71.2	黒色安山岩	
121	K-22	撥形石斧	4.5	8.5	1.8	83.5	黒色頁岩	表面は浅黄
122	K-24	打製石器	6.9	3.5	1.0	34.6	黒色頁岩	表面は灰白色
123	L-17	石錐	1.5	5.6	0.7	6.4	黒色頁岩	小刀ナイフ形石器
124	L-14	撥形石斧	6.0	4.7	1.8	57.0	黒色安山岩	片面に自然面を残す。刃部基部ともに欠損。
125	N-16	打製石斧	8.8	4.5	3.2	198.0	黒色頁岩	表面は浅黄色。側面に剥離面あり。
126	O-18	打製石斧	16.7	6.9	4.5	600.5	黒色頁岩	ハマー型。側面に自然面有り。良く摩耗し滑らかな面が見られる。
127	P-15	打製石斧	10.2	7.3	1.7	205.0	黒色砂岩	表面は灰白色。貝の化石が見られる。
128	Q-13	打製石器	11.5	6.7	4.7	448.0	黒色頁岩	表面は明黄褐色。No91と同種と考えられる。
129	S-15	打製石器	8.7	5.1	1.7	93.2	黒色頁岩	表面は淡黄色。サイドスクレイパー
130	T-13	撥形石斧	8.2	4.5	1.1	40.1	黒色頁岩	表面は灰白色。自然面を残す。
131	M -1	短冊形石斧	5.9	3.2	1.4	37.7	黒色頁岩	表面は灰色。刃部と基部上端欠損。
132	M -2	打製石斧	4.0	5.3	1.4	31.2	蛇紋岩	三角形を呈す。
133	M -3	打製石器	6.8	3.3	1.5	37.9	黒色頁岩	自然面を利用している。一方の面は剥離していて器形は不明。
134	M -3	撥形石斧	7.0	4.7	2.1	88.3	黒色頁岩	表面にぶい黄橙。
135	M -3	打製石斧	10.7	4.7	1.5	142.0	黒色頁岩	堆積面での剥離が顕著。
136	M -3	打製石斧	7.9	3.2	1.2	50.4	黒色頁岩	表面はにぶい赤褐色。
137	M -3	撥形石斧	6.1	4.5	1.6	58.8	黒色安山岩	基部上端欠損。
138	M -3	削器	4.7	1.1	0.8	4.6	黒色頁岩	剥片石器の代表。
139	M -4	短冊型石斧	6.2	4.3	1.8	27.6	安山岩	表面は灰白色。
140	M -4	縦型石匙	7.9	3.5	0.8	29.6	黒色頁岩	先端が切られたように直線的であり長身で台形状を呈す。
141	M -4	スクレイパー	5.4	5.5	2.6	91.4	黒色頁岩	表面灰色。基部上端に自然面が見られる。
142	M -4	短冊型石斧	(5.5)	5.3	1.0	34.7	安山岩	黒色雲母の微細粒を含む。
143	M -4	スクレイパー	8.5	6.5	2.2	90.2	玄武岩	削器凹面に刃部が見られる。
144	M -5	撥形石斧	8.4	6.4	1.6	84.4	黒色安山岩	
145	M -5	打製石斧	6.4	4.5	1.5	53.9	安山岩	
146	一括	打製石器	7.0	5.4	1.9	93.8	蛇紋岩	直刃斧
147	一括	磨製石斧	(6.1)	4.5	2.8	117.8	輝緑岩	
148	一括	撥形石斧	5.9	3.6	0.6	19.0	黒色頁岩	表面は酸化によりオリーブ灰色を呈す。基部から刃部2/3残
149	一括	撥形石斧	7.9	4.5	1.8	77.6	黒色安山岩	
150	一括	打製石器	9.9	3.5	1.8	82.7	黒色安山岩	基部上端に自然面あり、左側に刃部あり。
151	一括	削器	6.0	4.4	1.7	54.3	黒色安山岩	サイドスクレイパー。
152	一括	打製石器	9.0	4.2	1.7	74.8	黒色安山岩	サイドスクレイパー。削器
153	一括	短冊形石斧	11.1	4.3	1.9	130.0	黒色頁岩	表面はオリーブ灰。
154	一括	撥形石斧	6.5	5.1	1.3	66.0	黒色頁岩	片面は自然面をそのまま利用している。
155	一括	短冊形石斧	5.1	4.0	0.9	26.3	玄武岩	刃部に使用損明瞭。
156	一括	短冊形石斧	6.6	4.0	1.1	36.2	黒色安山岩	
157	一括	短冊形石斧	17.3	8.0	4.1	698.0	蛇紋岩	自然面を残す。石鍬かと思われる。

その他の石器

註：大きさの単位　cm・g・（ ）は現存値

番号	位置	器種	長	幅	厚	重量	石材	形状・調整加工の特徴
158	沖－1	磨石	10.1	9.4	5.3	770	輝緑岩	
159	沖－1	自然石	36.5	24.0	16.5	20100	角閃石安山岩	明青灰、灰白、淡赤橙色を呈す。
160	沖－1	自然石	37.4	24.6	14.0	18500	角閃石安山岩	明青灰、灰白を呈す。
161	沖－1	単頭石棒	19.0	6.3	4.5	660	安山岩	付近から産する岩石で、小形化偏平化等から後期と考えられる。
162	沖－1	石皿	15.7	12.9	4.9	1650	角閃石安山岩	僅か、皿状の窪あり
163	沖－2	両面凹石	11.2	8.2	3.0	480	角閃石安山岩	敷石の間に詰められていたものである。
164	沖－2	両面凹石	13.2	6.6	2.8	500	輝石角閃安山岩	黒雲母も含まれる。両面敲石、敷石の間に詰められていた。表面は磨かれ両面2個づつの凹が見られる。
165	沖－2	両面凹石	12.1	8.9	5.0	870	角閃石安山岩	
166	沖－2	両面凹石	33.6	21.0	9.4	9500	角閃石安山岩	多孔石　赤褐色に変色している。

番号	位置	器種	長	幅	厚	重量	石材	形状・調整加工の特徴
167	汴－3	岩版	14.2	8.5	2.4	160	角閃石安山岩	
168	汴－3	岩版	4.3	5.2	1.5	9270	角閃石安山岩	
169	汴－3	岩版	8.1	4.3	1.7	48.3	角閃石安山岩	
170	汴－3	(岩偶)	6.2	3.4	2.7	25.9	角閃石安山岩	頭部は赤色塗採、くびれ部に削り痕あり。用途不明。
171	汴－3	石皿	32.0	26.5	9.5	12200	角閃石安山岩	火受けあり。
172	汴－3	多孔石	18.3	14.7	4.3	2120	輝石角閃安山岩	
173	汴－3	両面凹石	9.7	8.4	3.4	420	角閃石安山岩	
174	汴－3	両面凹石	13.1	6.1	3.5	550	角閃石安山岩	両端に敲痕、煤付着
175	汴－3	凹石	11.4	7.4	6.8	830	角閃石安山岩	一面に赤色塗採。
176	汴－3	両面凹石	14.5	10.0	3.7	950	角閃石安山岩	裏面の一部に煤付着。
177	汴－3	磨石凹石	10.0	9.2	6.5	880	輝石安山岩	磨石　敲石　僅か塗採
178	汴－3	片面凹石	9.7	8.1	4.5	500	角閃石安山岩	
179	汴－3	片面凹石	7.7	5.9	3.8	220	角閃石安山岩	火受けあり。
180	汴－3	片面凹石	11.9	8.1	5.8	780	輝石安山岩	煤付着
181	汴－3	片面凹石	14.9	11.0	4.4	950	輝石安山岩	
182	汴－3		37.8	15.2	5.0	3600	緑泥変岩	著しく酸化している。用途不明。
183	汴－3	磨石両面	10.2	8.2	5.1	680	角閃粉岩	煤付着
184	汴－3	磨石	10.2	9.4	4.6	780	角閃石安山岩	煤付着　赤色塗採
185	汴－3	母岩	10.2	5.5	4.0	300	変成岩	石器製作用母岩 宮城村方面に産する。殆ど無水珪酸(SiO_2)級密で脂肪光沢の岩石で割口は角状、亜貝殻状断口、稜は鋭利である。
186	汴－3	自然石	17.4	12.2	3.7	1270	角閃石安山岩	帯状に炭化物付着。
187	汴－3	多孔石	38.0	28.0	13.3	16500	輝石角閃安山岩	両面に凹が見られ磨痕あり。
188	汴－3	自然石	15.5	6.5	5.2	780	角閃片岩	石斧の刃部の様な打痕あり、石鏃等の母岩と考えられる。
189	汴－4	石棒先端部	8.3	12.2	8.0	1350	黒雲母花崗岩	大型石棒の先端部、全体が良く磨かれ煤付着。北側土坑より出土。
190	汴－4	矢柄研磨器	5.4	5.8	1.7	51.4	安山岩	有溝砥石断面半円形　一部欠損。
191	汴－4	円形岩版	5.2	4.5	1.2	16.1	角閃石安山岩	
192	汴－4	単頭石棒	14.7	3.9	2.5	270	安山岩	先端部が抽象化、小型化、偏平化されており後期の物と思われる。
193	汴－4	磨石	9.4	7.4	7.4	720	石英斑岩	
194	汴－4	片面凹石	15.0	11.2	7.4	1710	角閃石安山岩	
195	JH-22	両面凹石	11.1	7.9	4.8	680	角閃石安山岩	
196	JH-22	石皿	(22.0)	(14.8)	6.9	3760	角閃石安山岩	多孔石
197	JH-22	自然石	11.4	11.0	5.1	980	角閃片岩	石斧母岩
198	JH-22	両面多孔石	38.2	26.9	12.7	14900	輝石角閃安山岩	
199	JH-22	石皿	14.3	12.5	5.0	970	角閃石安山岩	石皿として使用された痕跡を僅か残す。1/6～1/8程度残。
200	JH-22	両面凹石	8.2	6.6	4.2	290	角閃石安山岩	
201	JH-5	両面凹石	(10.5)	(4.8)	3.5	270	角閃石安山岩	
202	JH-5	両面凹石	11.1	6.9	3.9	440	角閃石安山岩	
203	JH-5	磨石	8.3	7.2	6.3	540	輝石安山岩	
204	JH-5	磨石	8.5	7.0	4.6	400	輝石安山岩	敲痕
205	JH-6	両面凹石	11.9	6.5	2.0	280	角閃石安山岩	煤付着
206	JH-6	石皿	(9.9)	(6.6)	(5.5)	630	角閃花崗岩	皿の面に赤褐色塗採
207	JH-7	母岩	5.6	4.5	3.0	77		石英の結晶が見られ、比重が高いことから鉱石の母岩と思われる。
208	JH-8	石皿	28.7	24.7	9.6	8900	輝石角閃安山岩	多孔石
209	JH-8	石皿	49.2	29.0	11.6	25800	角閃石安山岩	裏面は良く磨かれている。
210	JH-8	石皿	32.8	23.0	2.1	4800	角閃石安山岩	表面は多孔石　同時に磨石出土
		磨石	7.2	6.4	5.3	270		石皿が伏せた状態で検出され、その内側から出土した。
211	JH-8	両面凹石	6.7	6.1	4.6	200	輝石安山岩	
212	JH-8	両面多孔石	30.5	21.0	14.7	12500	輝石角閃安山岩	側面に石皿としての使用痕あり。
213	JH-8	両面凹石	11.2	8.0	4.5	590	角閃石安山岩	両端に敲痕あり。
214	JH-8	石皿	31.5	26.2	10.3	11000	輝石安山岩	表面は多孔石
215	JH-8	両面多孔石	24.0	23.8	9.1	5000	安山岩	
216	JH-8	両面凹石	11.0	8.2	5.0	690	角閃石安山岩	側面全体に敲痕
217	JH-8	磨石	12.7	8.0	3.8	630	角閃石安山岩	敲痕
218	JH-8	多孔石	(24.8)	30.3	9.0	10300	輝石安山岩	
219	JH-12	石皿	29.3	14.1	5.1	3130	輝石安山岩	全体に火受けしている。
220	JH-12	石皿	22.8	17.7	7.2	2940	輝石角閃安山岩	
221	JH-12	石皿	36.6	26.9	1.6	4200	輝石安山岩	
222	JH-12	石皿	21.7	(18.0)	5.6	3940	輝緑凝灰岩	

番号	位置	器種	長	幅	厚	重量	石材	形状・調整加工の特徴
223	JH-12	多孔石	27.0	23.8	18.5	13300	輝石角閃安山岩	１０ケ所の凹がある。
224	JH-12	両面凹石	7.3	(5.0)	0.8	77.5	白雲母花崗岩	
225	JH-12	多孔石	16.3	12.3	9.1	2580	安山岩	裏面は浅い石皿状を呈す。
226	JH-12	磨石	9.9	8.3	6.7	780	石英斑岩	
227	JH-14	磨石	6.0	5.4	5.3	245	花崗岩	
228	JH-15	片面多孔石	(14.0)	(13.6)	7.3	2260	角閃石安山岩	
229	JH-15	片面凹石	13.1	7.5	5.5	550	角閃石安山岩	表面酸化が顕著
230	JH-15	磨石	12.9	11.1	10.1	1820	輝石安山岩	
231	JH-15	磨石	8.0	6.5	5.0	310	角閃石安山岩	
232	JH-18	石皿	31.8	(22.8)	2.0	4800	多孔石	
233	JH-18	両面多孔石	22.9	18.7	7.4	4950	角閃石安山岩	
234	D－3	石皿	24.5	24.2	8.7	9000	角閃石安山岩	煤付着
235	D－3	多孔石	18.5	13.5	6.0	2100	角閃石安山岩	石皿
236	D－3	石皿	21.7	15.5	8.7	4200	輝石角閃安山岩	多孔石　赤色塗採
237	D－3	磨石	19.8	23.2	8.4	5950	輝石安山岩	
238	D－12	磨石	9.6	7.1	3.9	390	角閃石安山岩	
239	D－12	石皿	34.0	23.4	5.6	6900	角閃石安山岩	
240	F-29	両面凹石	13.0	8.0	3.4	670	角閃石安山岩	
241	F-30	球形磨石	3.4	3.0	2.8	26	角閃石安山岩	
242	G-29	両面多孔石	23.6	15.1	9.2	3980	輝石角閃安山岩	
243	G-30	石皿	(12.7)	(8.8)	(6.7)	910	角閃石安山岩	
244	G-30	両面凹石	8.8	7.5	4.4	430	角閃石安山岩	火受けあり。
245	G-32	片面凹石	15.3	10.7	4.7	1180	輝石安山岩	側面全周に敲痕あり。
246	H-20	凹石	7.8	(6.6)	4.1	77	輝石安山岩	大きな丸味を持った深い凹石で一穴である。用途に付いても他のくぼみ石とは違うものと思われる。
247	H-27	石皿	(13.8)	(0.2)	3.3	810	輝石安山岩	一面は石皿、裏面は凹石となっている。
248	I-14	敲石	(9.3)	6.0	2.7	240	輝緑岩	基部欠損
249	I-17	片面凹石	7.7	6.7	5.1	360	角閃粉岩	煤付着
250	I-17	円形岩版	(4.0)	(3.5)	0.8	8.7	角閃石安山岩	
251	I-20	磨石	6.8	6.3	5.2	310	花崗岩	
252	J-24	両面凹石	9.2	8.0	3.7	370	角閃石安山岩	煤あり。
253	I-26	敲石 石棒	(9.0)	5.5	3.7	350	輝緑岩	
254	I-30	磨石・敲石	17.8	5.3	5.0	730	安山岩	両端は敲痕　４面には摩耗痕が見られる。
255	I-30	両面凹石	12.7	8.7	3.3	560	角閃石安山岩	
256	J-13	凹石	7.3	7.1	3.4	300	角閃石安山岩	片面磨き　1/2残
257	J-21	両面凹石	9.8	8.7	2.7	390	角閃石安山岩	
258	J-22	母岩	7.2	4.7	4.6	198	褐色チャートの母岩	自然摩耗
259	J-22	両面凹石	11.2	7.6	4.3	620	石英安山岩	側面一穴
260	J-25	球形磨石	3.5	3.3	2.8	34.4	角閃石安山岩	（３号墳周堀）
261	K-14	両面凹石	11.1	7.1	3.7	430	角閃石安山岩	
262	K-14	球形磨石	5.5	4.8	4.2	138	角閃石安山岩	
263	K-15	石皿	(25.6)	22.1	7.0	5900	輝石安山岩	
264	K-24	片面凹石	14.9	8.6	3.5	940	石英斑岩	両端敲痕
265	K-24	黒曜石	5.0	5.0	3.6	111.8	黒曜石の石核	自然面を３ケ所残す
266	K-24	自然石	10.8	8.3	2.0	220	輝石角閃安山岩	全体に赤色塗採
267	L-13	磨石	4.1	3.9	3.8	104.9	花崗岩	
268	L-24	片面凹石	12.9	8.1	6.6	930	角閃石安山岩	1/3残
269	O-16	石皿	14.5	(11.0)	4.7	970	安山岩	側面は火受けし発泡現象が見られる。1/2残
270	R-14	磨石	11.4	7.0	1.8	250	輝緑凝灰岩	海岸地方で火山灰が凝結した砂岩。
271	M－3	敲石	10.8	5.6	1.9	200.5	角閃石安山岩	
272	M－4	両面凹石	12.3	6.7	3.9	500	角閃石安山岩	両端敲痕
273	M－5	両面凹石	10.0	6.4	3.5	380	角閃石安山岩	
274	M－5	磨石	11.1	9.5	4.4	680	輝石角閃安山岩	火受けあり。煤付着。側面に朱塗採。
275	表採	両面凹石	11.9	7.3	2.7	430	輝石角閃安山岩	
276	表採	片面凹石	12.5	8.3	4.0	680	角閃石安山岩	

住居跡 土坑 古墳 土器 石器集計表

遺構名	土器数	一括土器	剥片	燃焼石	自然石	変成岩	加工石	黒曜石	礫数
敷石1号	44	18	22	2	1				
2	92	119	30	5	4		1	1	
3	464	806	102	30	6				
4	193	609	61	26	3	4	1	2	
JH－22号	20	354	44	8	3	2	1	15	
敷石一括		213	7	10			1		
1	16	8	7	1		1		1	
2	72	45	31	2				7	51
5	146	362	38	5	6	1	1	7	
6	175	316	63	30	5	4		25	
7	34	62	16	2	2			1	
8	481	1457	332	27	59	37	1	60	
9	21	13	7		2			1	
10	37	44	13	1	3			1	
11	4	1	1						
12	119	836	135	25	11	7	2	68	
13	44	70	17	2	1	1			
14	79	320	49	12	1			3	
15	354	1608	204	33	37	12	1	34	
16	64	113	15	9	2	1			
17	35	350	14	2	4	1	2		
18	31	42	34	1	2	4			
19	10	100	32	2	1	5		5	
20	12	34	4		1				
21	129	306	44	14	9	6			
土坑 2		22							
3	44	80	6	4	2			1	
6	18	25							
7		42	2						
8		8							
9	8	3		1					
10	15	38							
11	14	233	27		2				
12		179		1	1		1		
17			1						
19			3						
1 号 墳		107	34	2		7		1	
2		62	11						
3		703	65	39		3			
4	75	950	84		1	3		2	
5		576	53	4	5	2			
表 採		1470	70	71	4	2	1		
計	2,850	12,704	1,678	371	178	103	13	235	51
(1) 計	518	1,844	178	11	29	13	2	21	
(2) 計	1,277	2,466	267	48	43	14	3	28	
(3) 計	1,007	2,439	252	28	43	11	6	18	
(4) 計	161	667	83	7	0	2	1	7	
(5) 計	63	176	33	3	4	4	0	2	
(6) 計	65	111	110	20	6	10	0	53	
合 計	5,941	20,407	2,601	488	303	157	25	364	51

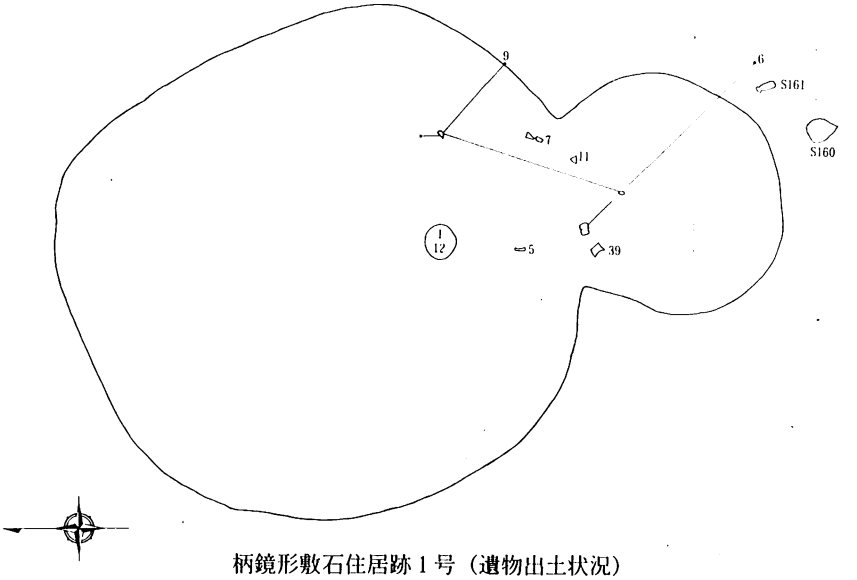
グリット 出土土器 石器集計表

ｸﾞﾘｯﾄ	土器	一括	剥片	焼石	自然	変成	加工	黒曜	ｸﾞﾘｯﾄ	土器	一括	剥片	焼石	自然	変成	加工	黒曜
C-31	3								H-14	1		1					
32	2	1	2		2				15	1	1						
33	8	1	2					1	16	2							
34	2					1			17	5	28	1					
D-29	4	3	1						18	10	13	5					1
30	18	8	3						19	24	41	4					
31	14	32	6		1	1			20	130	64	24	3				
32	25	13	2		1	1		4	21	37	23	1					
33	18	3	1						22		11						
34	2								23	5	28						
E-20		6	1						24	1	21	1					
24		1							25	2	1	1					
26	2	1							26	11	30	9			1		2
28	5	179	13		8				27	10		2					
29	31	39	3			1			28	45	14	4		6			
30	14	35	5		1		1		29	23	120						
31	8	35	5						30	114	339	62	17	11	4		
32	23	485	18		4	4			31	49	48	16	2	4	3	2	1
33	6	32	4						I-7		1						
F-15			2						14	37	55	11		8			
23	5	24	2						15	24	4	2					
24	1								16	10	71	5					1
25	10								17	36	30						
26	37	154	11		1			1	18	15	20	3			1		17
27	4								19	20	136	6		1			
28	13	165	19		2			6	20	76	280	21	1	6		1	1
29	31	32	5						21	54	33	6					
30	10	27	3		2			4	22	23	2	2					1
31	32	19	3						23		17	3					
32	28	3	6	1		2			24		29	2	1				
33		33							25	4	29	2					1
G-19	3	1							26	6		2					1
20	11	6	1		1		1		27	28	26	2	1		1		
21	12	1	1		1				28		28						
22	10	37	3						29	19	8	1					
23	9	46	2						30	30	42	2			1		
24	4	26	3						IJ-20		467	18	1		2		
25	2	55	12						J-13	13	3						
26	8	22	1						14	130	102	11					
27	1	24	1	1		1			15	32	6	7	19				
28	8	38							16	10	49	4		2			
29	36	37	3						17	6	1		1				
30	12	75	8		1			1	18	17							
31	22	39	4		2	1			19	21	9	1		1			
32	24	106	15	7	2	1		4	20	65	148	11		1	1		2
GH2829			7	2					21	131	88	14	2	3			
(1)計	518	1844	178	11	29	13	2	21	(2)計	1277	2466	267	48	43	14	3	28

ｸﾞﾘｯﾄ	土器	一括	剥片	焼石	自然	変成	加工	黒曜
J-22	45	170	22	8	6			
23	16	37	4		1			
25	12	3	4					
26	15	47	11		1			1
27	13	35	2					
28	7		1		1		1	2
29	1		1					
JK-14			11	2	4			1
K-13	10							
14	181	121	11	3	1			
15	48	190	15		2			1
16	3							
17	2							
18	13	200	10		8			
19	12	107	3		2	1	2	2
20	2	8						
21	19	42	6			1		
22	35	139	5	1	1		2	
23	11	45	2		1			
24	60	94	10	3				5
25	23	158	7	2	2	2		1
26	6	46	6			1		
27	1		2					
28	8							
L-11		1						
13	7		3					
14	49	81	9	3	6			2
15	8	29	1					
16	4	8	1					
17	14	46	2		1	1		
18	47	95	2	1	1			2
19	93	305	17		2			
20	3	37						
21	5	14	1			1		
22	8	11	1					
23	14	23	6					
24	20	139	10	4	3	3	1	
25	1	21	1					
26		26						
28		10						
M-13	3		2					
14	4	41	4					1
15	1	15						
16	166	82	57	1		1		
17	3	4						
18	3	9						
19	11		2					
(3)計	1007	2439	252	28	43	11	6	18

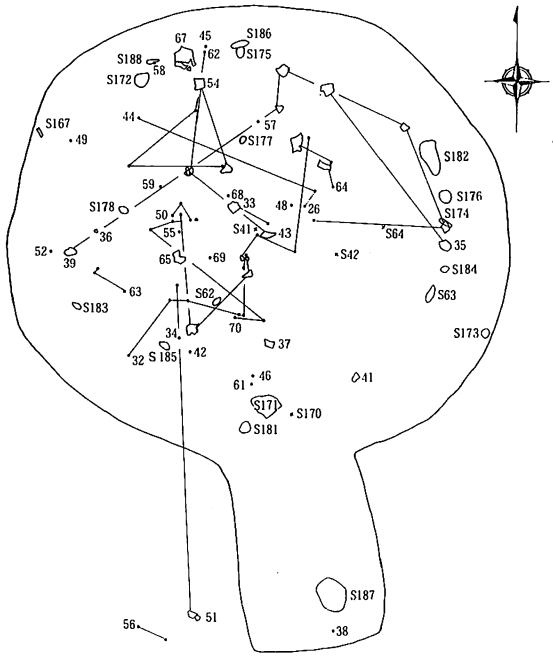
ｸﾞﾘｯﾄ	土器	一括	剥片	焼石	自然	変成	加工	黒曜
M-20		51	1					
21		10						
22		11	1					
23		13						
23		13	1					
24		24	1					
N-10	1							
11	1							
12	1							
13	2		1					
14	14	11	6					
N-15	7	20	1					
16	20	83	16				1	
17		4						
18		42	1					
19	4	6	4					
20		4						
O-10	1							
11	3	14						
12	2	9						
13	3							
14	4							
15	1	11	2					
16	15	14	2					
17	9	6						1
18	2	1						
19	1	44	3			1		1
20		9	1					
29		1						1
P-7		3						
13	1	8	1					
14	8							
15	3	15	3					
16	8	5						
17	3	20	4					
18	5	10	2					1
19	4	10	3					
Q-12	2	6	5	2				
13	4	11	2					
14	1	3						
15	1							
16		11						
17	1	14		1				
18	4		1	1				
19	11		11	3		1		
20	8	150	10					3
R-13	6							
(4)計	161	667	83	7	0	2	1	7

ｸﾞﾘｯﾄ	土器	一括	剥片	焼石	自然	変成	加工	黒曜	ｸﾞﾘｯﾄ	土器	一括	剥片	焼石	自然	変成	加工	黒曜
R-14	1	10							T-19	2	9	5			1		
15	4	1	1						20	1	4	5			1		6
16	6		1						24		2	3					
17	8	2				1			U-8		2						
R-18	5	2	2						10		2						
19	4	24	4						12		1	1					
20		55							13	4	2						
S-7		5							14		2						
13	3		1						15	2							
14	3								16			1					
15	1	13	1						U16,17		4	1					
16	2	4	1						V-5	1							
17	2		1						W-4	1		1					
18	6								5	5							
19		25							6	7							
20			3					1	7	2	1	1					
T-12	1	6							X-7	1							
13	6	1							Z-9	1			1				
14	4					1			ABC-89		82	15	2		1		
15	5	2							表採			77	17	6	7		47
16	1	5	1						W・X-7	16							
17		19	8			2		1	A・B-36	12							
18	1	2	2						M・N-19	10							
溝			7	3	4												
(5)計	63	176	33	3	4	4	0	2	(6)計	65	111	110	20	6	10	0	53

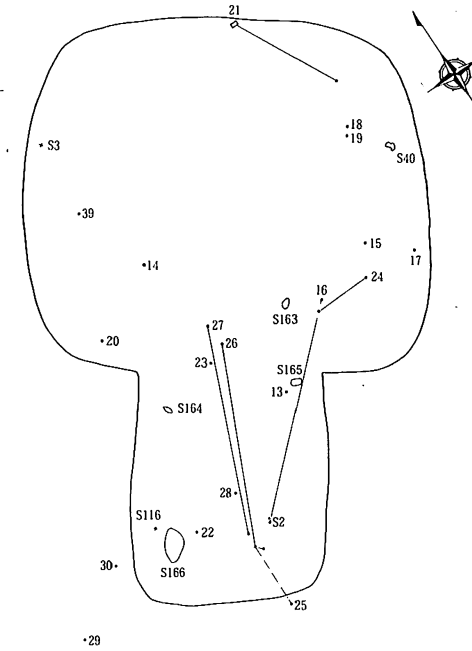


柄鏡形敷石住居跡１号（遺物出土状況）

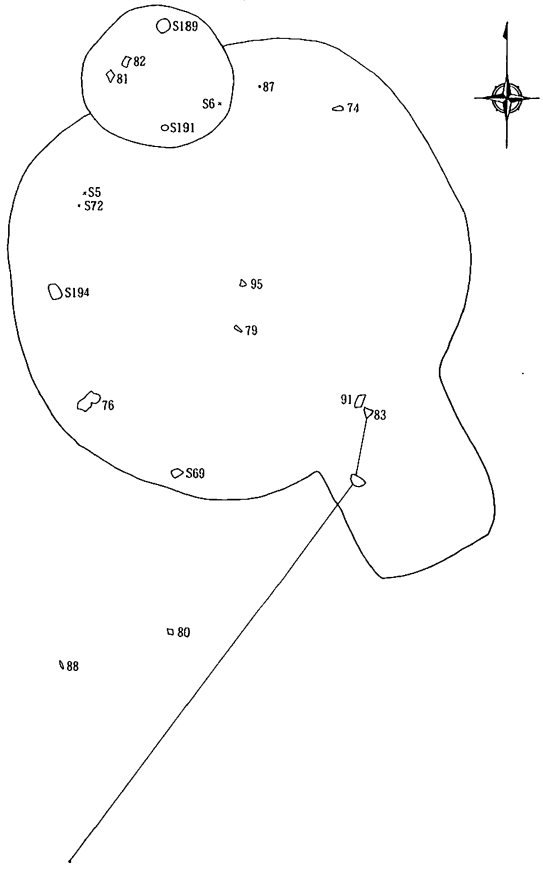
0 1 2 3m



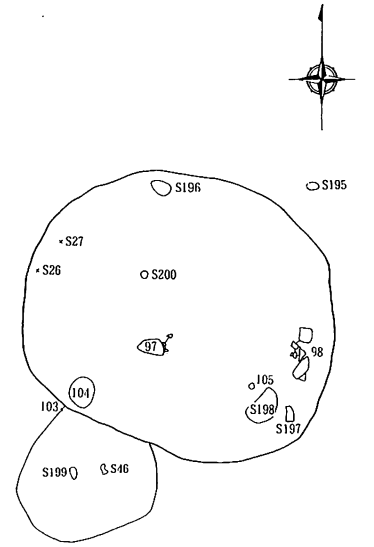
柄鏡形敷石住居跡３号（遺物出土状況）



柄鏡形敷石住居跡２号（遺物出土状況）

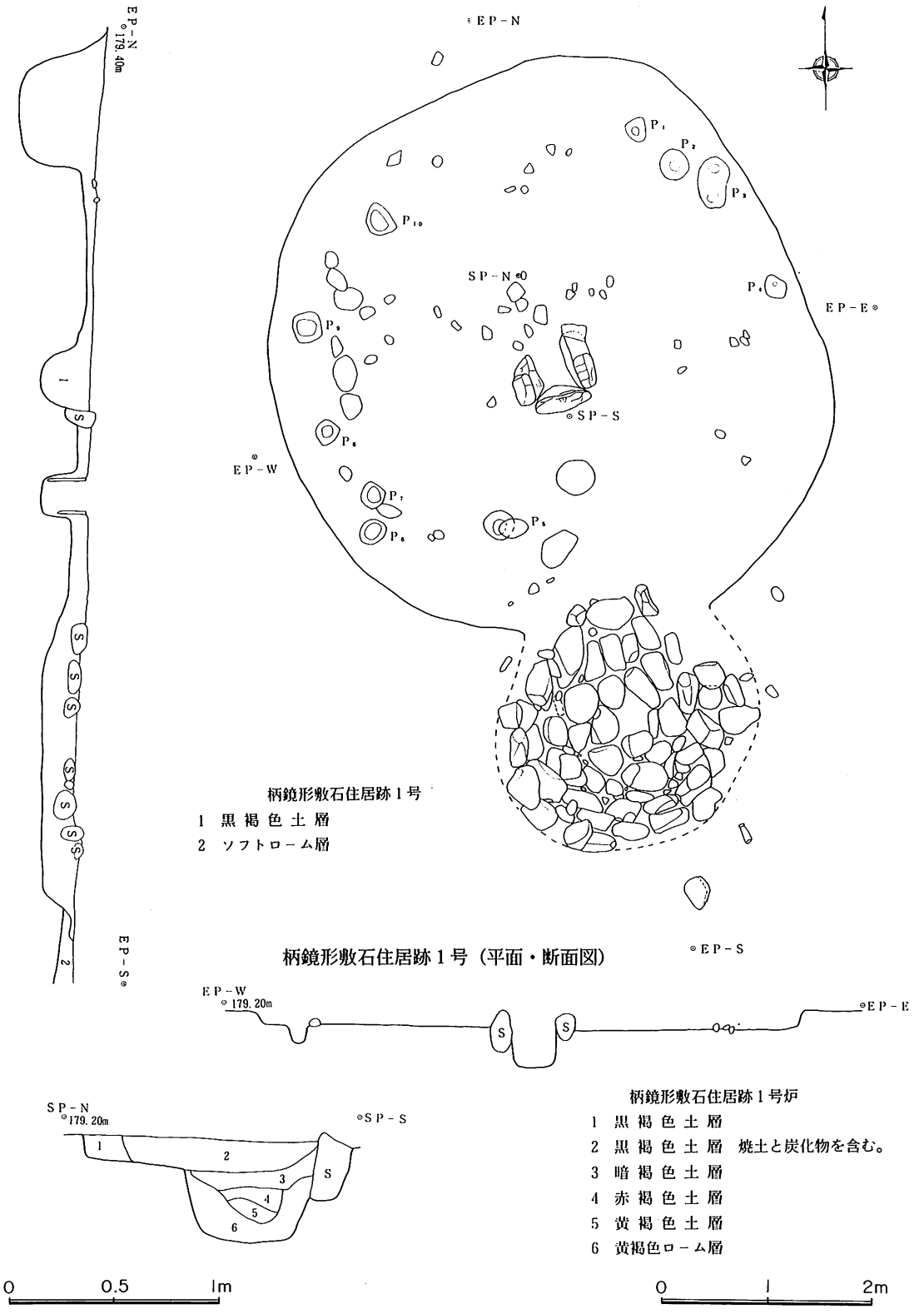


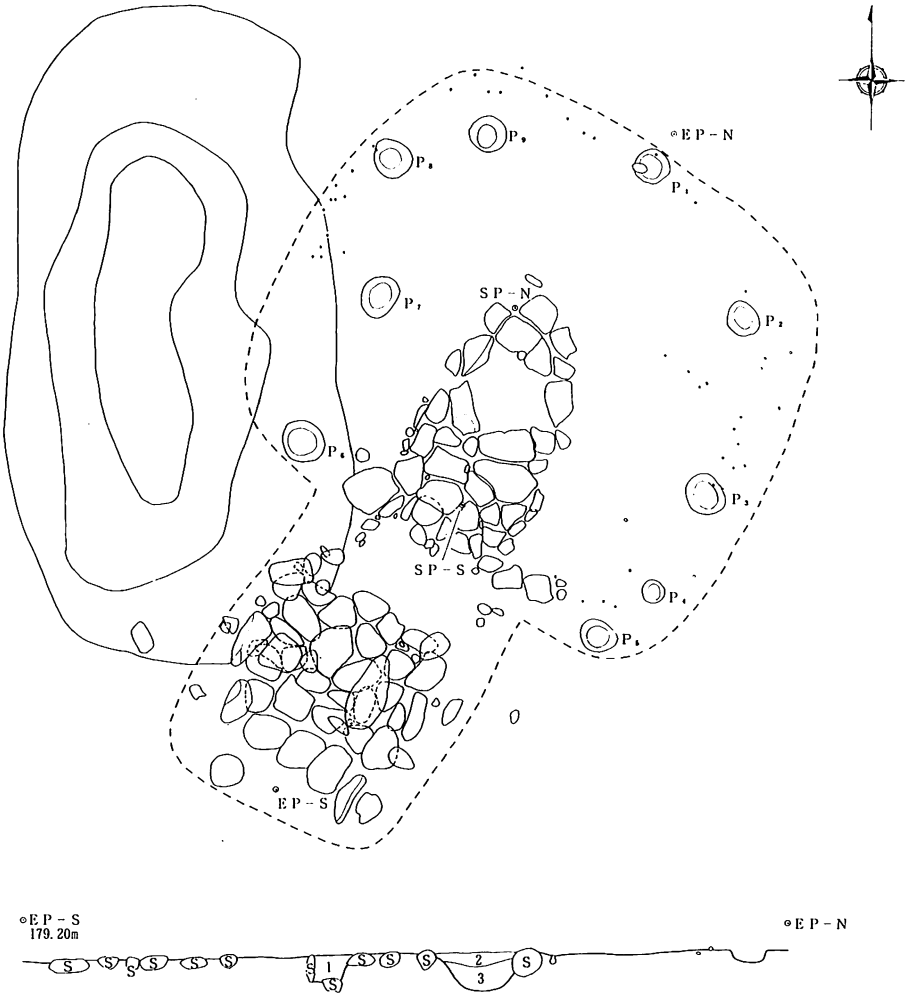
柄鏡形敷石住居跡４号（遺物出土状況）



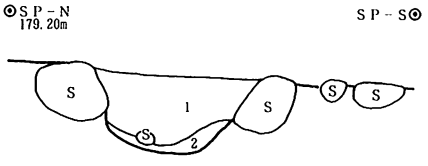
環状配石住居跡22号（遺物出土状況）

0 1 2 3m


EP-N
179.40m
EP-S
EP-N
EP-E
EP-W
EP-S
SP-N
SP-S
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
S
1
2
柄鏡形敷石住居跡1号
1 黒褐色土層
2 ソフトローム層
柄鏡形敷石住居跡1号（平面・断面図）
EP-W
179.20m
EP-E
SP-N
179.20m
SP-S
1
2
3
4
5
6
S
0
0.5
1m
柄鏡形敷石住居跡1号炉
1 黒褐色土層
2 黒褐色土層 焼土と炭化物を含む。
3 暗褐色土層
4 赤褐色土層
5 黄褐色土層
6 黄褐色ローム層
0
1
2m



柄鏡形敷石住居跡２号（平面・断面図）



柄鏡形敷石住居跡２号

1　黄褐色土層　ソフトローム。

2　褐色土層　僅かに炭化物を含む。

3　褐色土層　固く締まり、炭化物を多く含む。

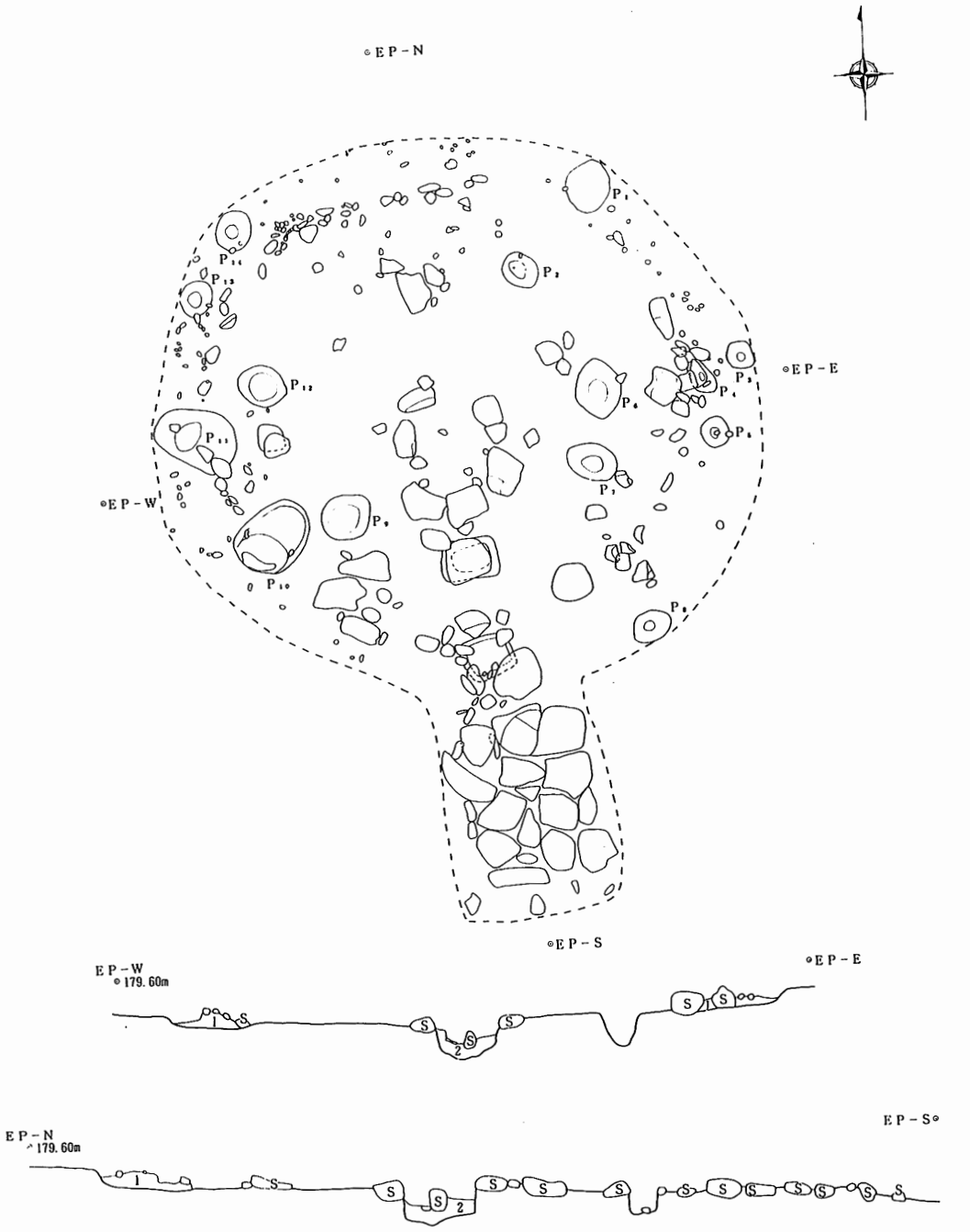
柄鏡形敷石住居跡２号炉

1　黒褐色土層　焼土、炭化物を含む。

2　黄褐色土層　ロームを含む。

0　0.5　1m

0　1　2m



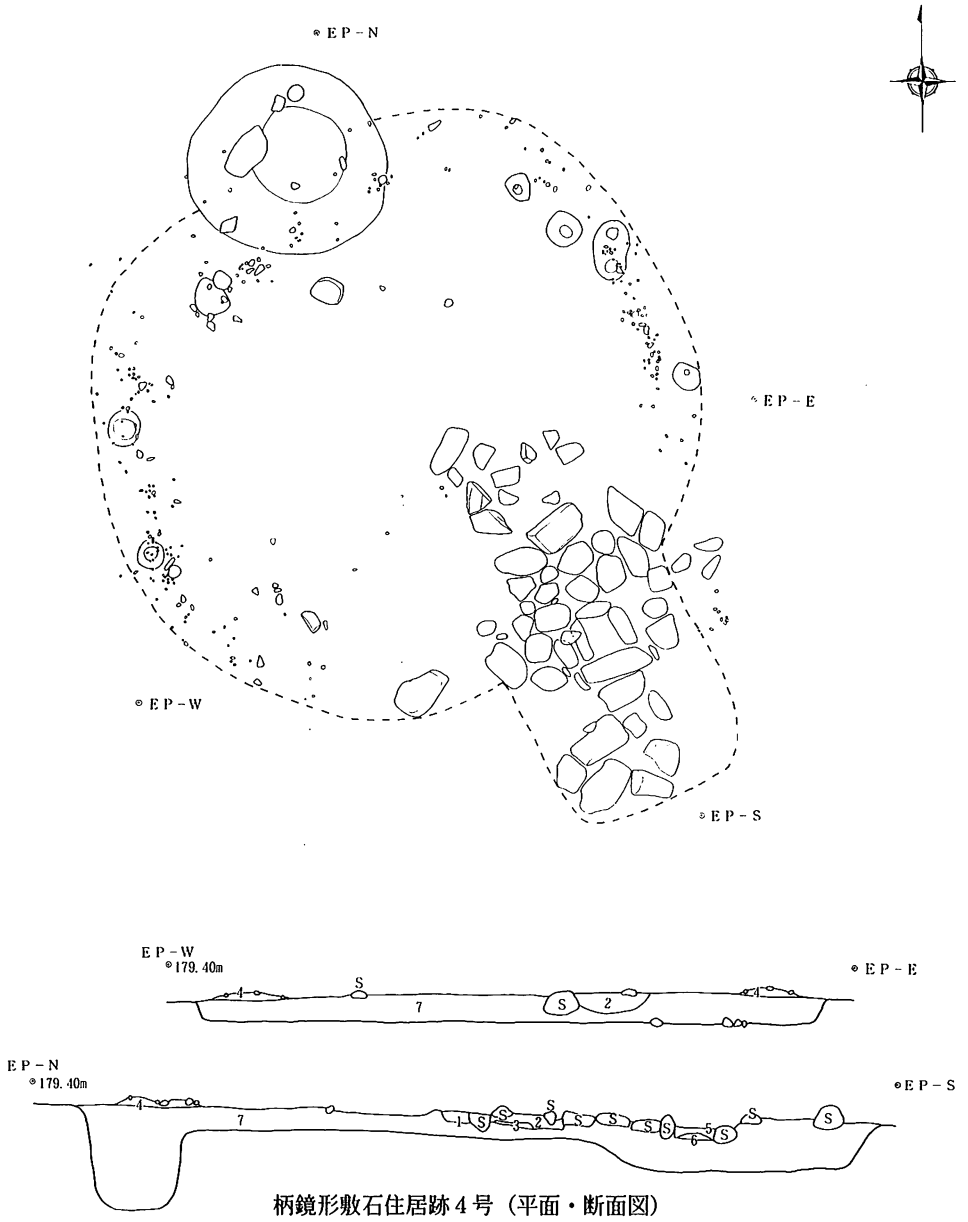
柄鏡形敷石住居跡３号（平面・断面図）

柄鏡形敷石住居跡３号

1　ロームと礫の混土層

2　褐　色　土　層　炭化物と焼土を僅かに含む。

0　1　2m

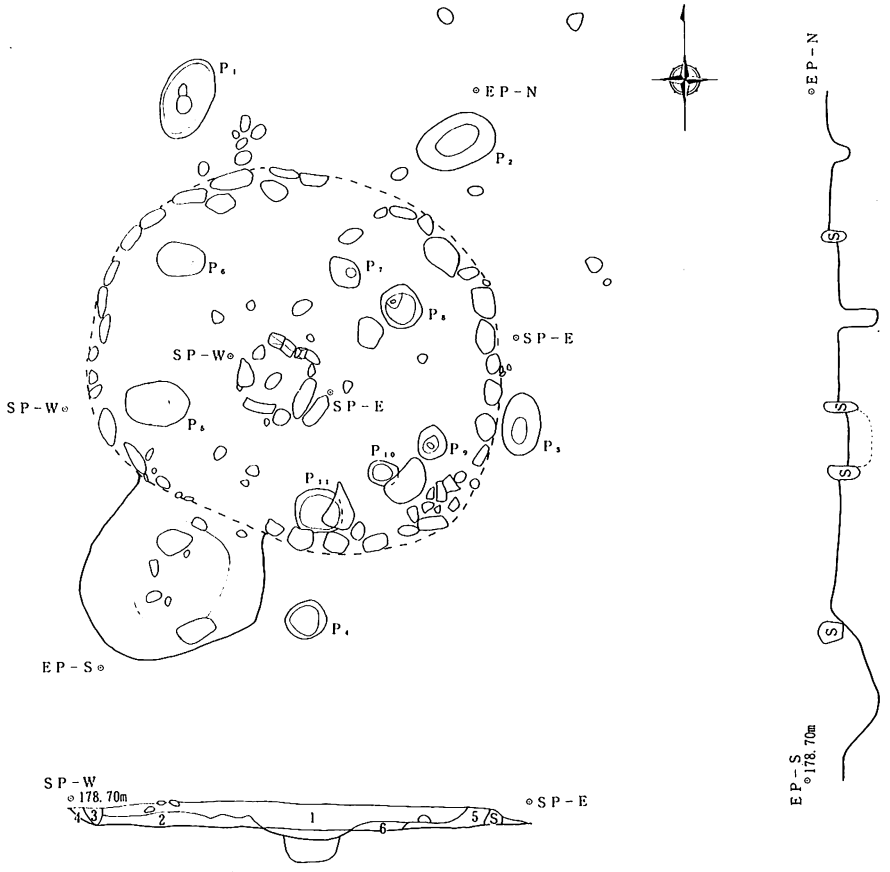


柄鏡形敷石住居跡４号（平面・断面図）

柄鏡形敷石住居跡４号

1　黒 褐 色 土 層　炭化物を少し含む。焼土を僅か含む。（炉1）
2　褐　色　土　層　ソフトロームを含む。炭化物を少し含む。焼土を僅か含む。（炉2）
3　黄褐色ローム層　炭化物を少し含む。焼土を僅か含む。
4　ロームと礫の混土層
5　黒 褐 色 土 層　軟らかい。
6　黄 褐 色 土 層　ソフトロームを含む。
7　黄 褐 色 土 層　粒状ロームを含む。

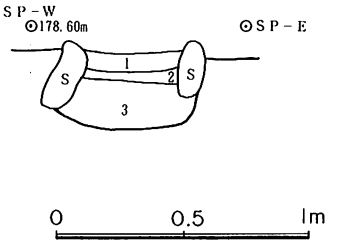
0　1　2m



環状配石住居跡22号（平面・断面図）

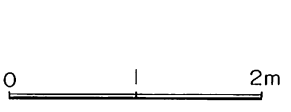
環状配石住居跡22号

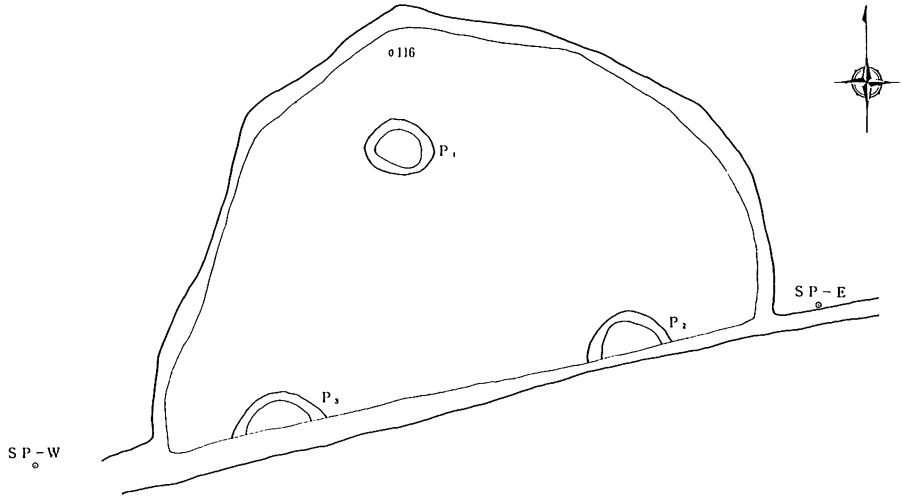
1　黒 色 土 層　粒状、焼土、炭化物を含む。
2　黄褐色土層　ローム粒を含む。
3　黒褐色土層　一次堆積、固く締っている。
4　褐 色 土 層　固く締っている。
5　黄褐色土層　明るい一次堆積層、固く締っている。
6　黄褐色土層　５層より暗い一次堆積層、固く締っている。



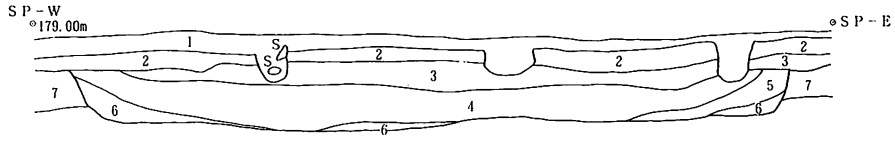
環状配石住居跡22号炉

1　黒褐色土層　炭化物を含む。焼土粒わずかみられる。
2　黄褐色土層　ロームブロック、焼土粒、炭化物を含む。





ＪＨ１号住居跡（平面・断面図）



ＪＨ１号住居跡

1　表土、盛土

2　黒褐色土層　ＦＰを含む。

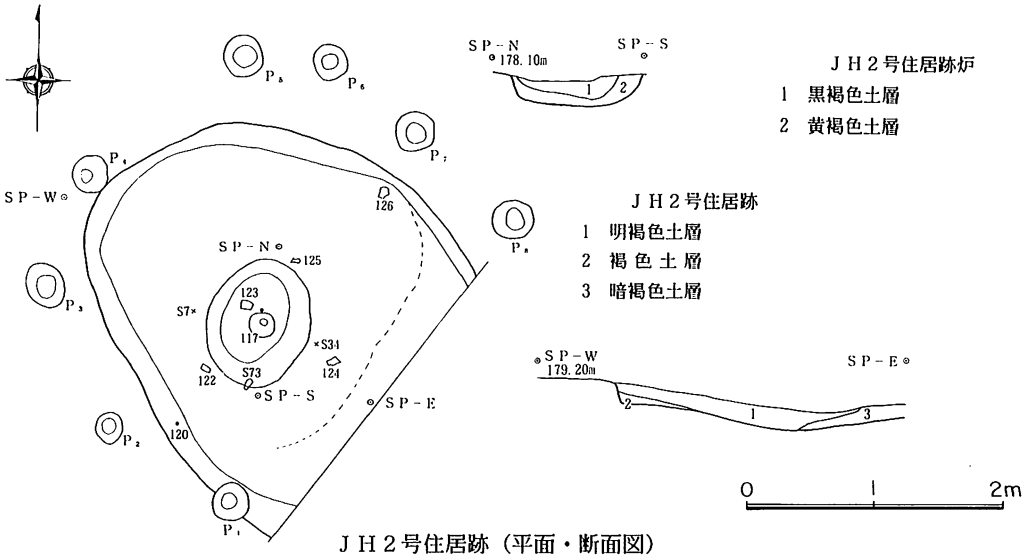
3　灰褐色土層　粒状軽石（１mm以下）。固い。焼土ローム粒。

4　黒色土層　軽石粒をわずか含む。焼土粒、炭化物を含む。粘性あり。

5　黒色土層　４よりも軽石粒が少なく、褐色味を持つ。

6　黄褐色土層　一次堆積層でローム粒を含む。

7　ソフトローム漸位層



ＪＨ２号住居跡炉

1　黒褐色土層

2　黄褐色土層

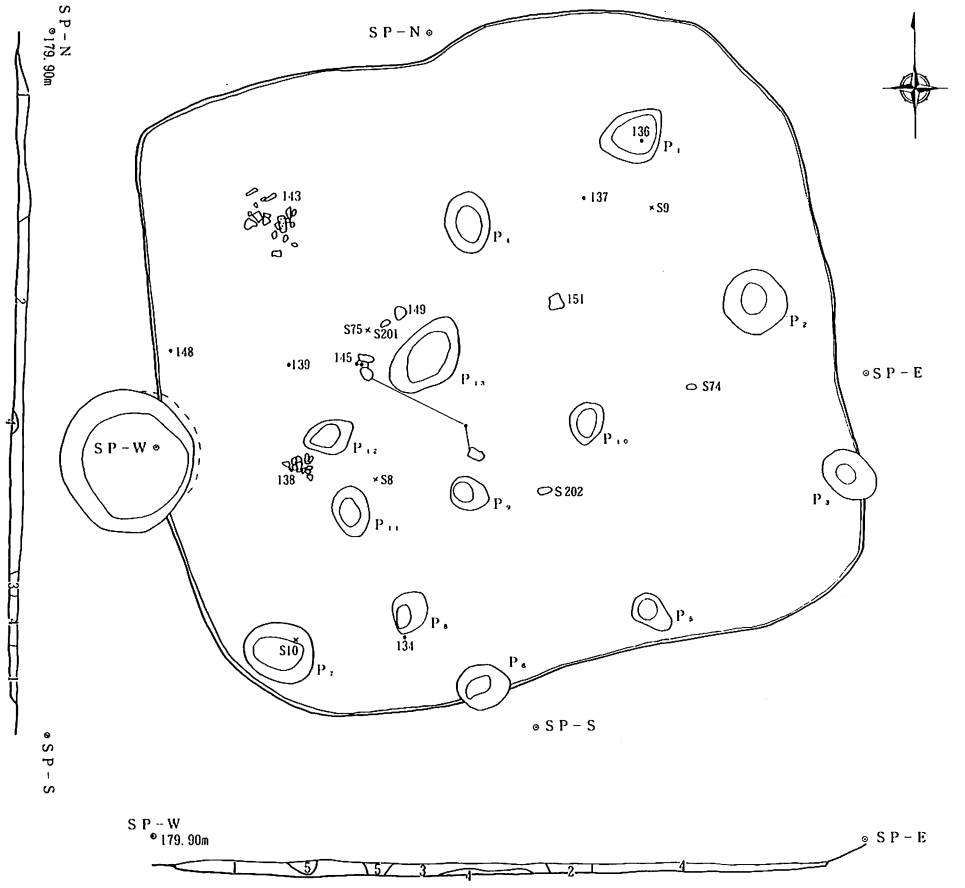
ＪＨ２号住居跡

1　明褐色土層

2　褐色土層

3　暗褐色土層

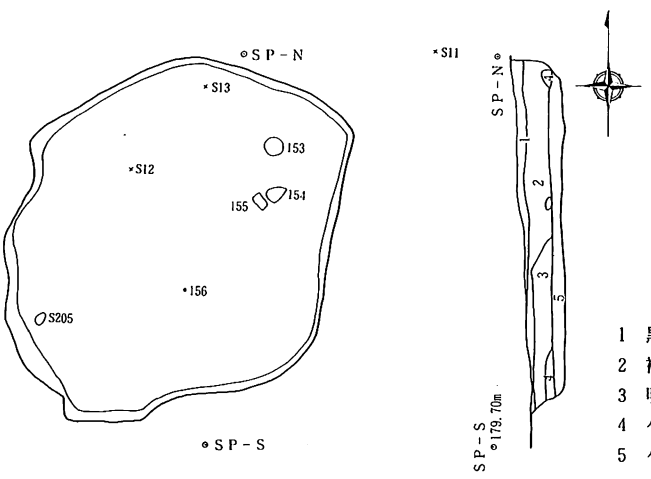
ＪＨ２号住居跡（平面・断面図）



ＪＨ５号住居跡（平面・断面図）

ＪＨ５号住居跡

1　褐　色　土　層
2　暗黒褐色土層
3　黒　褐　色　土　層
4　黄　褐　色　土　層
5　明黄褐色土層

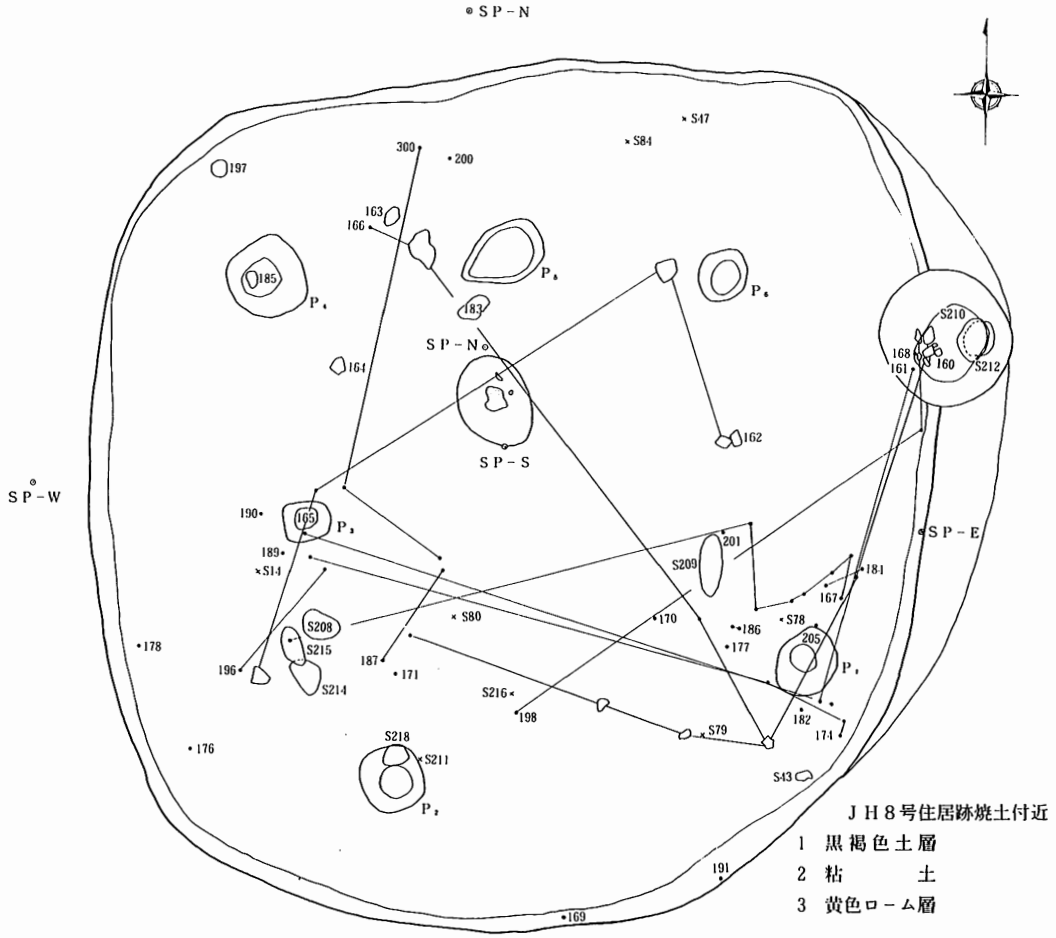


ＪＨ６号住居跡

1　黒褐色土層　粒状軽石（1㎜以下）を含む。
2　褐　色　土　層　粒状軽石を含む。
3　明褐色土層　ブロック状ロームを含む。
4　ハードローム層
5　ハードロームと黒色土の混土層

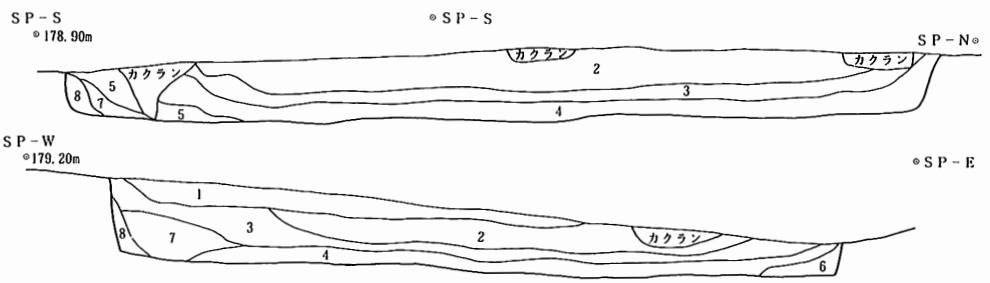
ＪＨ６号住居跡（平面・断面図）

0　1　2m



ＪＨ８号住居跡焼土付近

1　黒褐色土層
2　粘　　土
3　黄色ローム層



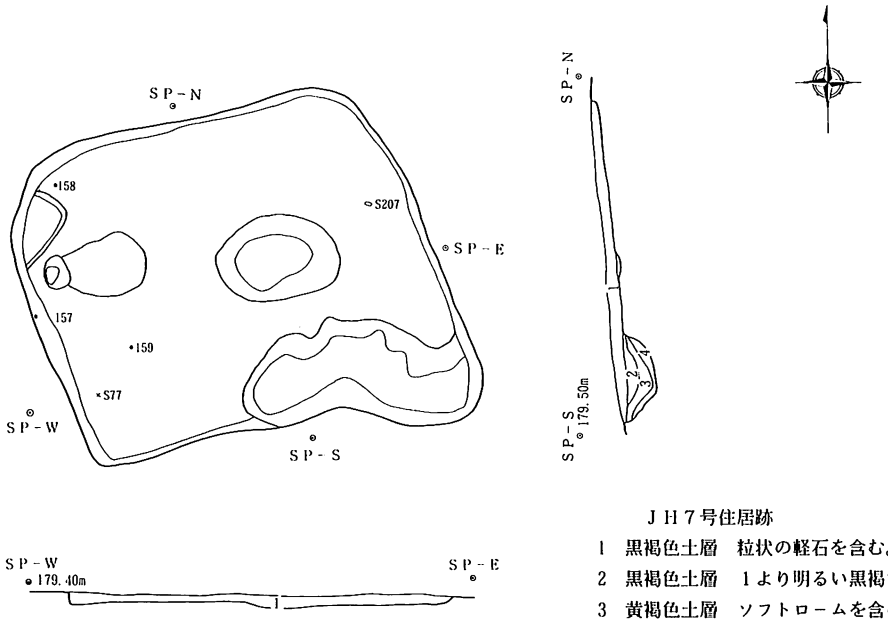
ＪＨ８号住居跡（平面・断面図）

ＪＨ８号住居跡

1　黒褐色土層　粒状軽石を含まない。
2　黒褐色土層　粒状軽石を含まない。炭化物、焼土、ローム粒を含む。４より暗い。
3　褐色土層　粒状軽石を含む。粉状炭化物。
4　黒褐色土層　炭化物、焼土、粒状ロームを含む。
5　黄褐色土層　粘性に乏しく粗さが目立つ。
6　褐色土層　炭化物、焼土、ローム粒を含む。（赤味を持つ。）
7　黄褐色土層　粒状の軽石を含む粉状炭化物。粘性が強い。（黄色味が強い。）
8　明黄褐色土層　粉状の軽石、炭化物を含む一次堆積層。

0　0.5　1m

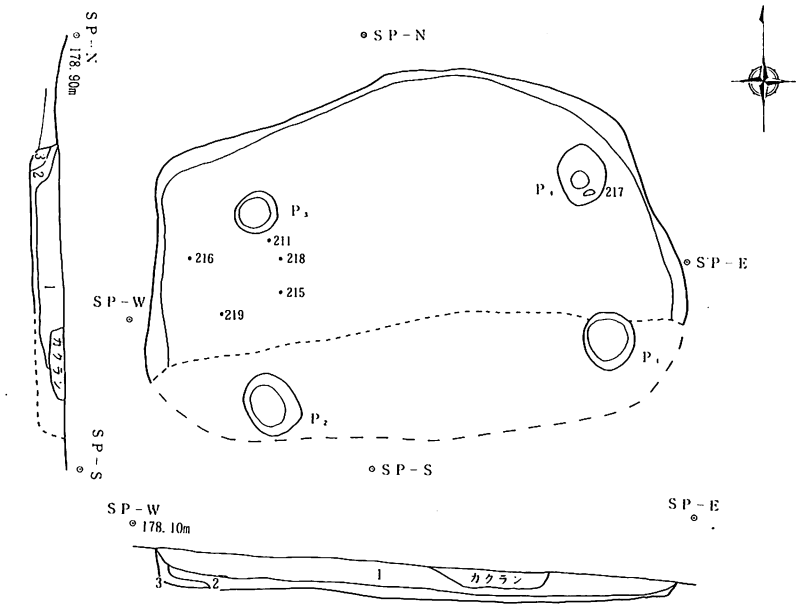
0　1　2m



ＪＨ７号住居跡

1　黒褐色土層　粒状の軽石を含む。
2　黒褐色土層　１より明るい黒褐色土層。
3　黄褐色土層　ソフトロームを含む。
4　黒褐色土層　ロームブロックを含む。一次堆積層。

ＪＨ７号住居跡（平面・断面図）

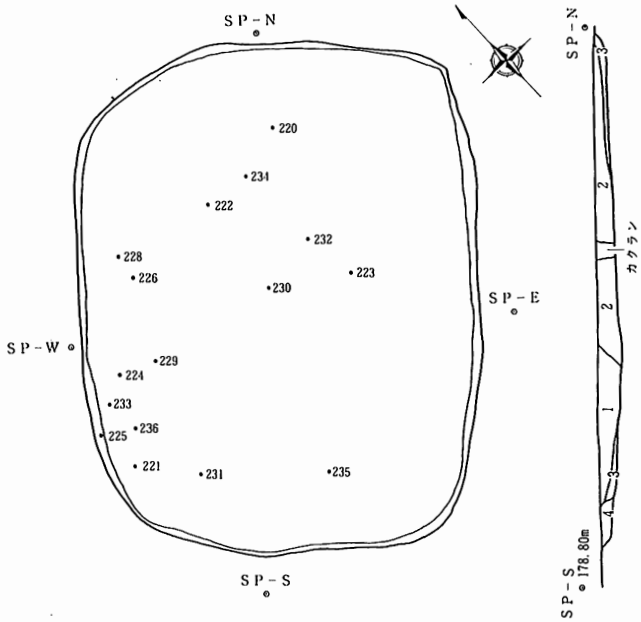


ＪＨ９号住居跡（平面・断面図）

ＪＨ９号住居跡

1　黒褐色土層　明るいロームブロックを僅か含む焼土。炭化物も僅か含む。
2　黒褐色土層　１よりさらに暗い。
3　黄褐色土層　ロームを多量に含む一次堆積層。

0　1　2m



ＪＨ10号住居跡

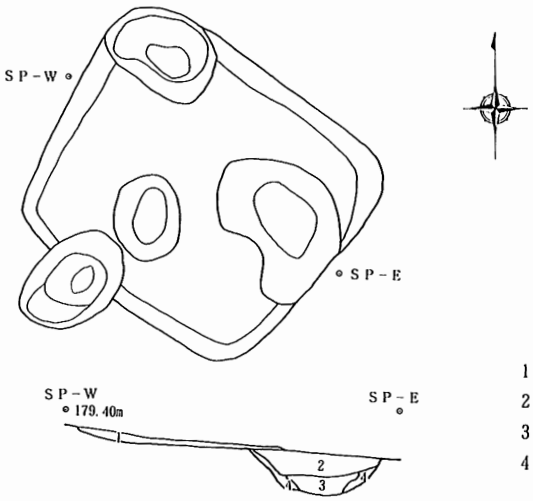
1　黄褐色土層　シモフリ状軽石。

2　黒褐色土層　シモフリ状軽石。

3　黄褐色土層

4　黄褐色土層　ローム質。３より明るい。

ＪＨ10号住居跡（平面・断面図）



ＪＨ11号住居跡

1　黒色土層　耕作土。軽石（0.5 ～1cm）を含む。

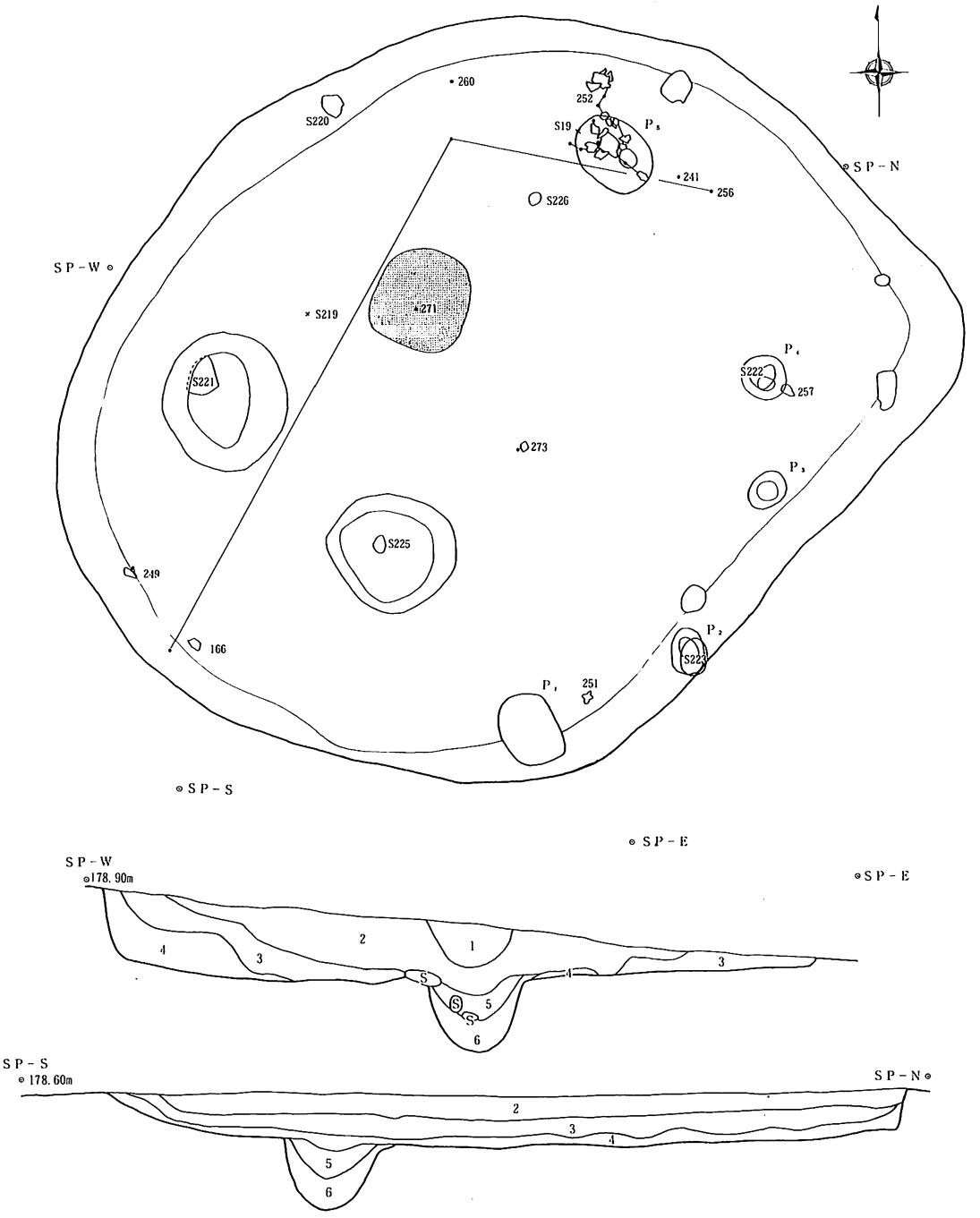
2　黒褐色土層　軽石粒を含む。

3　黄褐色土層　粒状のローム、軽石を含む。

4　黄褐色土層　ブロック状のロームを含む。

ＪＨ11号住居跡（平面・断面図）

0　1　2m

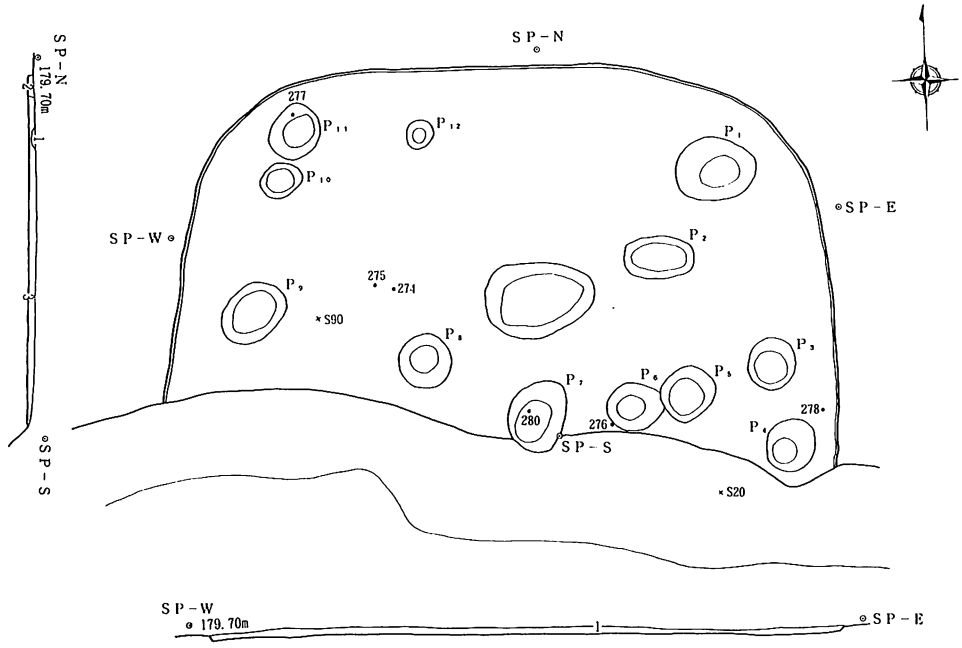


J H12号住居跡

1　褐 色 土 層　焼土と炭化物を含む。
2　黒褐色土層　焼土と炭化物を含む。
3　黒褐色土層　粗いローム。
4　褐 色 土 層　軽石粒を含む。
5　黒褐色土層　軽石粒を含む。
6　黄褐色土層

J H12号住居跡（平面・断面図）

0　1　2m



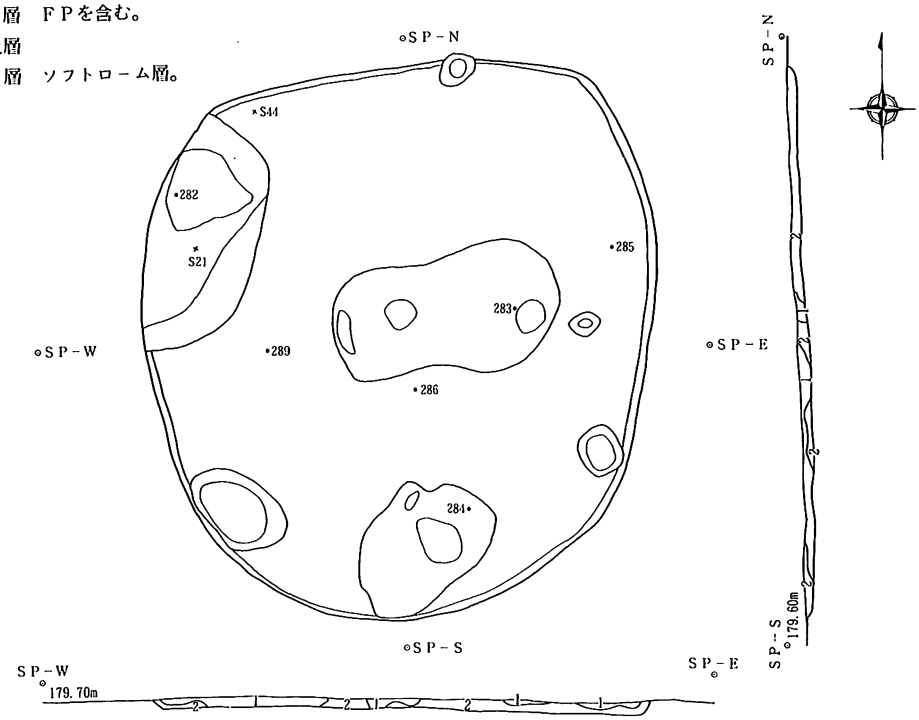
J H13号住居跡（平面・断面図）

J H13号住居跡

1 黒色土層　FPを含む。

2 黒褐色土層

3 褐色土層　ソフトローム層。



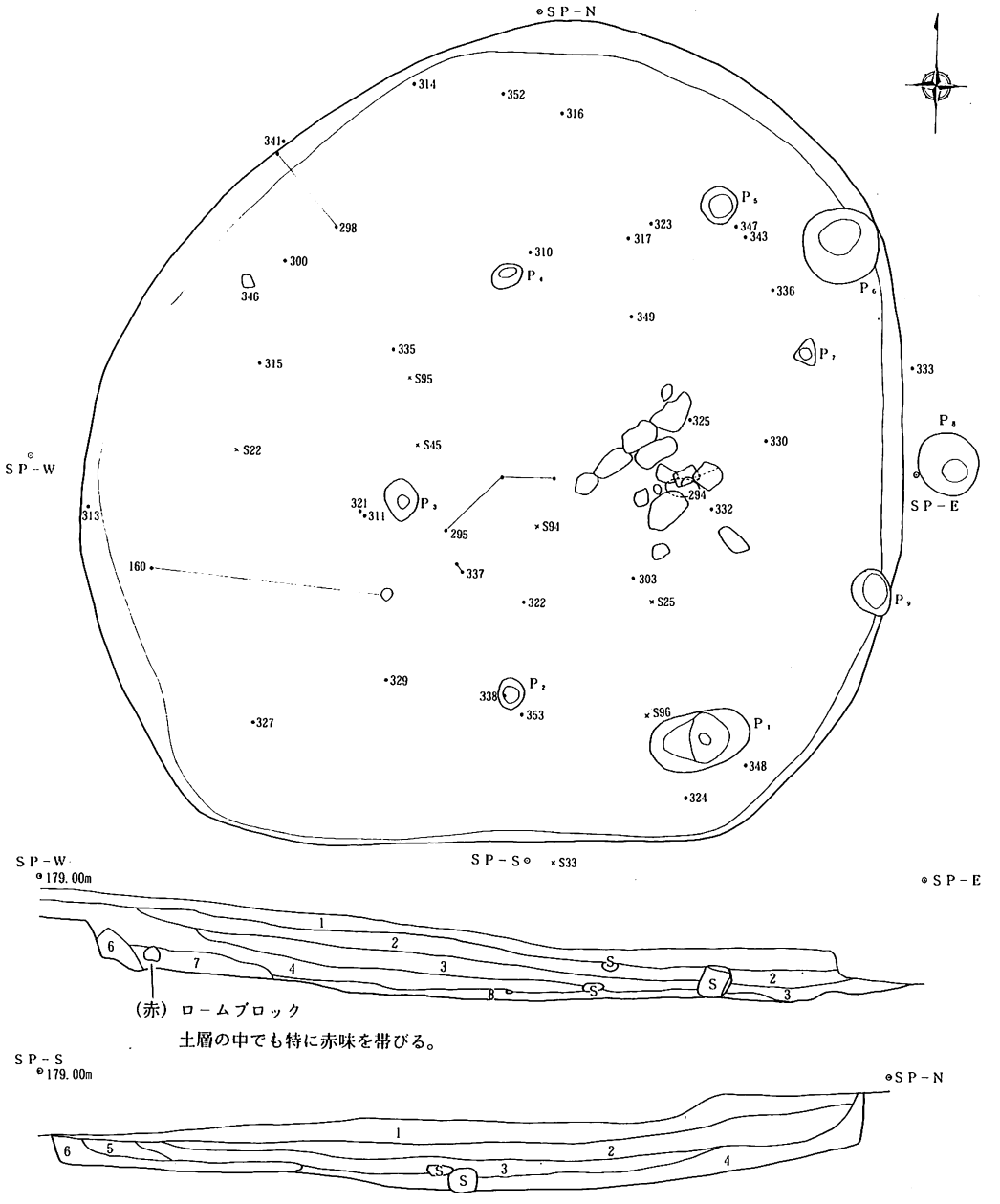
J H14号住居跡（平面・断面図）

J H14号住居跡

1 黒褐色土層

2 黄褐色土層　ソフトローム層。

0　1　2m

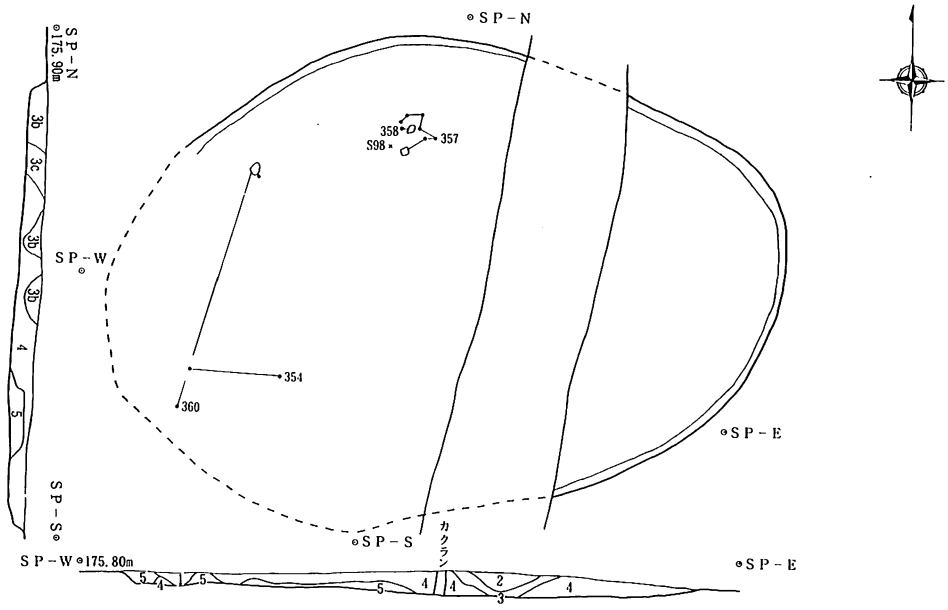


ＪＨ15号住居跡（平面・断面図）

ＪＨ15号住居跡

1　黒褐色土層　粗でロームを含む。細かな粒状の軽石、ローム粒を含む。
2　黒褐色土層　1より黄褐色を呈す。細かな粒状の軽石、ローム粒を含む。
3　黒褐色土層　2より暗い。細かな粒状の軽石、ローム粒を含む。
4　黒色土層　3より黒い。細かな粒状の軽石、ローム粒を含む。
5　6よりソフトロームも含有料が少なく暗い。
6　黄褐色土層
7　赤褐色土層
8　褐色土層　床面と考えられる焼土化したローム。

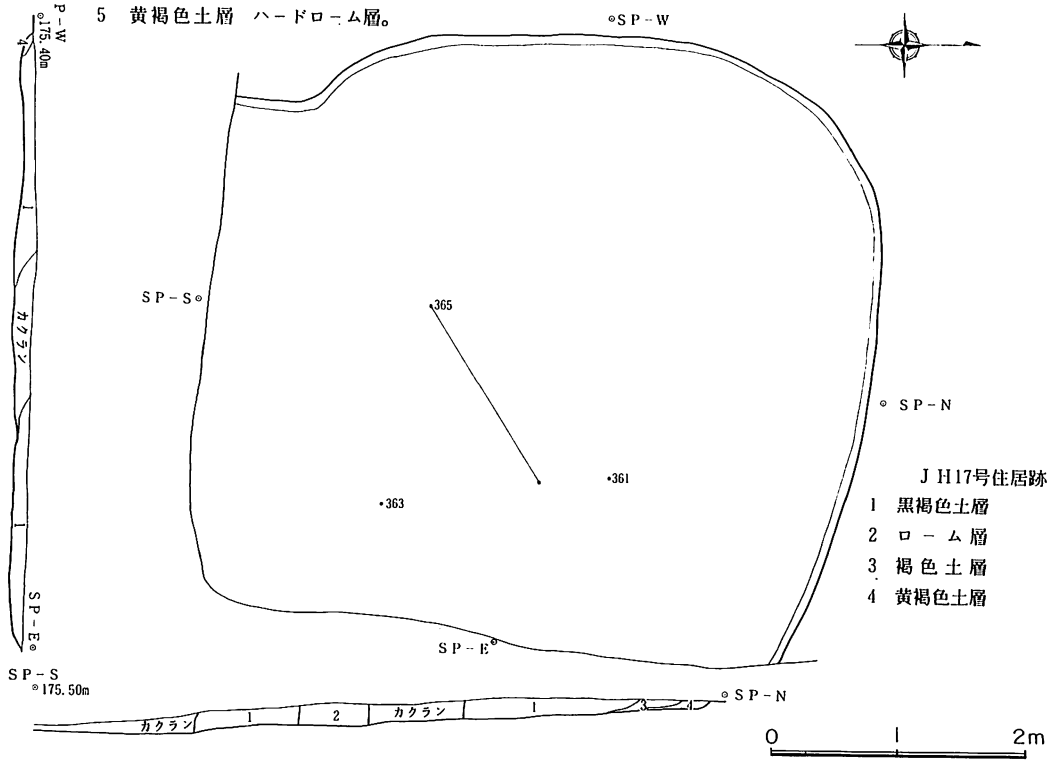
0　1　2m



ＪＨ16号住居跡

1　黒灰褐色土層　耕作土。
2　黒　色　土　層　ＦＰを含む。粘性が強く粒子が細かい。
3　黒褐色土層
3b 黒褐色土層　ロームブロックを含む。
3c 黒褐色土層　4よりも暗く、3bよりも明るい。
4　黒褐色土層　ソフトローム層。
5　黄褐色土層　ハードローム層。

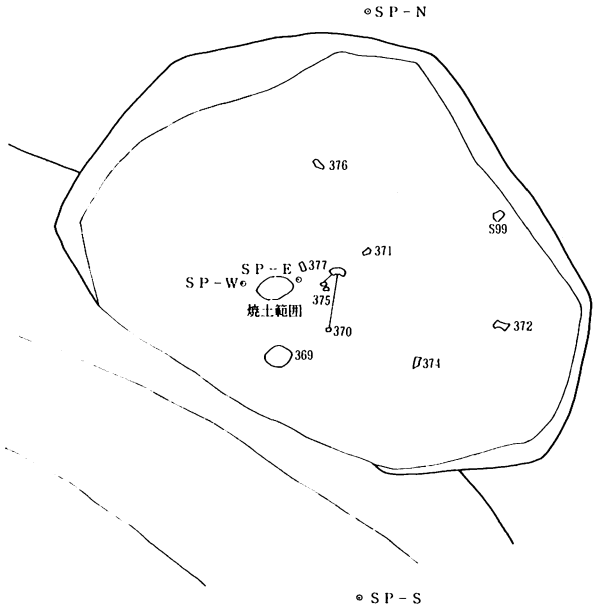
ＪＨ16号住居跡（平面・断面図）

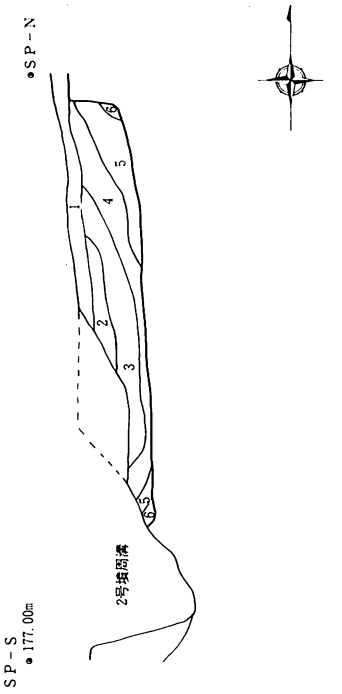


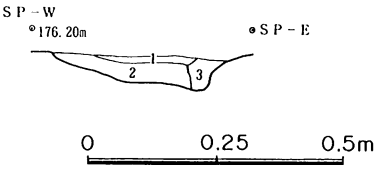
ＪＨ17号住居跡

1　黒褐色土層
2　ロ　ー　ム　層
3　褐　色　土　層
4　黄褐色土層

ＪＨ17号住居跡（平面・断面図）







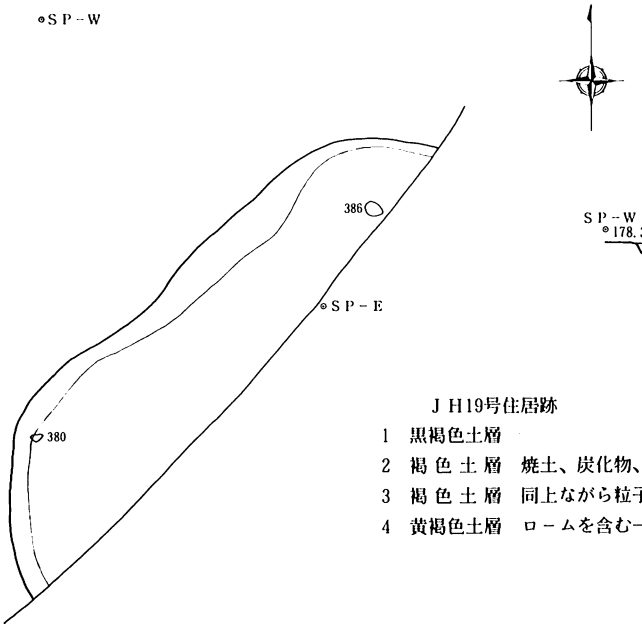
JH18号住居跡（平面・断面図）

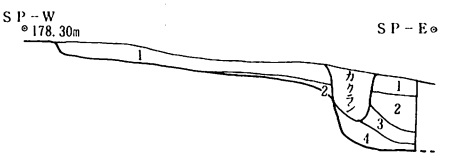
JH18号住居跡

1　灰黒褐色土層　粘性に乏しくもろい。軽石とロームの細い粒を含む。
2　黒褐色土層　締まって固い。軽石とロームの細い粒を含む。
3　褐色土層　締まって固い。軽石とロームの細い粒を含む。
4　褐色土層　3層よりも粗い。軽石、焼土、ローム粒を含む。
　　軽石とロームの細い粒を含む。
5　黄褐色土層　ロームブロックを含む。軽石とロームの細い粒を含む。
6　黄褐色土層　ハードブロックに近い一次堆積層。

JH18号住居跡焼土付近

1　焼土範囲
2　ロームと黒色の泥土層
3　黒色土層

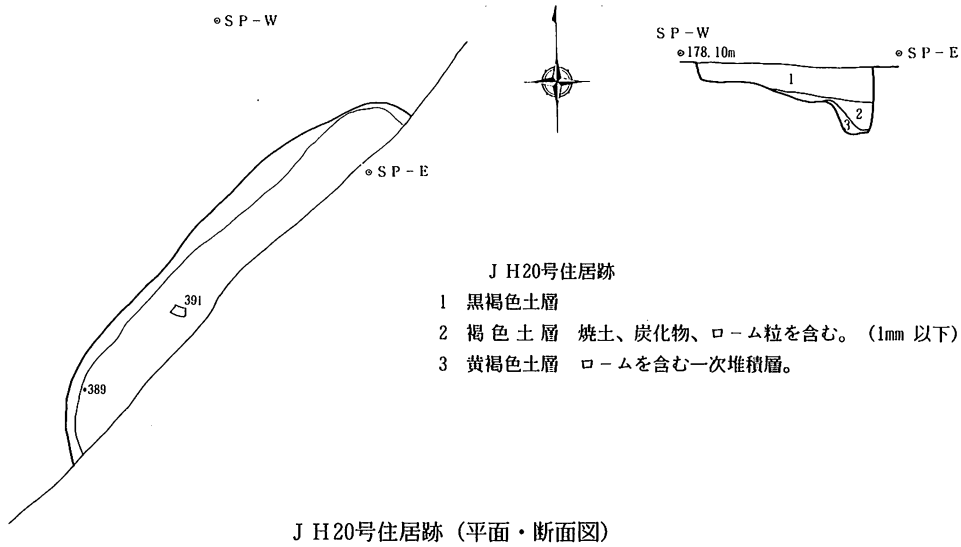




JH19号住居跡

1　黒褐色土層
2　褐色土層　焼土、炭化物、ローム粒を含む。（1mm 以下、3より暗い。）
3　褐色土層　同上ながら粒子が2より粗い。（1mm 以上程度）
4　黄褐色土層　ロームを含む一次堆積層。

JH19号住居跡（平面・断面図）



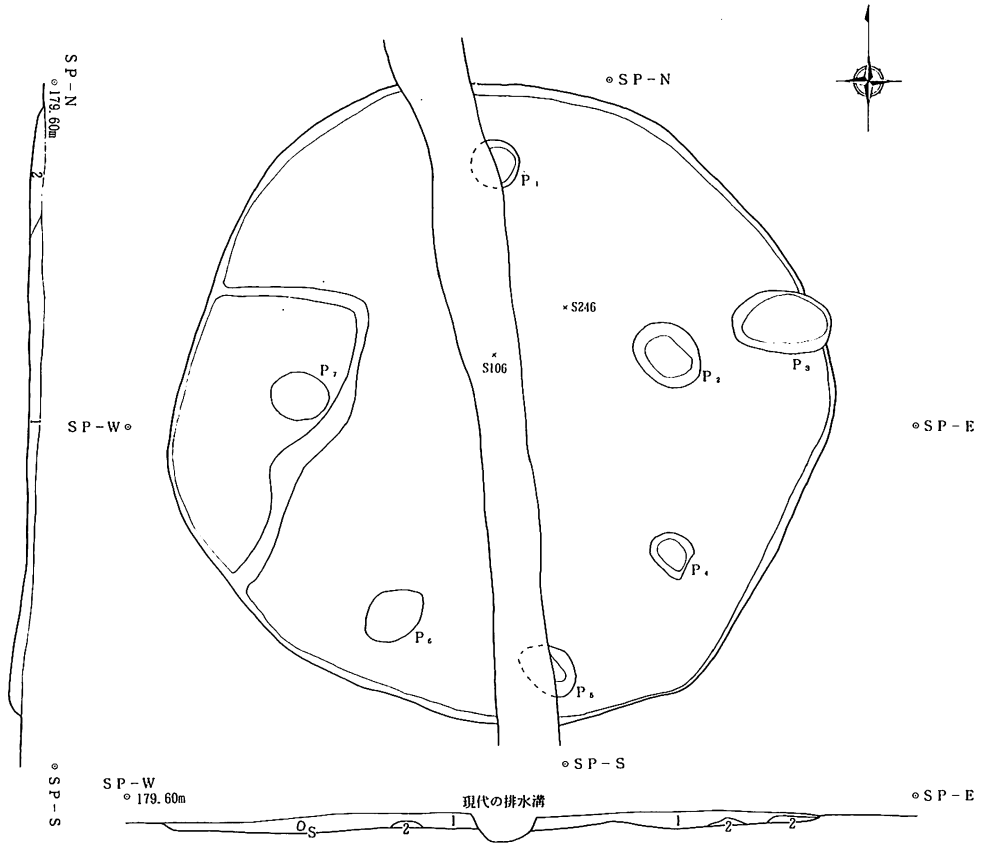
J H20号住居跡

1　黒褐色土層

2　褐 色 土 層　焼土、炭化物、ローム粒を含む。（1mm 以下）

3　黄褐色土層　ローム含む一次堆積層。

J H20号住居跡（平面・断面図）



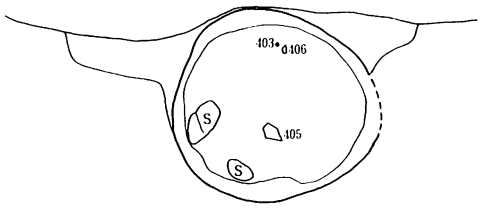
J H21号住居跡（平面・断面図）

J H21号住居跡

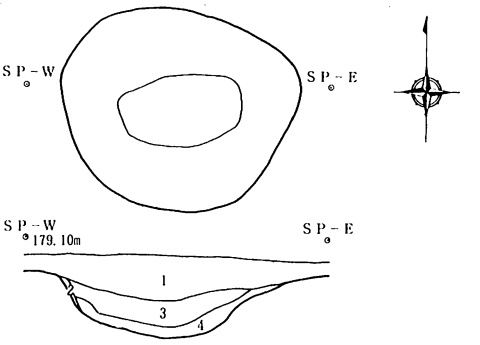
1　黒褐色土層　軽石粒とローム粒を含む。

2　褐 色 土 層　ブロック状ロームを含む一次堆積層。

0　1　2m

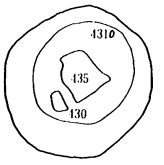


D－3号土拡（平面図）

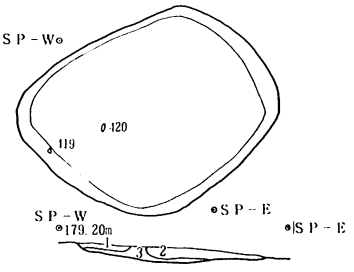


D－7号土拡（平面図）

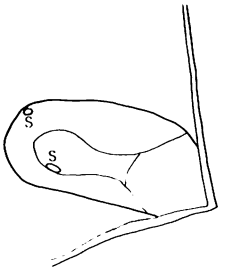
D－6号土拡（平面図）



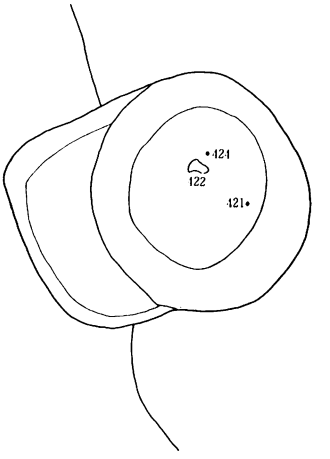
D－11号土拡（平面図）



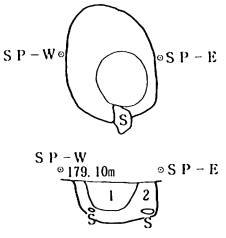
D－9号土拡（平面・断面図）



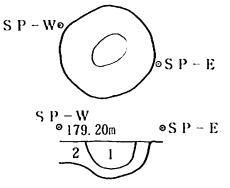
D－8号土拡（平面図）



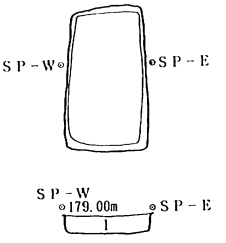
D－10号土拡（平面図）



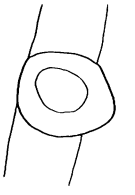
D－12号土拡（平面・断面図）



D－13号土拡（平面・断面図）



D－14号土拡（平面・断面図）



D－15号土拡（平面図）

D－7号土拡

1 黒　色　土　層　わずか焼土粒と炭化物を含む。
2 黒　色　土　層　ソフトローム層。
3 黄 褐 色 土 層　ロームを含む。
4 黄　色　土　層

D－9号土拡

1 褐 色 土 層　ロームブロックを含む。
2 黒褐色土層　粒状の軽石を含む。
3 黒褐色土層

D－12号土拡

1 黒褐色土層　砂粒を含む。パサついている。
2 黄褐色土層　わずか軽石を含む。粘性あり。

D－13号土拡

1 黒褐色土層　砂粒をわずか含む。パサついている。
2 黄褐色土層　軽石をわずか含む。粘性あり。

D－14号土拡

1 黒褐色土層　わずかローム粒と砂粒を含む。パサついている。

0　1　2m

Fig. 23　縄文時代の土拡

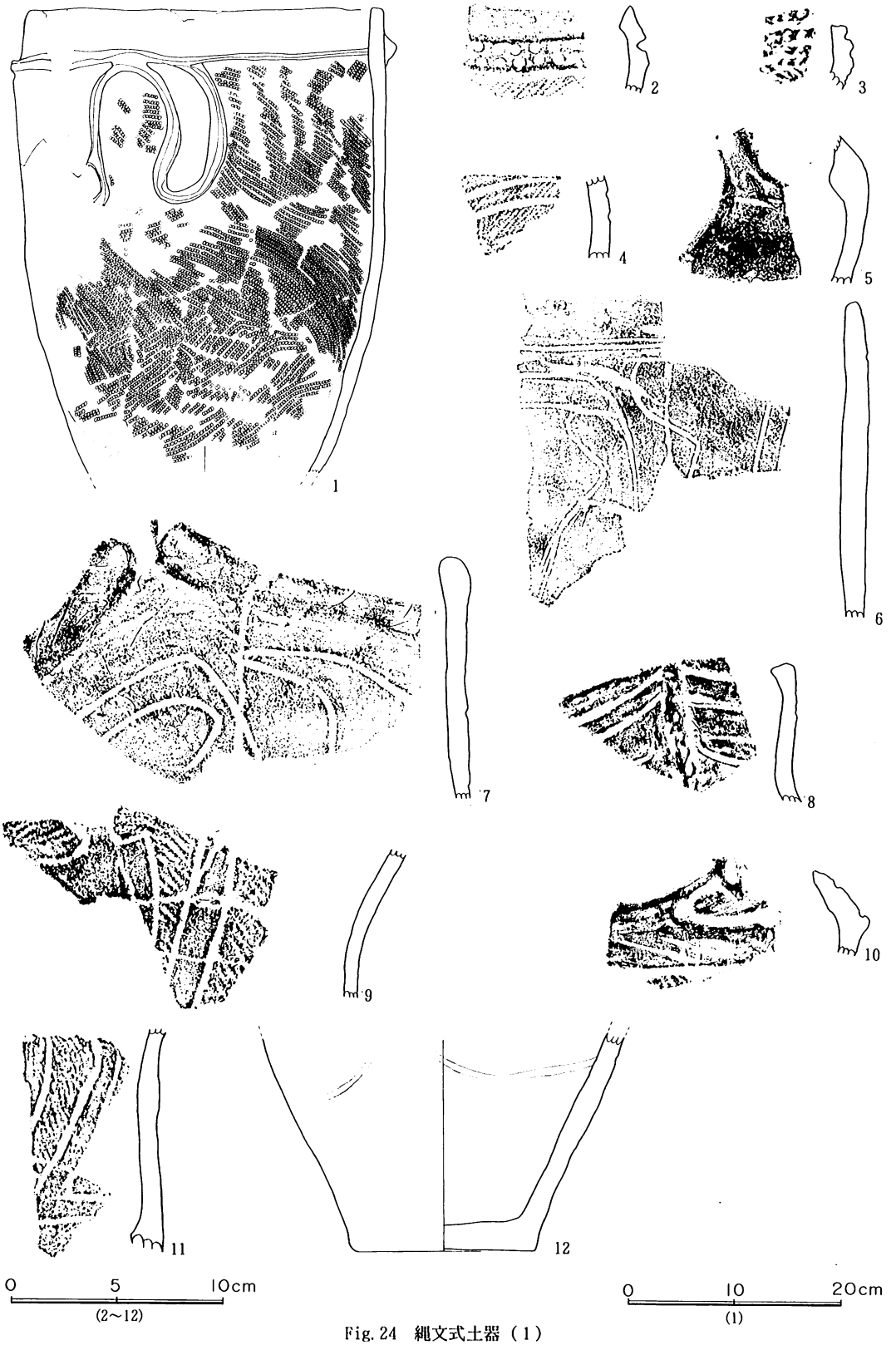


Fig. 24　縄文式土器（1）

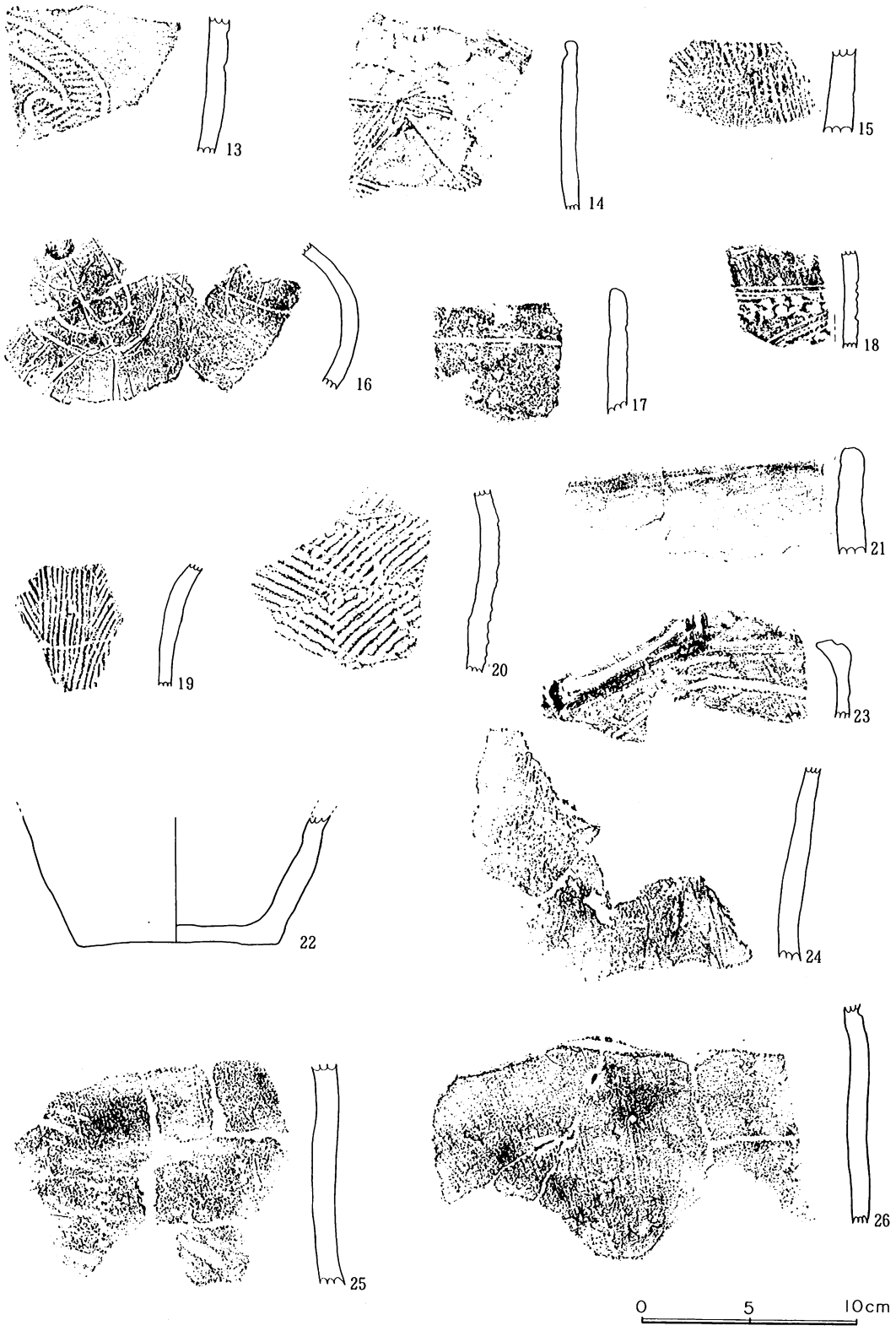


Fig. 25　縄文式土器（2）

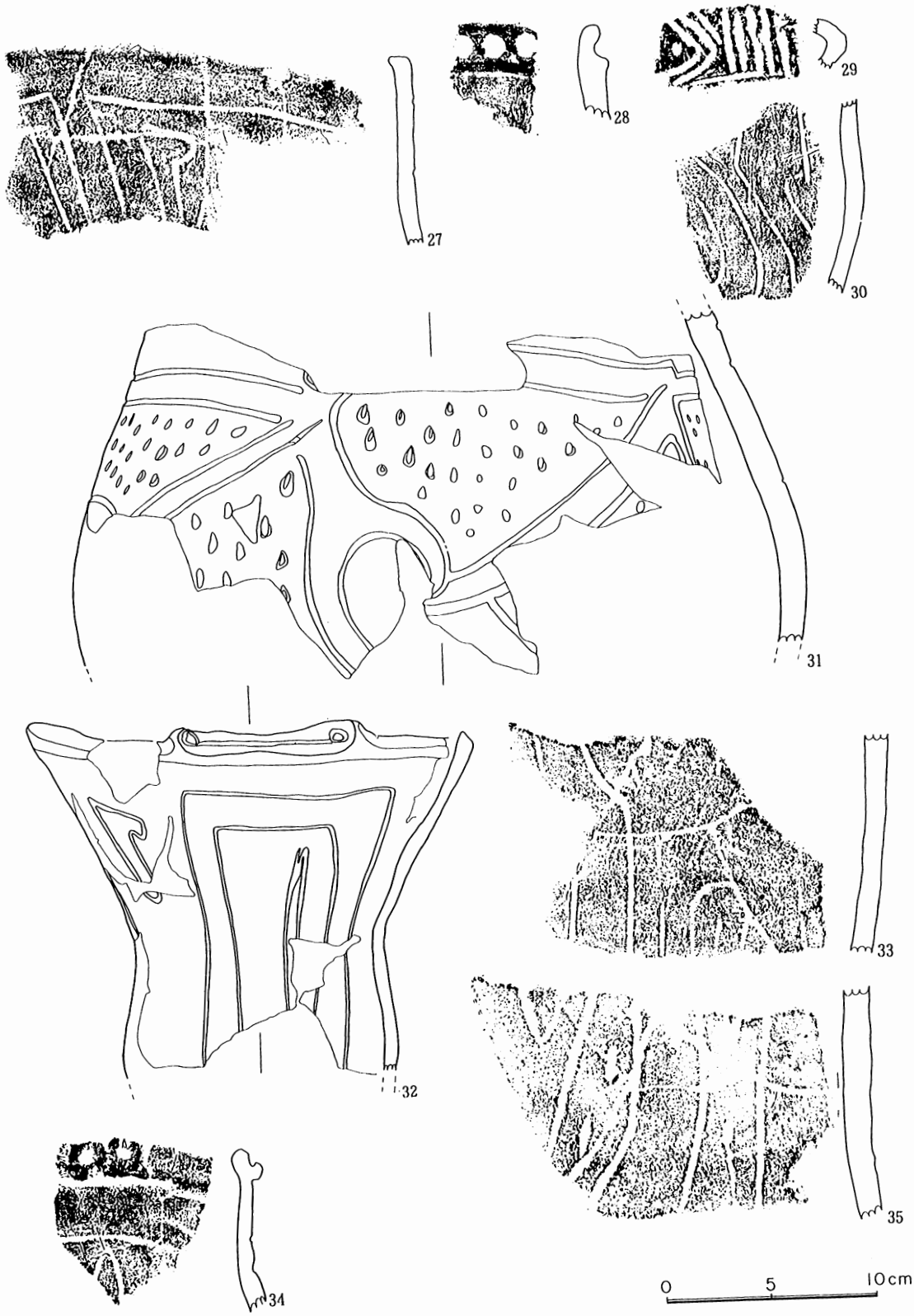


Fig. 26　縄文式土器（3）

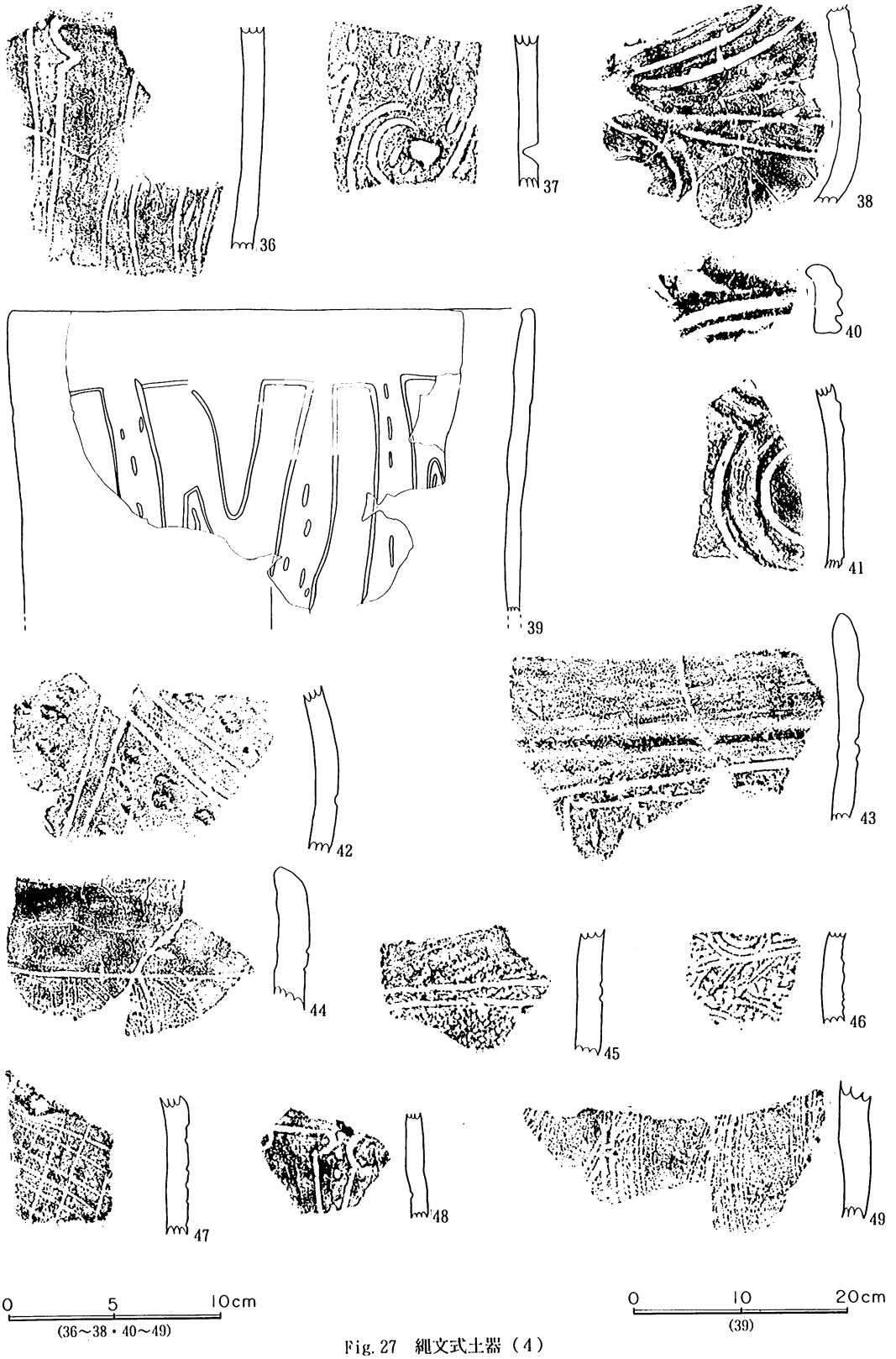


Fig. 27 縄文式土器（4）

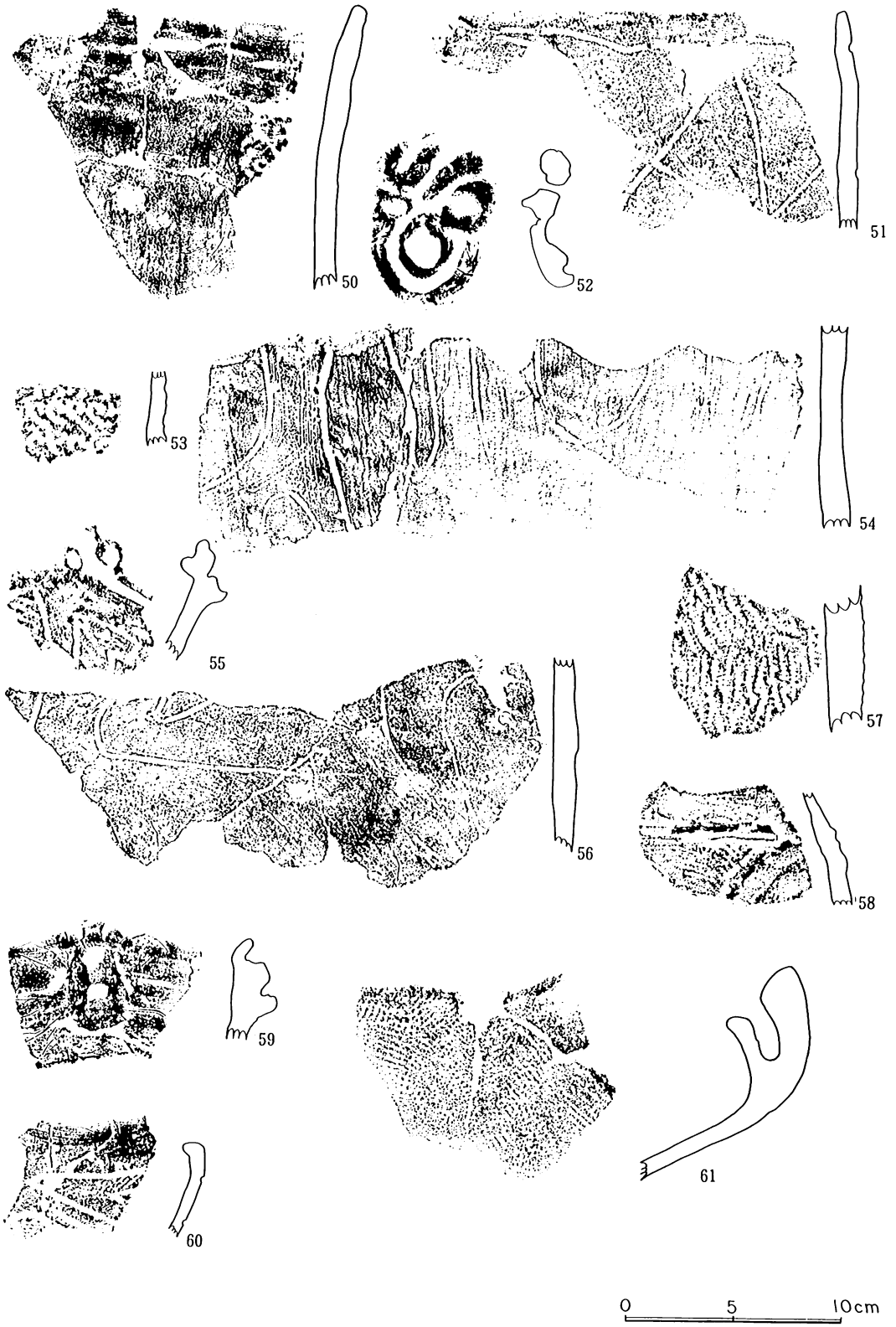


Fig. 28　縄文式土器（5）

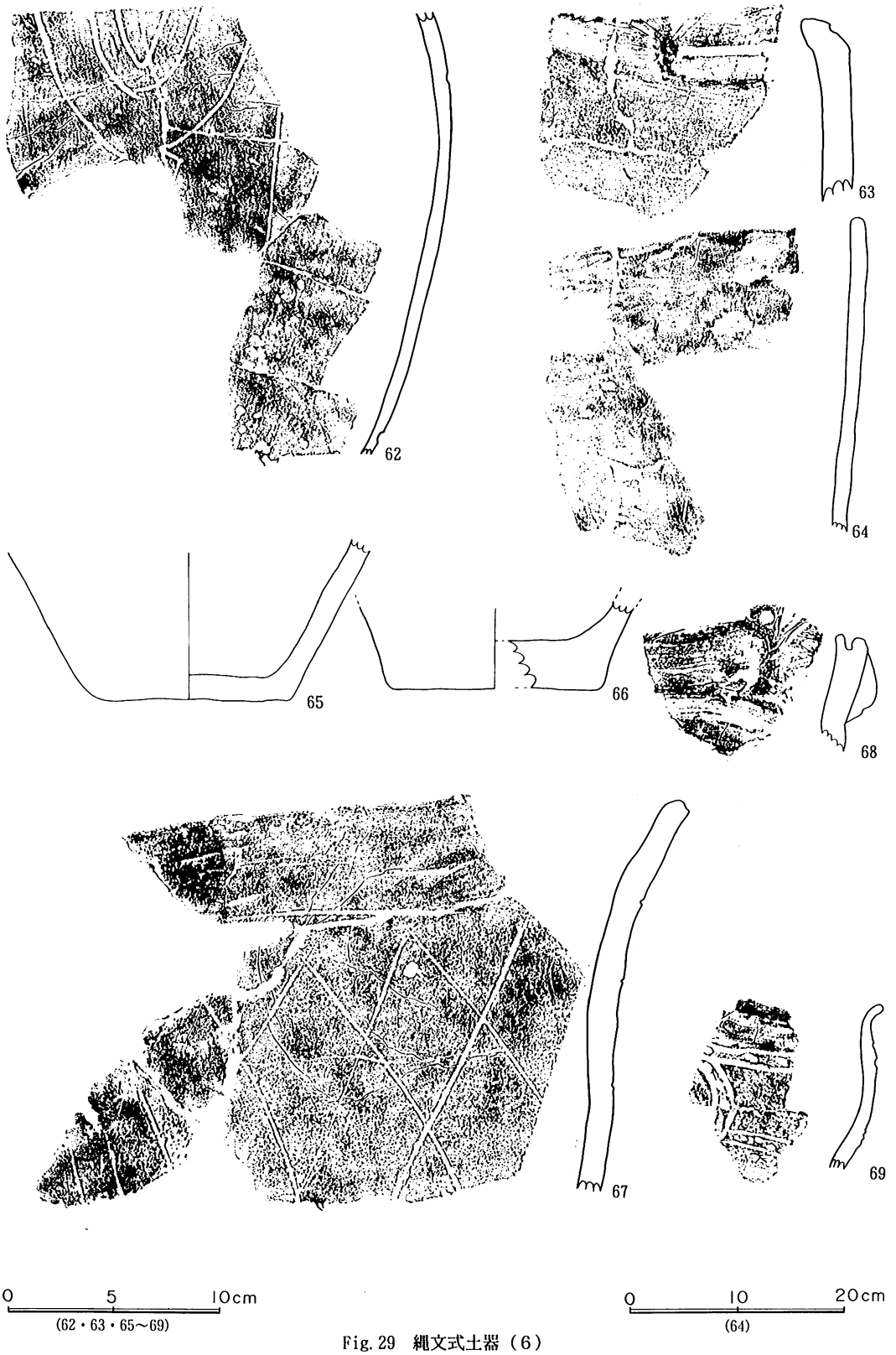


Fig. 29 縄文式土器（6）

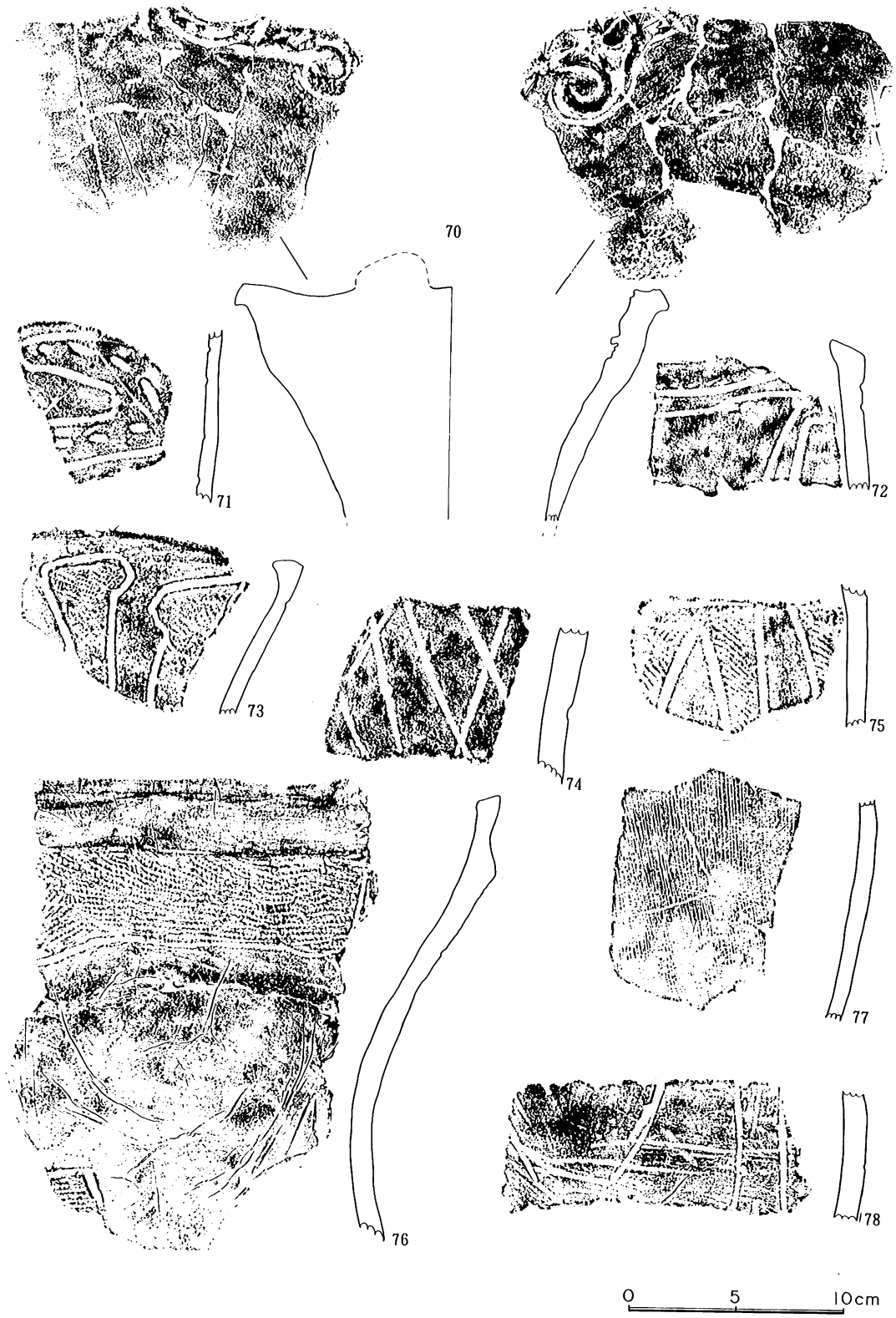


Fig. 30　縄文式土器（7）

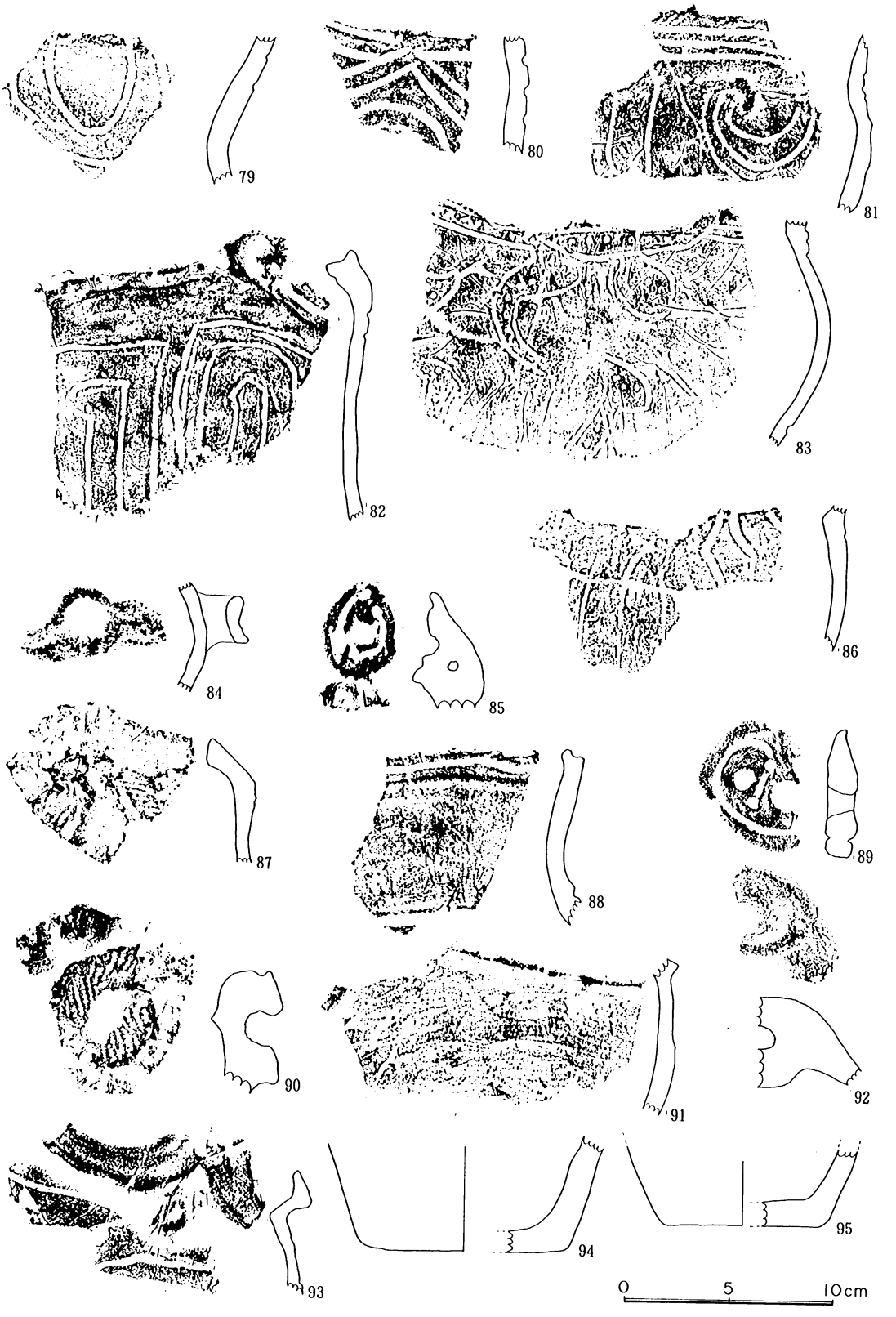


Fig. 31　縄文式土器（8）

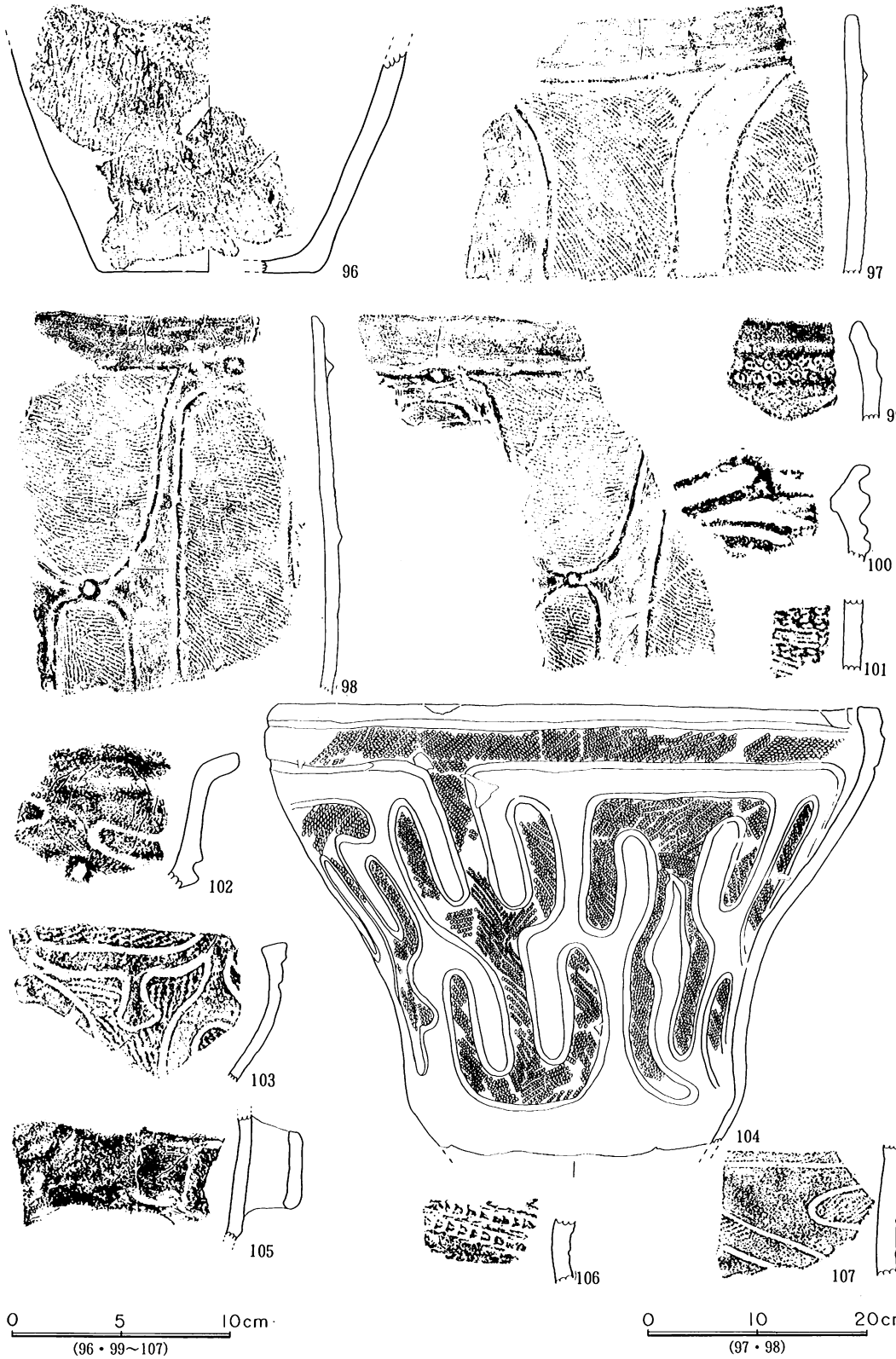


Fig. 32　縄文式土器（9）

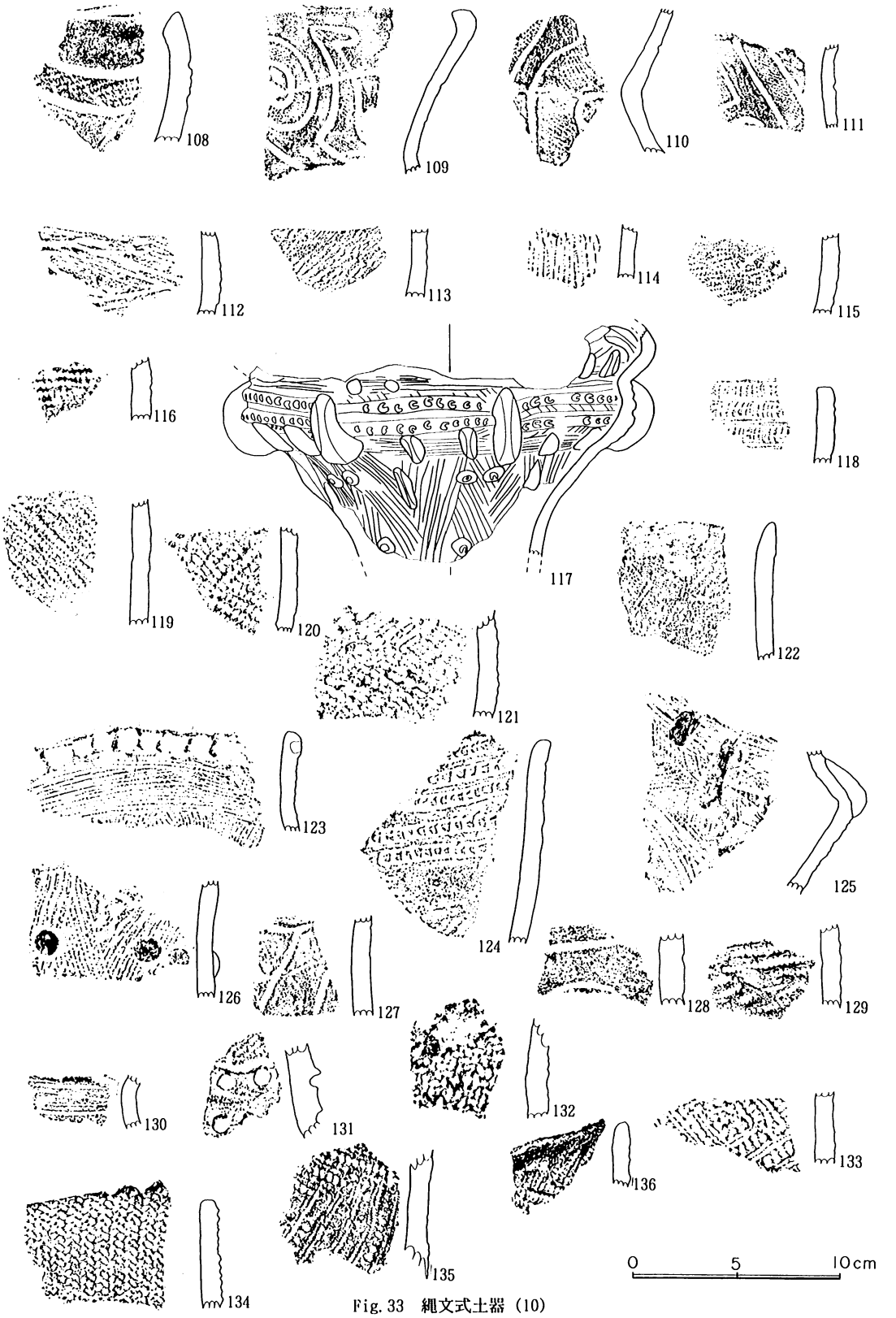


Fig. 33　縄文式土器（10）

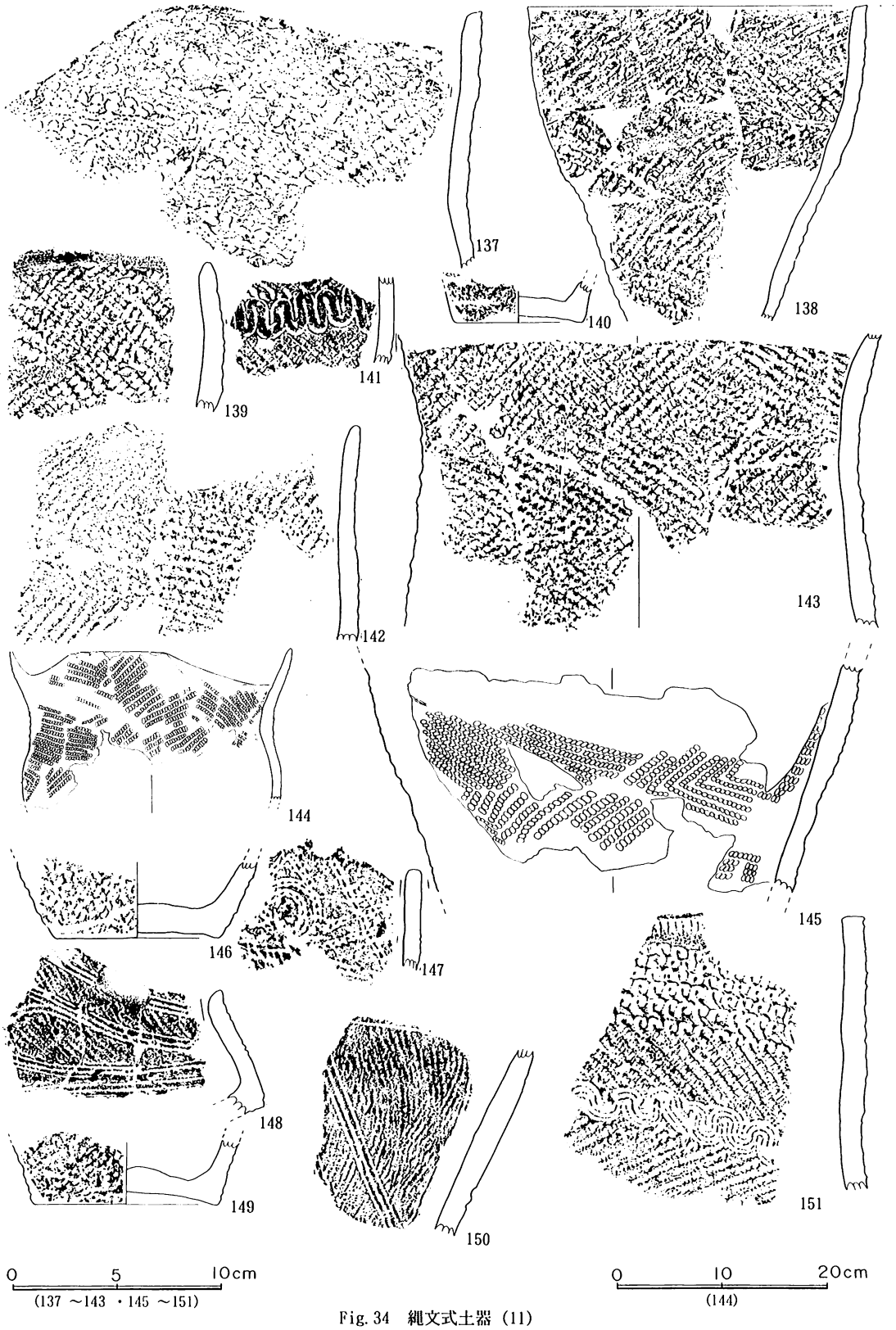


Fig. 34　縄文式土器 (11)

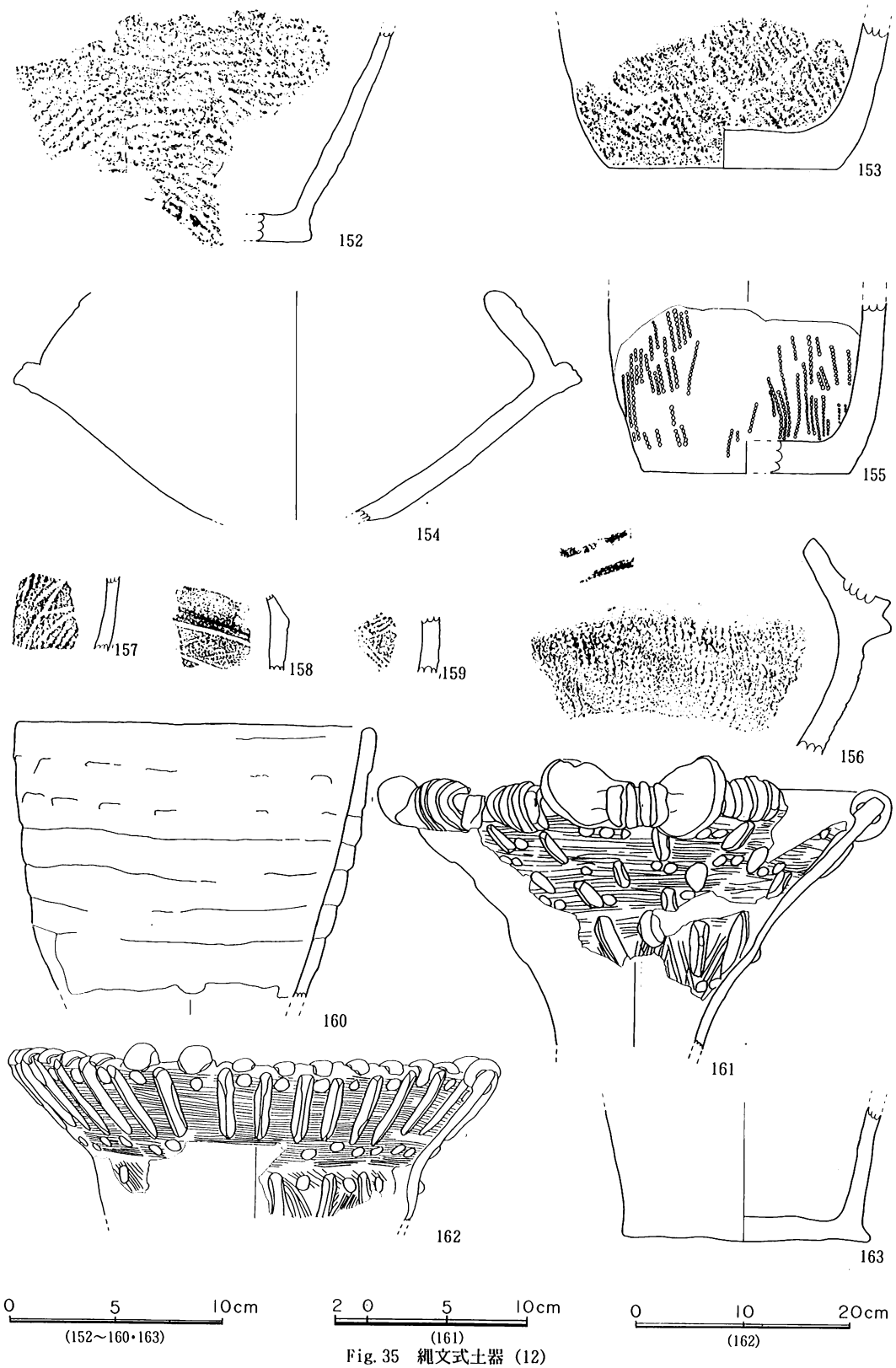


Fig. 35 縄文式土器 (12)

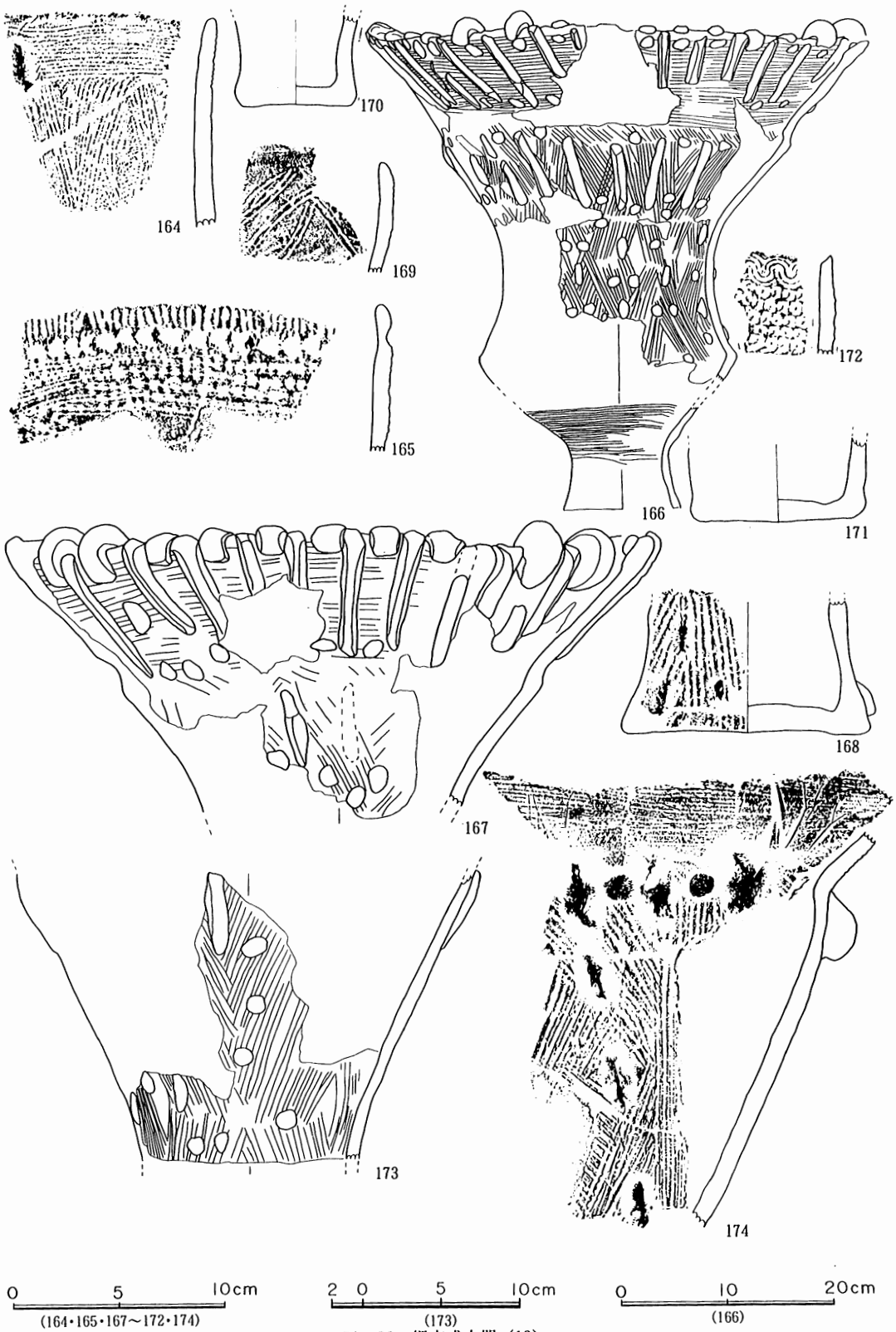


Fig. 36　縄文式土器 (13)

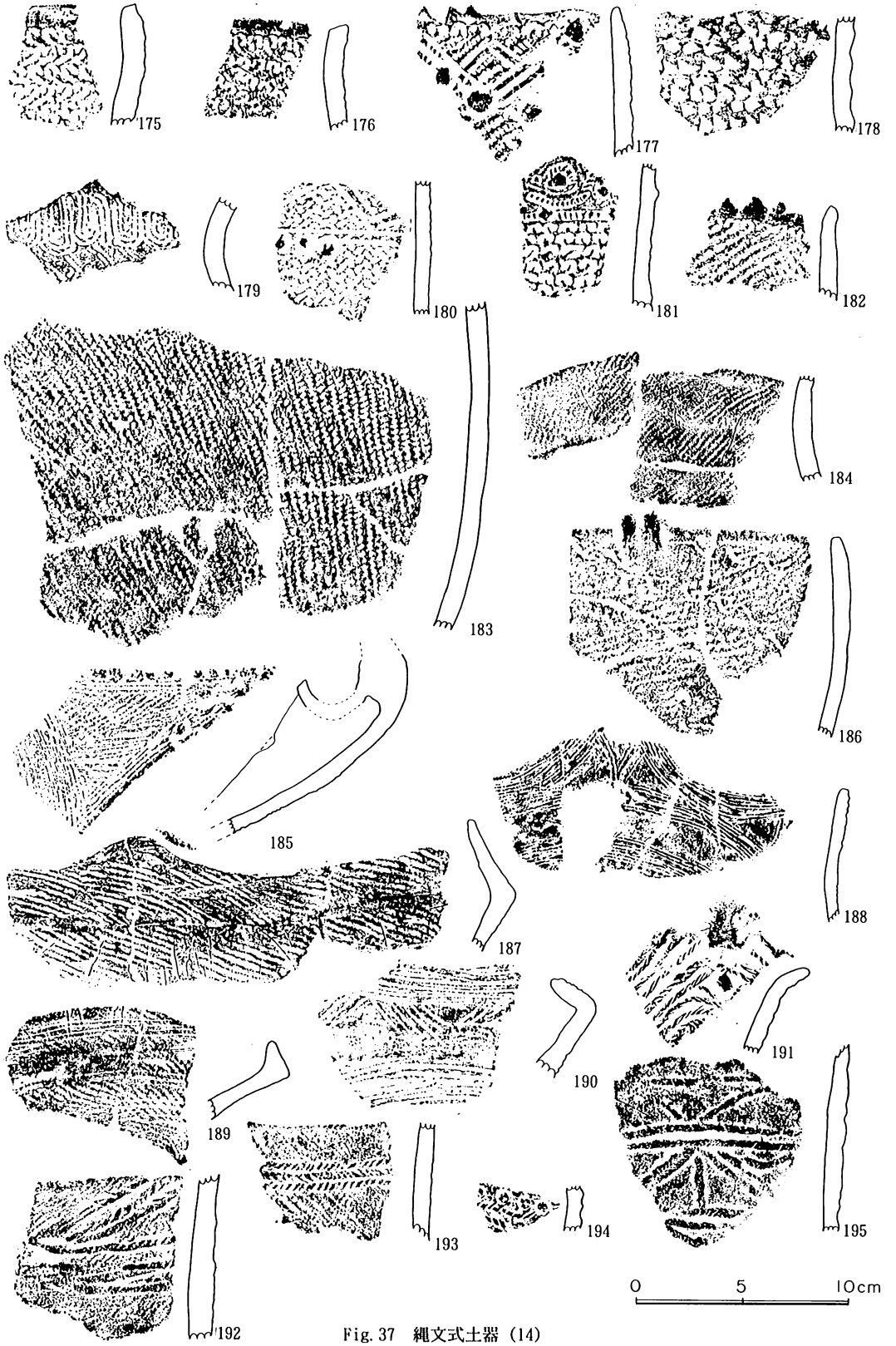


Fig. 37　縄文式土器 (14)

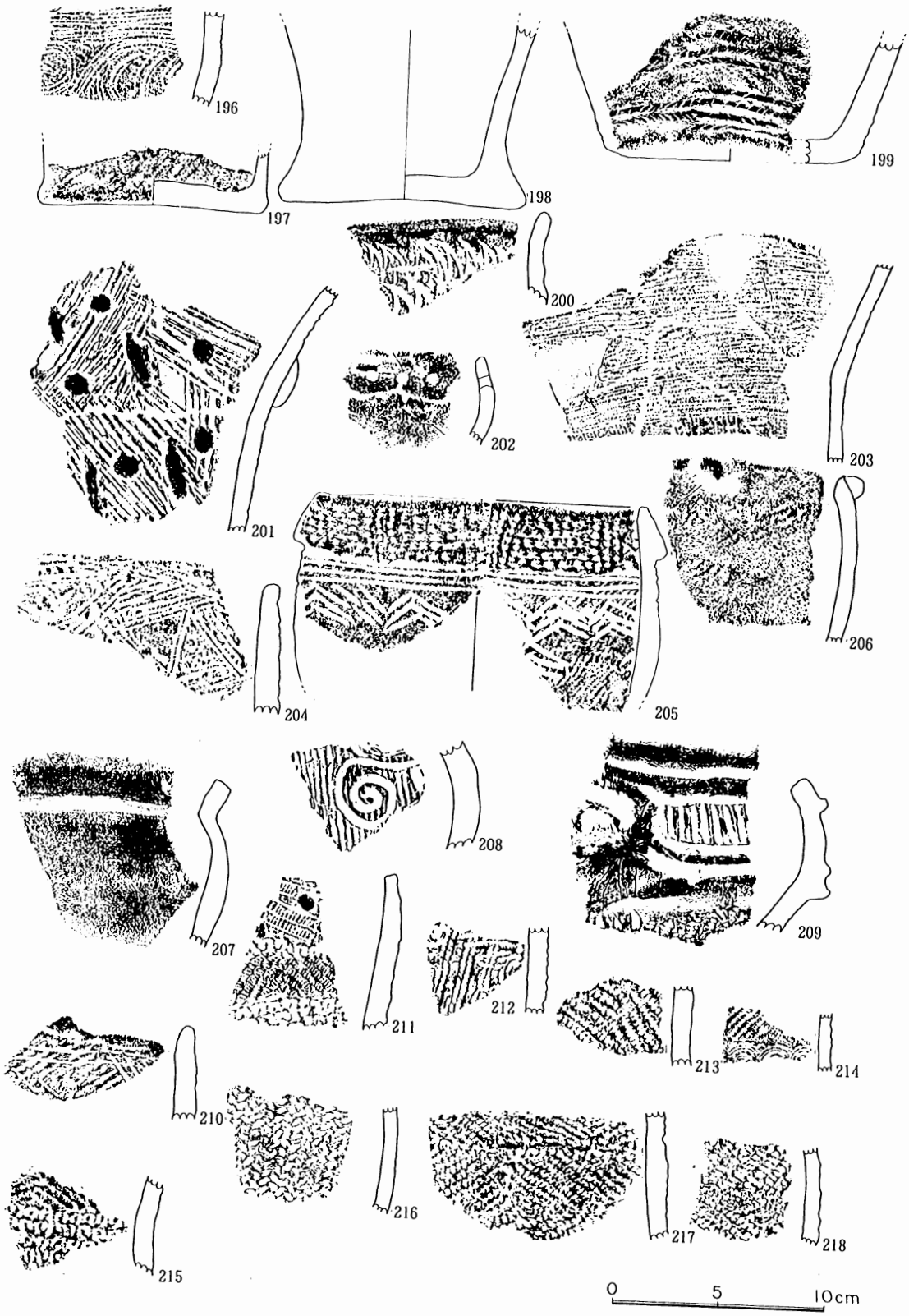


Fig. 38　縄文式土器 (15)

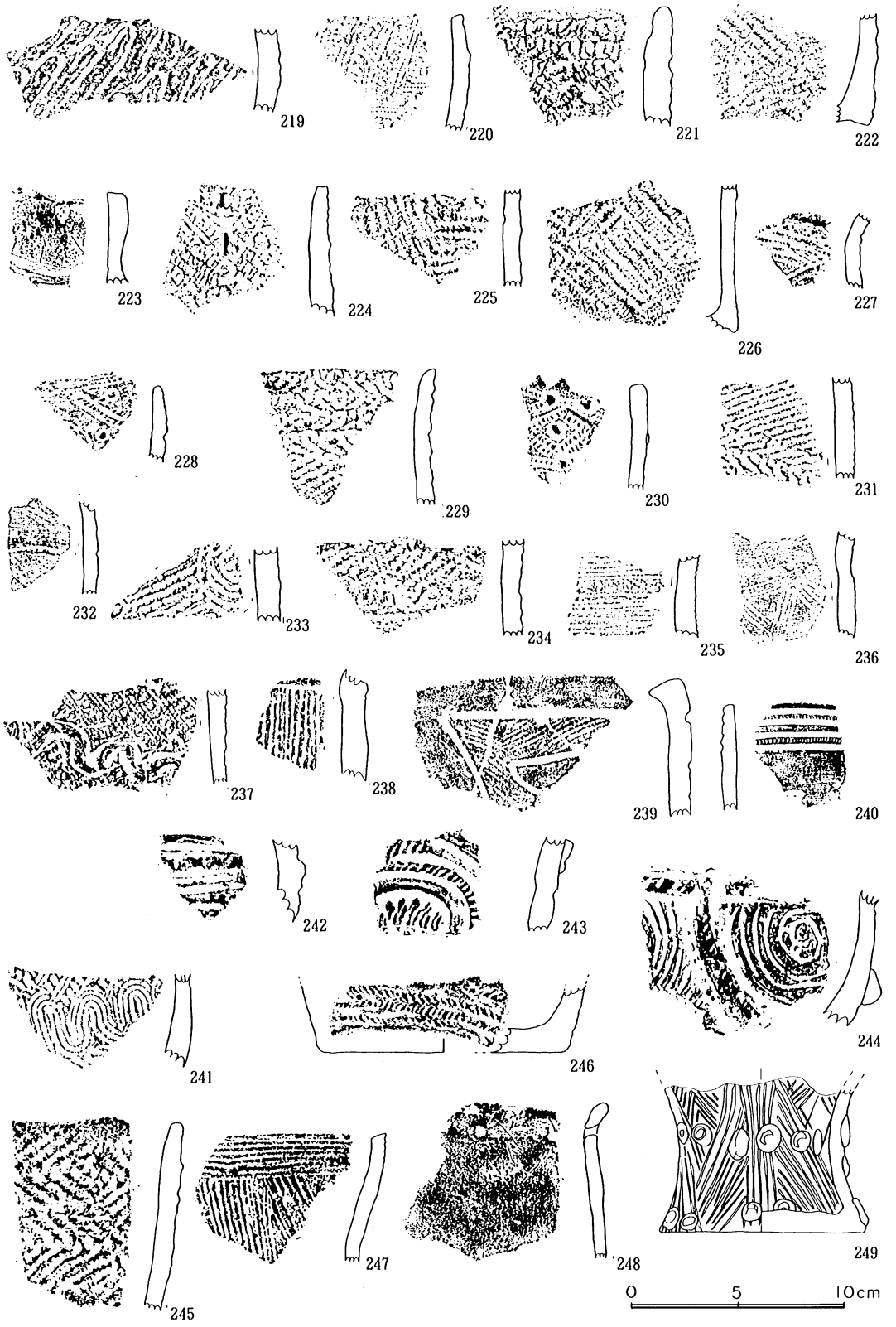


Fig. 39　縄文式土器 (16)

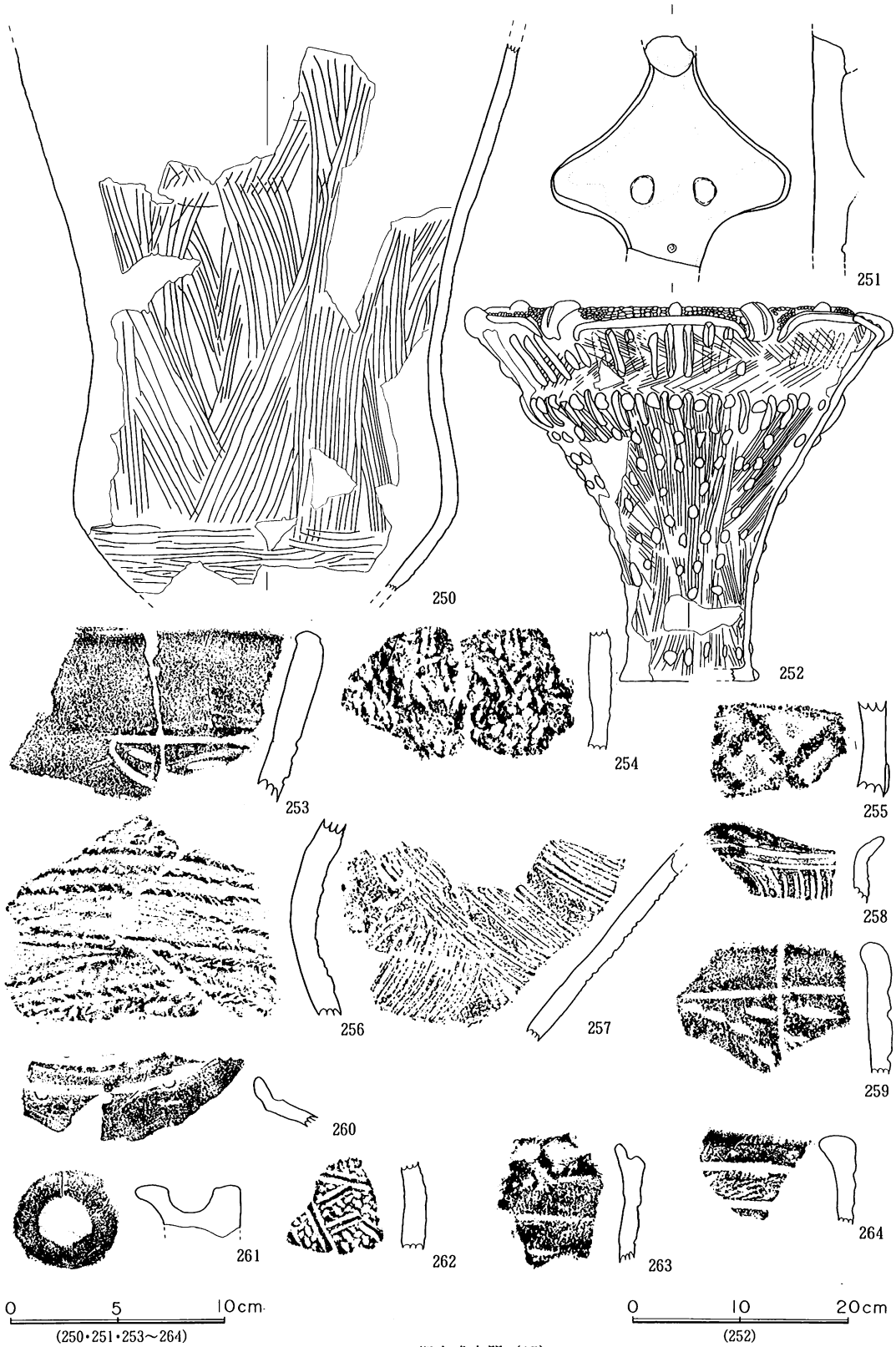


Fig. 40 縄文式土器 (17)

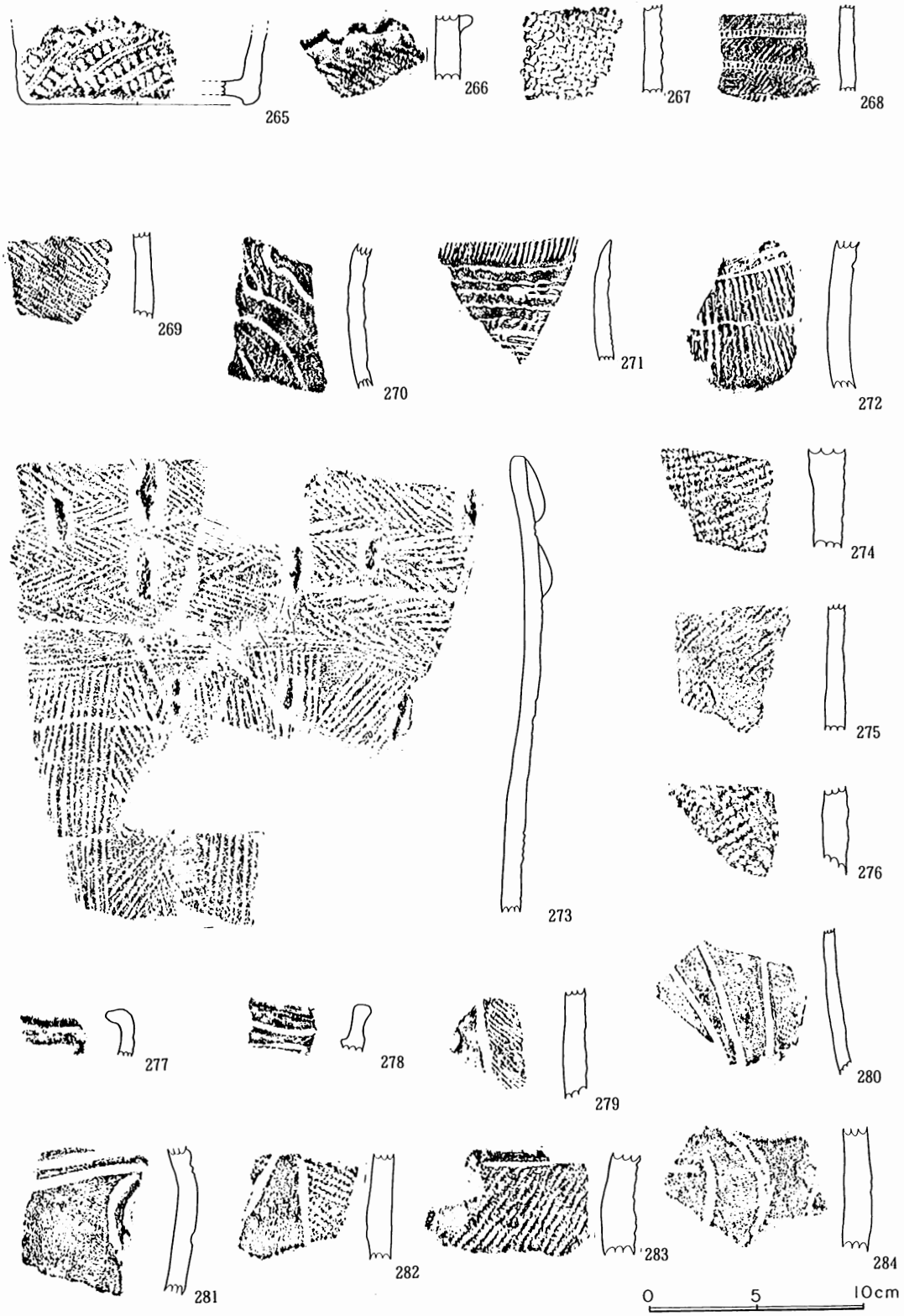


Fig. 41　縄文式土器 (18)

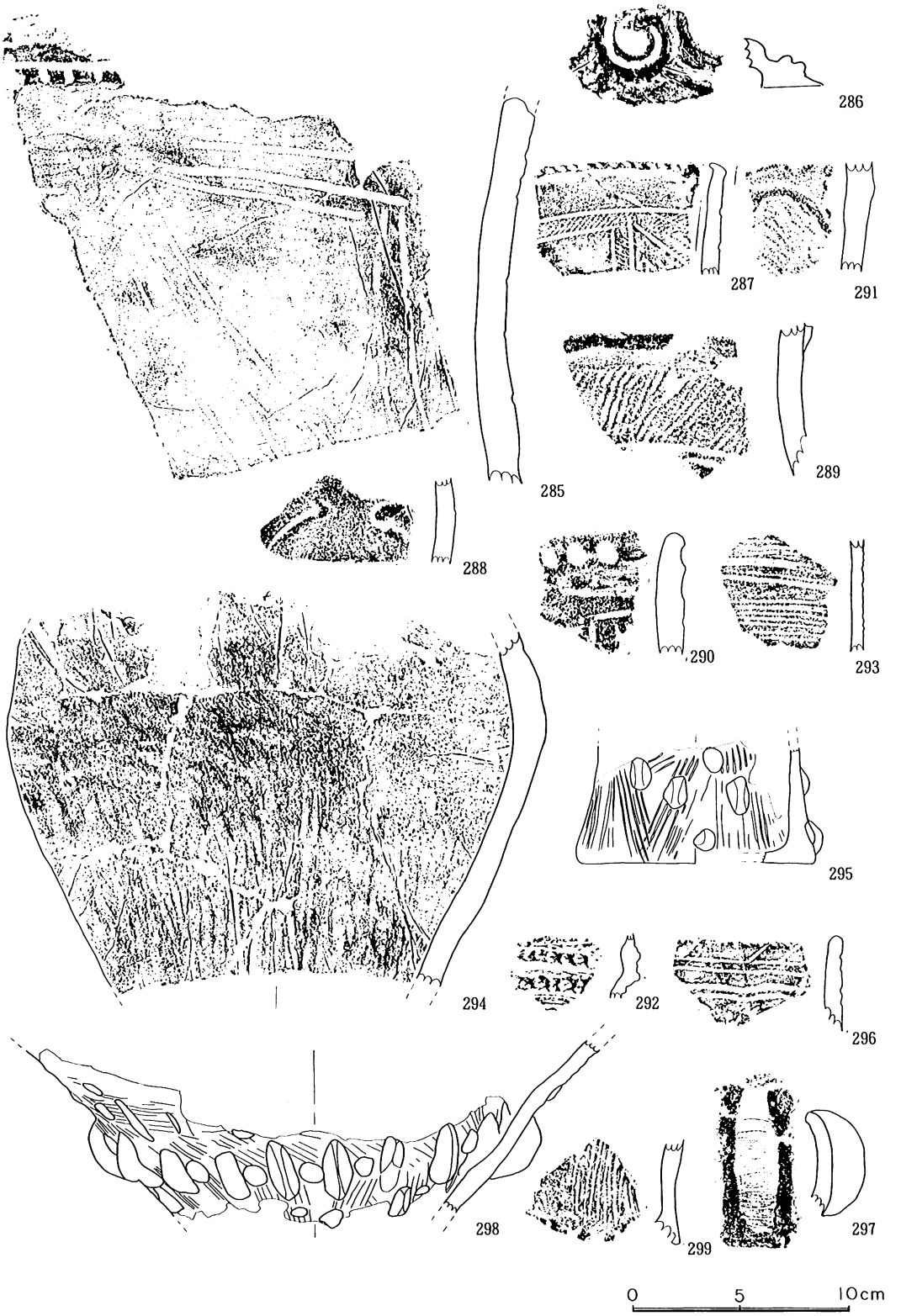


Fig. 42　縄文式土器 (19)

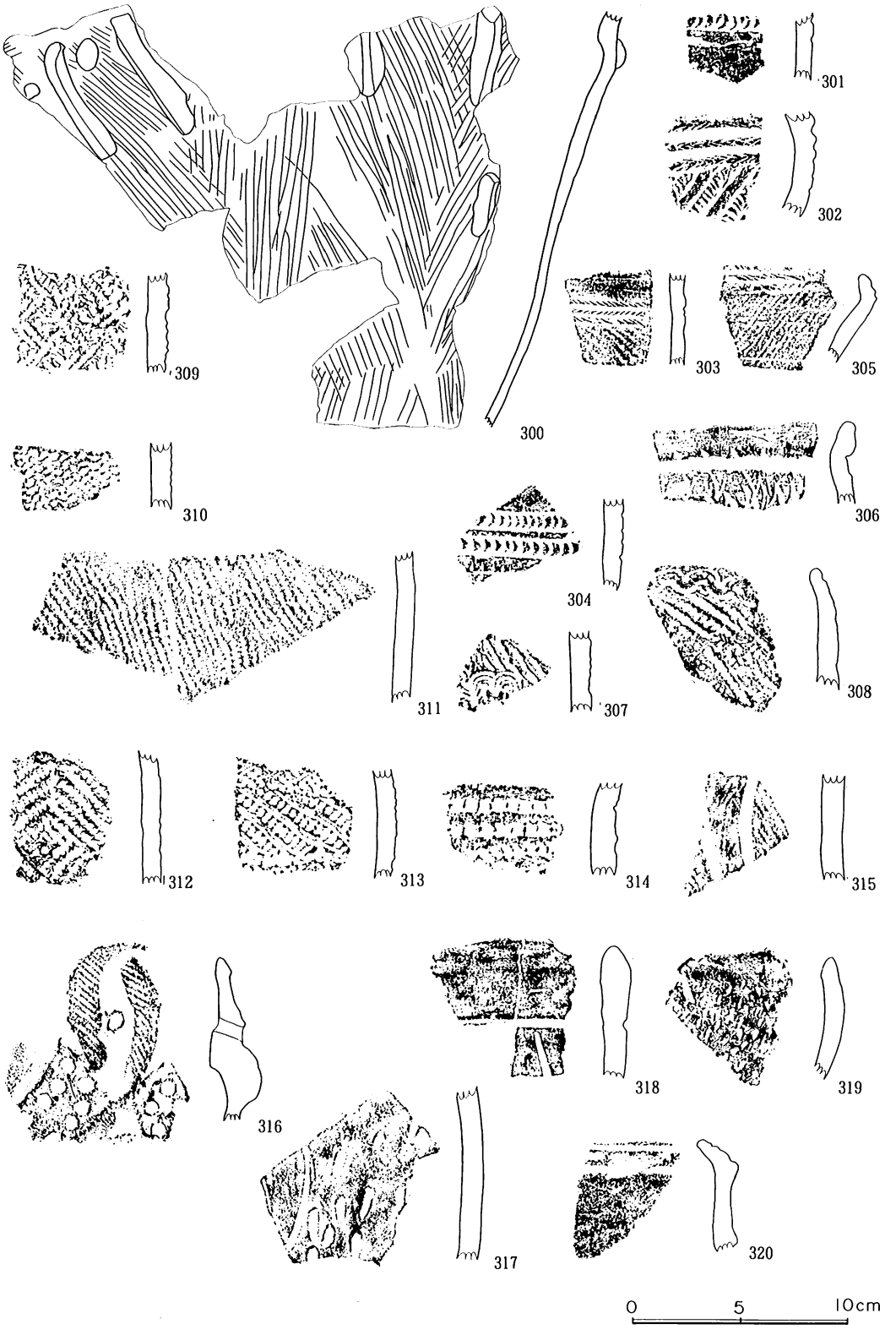


Fig. 43　縄文式土器 (20)

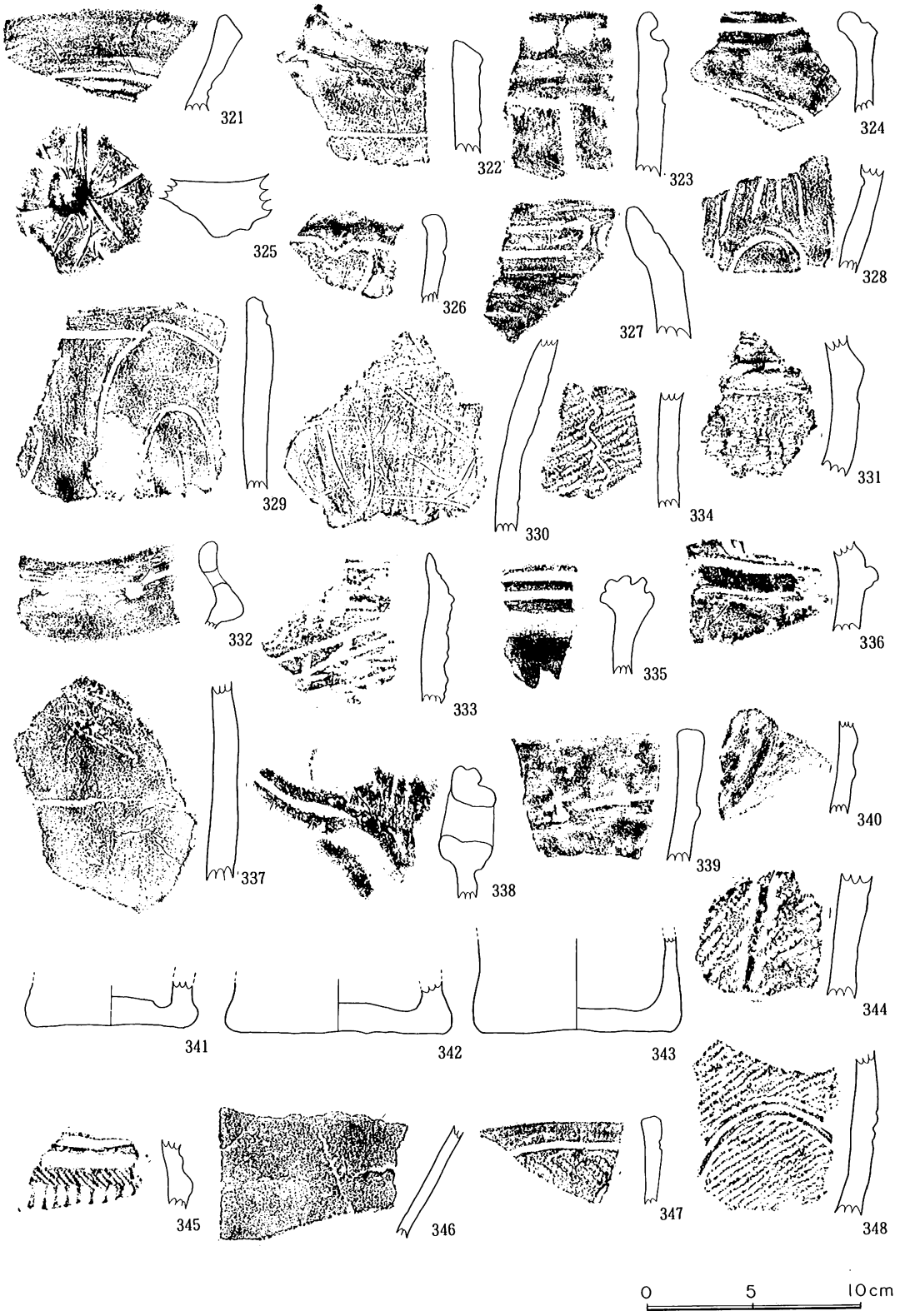


Fig. 44　縄文式土器 (21)

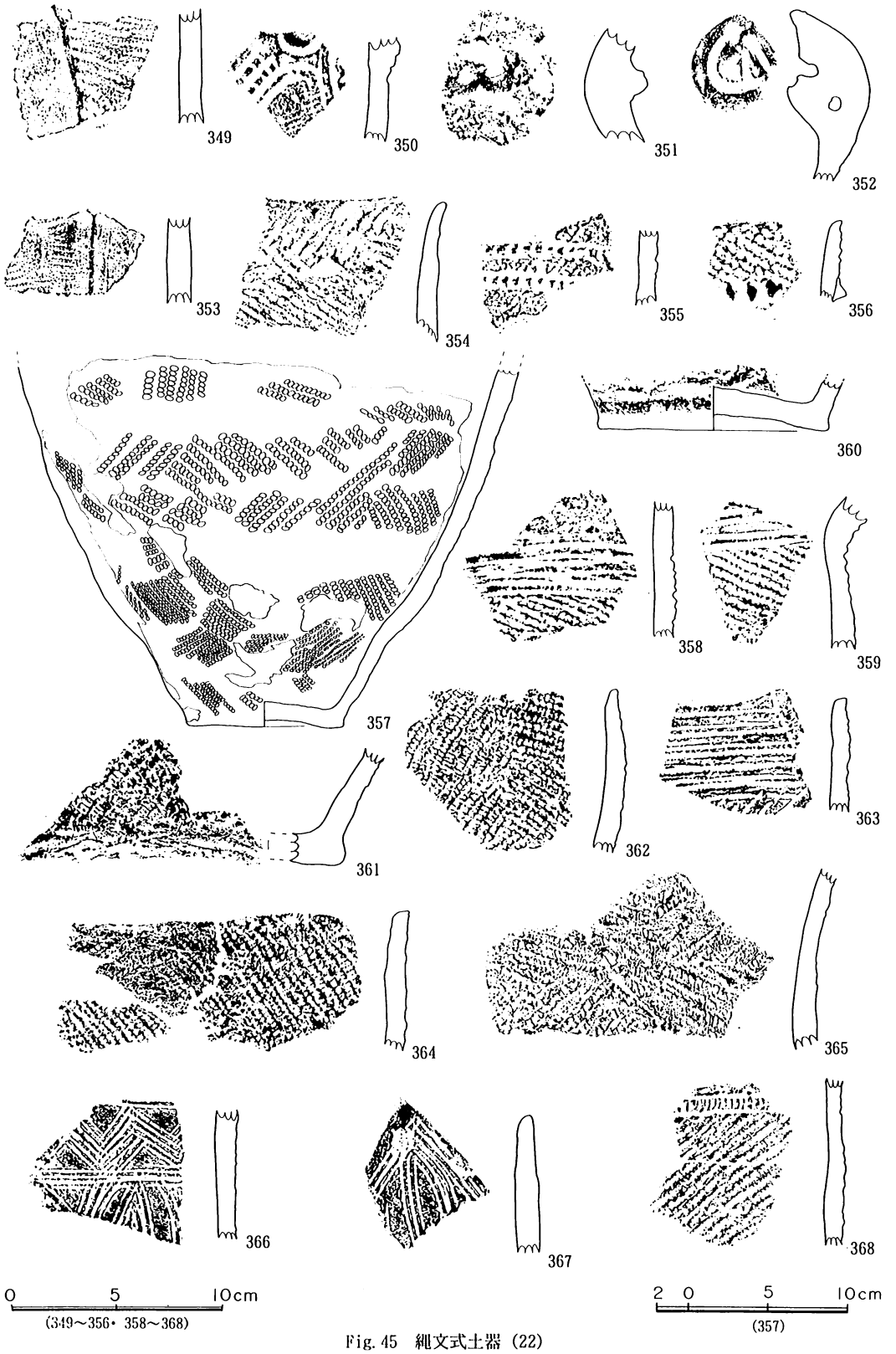


Fig. 45 縄文式土器 (22)

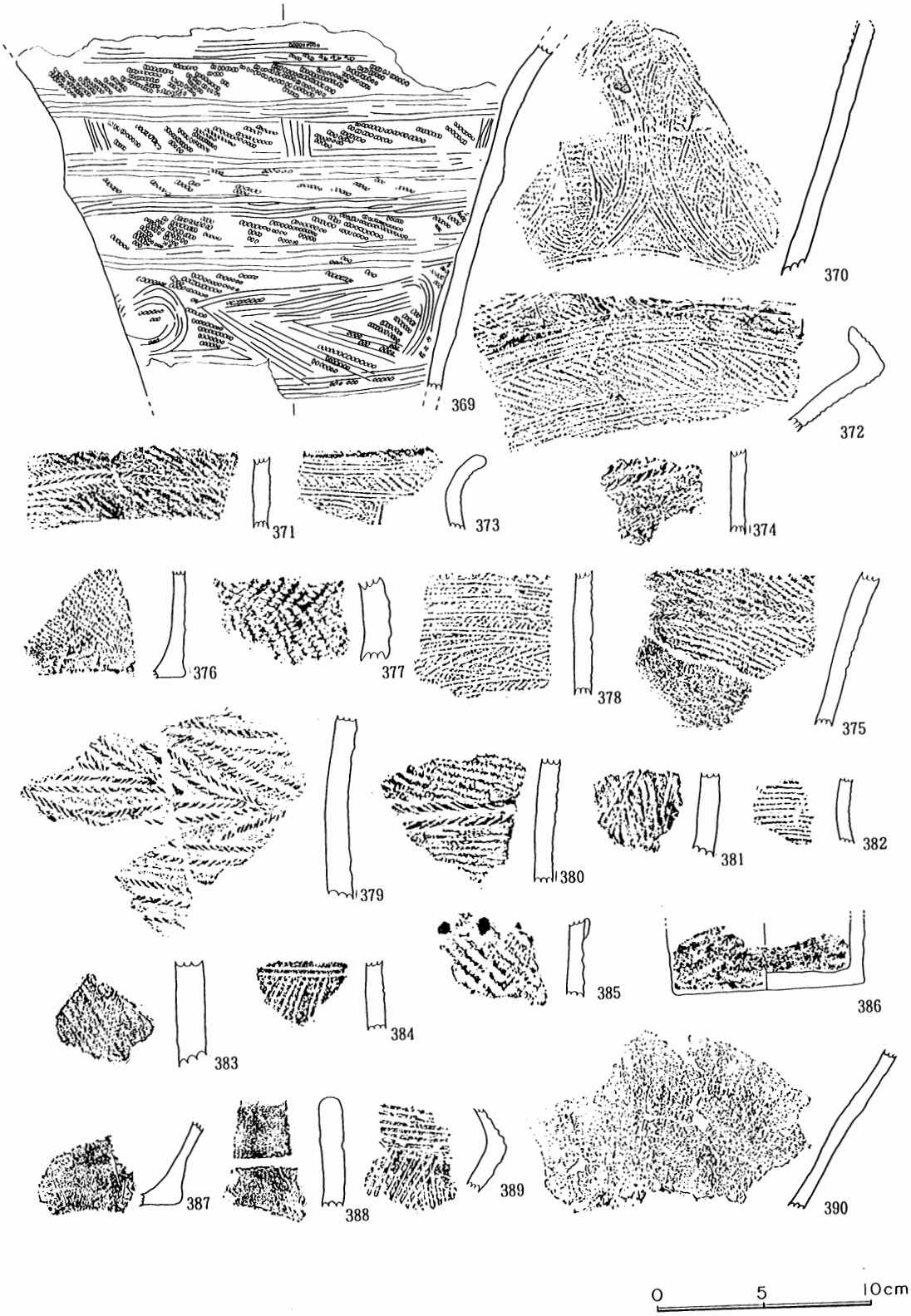


Fig. 46　縄文式土器 (23)

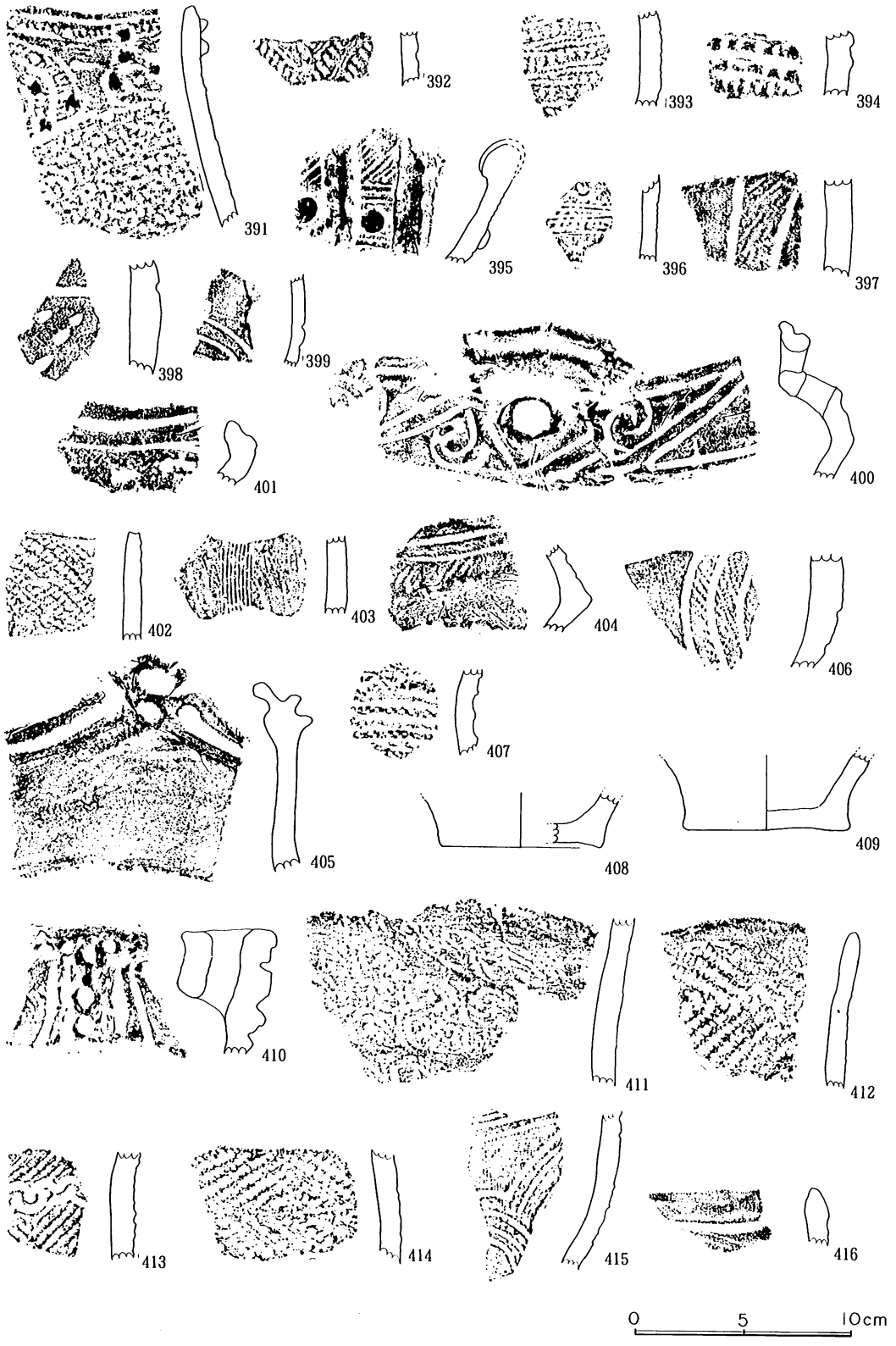


Fig. 47　縄文式土器 (24)

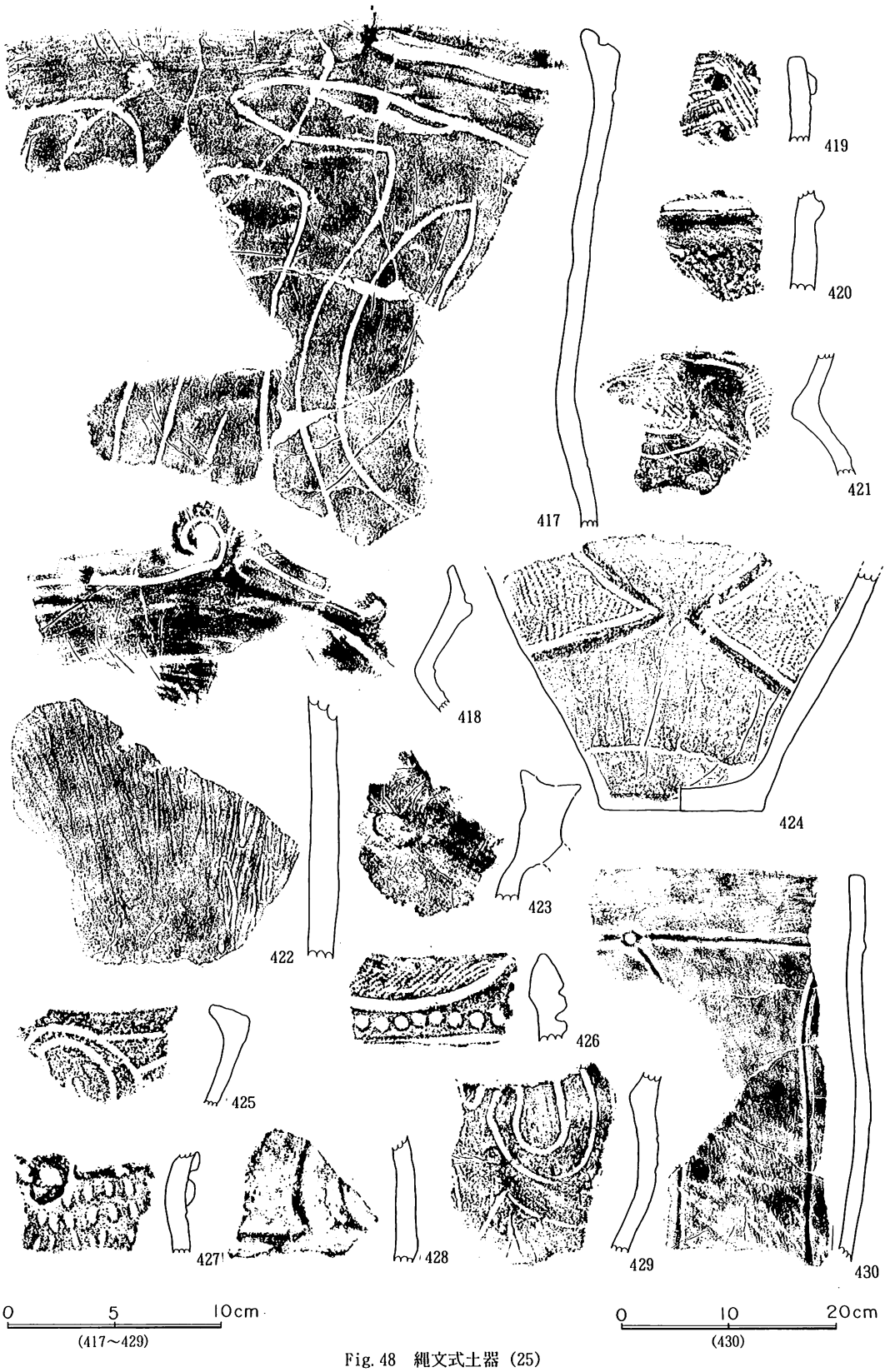


Fig. 48　縄文式土器 (25)

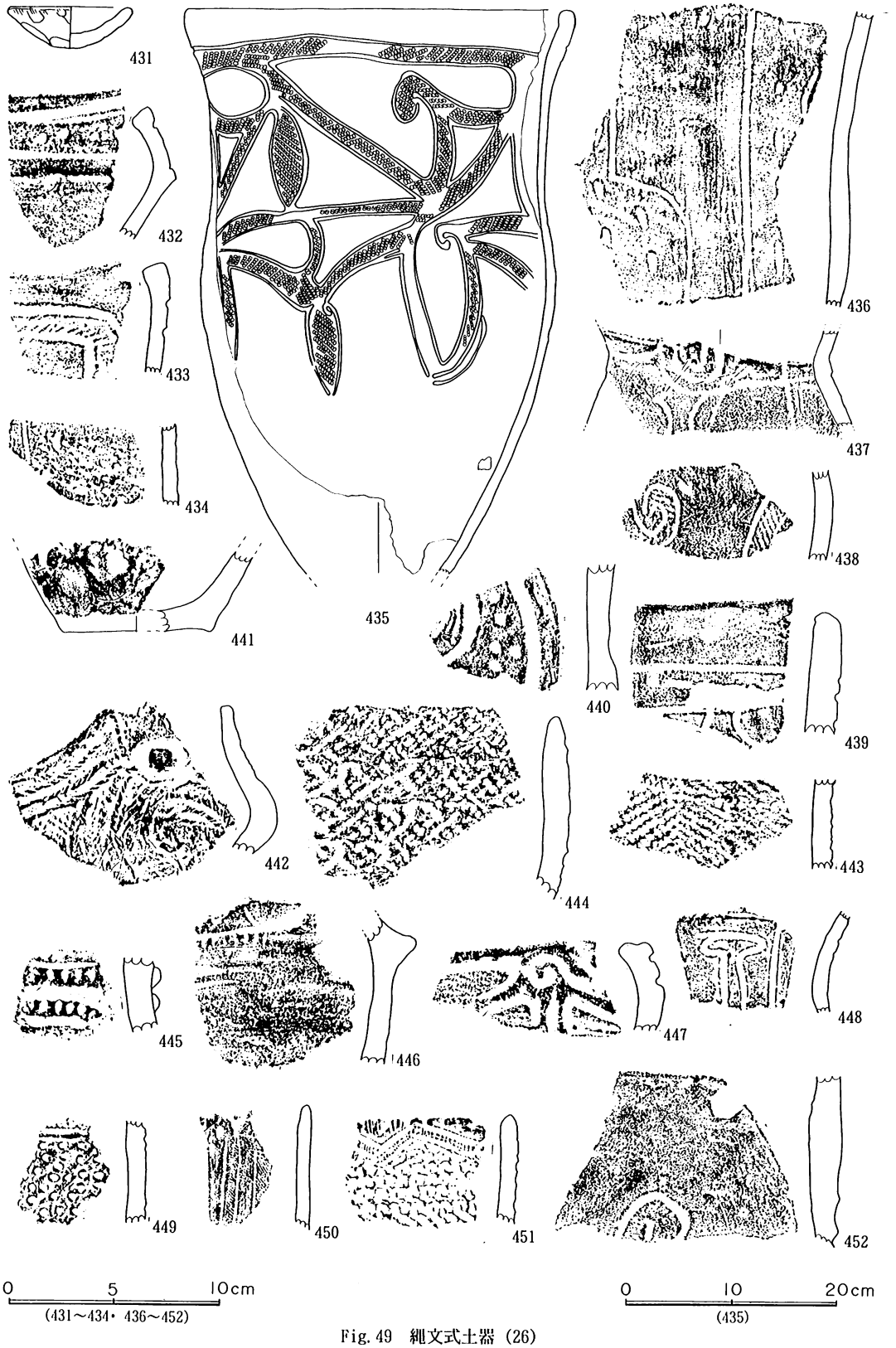


Fig. 49 縄文式土器 (26)

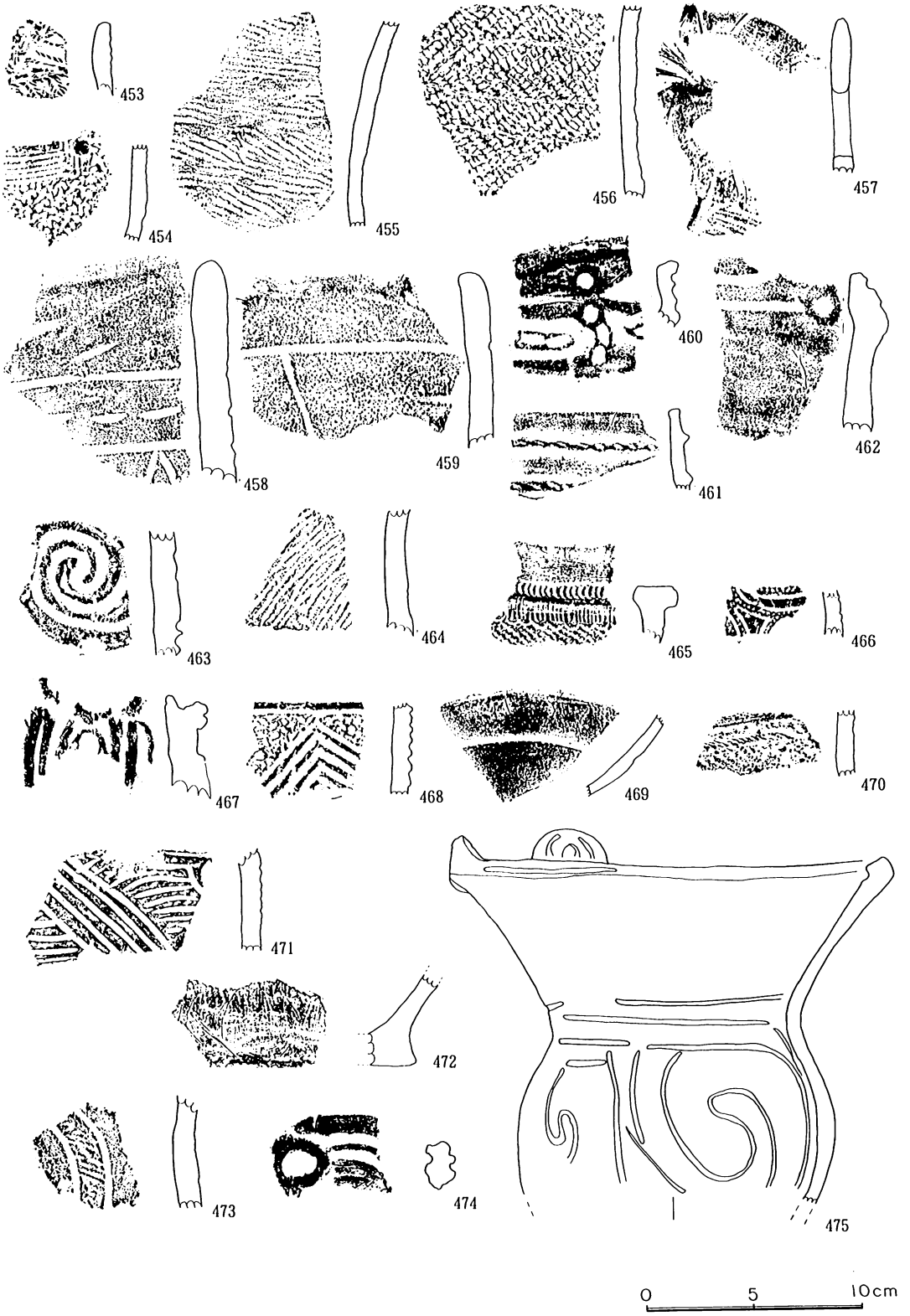


Fig. 50　縄文式土器 (27)

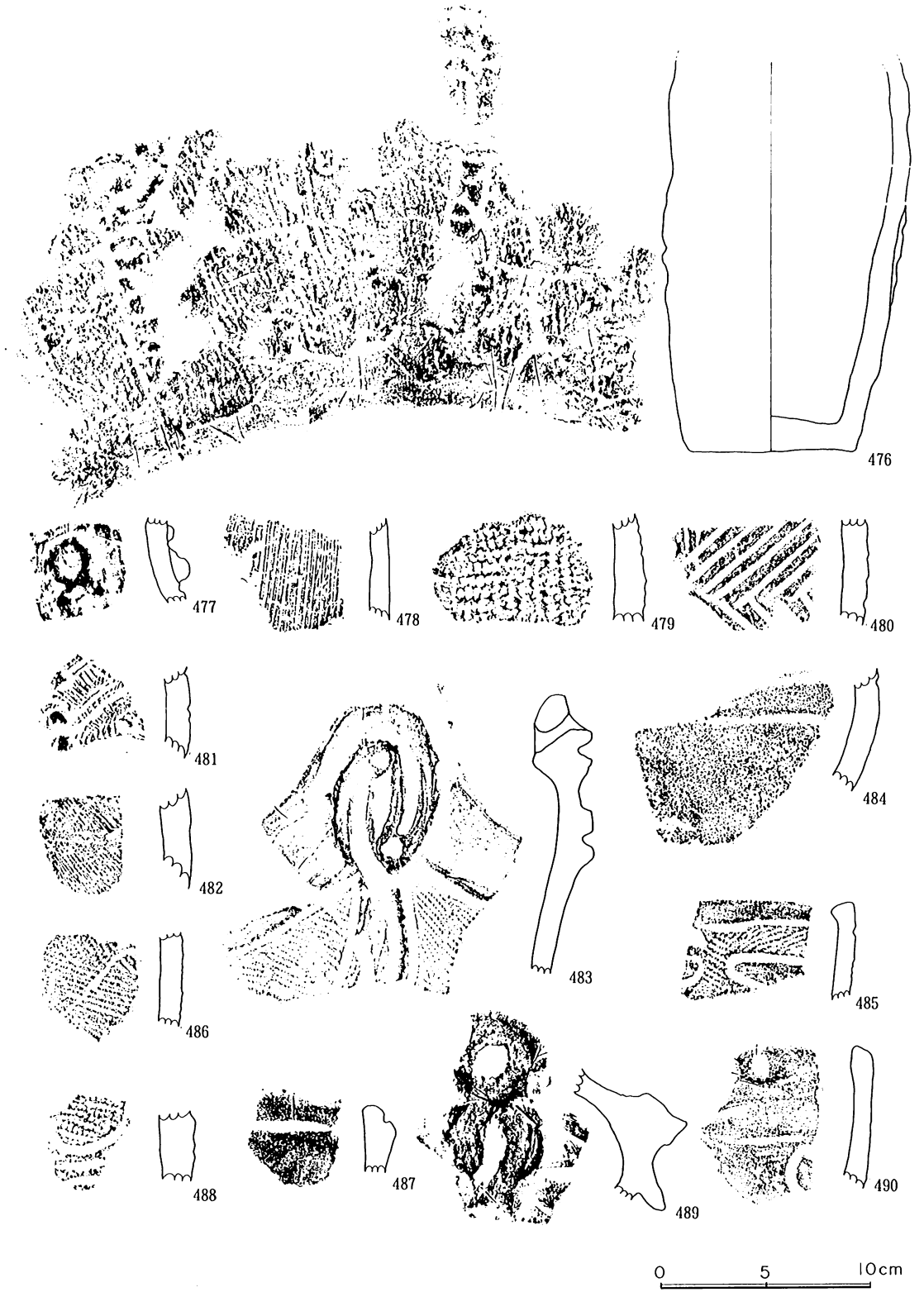


Fig. 51　縄文式土器 (28)

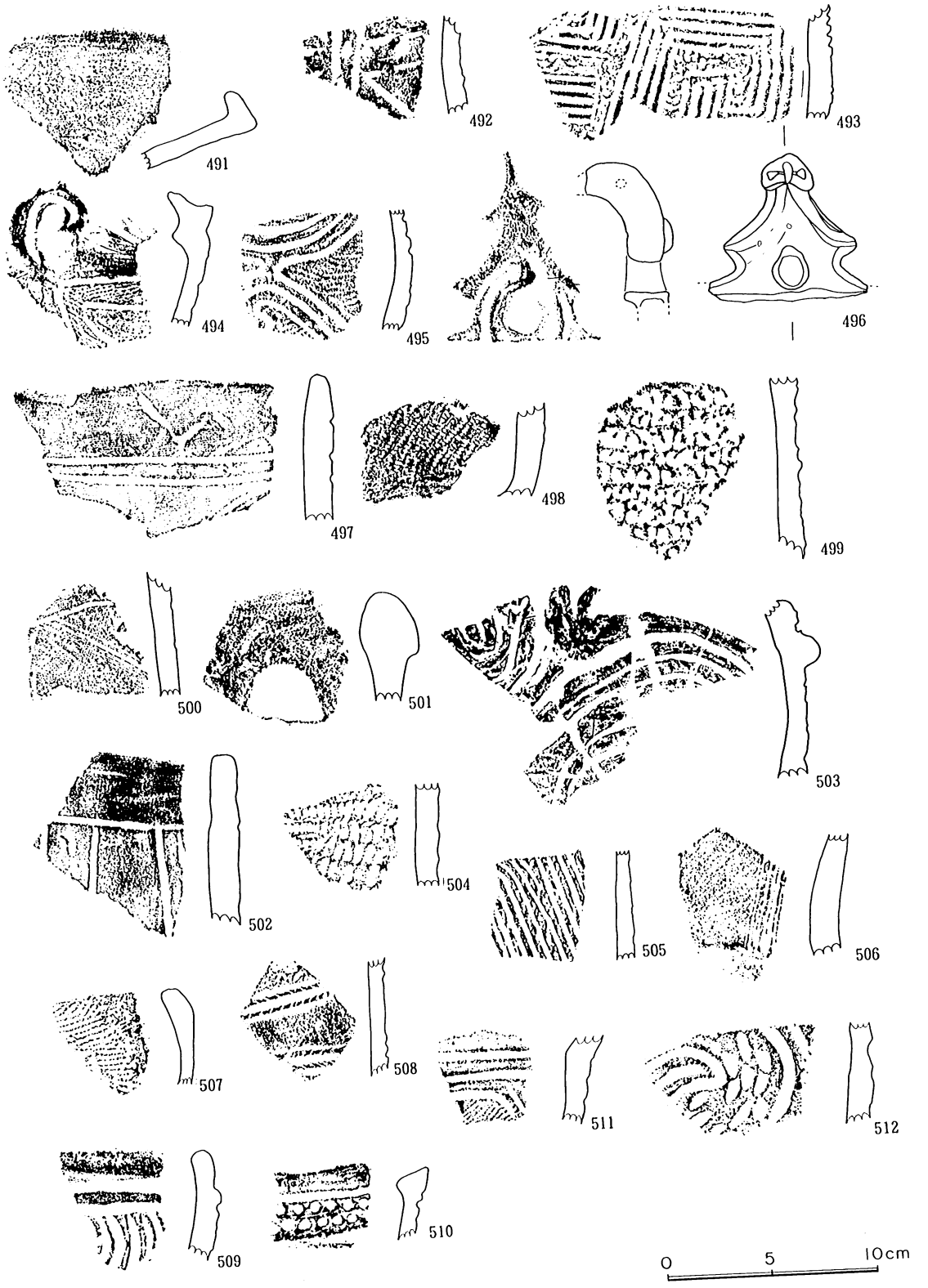


Fig. 52　縄文式土器 (29)

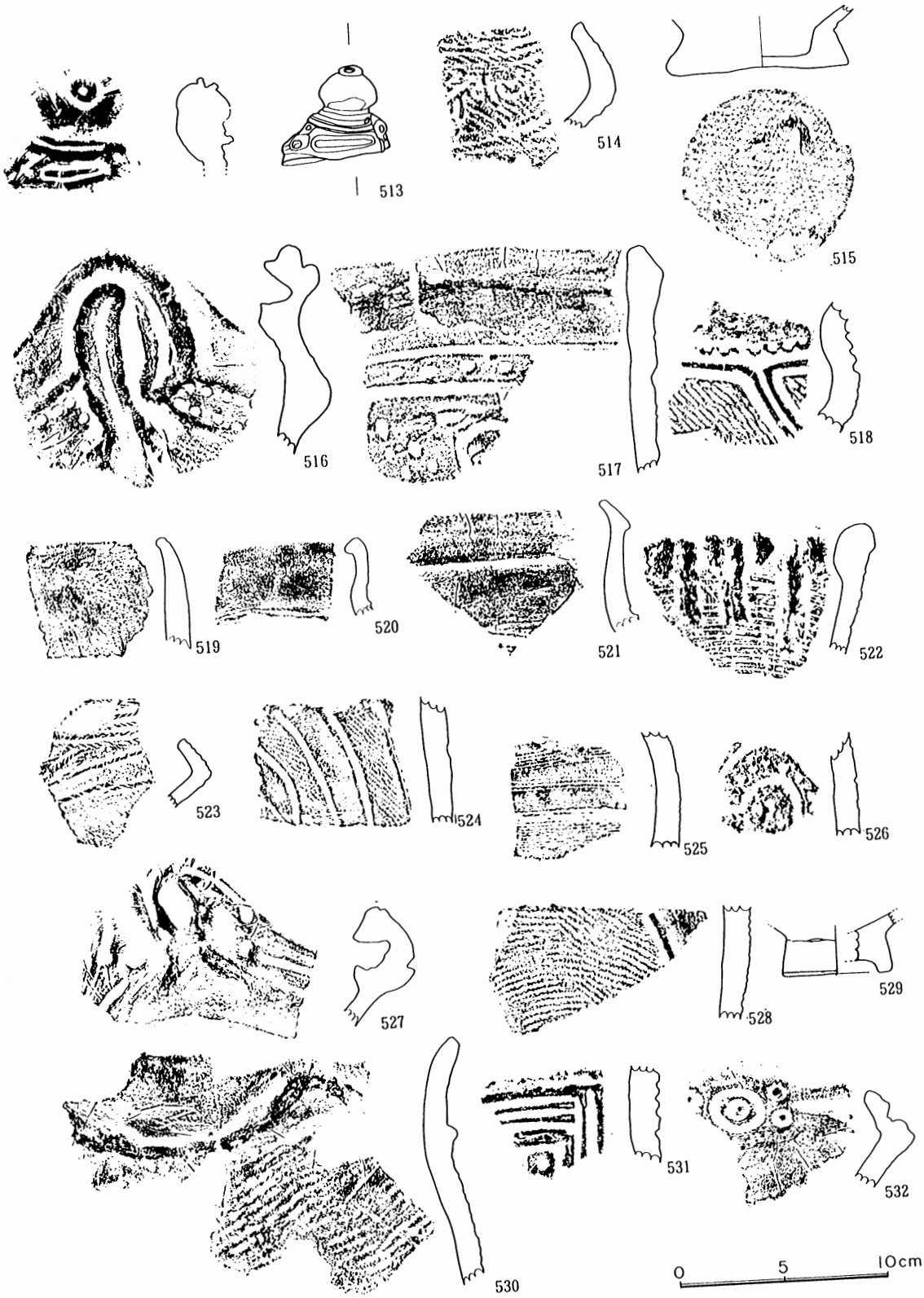


Fig. 53　縄文式土器 (30)

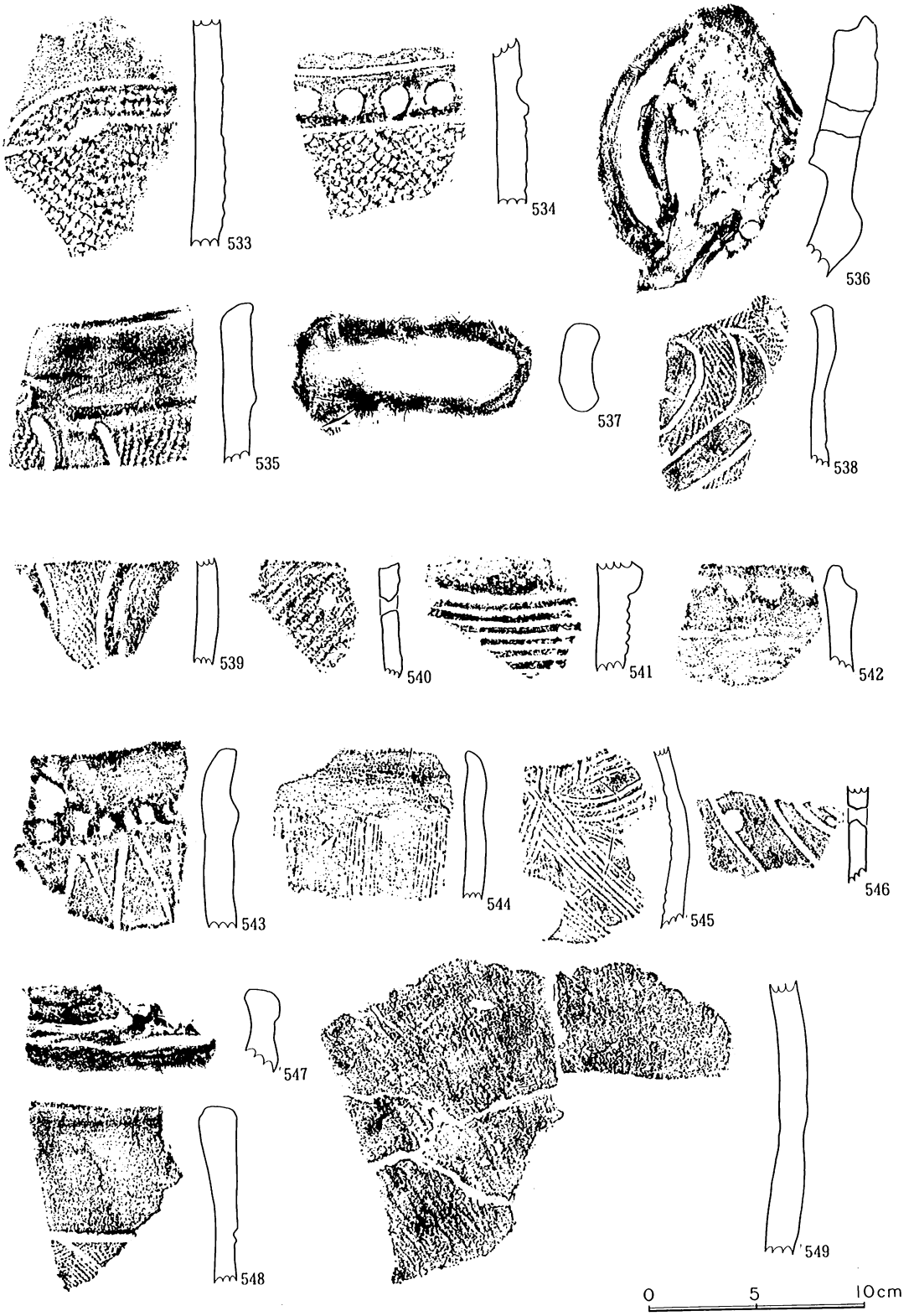


Fig. 54　縄文式土器 (31)

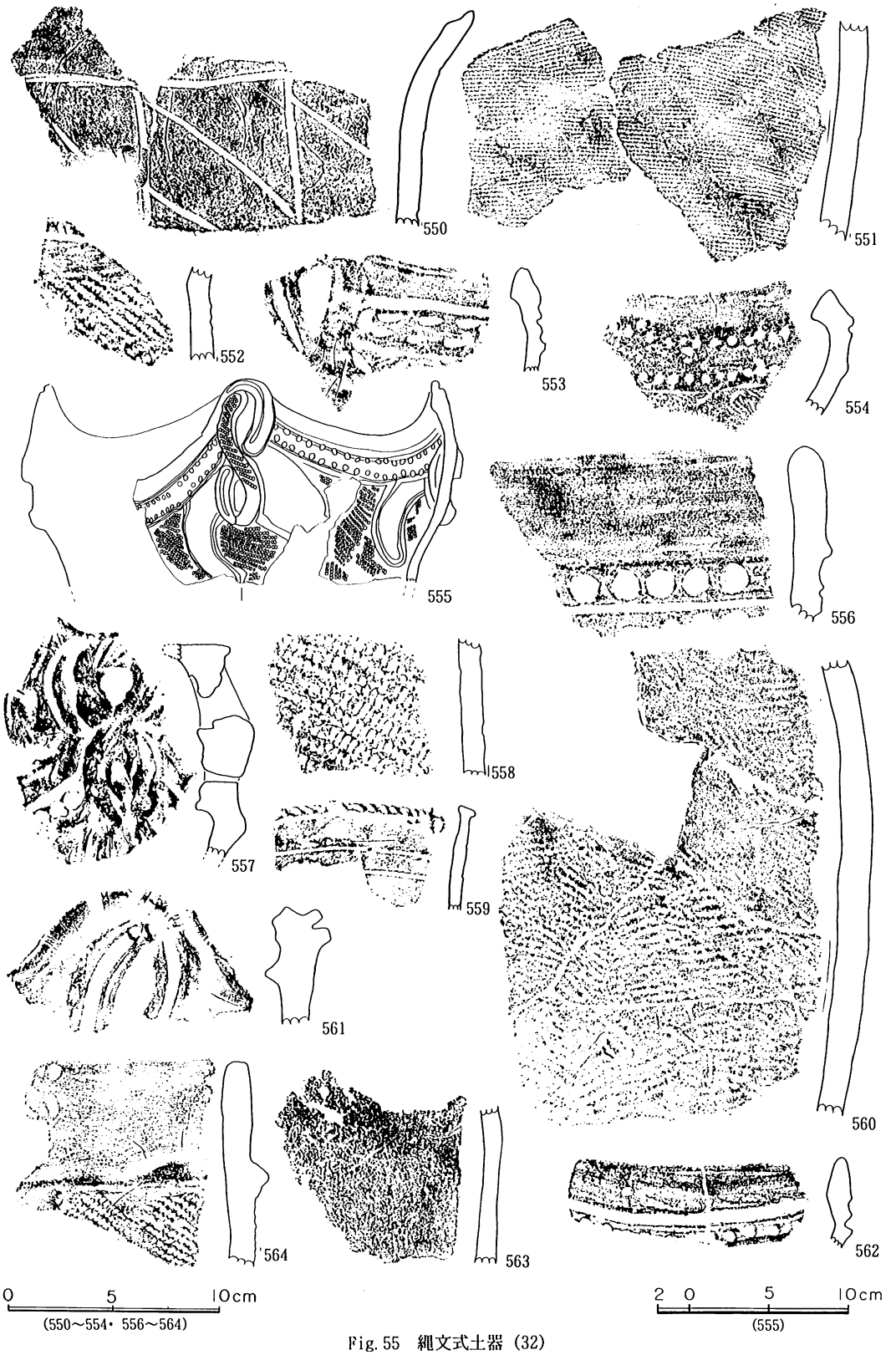


Fig. 55 縄文式土器 (32)

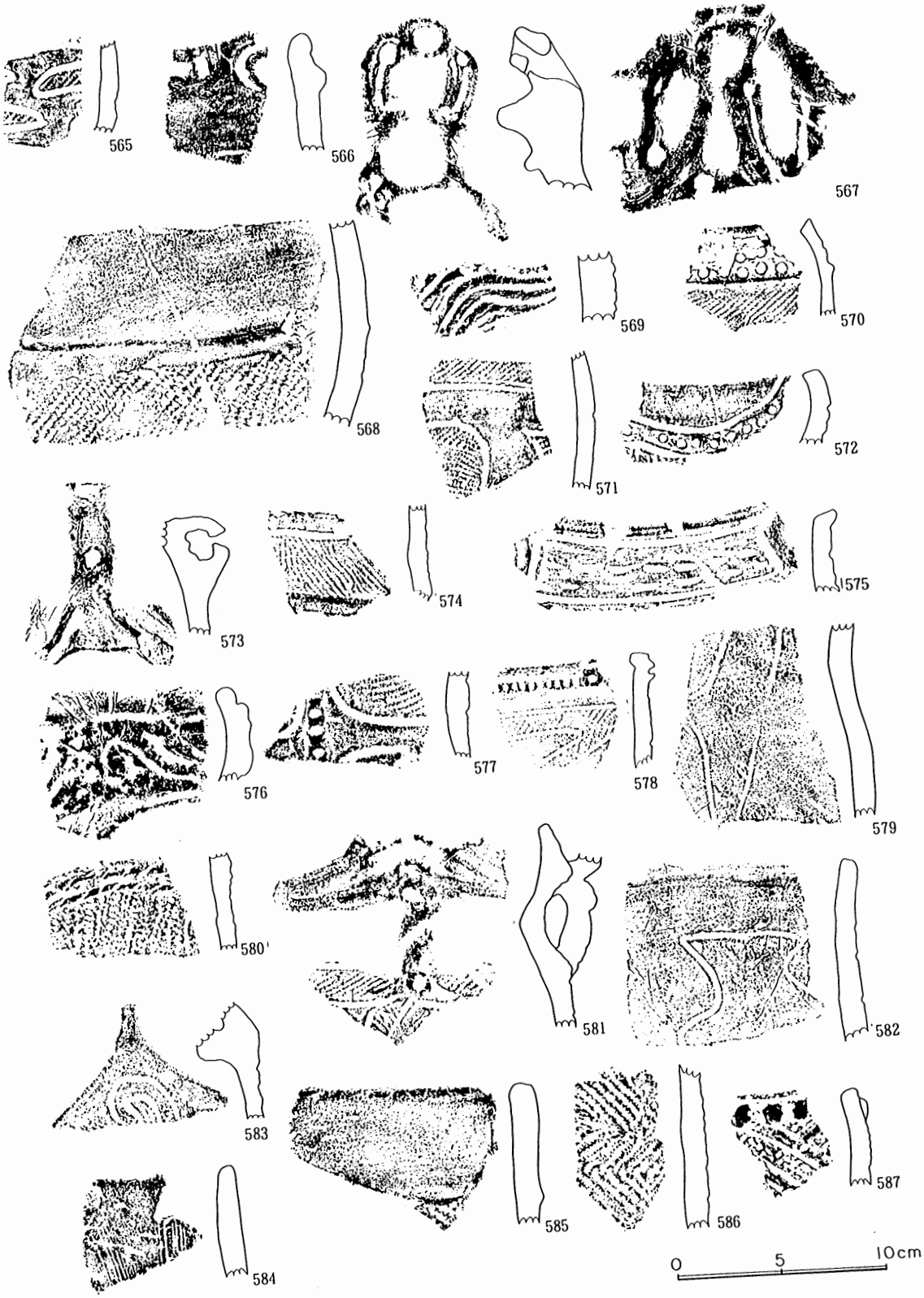


Fig. 56　縄文式土器 (33)

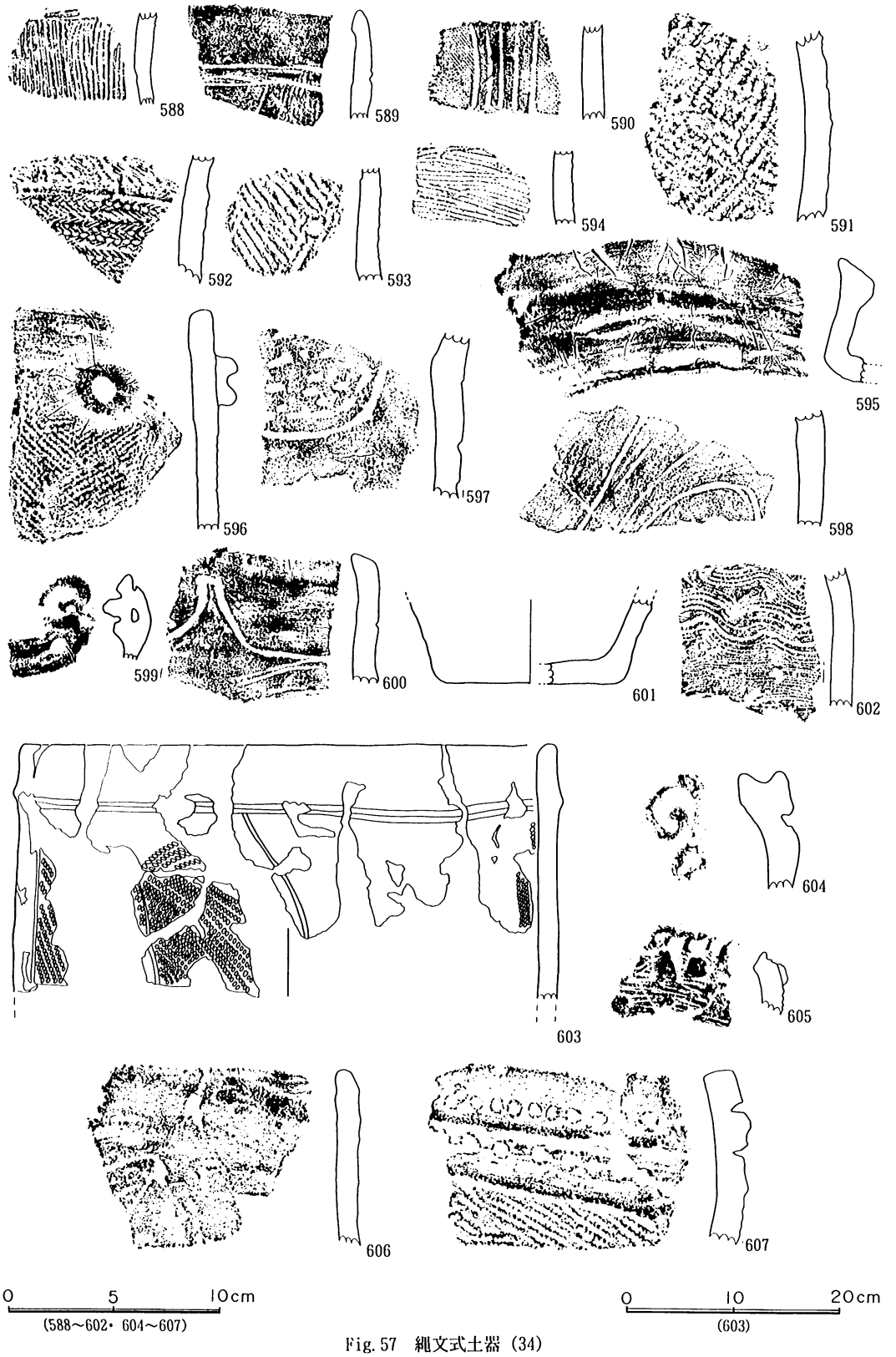


Fig. 57 縄文式土器 (34)

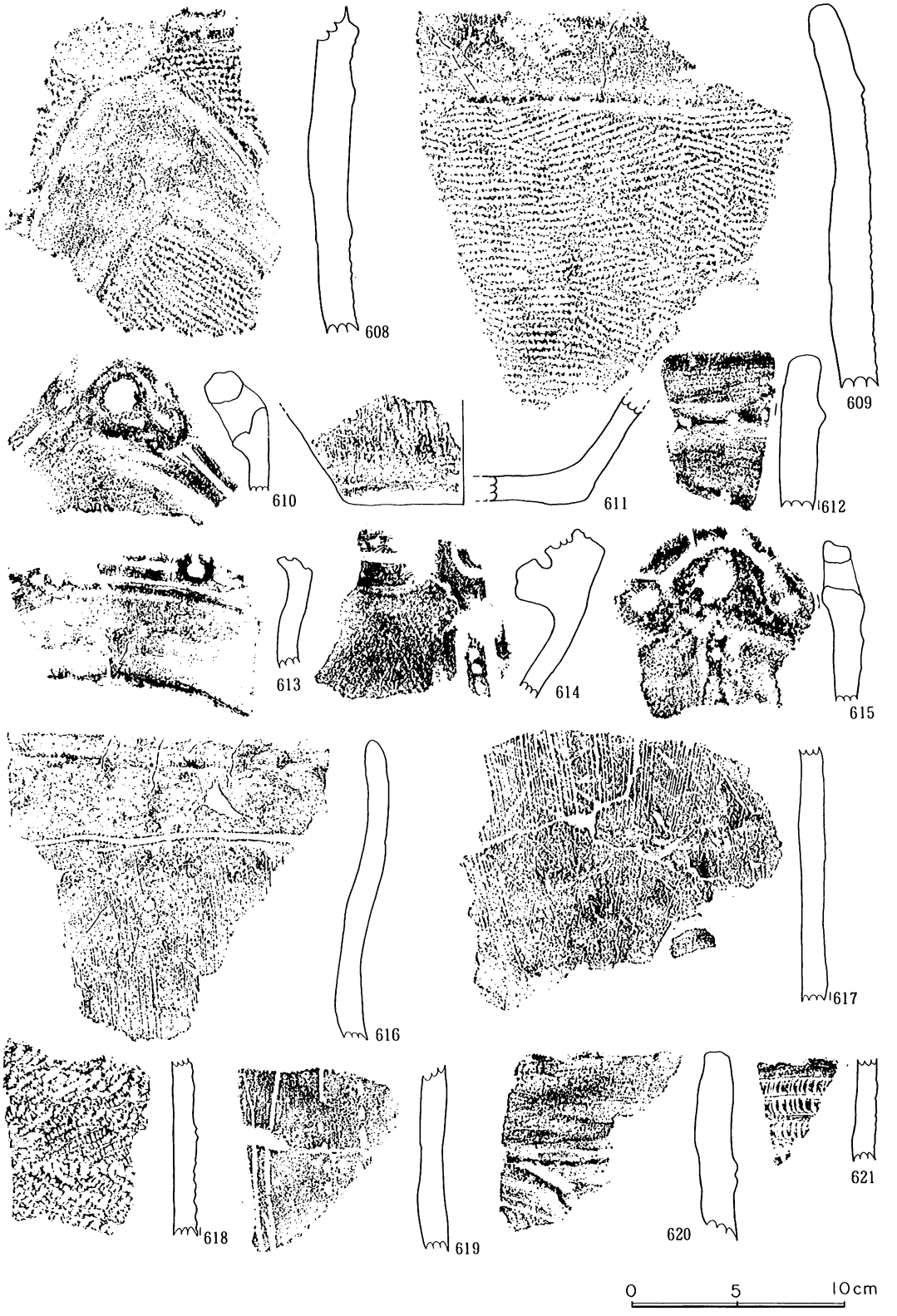


Fig. 58　縄文式土器 (35)

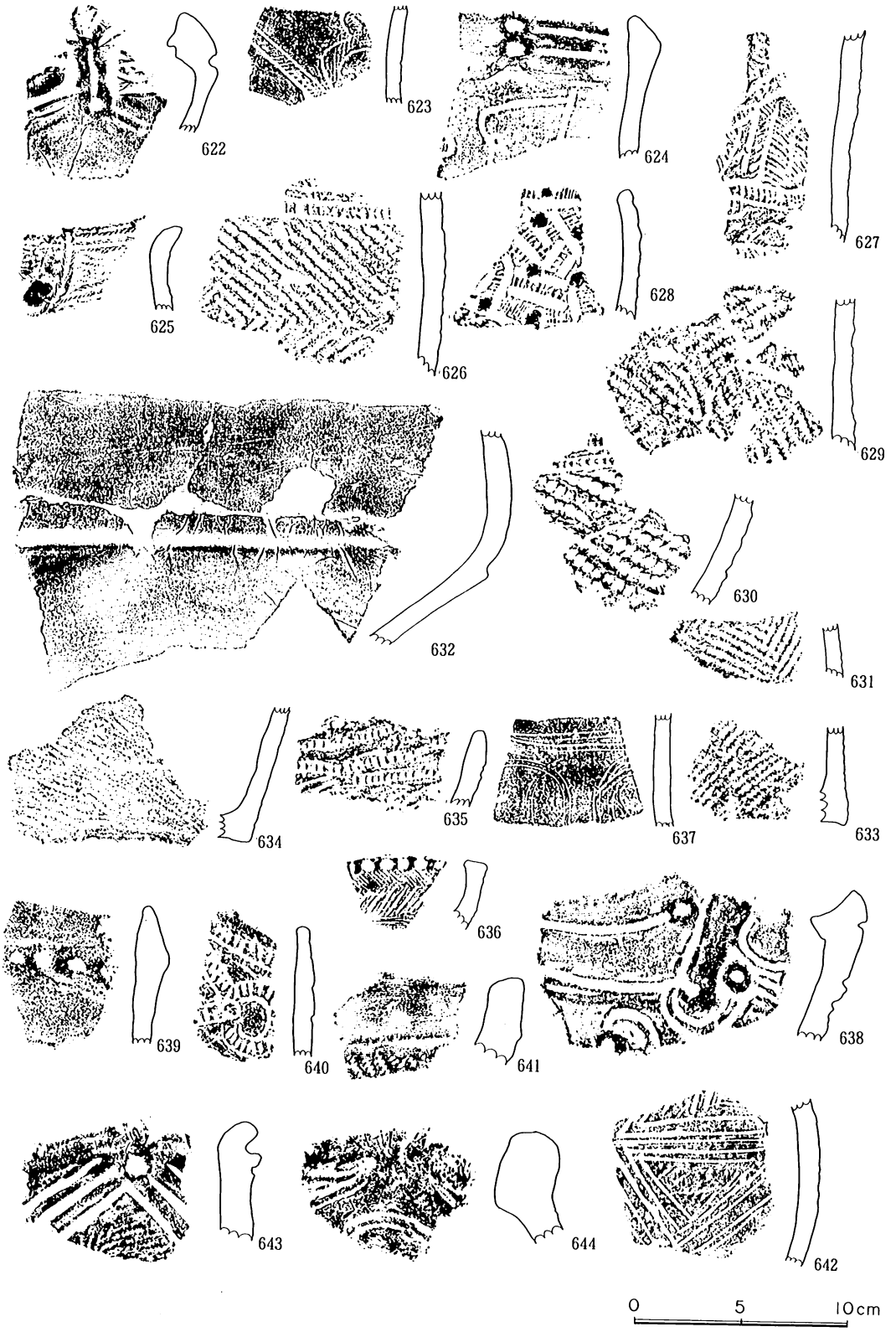


Fig. 59　縄文式土器 (36)

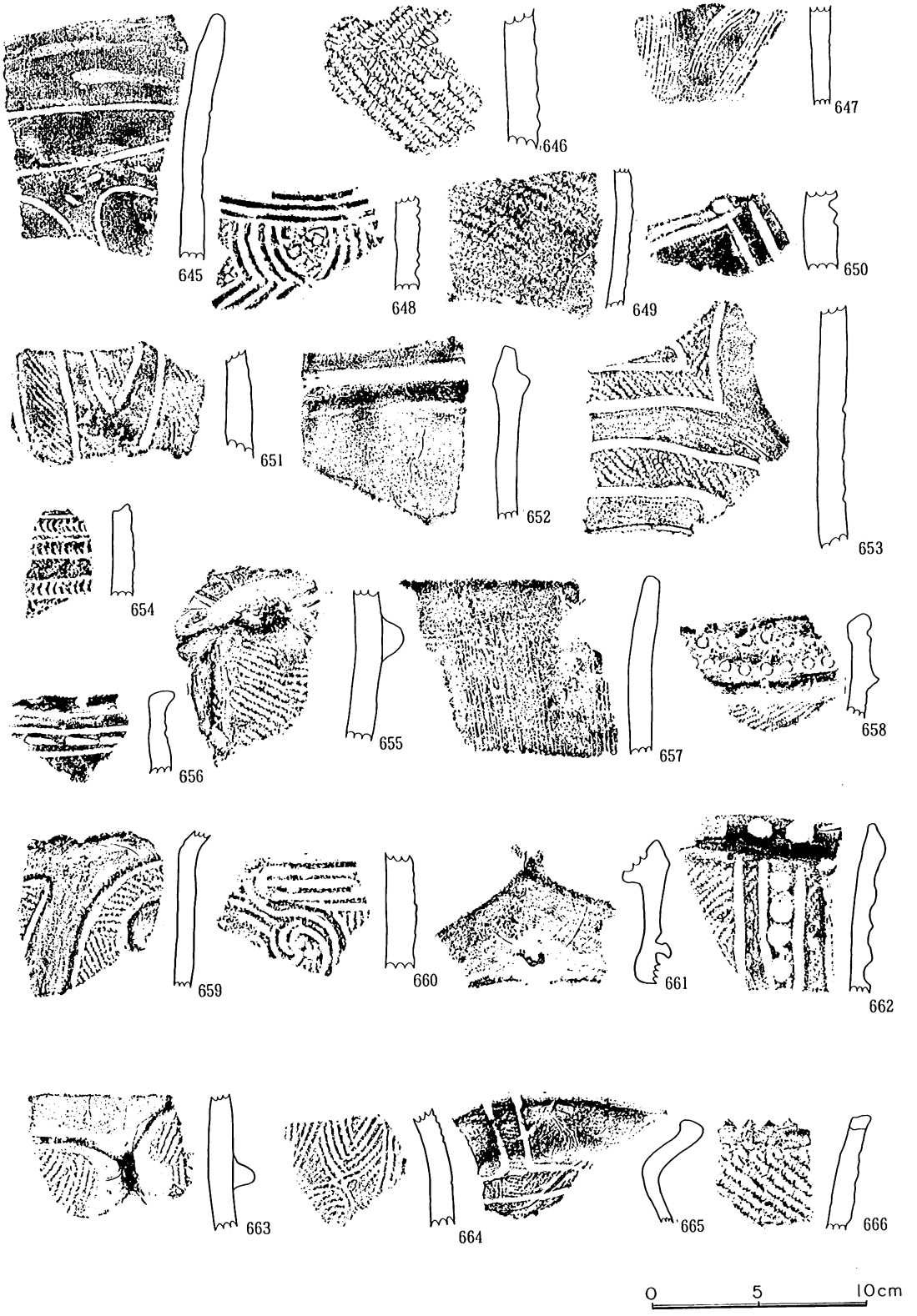


Fig. 60　縄文式土器 (37)

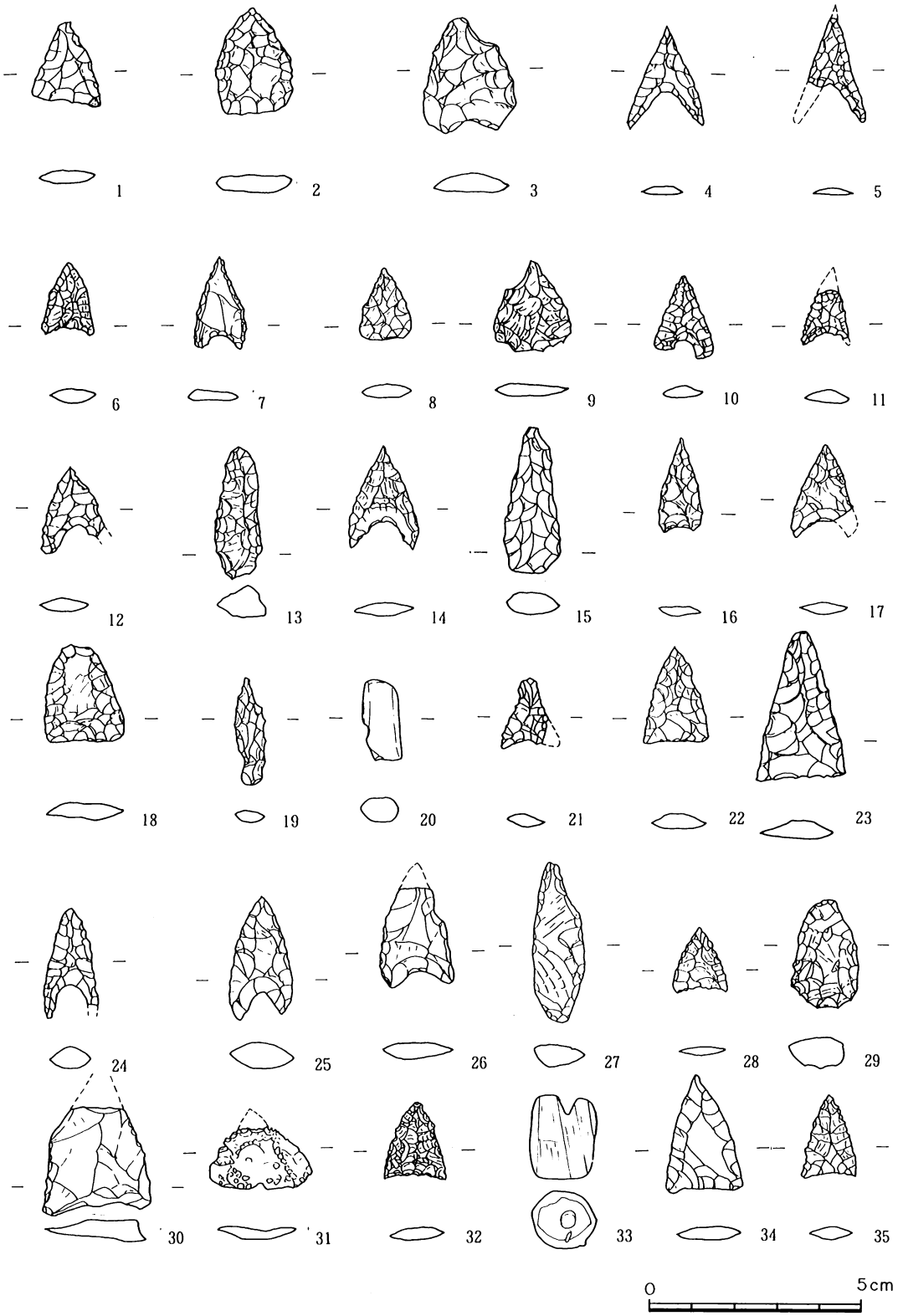


Fig. 61　縄文時代の石器（1）

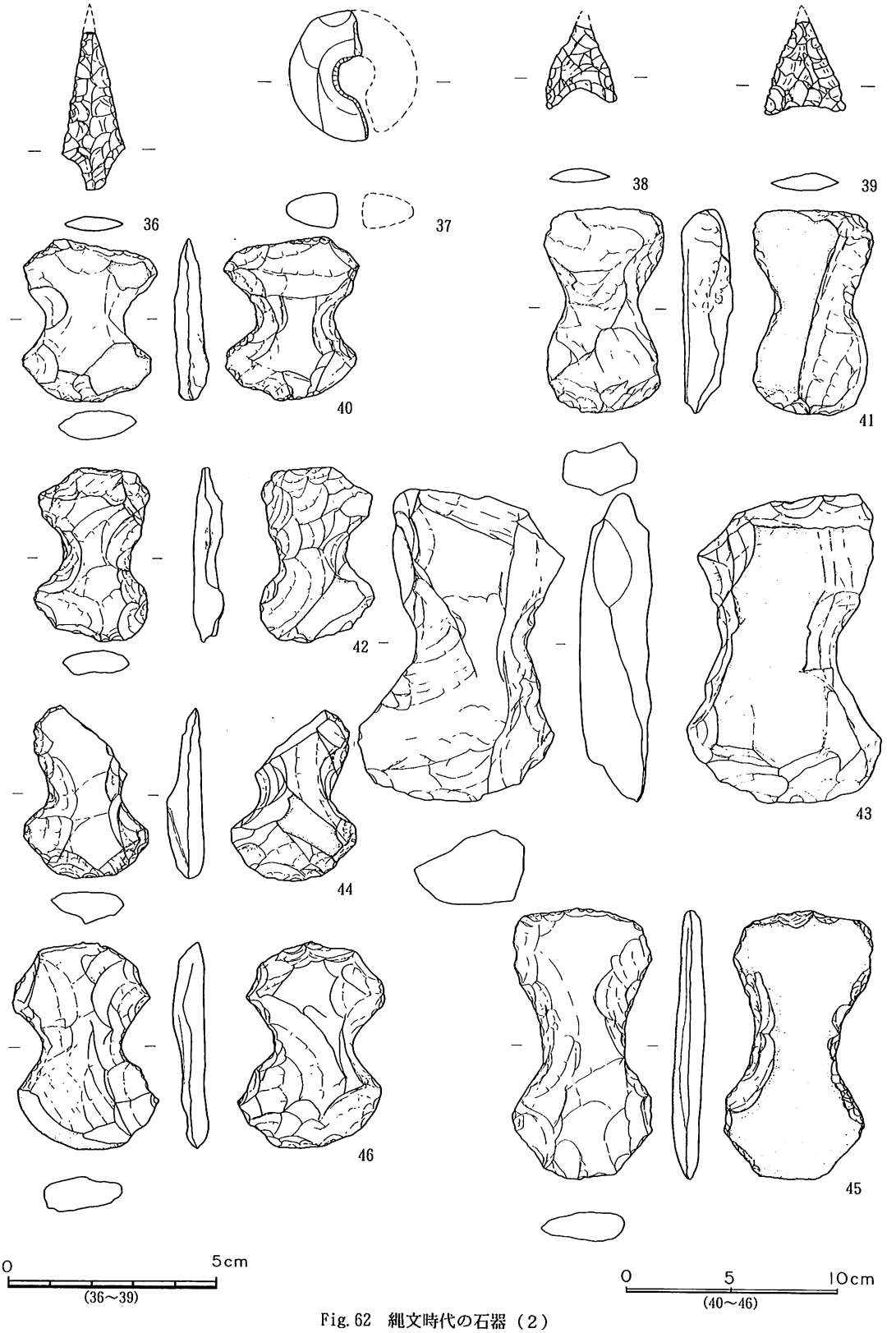


Fig. 62　縄文時代の石器（2）

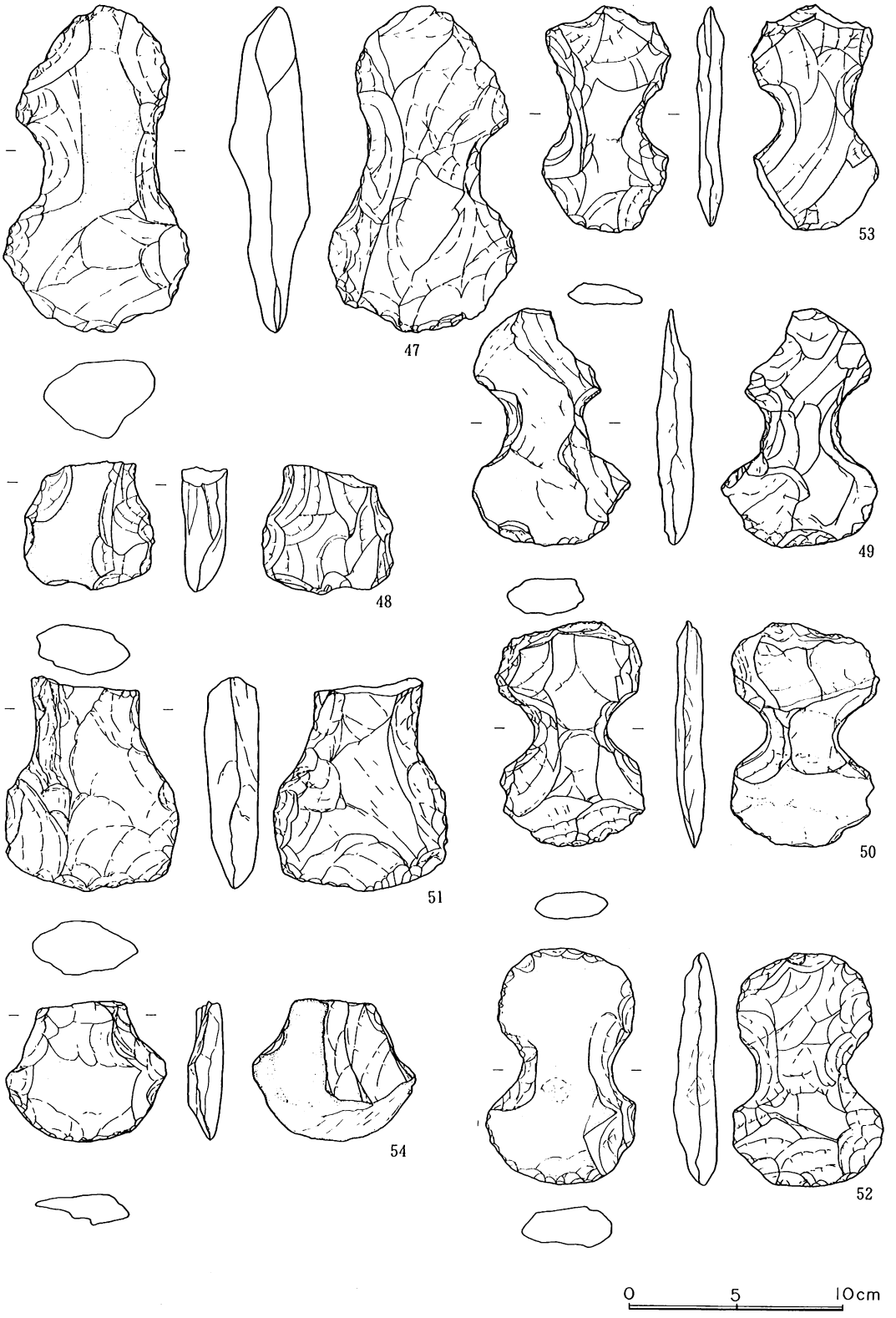


Fig. 63　縄文時代の石器（3）

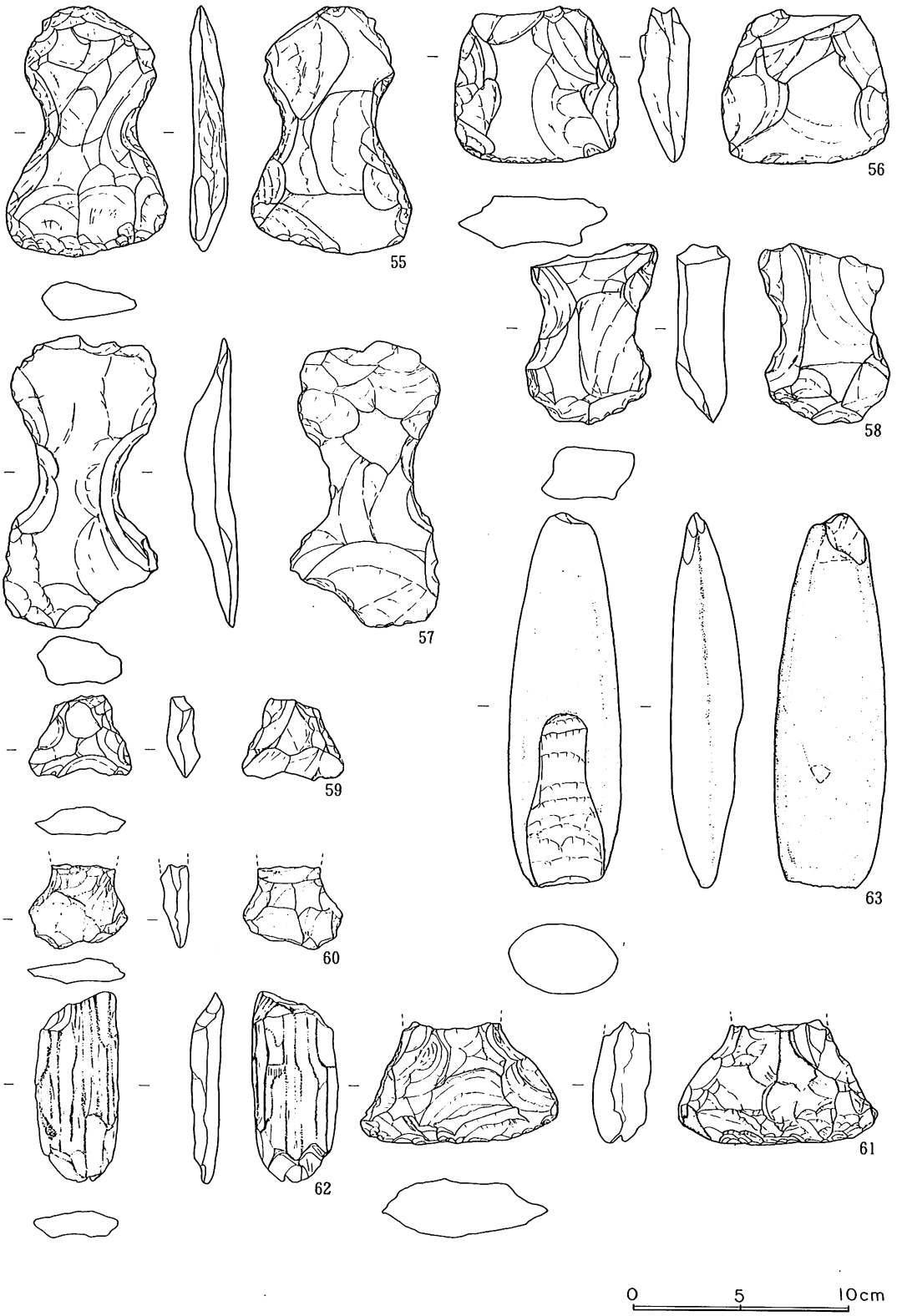


Fig. 64　縄文時代の石器（4）

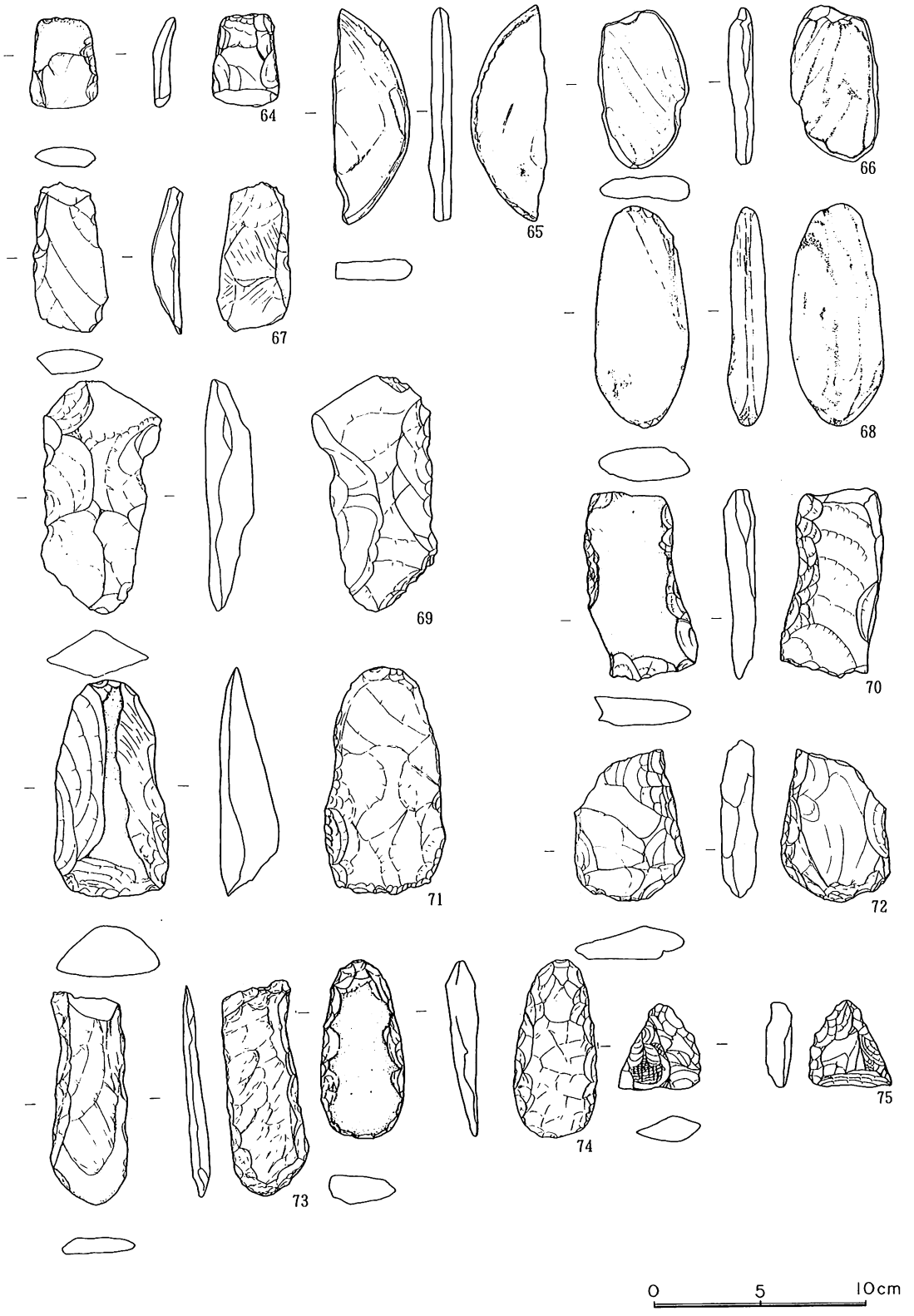


Fig. 65　縄文時代の石器（5）

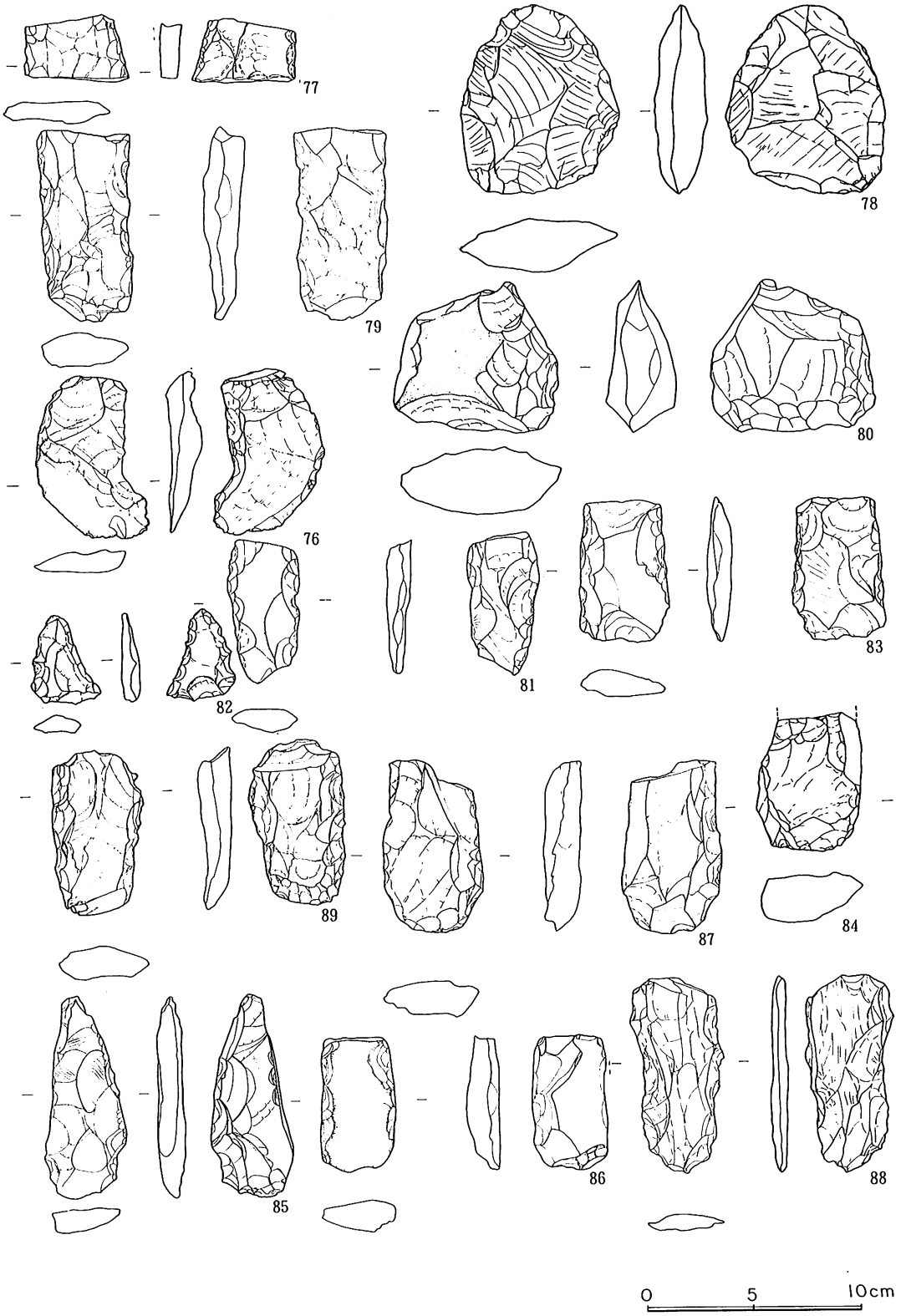


Fig. 66　縄文時代の石器（6）

Fig. 67　縄文時代の石器（7）

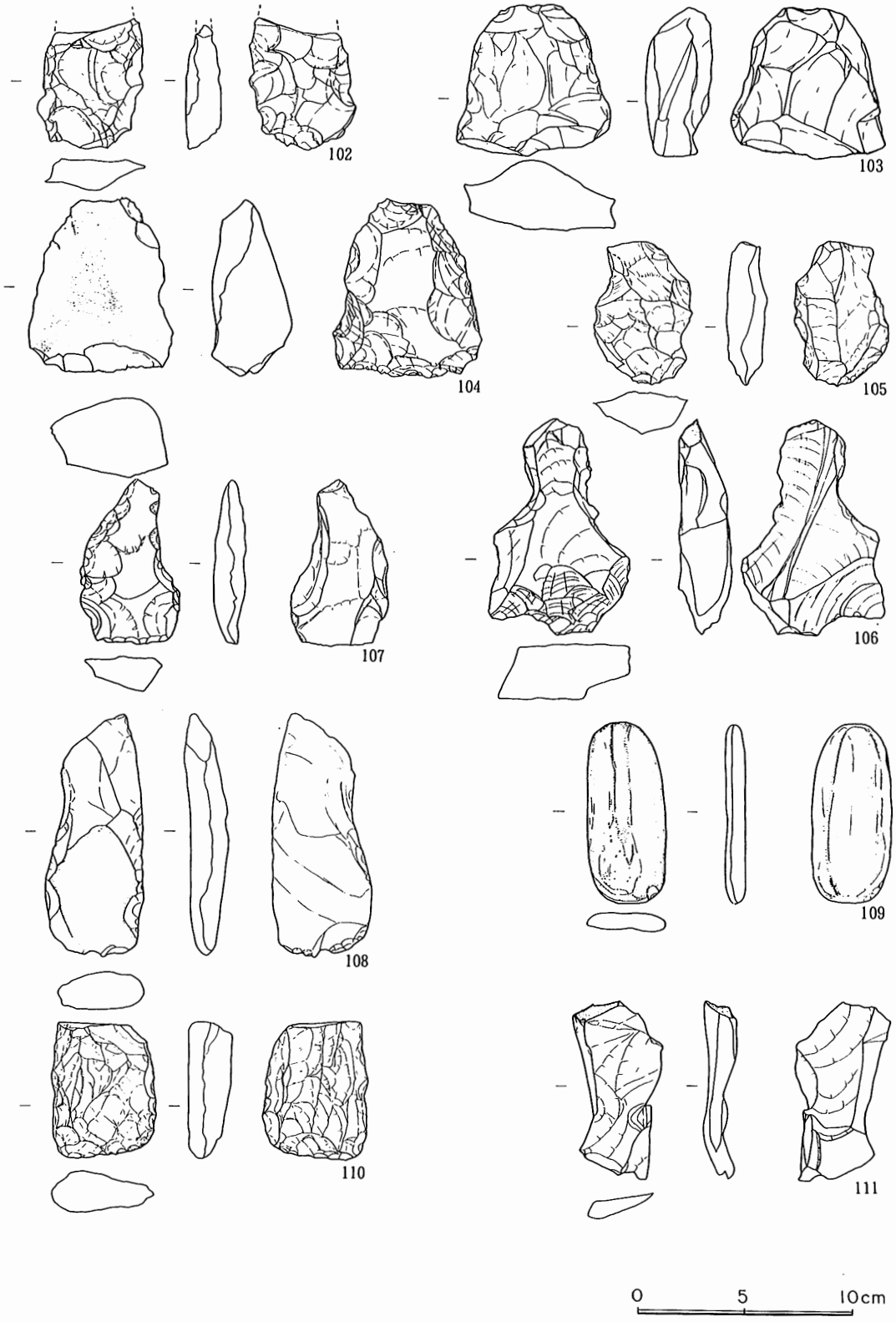


Fig. 68　縄文時代の石器（8）

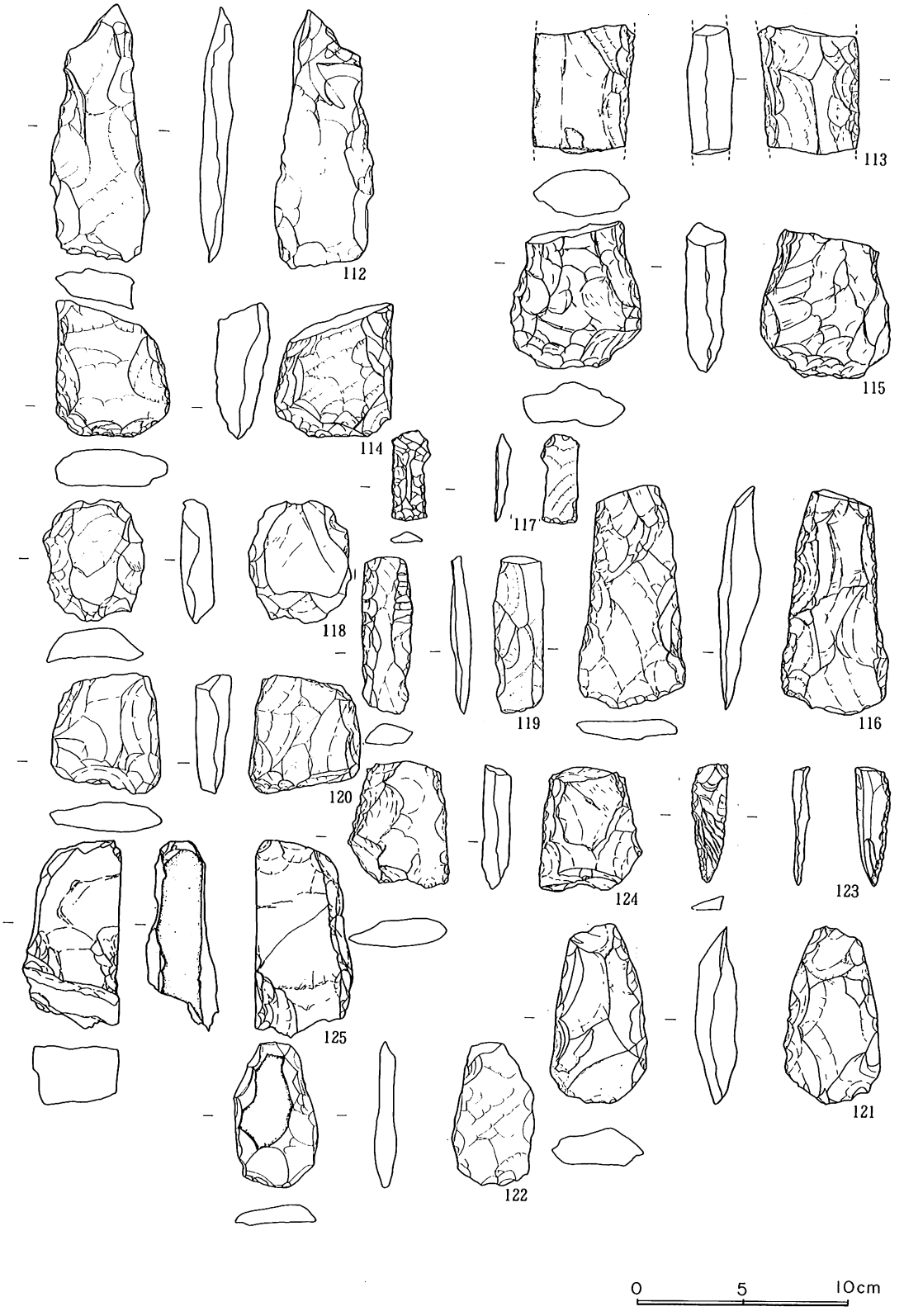


Fig. 69　縄文時代の石器（9）

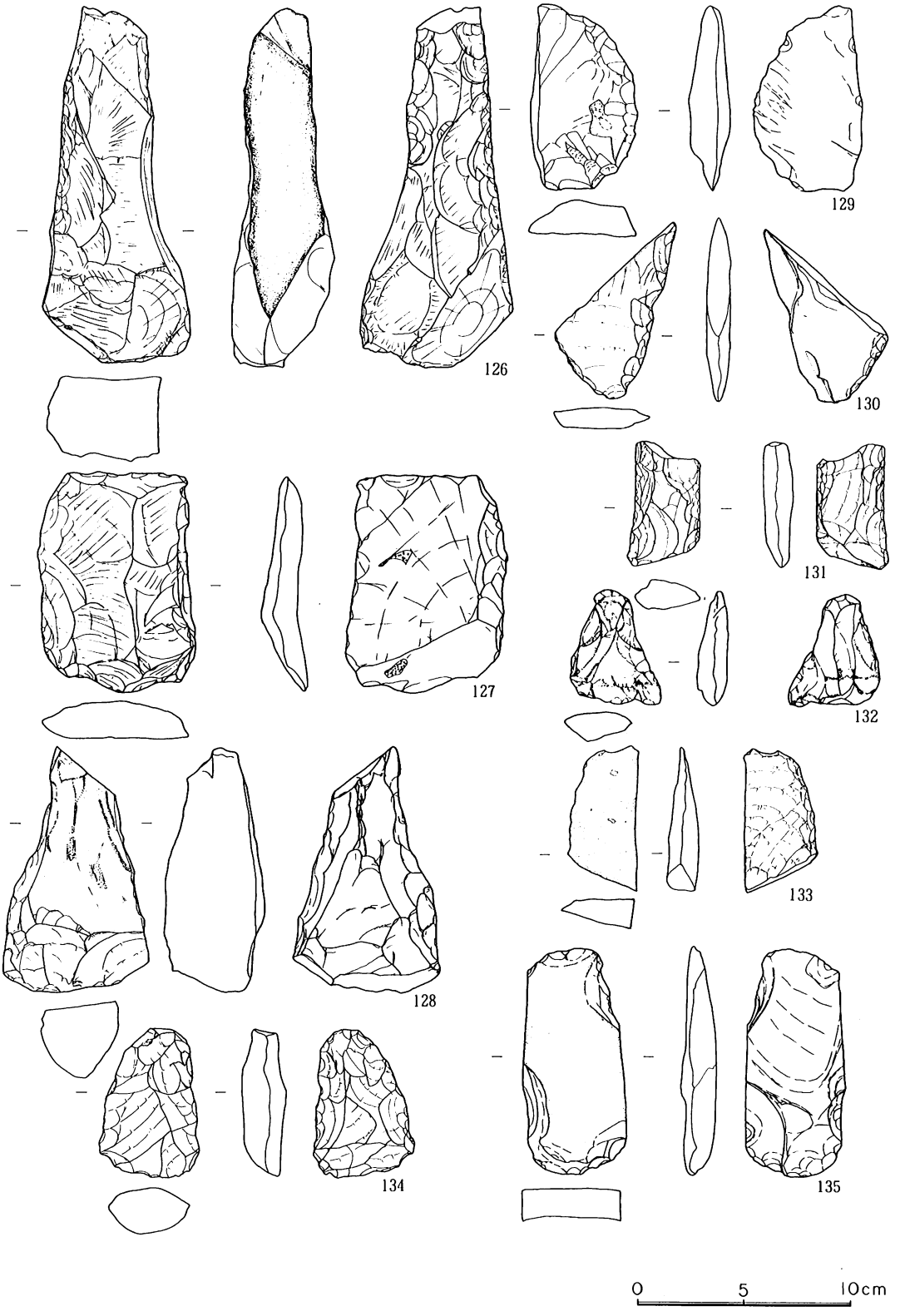


Fig. 70　縄文時代の石器（10）

Fig. 71　縄文時代の石器（11）

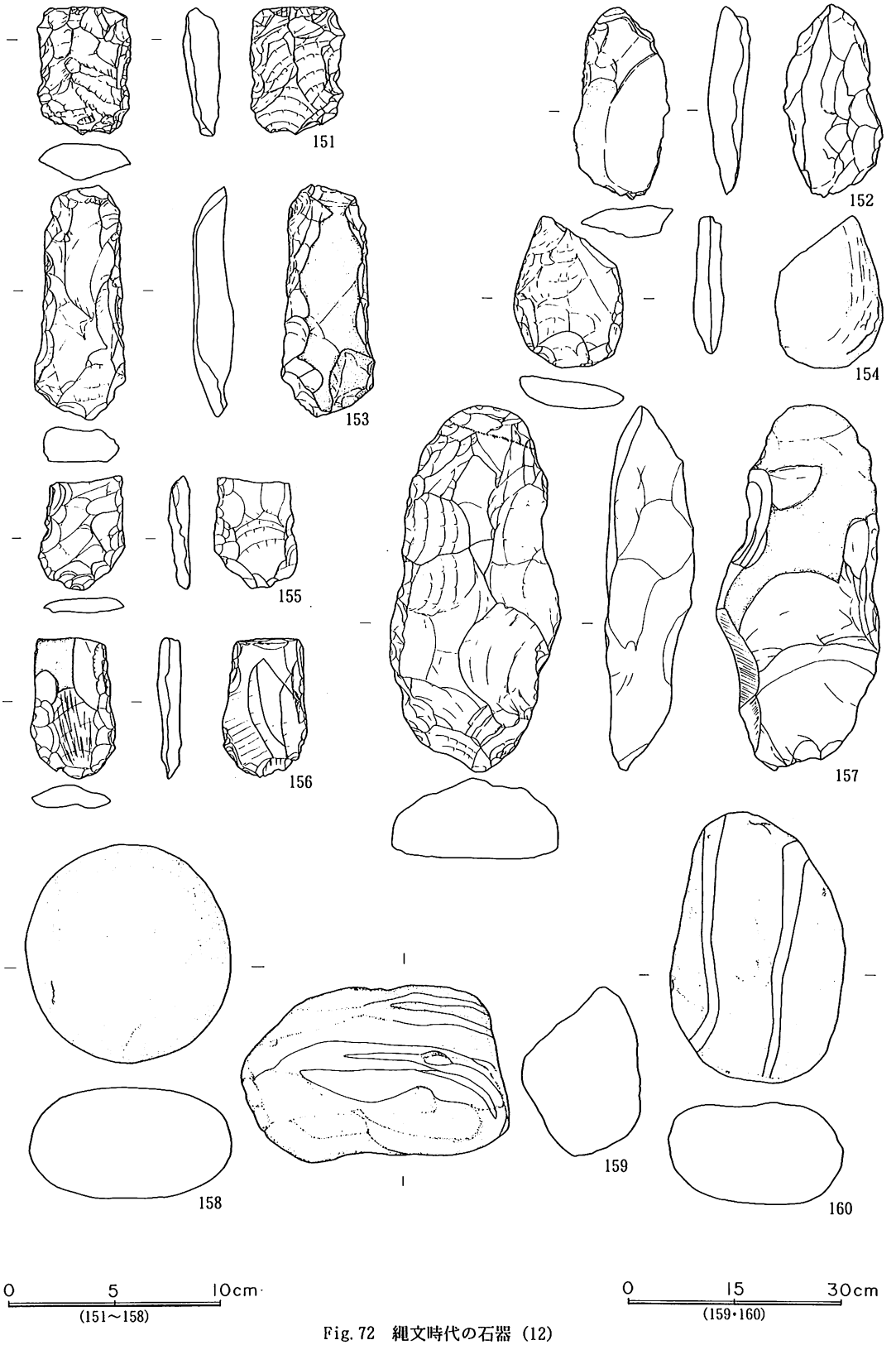


Fig. 72　縄文時代の石器 (12)

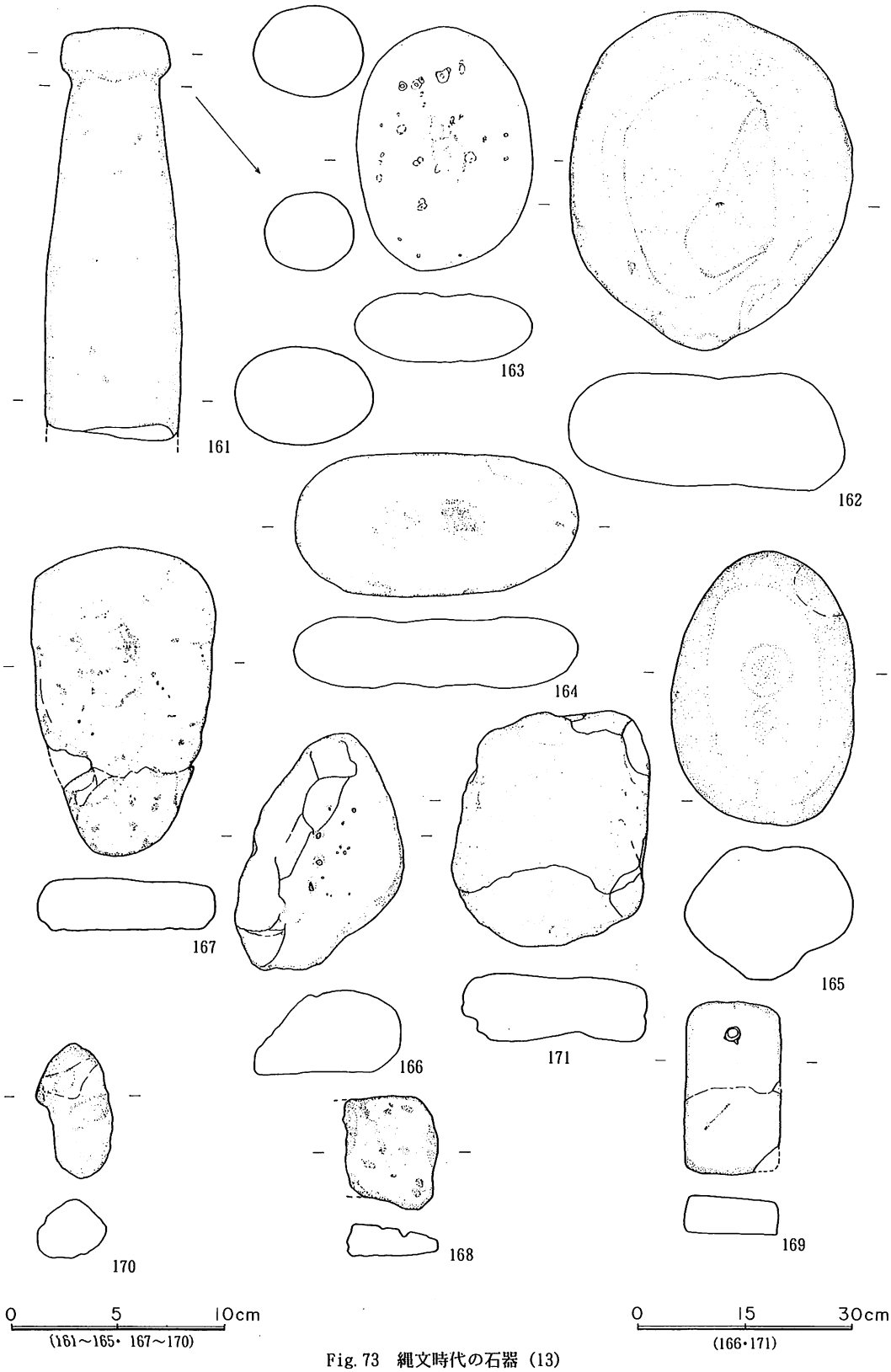


Fig. 73　縄文時代の石器 (13)

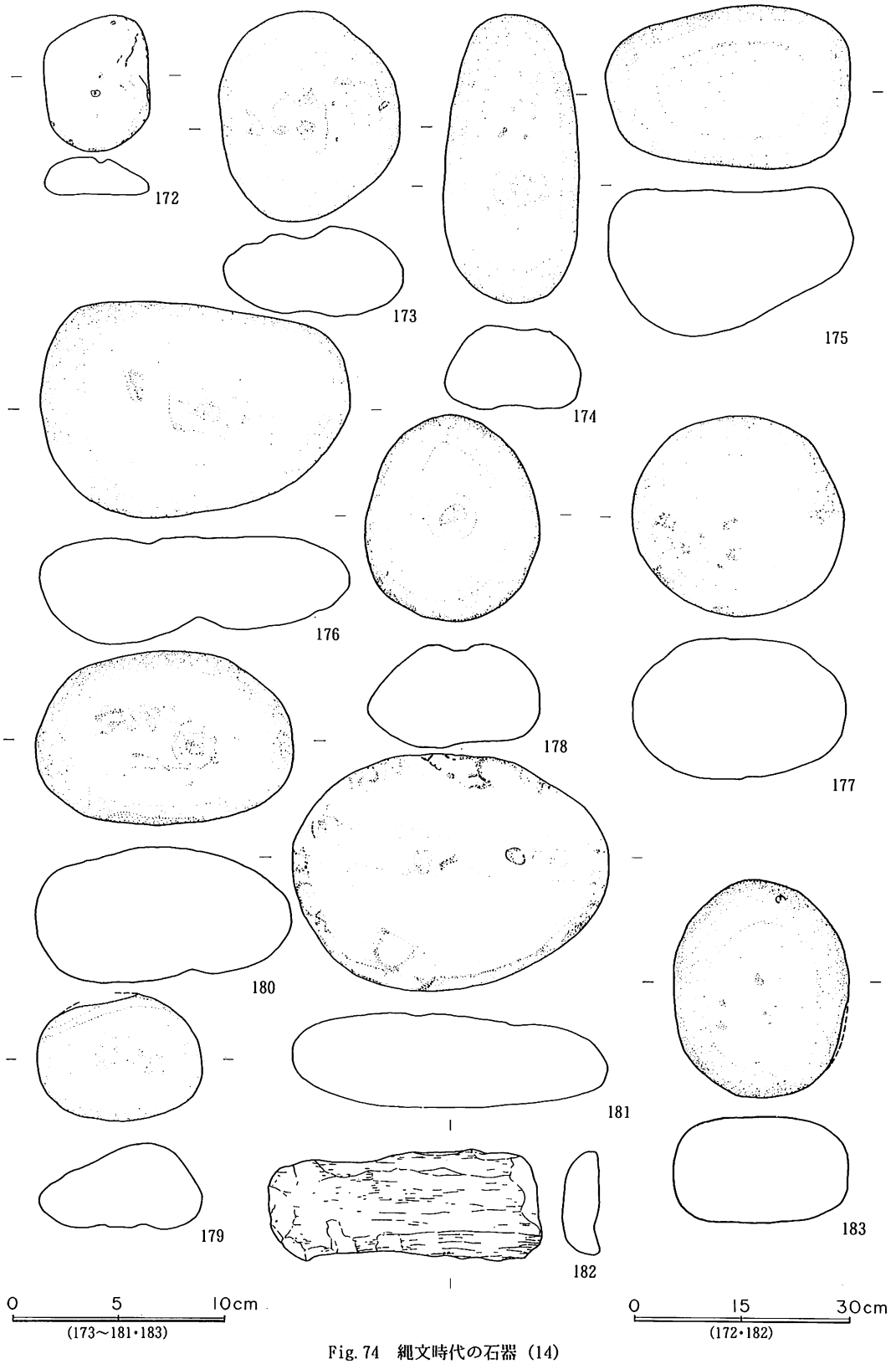


Fig. 74　縄文時代の石器 (14)

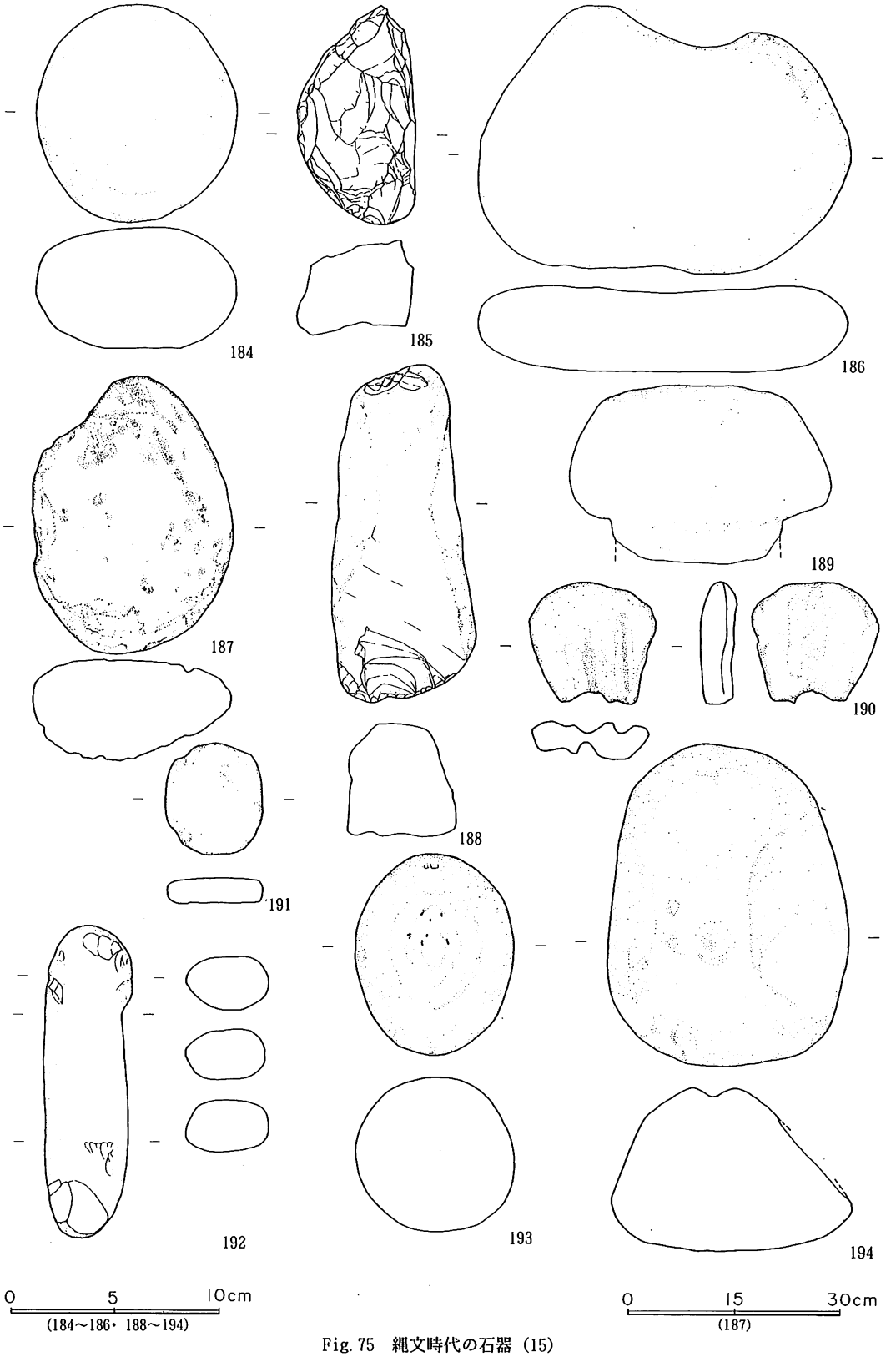


Fig. 75　縄文時代の石器 (15)

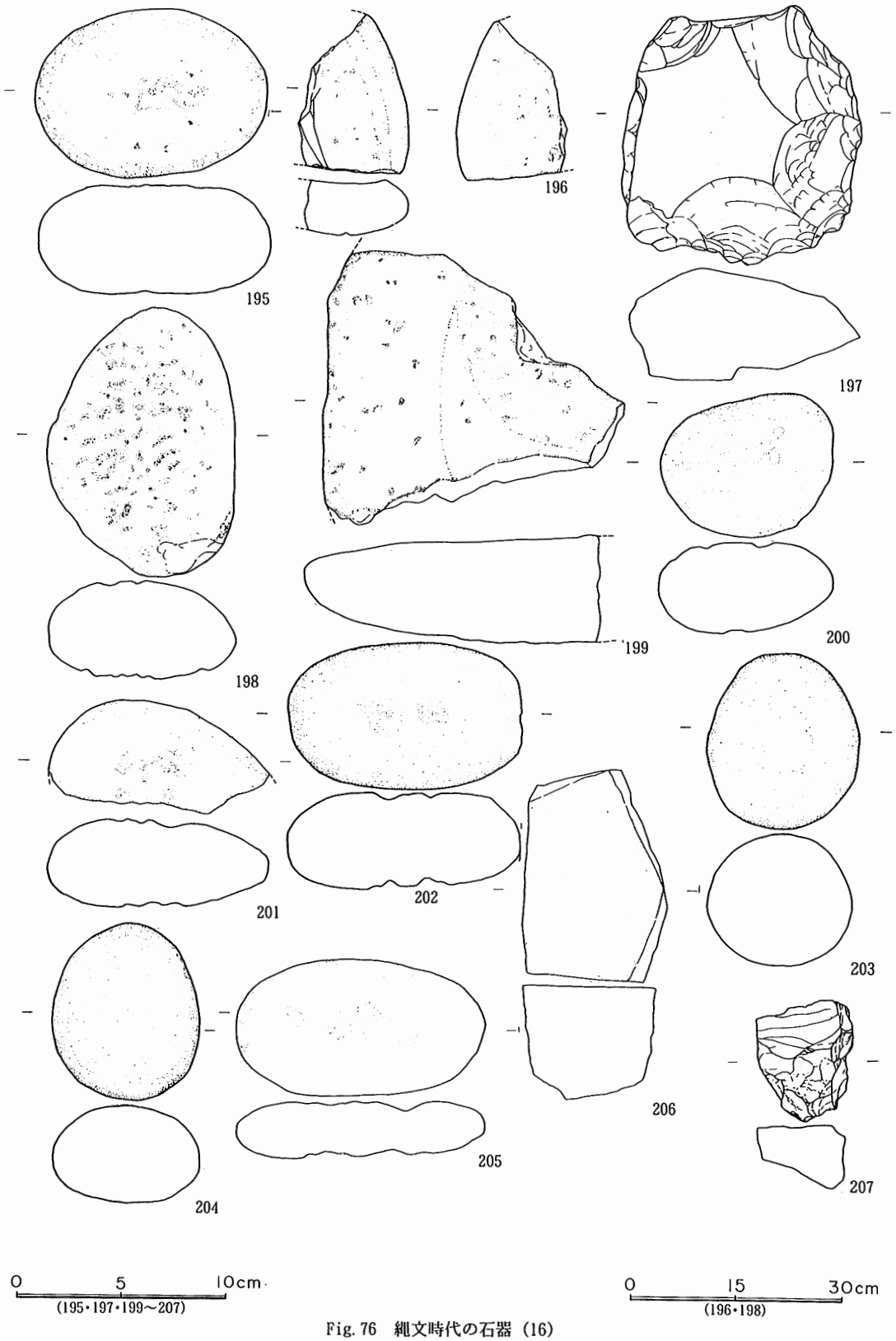


Fig. 76　縄文時代の石器（16）

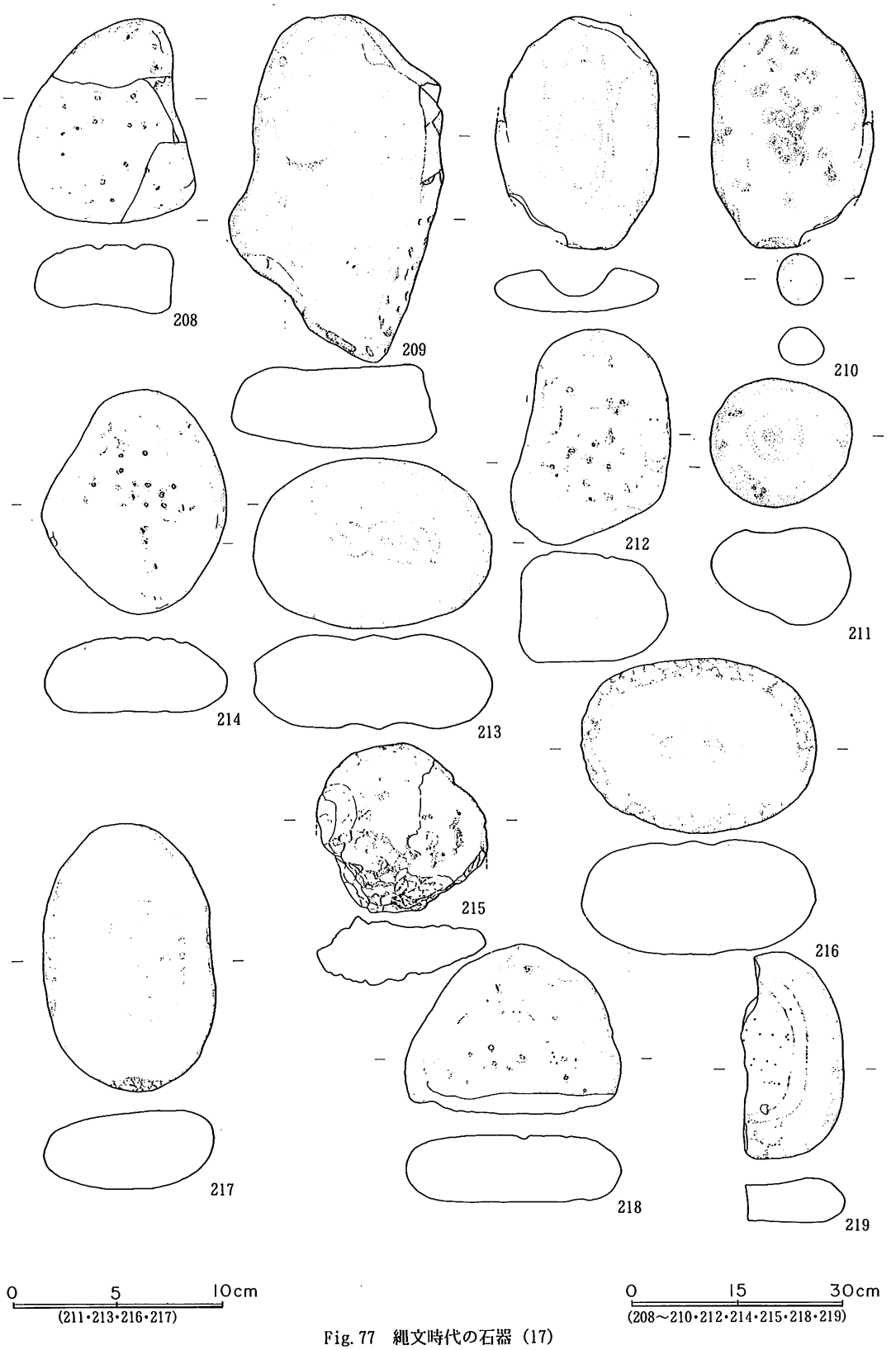


Fig. 77　縄文時代の石器（17）

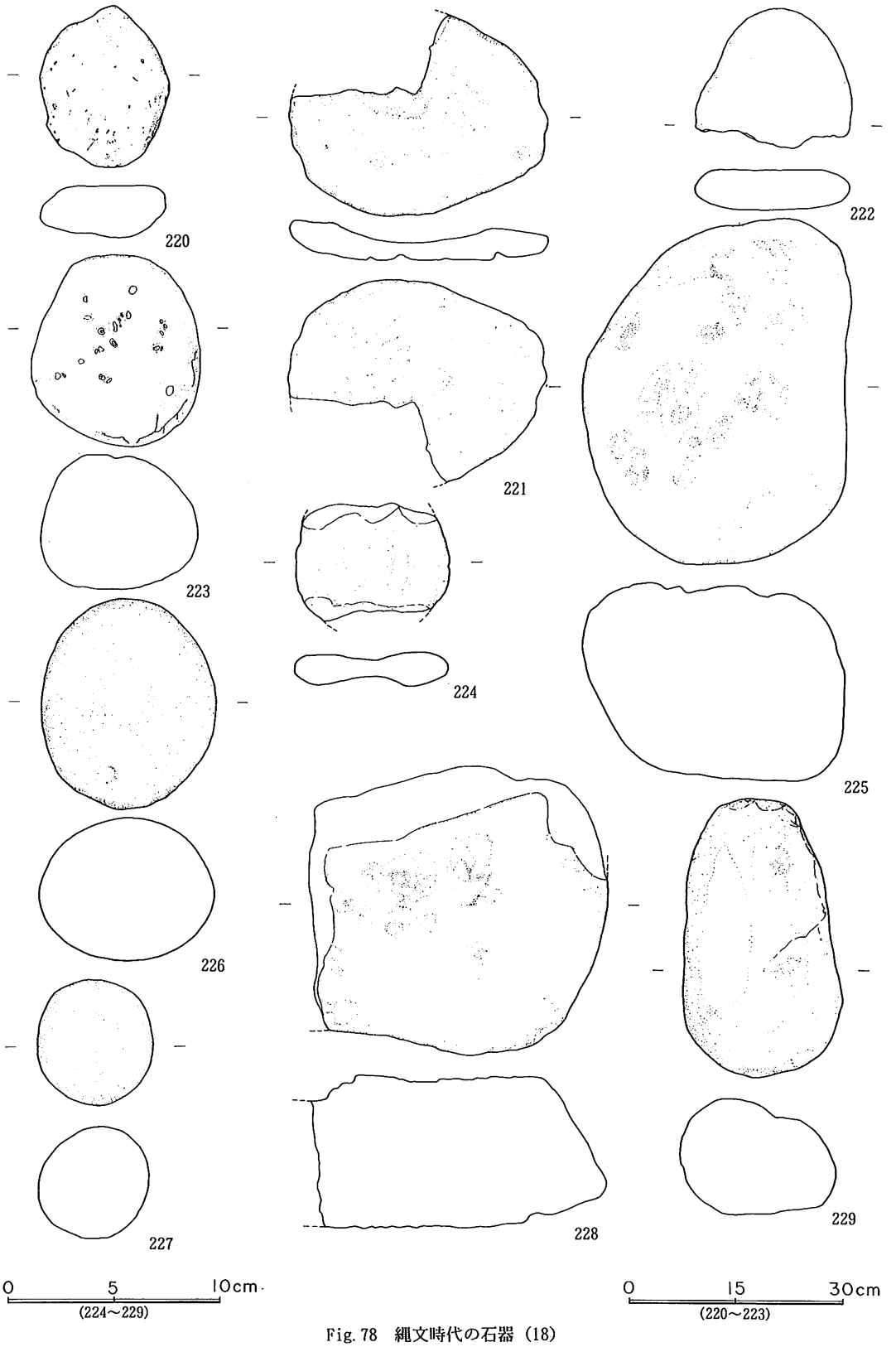


Fig. 78　縄文時代の石器（18）

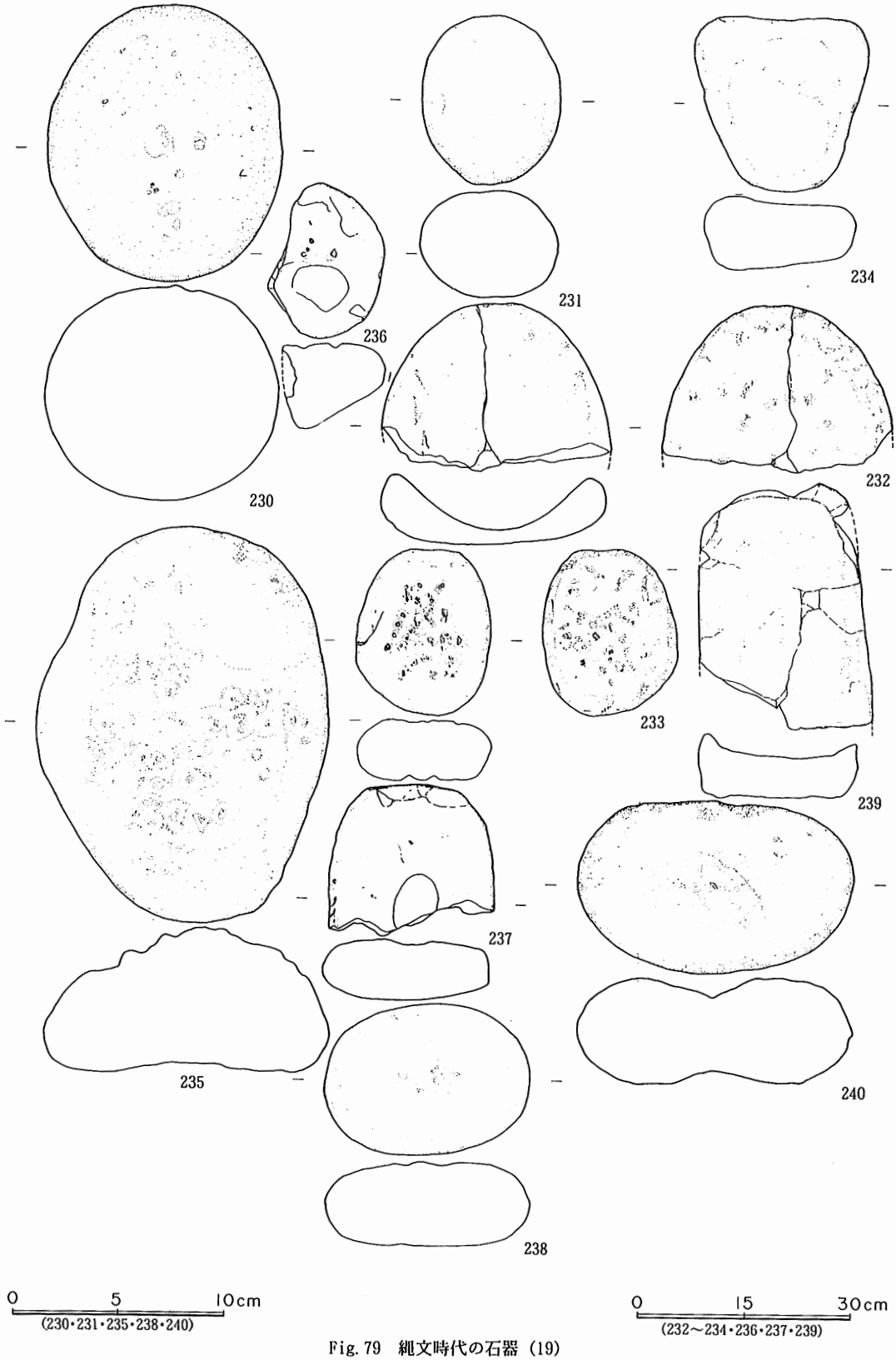


Fig. 79　縄文時代の石器（19）

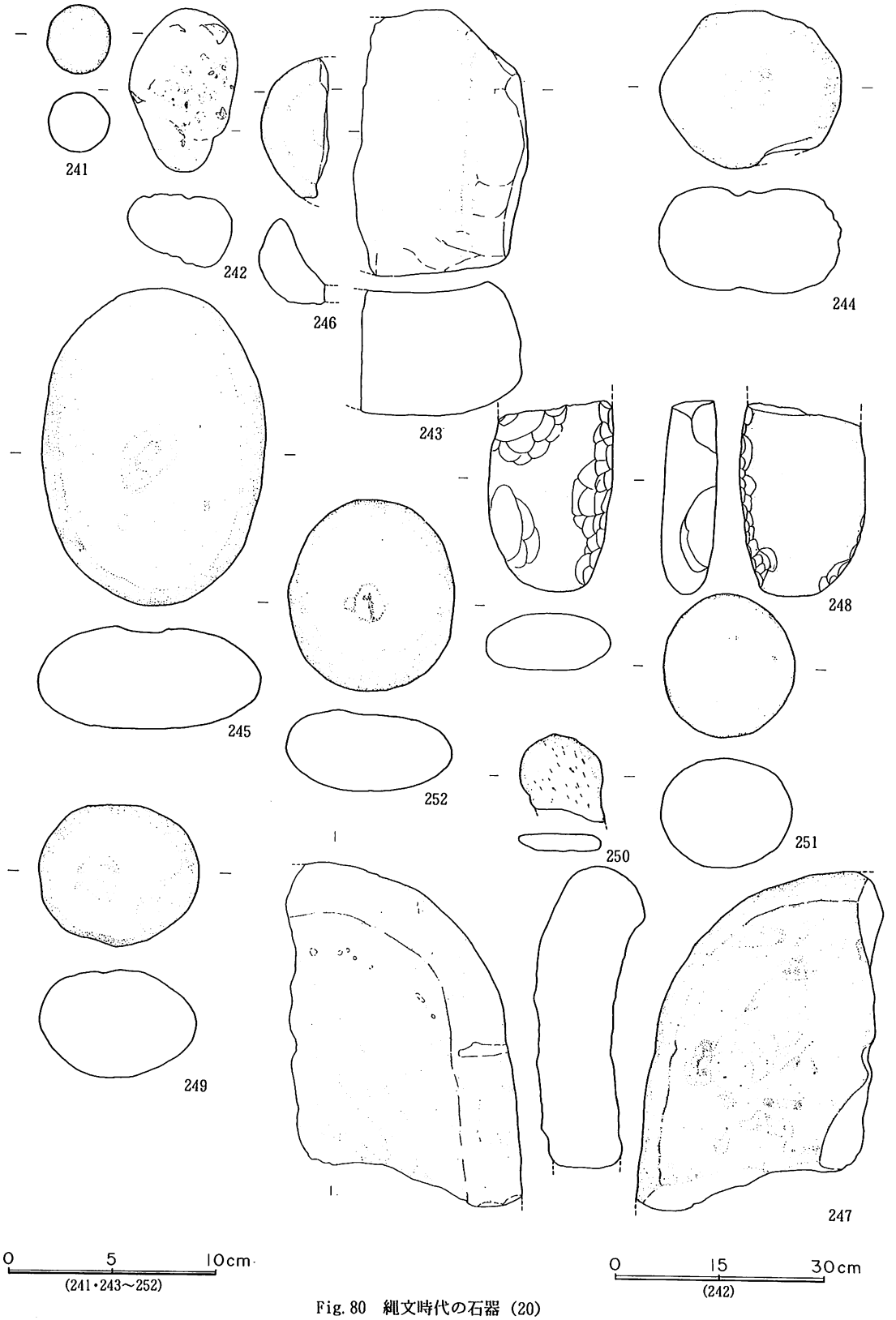


Fig. 80 縄文時代の石器 (20)

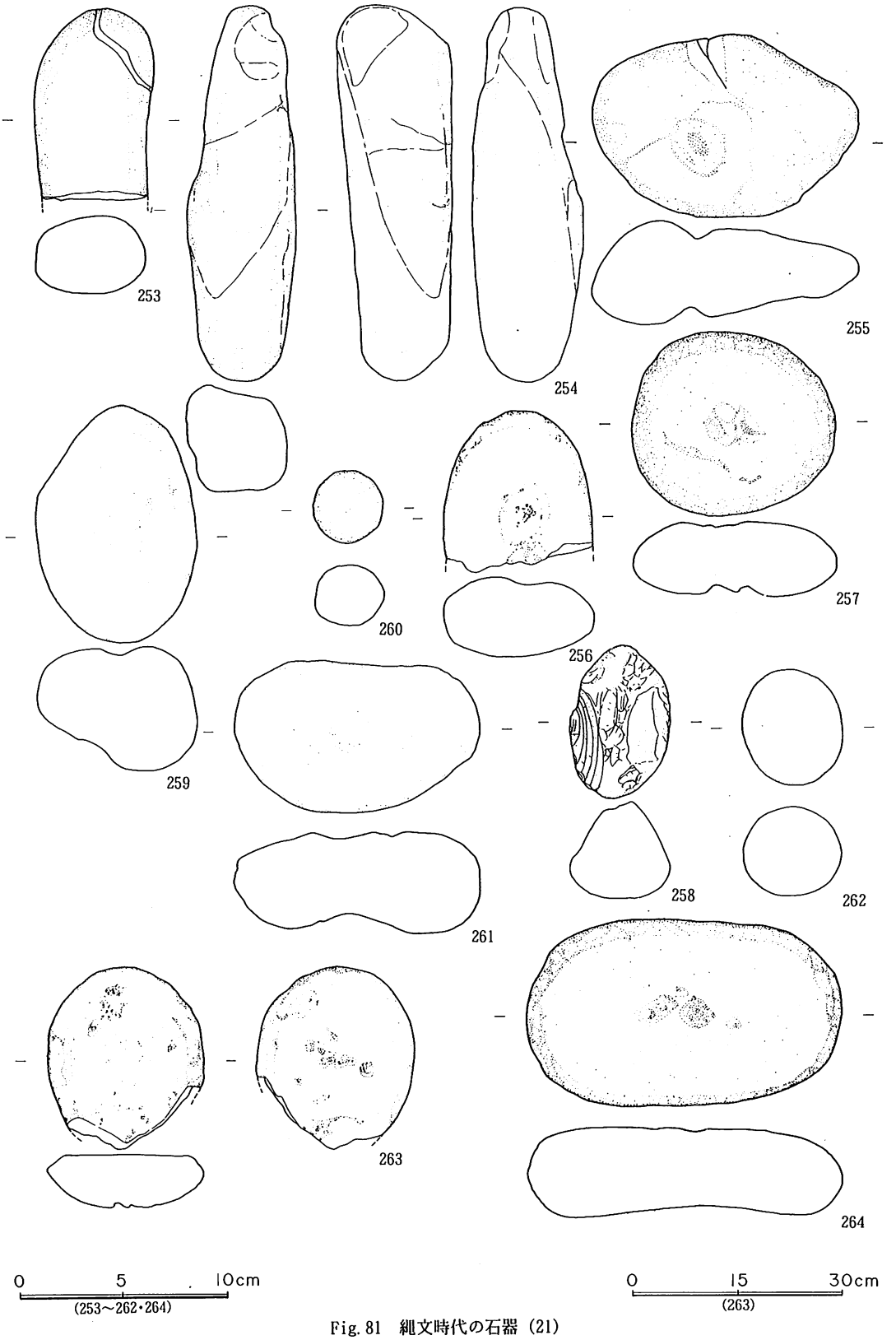


Fig. 81 縄文時代の石器 (21)

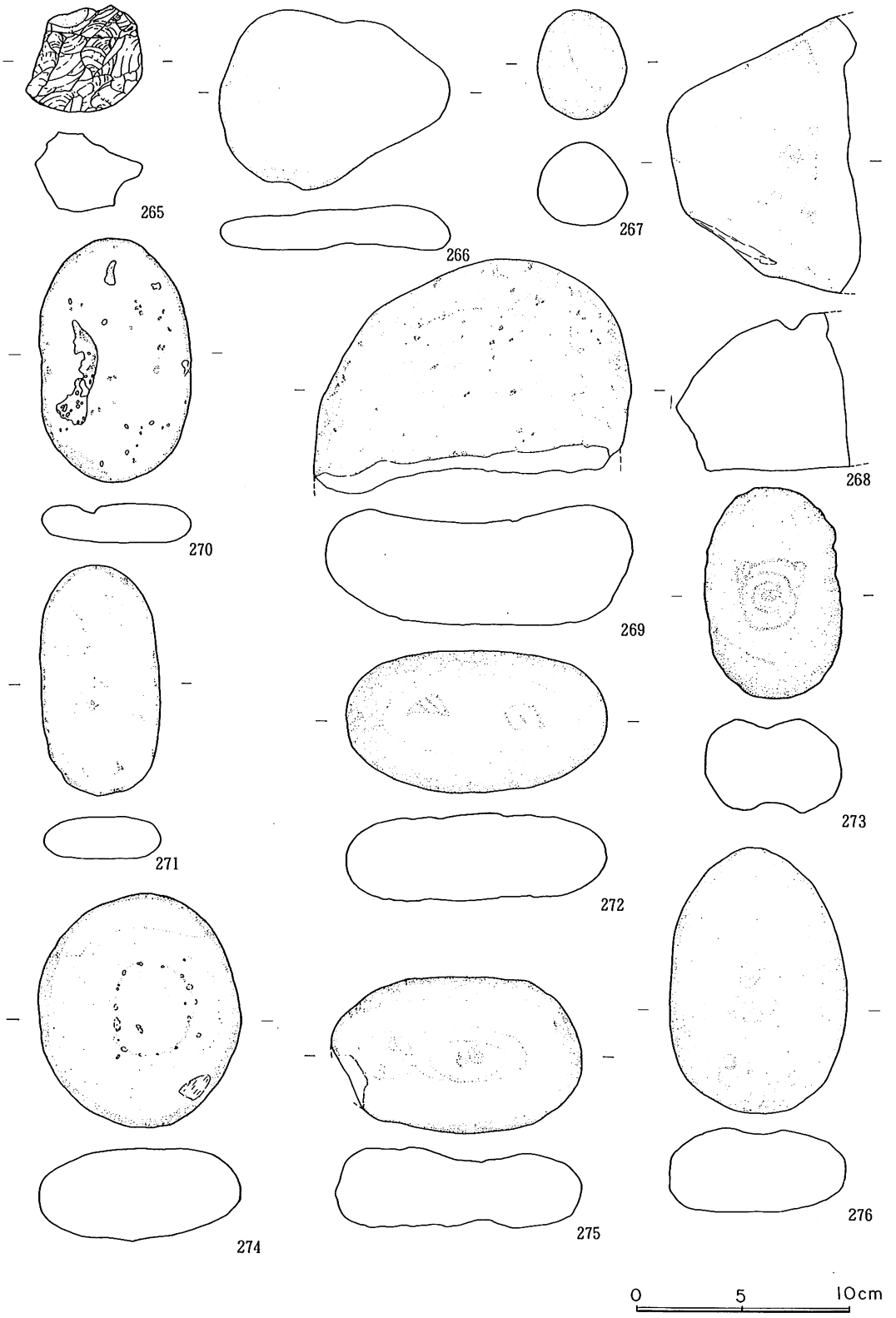


Fig. 82　縄文時代の石器（22）

2節　古墳時代以降の遺構・遺物

1　古墳について

群馬県遺跡台帳Ⅰ　東毛編（群馬県文化財保護協会）で北曲輪古墳群　前橋市勝沢町　所在地籍　北曲輪５１　地目は山林　民有地　種別　墳墓　保存状況悪い　位置　前橋Ｗ１９．０、Ｎ１６．２　地形　傾斜地　遺跡の概要、後藤利三郎氏所有の山林中にあって盛り土のみ僅かに残っている。石室については明らかでない。墳丘は円墳と見られる。上毛古墳綜覧旧芳賀村５０～５４号墳と記録されているものに該当するものと思われる。

遺跡台帳の記述で盛り土となっているが調査時点で既に墳丘と考えられる状況は見られなかった。

今回の調査で発掘された古墳は１～６号墳の６基である。この他調査区外に石室に使用された小礫の僅か盛り上がった場所が２ヶ所程見られることから、本遺跡周辺には８基以上の古墳が存在したものと思われる。

１号墳

調査区中央部南端（Ｑ・Ｒ・Ｓ－１４・１５・１６・１７）に位置する。墳丘は既に消失しており平坦となっていた。周堀の形状より径１７．７ｍの円墳と推定される。１号墳の周堀は北側の半分程しか見られない。最深部８２㎝、最大幅３．４ｍを測る。底面はハードローム層まで達している。内部主体は前庭をもつ河原石の自然石乱石積みの横穴式石室であったと考えられるが、鶏舎の基礎工事により殆ど破壊されてしまった。

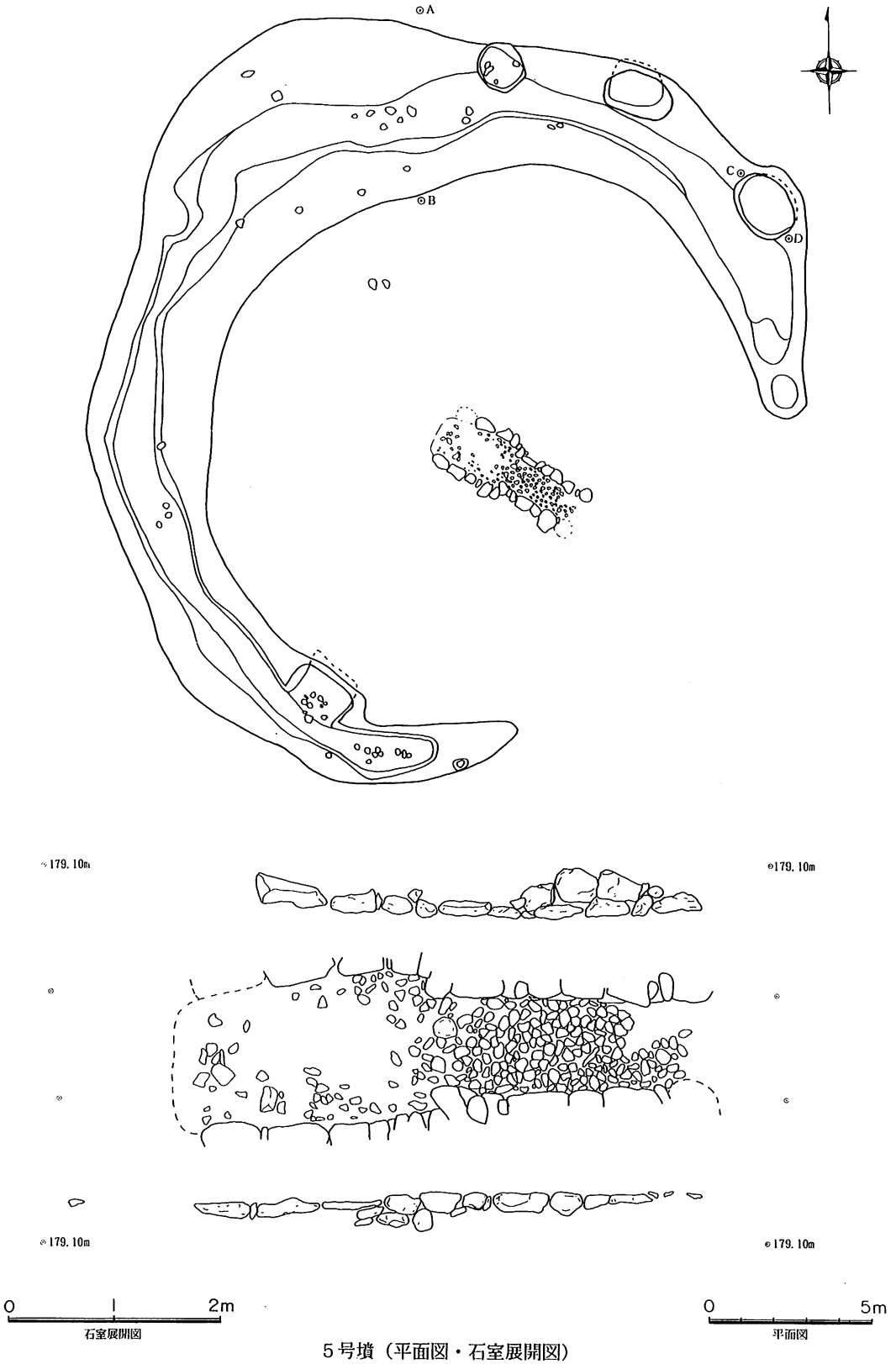
２号墳

調査区中央部南端（Ｓ・Ｔ・Ｕ－１７・１８・１９・２０）に位置する。墳丘は消失し平坦になっている。周堀の形状より推定すると直径１８．４ｍの円墳と考えられる。最深部１．０ｍ、最大幅３．５ｍを測る。底面はハードローム層まで達している。主体部は調査区外のため不明である。２号墳の南側と東側の調査区域外に、石室に使用されたものと同様の、１０㎝内外の礫が多量に集中する所が確認された。

３号墳

調査区中央部北端（Ｇ・Ｈ・Ｉ・Ｊ－２２・２３・２４・２５・２６）に位置する。表土から石室の床面までが６０㎝で、封土のほとんどが鶏舎建築当時に削平されてしまい、僅かに周堀の存在が古墳のあったことを示している。周堀の形状は１９．９ｍの円墳と思われる。しかし北西部と南西部が切れている。周堀の最深部９４・５㎝、最大幅２．９ｍを測る。底面はハードローム層まで達している。主体部は河原石を使用した横穴式石室と思われ、石室は奥壁で２０～３０㎝羨道部で１０～１５㎝ロームを掘り込んで構築している。「掘り方」底部には石室構築範囲内に拳大の石を敷き、この上に壁石を設置したものと考えられる。壁石も大半が除去されてしまい、左右の側壁の根石（８０×３５㎝）の自然石各１個が残存するのみであった。玄室は長方形を呈するものと思われる。玄室奥の幅が１５０㎝を測れる。

遺物　玄室の床面部分から鉄鏃１点が出土した。



5号墳（平面図・石室展開図）

4号墳

調査区東南部（H・I－27・28・29グリット）に位置する。本古墳も既に削平されており外観地形からは確認不可能であった。試掘段階でE－28～I－28トレンチでFP軽石を多量に含む黒色土の落込みが確認された。石室の北側だけにしか周堀は確認されなかったが推定で直径15mの円墳と考えられる。最深部で42cm、最大幅2.0mを測る。底面は北から北西部でローム層に達しているが、東側から南東方向は地形が傾斜しているので、ロームに達せずに周堀は消えてしまう。主体部は自然石の横穴式両袖型石室で、主軸はN－15°－Eにとっている。

全長　330cm

玄室長	左：180cm	中央：180cm	右：180cm
玄室幅	奥：90cm	中央：105cm	袖：100cm
羨道長	左：155cm	中央：150cm	右：150cm
羨道幅	袖：60cm	中央：75cm	入口：80cm

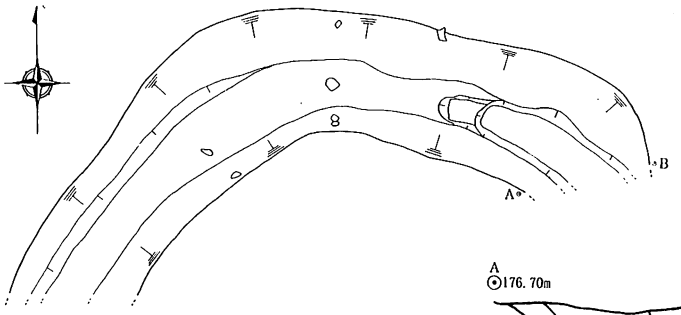
右壁の玄室1石、羨道部3石、左壁の羨道部で1石が欠如しているため復元推定値である。石室はFP軽石を含む黒色土を40～50cm掘り込み、10cm内外の河原石を敷き、奥壁及び両側壁の根石を設置している。石材の使用方法としては、平の面を石室内に向けて据えている。石と石の間に小石を詰めている。玄室と羨道部を区切るため、玄室入口部に框石7石が壁面と平行に置かれている。玄室・羨道の床面には5cm～20cm程の河原石が1面に敷き並べられている。河原石敷の下の地盤は叩いて面を固くしている。羨道入口には30cm～50cmの石5個が残存し閉塞の役をしている。裏込は玄室・羨道の内側より約80～100cmで玄室を囲んでおり、河原石を使用し根石部分の平面は馬蹄形を呈する。

出土遺物　本古墳は羨道部右側壁の根石3石分が欠如し、陶器片の出土から墳丘の削平以前に盗掘されたものと思われ、遺物も見られなかった。

5号墳

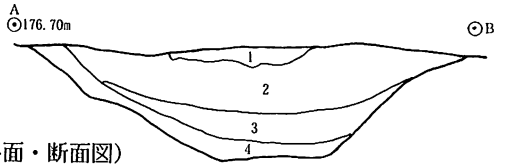
調査区中央部（J・K・L・M・N・O・P－16・17・18・19・20）に位置する。本古墳は試掘調査時にはK－20付近でFP軽石を含む黒色土が僅か確認されていたのみであった。墳丘は本古墳も既に削平され外観地形からは確認できる状態ではなかった。周堀は直径22.5mの円墳であるが、東南部羨道方向が切れている。本古墳の構築基盤はFP軽石を含む黒色土とローム層上面（10～20cm）を堀込み石室の根石を設置している。石室の開口部を南東に向けており、石室羨道部の根石1石ずつで一部2段目が確認できた程度で、壁石のほとんどが既に取り除かれていた。玄室の奥壁の根石も打ち割られていた。

内部主体は河原石を使用した横穴式両袖型石室で主軸はN－55°－Wに取っている。石室各部の寸法は次の通りである。

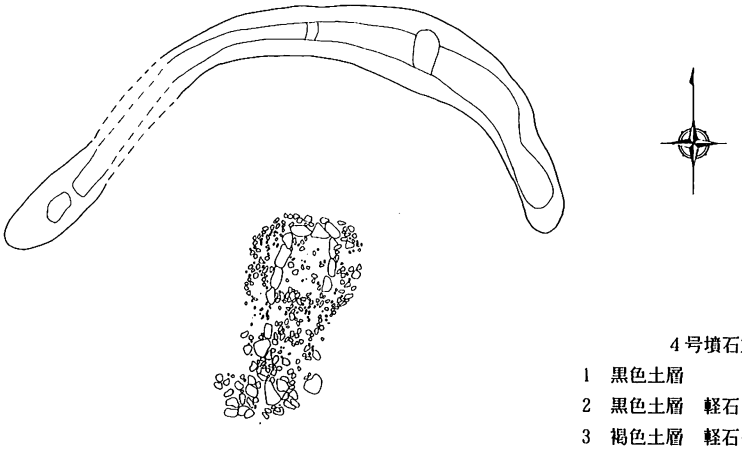


2号墳周堀

1　灰褐色土層　B軽石を含む。
2　黒色土層　FPを含む。
3　FPとロームの混土層
4　ローム層

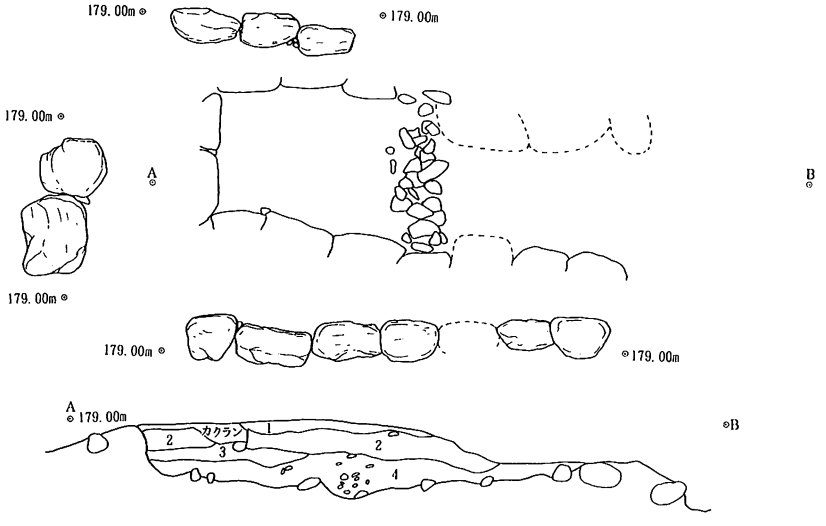


2号墳（平面・断面図）



4号墳石室

1　黒色土層
2　黒色土層　軽石（FP）を含む。（10～20%）
3　褐色土層　軽石をわずか含む。（5 %）
4　褐色土層　礫を含む。



4号墳（平面図・石室展開図・石室断面図）

0　1　2m
石室展開図・石室断面図

0　5m
平面図

全長５１０cm

玄室長	左：２４２cm	中央：２５０cm	右：２１５cm
玄室幅	奥：１２８cm	中央：１３８cm	袖：１２８cm
羨道長	左：２４５cm	中央：２７０cm	右：２５６cm
羨道幅	袖：８０cm	中央：８８cm	入口：７４cm

全長・玄室長については奥壁部分の石が除去されている為、グリ石及び堀込みによる復元推定値である。石室は当時の表土であるＦＰ軽石混じりの黒色土と、さらにソフトローム層を１０～１５cm堀込んでグリ石を置き、奥壁及び両側壁の根石を設置している。石材の使用方法としては、羨道部入口右側と袖部の両側の石を小口に据えており、他は平の面を石室内に向けて据えている。石と石の間には小石を詰めている。玄室と羨道を区切るため玄室入口に、框石５石が設置されている。

玄室と羨道の床面には５cm～２０cmの河原石が１面に並べられている。河原石の下はソフトローム面でよく叩いて固められている。羨道部入口には、床面に敷並べられた石よりも大きめの河原石で、閉塞が作られている。

裏込め石は、石室の周囲を胴張り長方形に、河原石で約１m幅で囲んでいる。

出土遺物　石室は削平されていたが、床面付近は攪乱を受けず、遺物は現位置をとどめているものと推測される。玄室奥で臼歯４本と人骨・鉄鏃１点・刀子１点・鉄剣１振り、須恵器の破片が石室覆土と周堀より出土した。

６号墳

調査区中央部東寄り（Ｌ－２４・２５グリット）に位置する。周堀北端部が僅か確認された。推定で直径６．０mの円墳と思われる。最深部で３０cm、幅が３５～１１４cmを測る。底面はハードローム層まで達している。主体部は調査区域外のため不明である。

２　その他の遺構・平面図・出土遺物実測図

土坑について

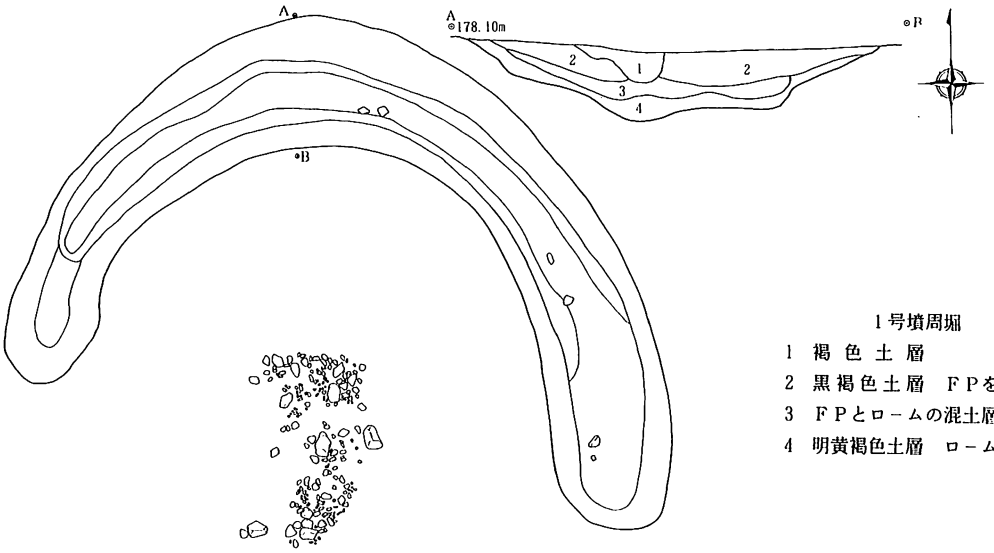
５号墳周堀内に３ケ所の土坑（１号土坑、２号土坑、４号土坑）が周堀完掘後に確認された。形状は長方形で袋状を呈する。土層は、周堀はＢ軽石の下層にＦＰ軽石が堆積し、土坑はロームブロックと軽石を多量に含む黒褐色土で一気に埋め戻されたことが伺われる。この土坑の目的は５号墳石室の石組と小礫を固定する為に使用されたものと思われる。

各土坑の計測値は以下の通りである。

１号土坑はＫ－２０グリットに位置し、長軸２３５cm、短軸１６８cm、深さ８０cmである。

２号土坑はＪ－１９グリットに位置し、長軸２２０cm、短軸１４４cm、深さ１２５．５cmである。

４号土坑はＪ－１９グリットに位置し、長軸２０８cm、短軸１９０cm、深さ１１０．５cmである。



1号墳周堀

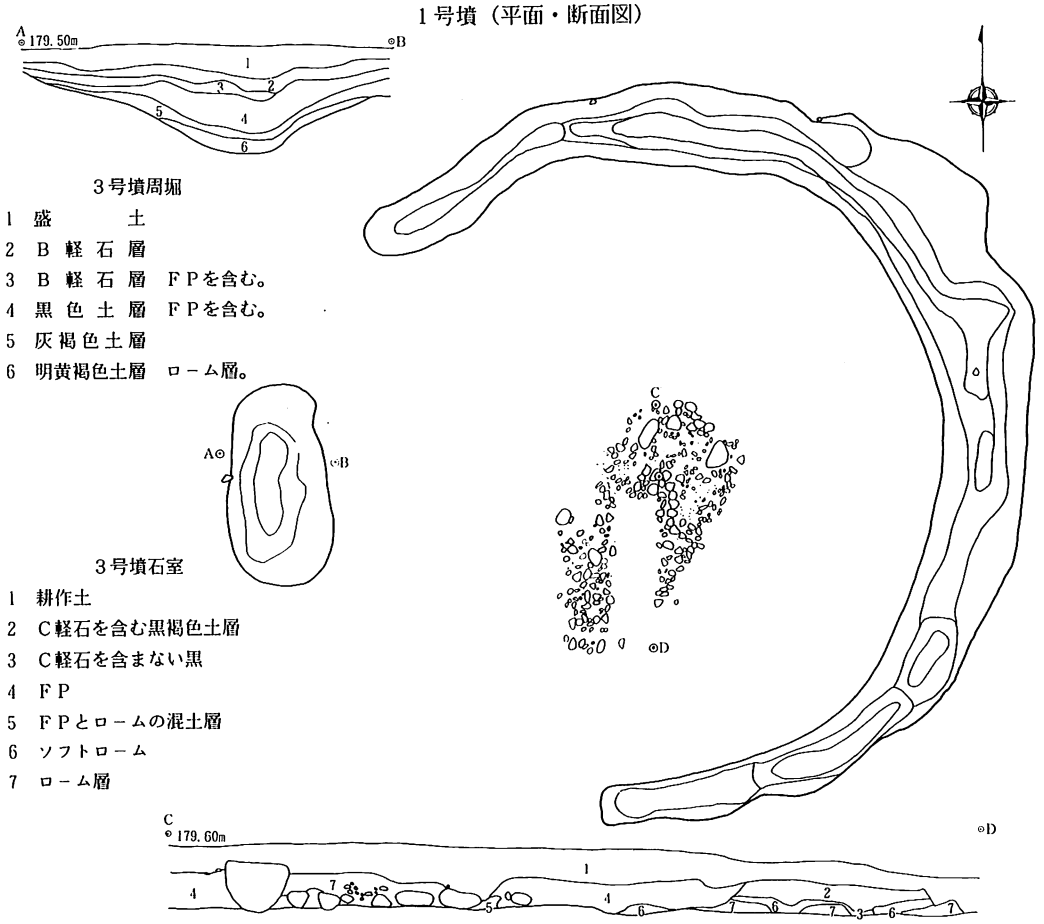
1　褐色土層

2　黒褐色土層　ＦＰを含む。

3　ＦＰとロームの混土層

4　明黄褐色土層　ローム層。

1号墳（平面・断面図）



3号墳周堀

1　盛　　土

2　Ｂ軽石層

3　Ｂ軽石層　ＦＰを含む。

4　黒色土層　ＦＰを含む。

5　灰褐色土層

6　明黄褐色土層　ローム層。

3号墳石室

1　耕作土

2　Ｃ軽石を含む黒褐色土層

3　Ｃ軽石を含まない黒

4　ＦＰ

5　ＦＰとロームの混土層

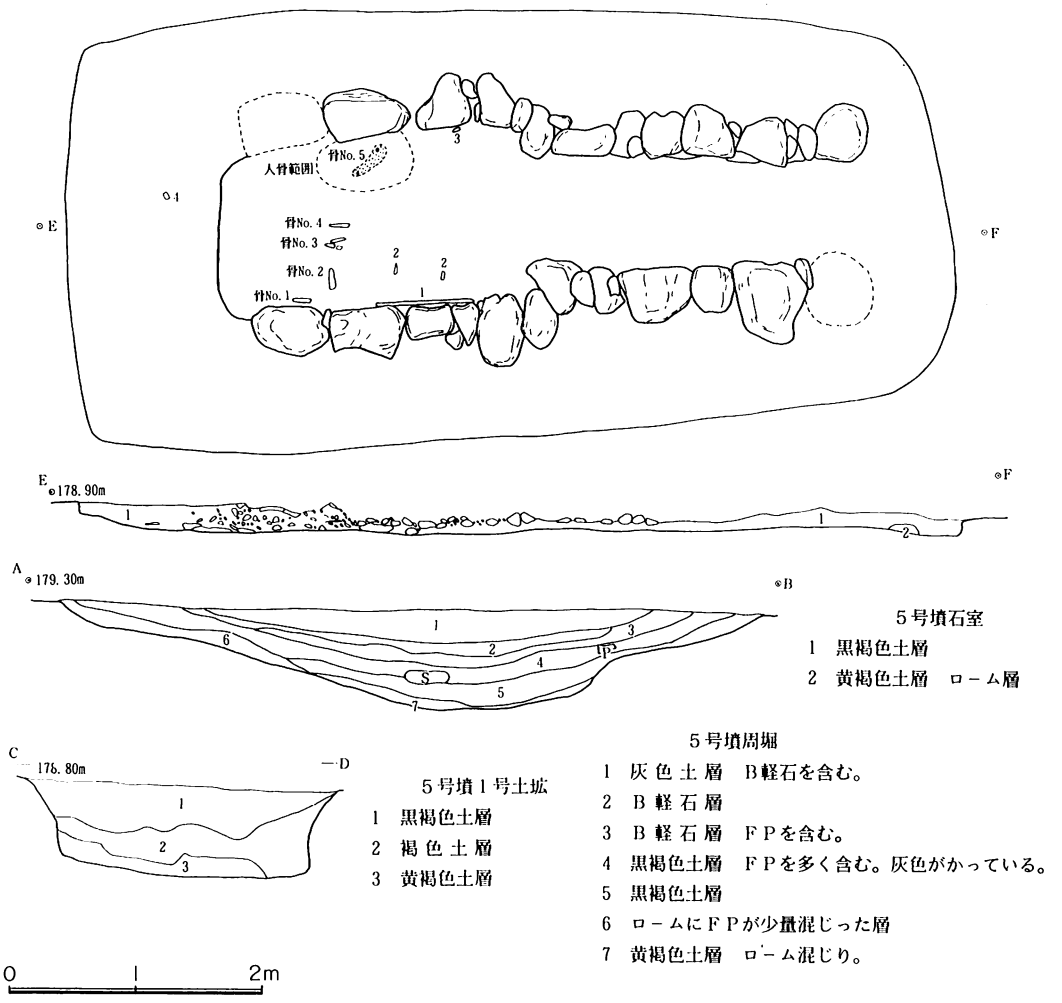
6　ソフトローム

7　ローム層

0　1　2m
断面図

3号墳（平面・断面図）

0　5m
平面図

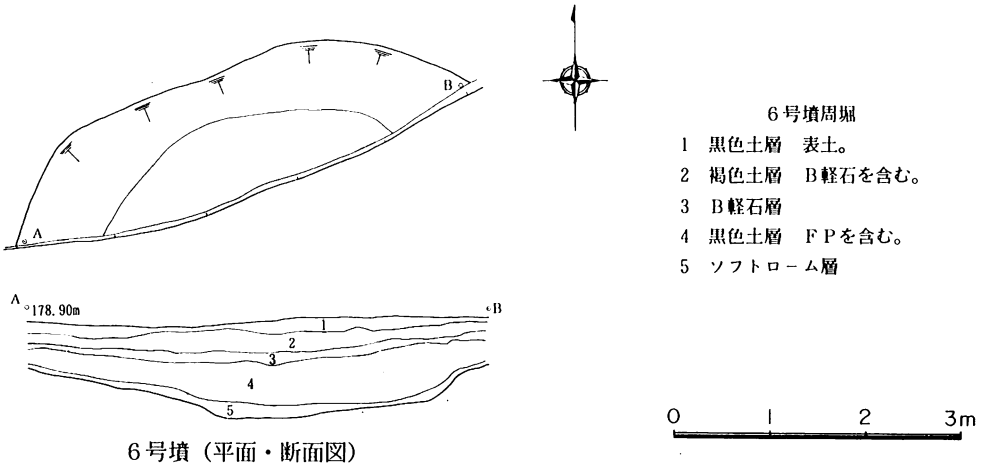


5号墳石室
1 黒褐色土層
2 黄褐色土層　ローム層

5号墳1号土坑
1 黒褐色土層
2 褐色土層
3 黄褐色土層

5号墳周堀
1 灰色土層　B軽石を含む。
2 B軽石層
3 B軽石層　FPを含む。
4 黒褐色土層　FPを多く含む。灰色がかっている。
5 黒褐色土層
6 ロームにFPが少量混じった層
7 黄褐色土層　ローム混じり。

5号墳（石室平面・断面図・周堀・1号土坑断面図）



6号墳周堀
1 黒色土層　表土。
2 褐色土層　B軽石を含む。
3 B軽石層
4 黒色土層　FPを含む。
5 ソフトローム層

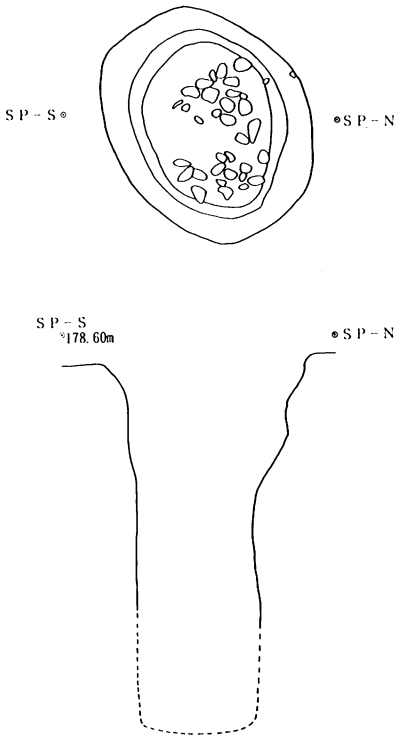
6号墳（平面・断面図）

井戸跡について

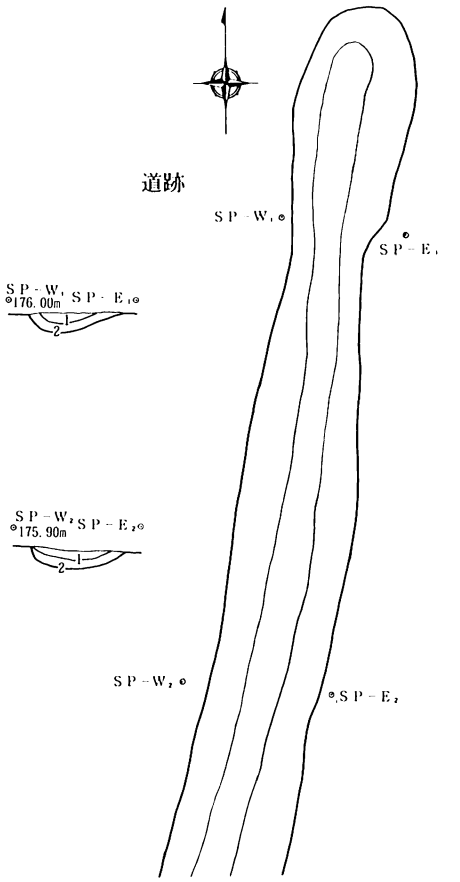
N－１８グリットに位置し長軸１９０cm、短軸１５７cmで楕円形を呈し、上部が開口するろうと状の掘り込みであり、深さは推定で３００cm以上と思われる。確認面から５０cm程は５～１３cmの石と黒褐色土層であり、その下は３０～５０cmの石とロームを含む黒褐色土層で埋められていた。本井戸跡からはNo.３８の石鏃が出土したが、使用時期については不明である。

道跡について

A・B－９グリット内の１６号住居跡の中央部を、南北に通り抜ける道跡が確認された。この道は幅９５cm、長さ７m、路面はよく踏み固められており、北端は削平され、南端は耕作により消滅している。土層は、FPを含む黒色土と、FPを僅か含む黒褐色土であり、6基の古墳の周堀を埋めているB軽石下の土層と同一のものである。



D－５号土坑（井戸）



道跡

1　FPを含む黒色土層　粘性が強く粒子が細かい。

2　FPを僅かに含む黒褐色土層

0　1　2m

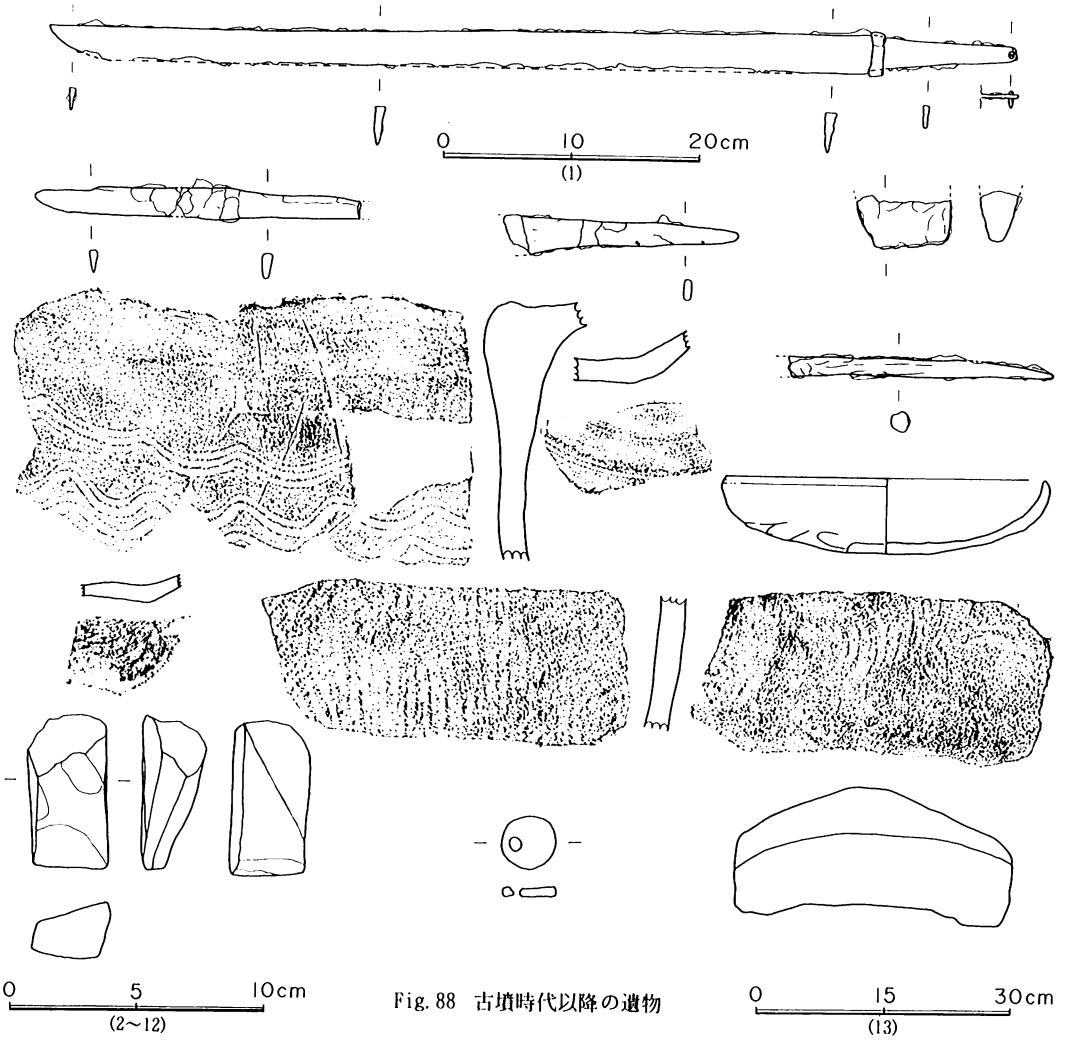


Fig. 88 古墳時代以降の遺物

古墳時代とそれ以降の遺物観察

番号	出土位置	器種	法量 胎土 焼成 色調 文様の観察
1	5号墳石室	太刀	全長(75.8)刃部84.3茎部11.5 棟巾2.5 刃巾1.5 茎末端に目釘1.4が残る。石室の南壁に密着して出土、刀身は二等辺三角形を呈し、関に1.0cm幅の金具が錆付いていた、X線写真にも文字は見られない。
2	5号墳石室	刀子	全長(12.8),刃部7.5,幅1.2,茎5.3；5号墳石室内より出土、2点が接合されるものと思われる。刀身関には平造りでは金具が錆付いていた。茎末端は折れているが木質の錆付がみられる。2点が接合されたことは石室床面も攪乱を受けたことが同える。
3	5号墳石室	刀子	残存長(9.8) 幅1.4 茎7.3 5号墳石室内より出土、刀身部は2.1を残すのみでほとんどが茎部分のみ、茎には木質が錆付く。棟巾が1mm程見られる。
4	5号石室付近		長さ(2.0) 幅 3.2 厚さ1.6 奥壁の外側 鉄斧と思われる。
5	5号墳	須恵器壺	頸～胴部
6	5号墳	須恵器壺	胴の一部 表面は平行叩き目文 内面同心円叩き目文
7	5号墳	須恵器壺	底部の一部 篦撫き痕有り。
8	3号墳	鉄鏃	長さ10.5 直径 0.7 石室床面直上 篦被長 (7.0) 茎長 (3.5)
9	3号墳	土師器坏	口径13.0 器高3.0 粗砂混入 堅 橙 体部と口縁部の一部 外面篦削り内面撫で、全体に歪が目立つ。3/4残
10	表採	須恵器坏	坏底部の破片 糸切り痕。
11	WX－7	砥石	長さ(6.1) 幅 3.0 厚さ 2.5 時期不明
12	I－28	小円盤	直径1.1 厚さ0.35 土製円盤で両面から穿孔されている。
13	古－5	笠	縦32.4 横29.2 高さ13.5 重量7.0kg 角閃石安山岩

第3章 成果と問題点

1 縄文時代

赤城山南麓域は恵まれた環境を備えており、各時期の数多くの遺跡が分布している。今回の芳賀北曲輪遺跡の発掘調査により、重要ないくつかの成果を得ることが出来た。これらについてここで概要をまとめておきたい。

本遺跡の調査では前期後半の住居跡１１軒、中期末から後期初頭の住居跡６軒、時期不明の住居８軒と古墳時代末期の群集墳６基が確認された。

縄文時代の集落は前期黒浜期が６軒、諸磯期が５軒で中心を成している。中期の住居は確定するには至らなかった。次に中期終末期から後期初頭の環状配石住居跡１軒と柄鏡型敷石住居が５軒確認されたことが特筆されよう。

ＪＨ－２２は周囲に河原石を一周させた環状配石住居で、加曽利ＥⅣ式土器と大木１０ａ式土器とが混在し、称名寺Ⅰ式土器を伴う。本住居跡は５角形が想定される。石材は１５cm～３６cmの河原石を住居跡の周囲に巡らし、炉には周囲の石より大きめの河原石が使用されており、熱による剝がれが顕著であった。石の長軸方向を半分程度埋め込んで巡らしている。南西隅には土坑を有し、埋設土器等からすると中期末から後期初頭のものである。北側には６個の小型の河原石が環状配石の外側に設置され、床面より２１～２５cm高い位置であった。住居跡のプランと出土遺物から柄鏡型住居の初期の形式と思われる。

敷石１号は張り出し部が円形を呈しその周囲は２～３段の石組がみられる。この事は張り出し部が入口と考えるには不都合と思われる。形状は六角形の構築方法が想定される。主体部と張り出し部の境に加曽利ＥⅣ式の底部を欠損した大型の深鉢が埋設されていた住居である。称名寺Ⅰ式土器と混在する。他の敷石住居（２．３．４号）跡には埋設土器は見られず、同位置に河原石による四角囲いが確認されている。張り出し部に四角囲いの様な敷石の敷設がなされなかった所があり、炉は住居の中央部に存在する。小礫列というより、拳大の石が点在する。張り出し部と周囲に使用した石材は偏平な面を持つ河原石で、炉には３個の敷石より大きめな長方形の石を使用している。又敷石１号住居跡の張り出し部の外側には、SNo.１６１の石棒が検出されており、住居形態と呪術的要素の強い遺物の伴出が興味深い。

敷石２号住居では、出土遺物は称名寺～堀之内式土器を主体とする。張り出し部が正方形になり、その両脇の石は長軸を横にし、偏平な面を内側に向けて立った状態に1/3程埋め込まれていた。本住居跡は６角形が想定される。小礫列の遺存度は極僅かであったが、たしかに確認された。炉は住居跡中央部に位置し、やや大きめな立派な炉で５角形を呈している。四角囲いも主体部の内側に位置し、張り出し部との間に敷石の欠如が見られ、簡単な形だけの存在で底石も1/2程度であった。使用石材は張り出し部、敷石、炉ともに河原石を使用している。

敷石３号は称名寺から堀之内式土器を主体とする。主体部の大きさに比べて張り出し部はやや細めで長方形を呈し、石がびっしりと敷き詰められていた。張り出し部の両脇には、立った石の

設置は見られない。小礫列と柱穴の存在がはっきりしている。本住居跡は６角形が想定される。炉は住居跡のほぼ中央にあり、四角囲いは主体部と張り出し部の接点に位置する。比較的粗雑な造りである。張り出し部は自然石、炉の周囲は比較的角張った６個の大きめの河原石で築かれている。熱を受け剝がれが見られる。

敷石４号は称名寺から堀之内式土器を主体とする。本住居跡になると四角囲い、炉、土坑がほぼ同一線上にあるが、四角囲いは主体部と張り出し部の接合点より外側に来る。炉は住居跡中央部から外れて張り出し部に接近している。本住居跡は６角形が想定される。小礫列と柱穴の確認がされた。

ＪＨ－１５ａ住居は称名寺土器を主体とする。僅かな敷石が確認されただけであるが、柱穴の位置と敷石の範囲がほぼ同一プランを示し、レベルもその差が１１㎝で、炉体土器が称名寺Ⅱ式に比定されるので敷石住居と考えるのが妥当であろう。

① №２９４は称名寺Ⅱ式の無文の土器である。

② 埋設炉と考えられる周辺には９個の集石が検出された。

③ この９個の集石は海抜１７８．３７～１７８．４５ｍでその差が１１㎝である。

④ 周辺のＨ－３０、Ｉ－２９・３０グリットは南東に傾斜し自然石の散乱が見られた。

以上４点から敷石住居の存在が考えられる。しかし敷石の大半が４号墳の周堀構築の時点で取り除かれ、炉の周辺のみが周堀の外側であったため、残ったものと考えられる。

芳賀北曲輪遺跡の調査結果について、その特徴を箇条書にして本校を終わりにする。

①古墳時代の周堀にはＦＰ及びＢ軽石の堆積がみられるが、縄文時代住居の土層では表土（耕作土）ソフトローム層、ハードローム層となっており遺構の残りが非常に悪い。

②中央部の縄文時代の住居跡では削平の為遺構の残存状況が悪い。

③早期の尖底土器の底部が出土している事から、周辺に早期の遺構の存在する可能性が考えられる。

④本遺跡では縄文時代の柱穴として、大型で深いものが４～６本揃って確認されることがなかった。

⑤ＪＨ－１２号住居内より土偶が出土している。

⑥石棒３点　（敷石１号から１点、敷石４号から２点）

⑦岩版３点、岩偶１点が敷石３号より出土している。

⑧縄文中期の住居跡は確認できなかったが、包含層から多数の土器が出土しており、当遺跡の北側には多量の土器が分布していることから、周辺に中期の遺構も存在することが考えられる。

⑨当遺跡に置いては主体部と張り出し部の接合部に埋設土器を設置する形式が古く、この位置に四角囲いを設置する形式の方が新しいものと思われる。

⑩晩期の注口土器の注口部と思われる破片が出土している。

2　古墳時代

○遺存状況はあまり良くないので古墳の外形は明確ではないが周堀の１部と石室の根石が残されているので石材の使用方法、構築の尺度、企画性を辛うじて知ることが出来た。

○本古墳群は浅間山Ｃ軽石、榛名山二ツ岳形成時のＦＰ軽石を混入した黒色土層とローム層の上面まで掘り窪めて構築されていた。

○玄室は奥壁部分が１番狭く長い台形状にみえる。

○玄室長と羨道長を比較すると玄室長がやや長い。

○４号墳では羨道入口幅を１とすると羨道長１．８、玄室入口の幅が１．２、奥壁で１．１、玄室長が２．２となる。

○使用尺度は唐尺を使用しているものと思われる。

○玄室の幅と長さの比は１：１．８である。

○以上構築基盤の地層、使用尺度、企画性等から７世紀中頃に構築されたものと思われる。

○当古墳群の使用石材が利根川水系の河原石であることから、旧利根川の流路を考える一資料が発見された。

○封土は削平されているが、周堀の直径１５ｍ幅１．５～２．０ｍの円墳であると思われる。

○芳賀村の丘陵地にはこのような円墳が多数存在したと考えられるが、発掘調査による資料が加えられたことは今後の古墳分布を知る上でたいへん貴重なものと考えられる。

参考文献

見立留井遺跡・見立大久保遺跡　赤城村教育委員会　１９８５年

「保渡田Ⅱ遺跡」　『群馬町埋蔵文化財調査報告書第４集』　群馬町教育委員会　１９８２年

９年橋遺跡第１１次　北上考古学会　北上市教育委員会社会教育課　１９８８年

縄文土器大観　１～４　小林達雄（編）小学館　（１）・（４）１９８９年（２）・（３）　１９８８年

「縄文土器の編年」　小林達雄『季刊考古学第１７号』雄山閣　１９８６年

群馬県史資料編１　群馬県史編纂委員会　１９８８年

考古学ライブラリー２１・土偶　米田耕之助　ニューサイエンス社　１９８４年

考古学ライブラリー３６・縄文集落　松田文夫（著）ニューサイエンス社　１９８４年

考古学ライブラリー４９・配石遺構　塚原正典（著）ニューサイエンス社　１９８４年

日本の考古学　縄文時代　鎌木義昌（編）河出書房新社　１９６５年

石器研究法　竹岡俊樹（著）言叢社　１９８９年

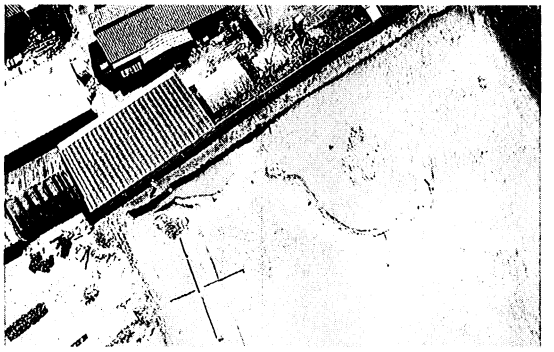
縄文土器の技術　新井司郎（著）　中央公論美術出版　１９７３年

図説・前橋の歴史　近藤義雄（著）あかぎ出版　１９８６年

いわゆる「環礫方形配石遺構」の性格をめぐって 山本暉久 『神奈川考古第２０号』１９８５年

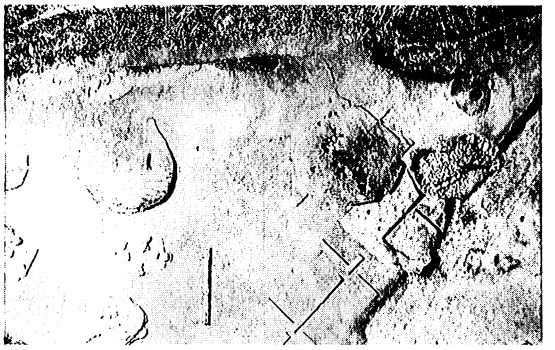
縄文時代の周礫を有する住居址について　金井安子　『青山考古学通信第４号』　１９８４年

図録石器の基礎知識Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助著　柏書房１９８０～８１年

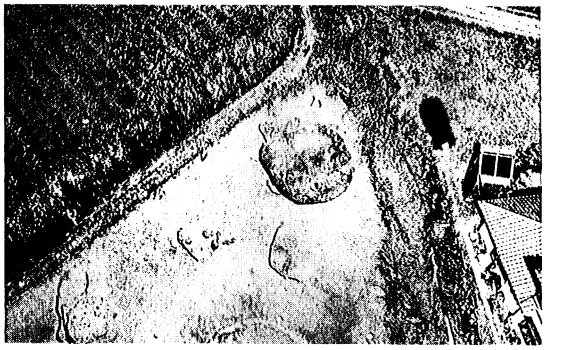


調査区南西部（北から空撮）

調査区中央部（南から空撮）

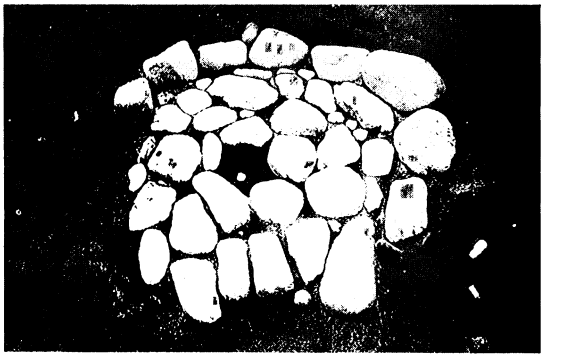


調査区南東部（北から空撮）

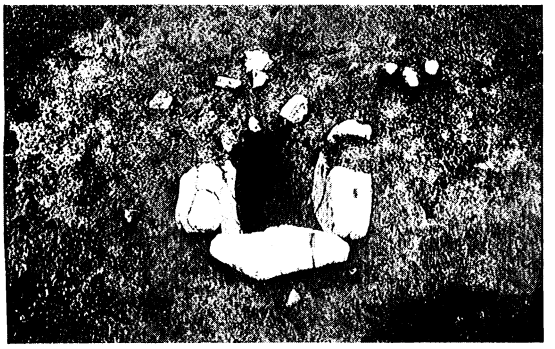


調査区北東部（南西から空撮）

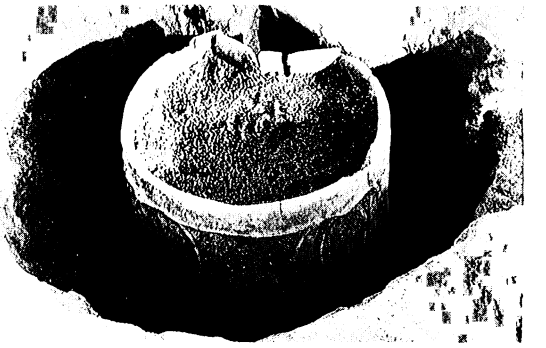
敷石１．４号住居跡　敷石状態



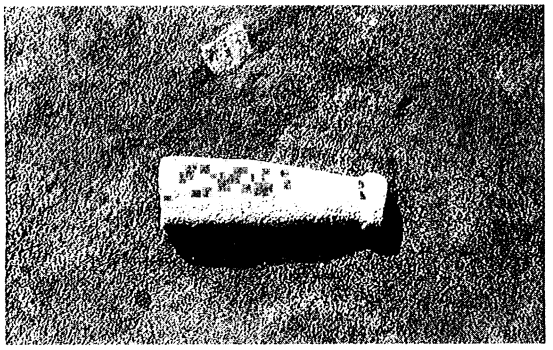
敷石１号住居跡　張り出し部基壇



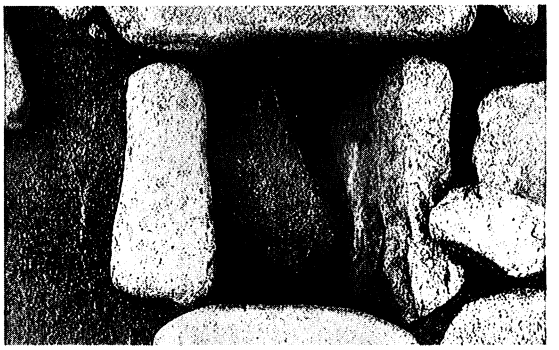
敷石１号住居跡　石囲い炉



敷石１号住居跡　埋甕

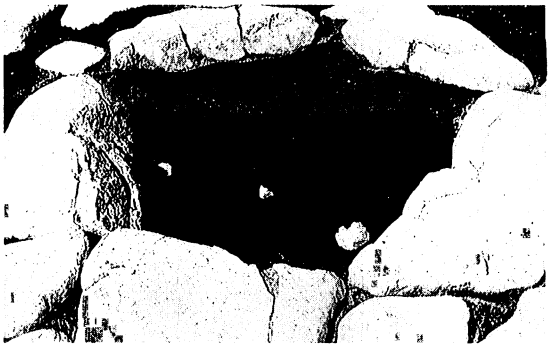


敷石１号住居跡　石棒

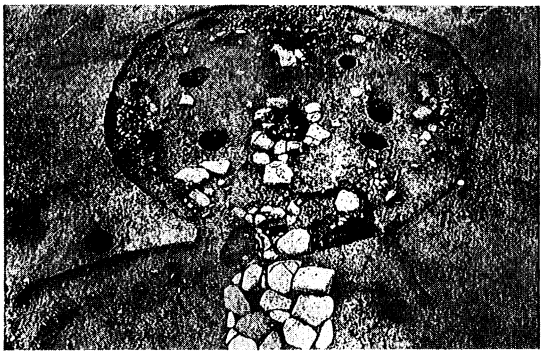


敷石４号住居跡　基部付近石囲い

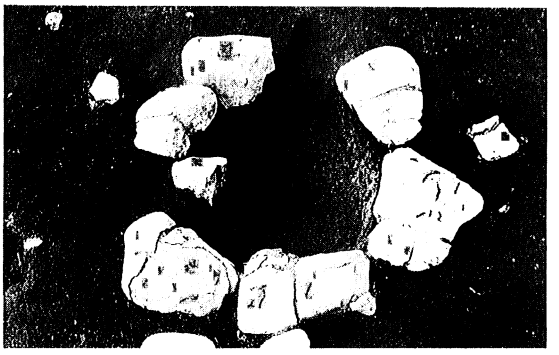
敷石２号住居跡　敷石状態



敷石２号住居跡　石囲い炉

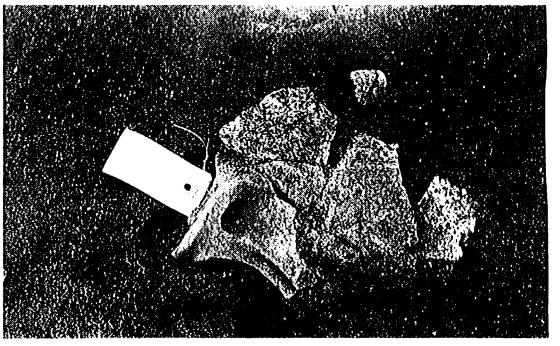


敷石３号住居跡　敷石状態

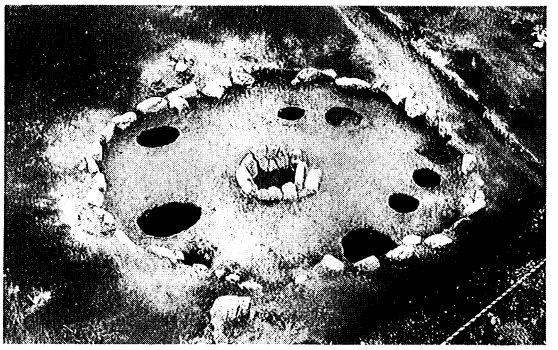


敷石３号住居跡　石囲い炉

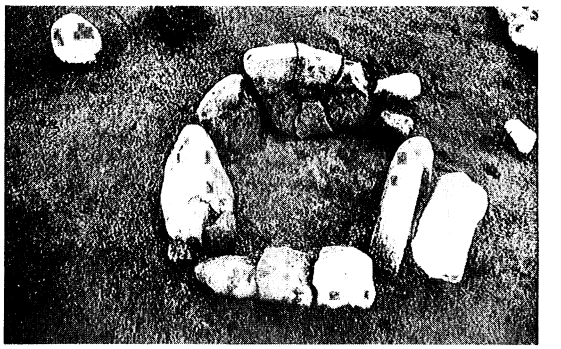
敷石３号住居跡　遺物出土状態



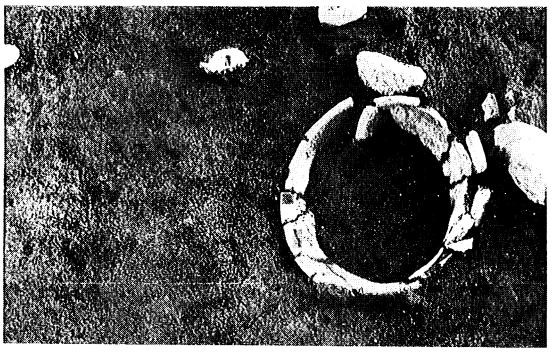
敷石３号住居跡　遺物出土状態



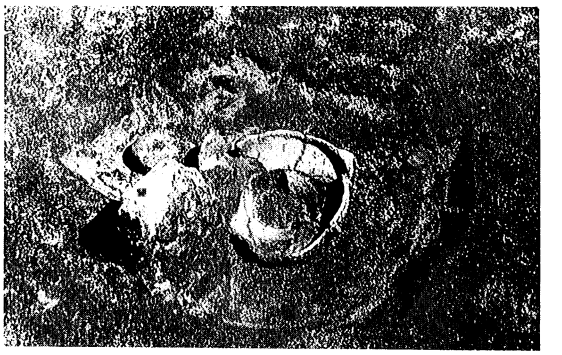
ＪＨ22号住居跡　配石状態



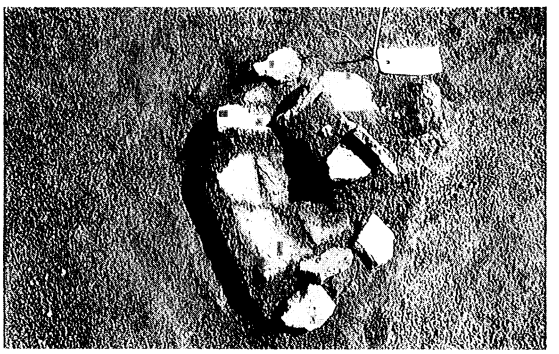
ＪＨ22号住居跡　石囲い炉



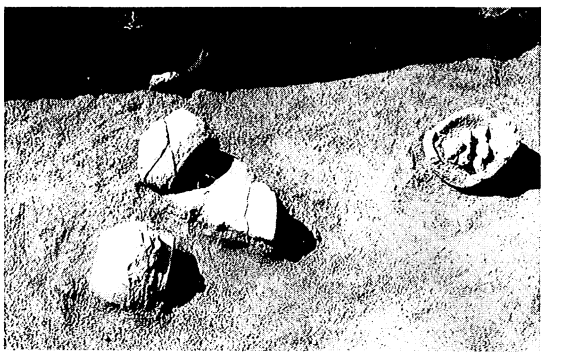
ＪＨ22号住居跡　埋甕



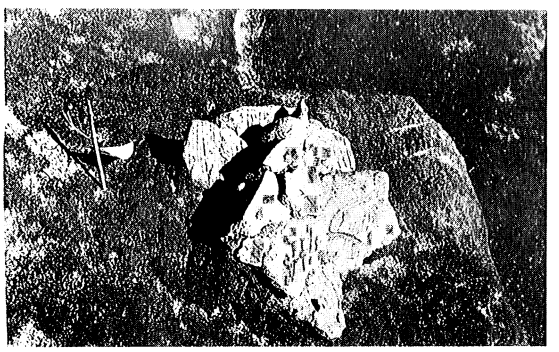
ＪＨ２号住居跡　埋甕炉



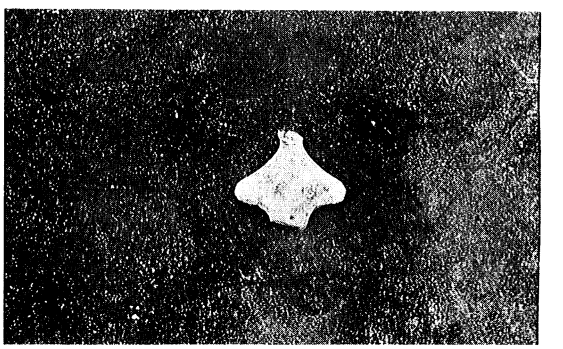
ＪＨ５号住居跡　遺物出土状態



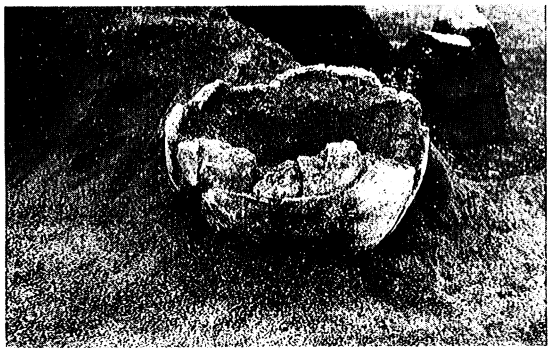
ＪＨ６号住居跡　遺物出土状態



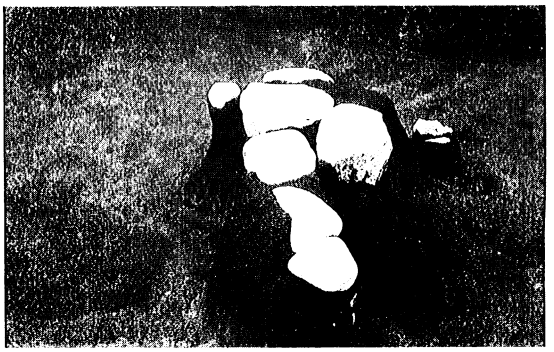
ＪＨ12号住居跡　遺物出土状態



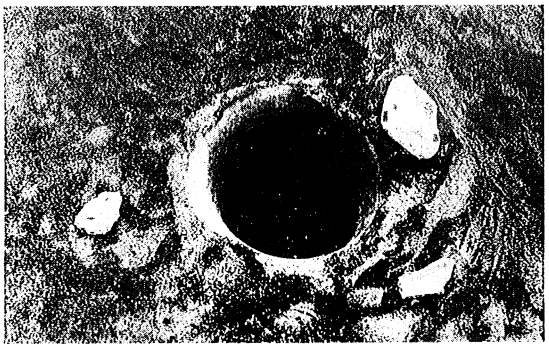
ＪＨ12号住居跡　土偶



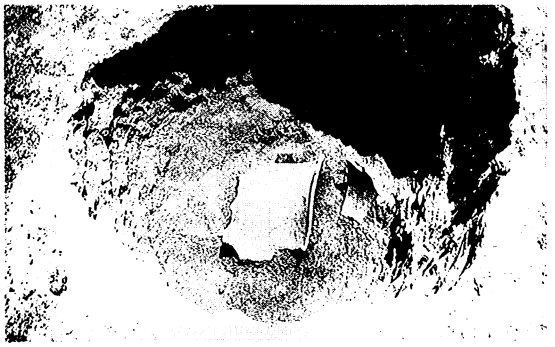
ＪＨ15号住居跡　埋甕



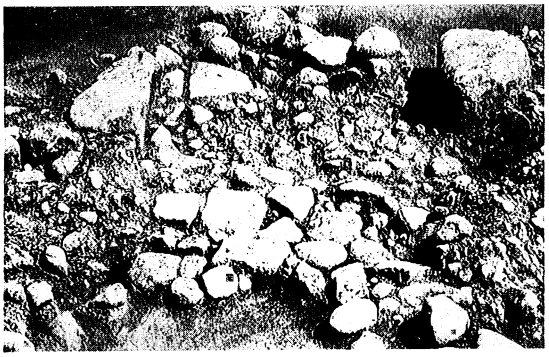
ＪＨ15号住居跡　敷石状態



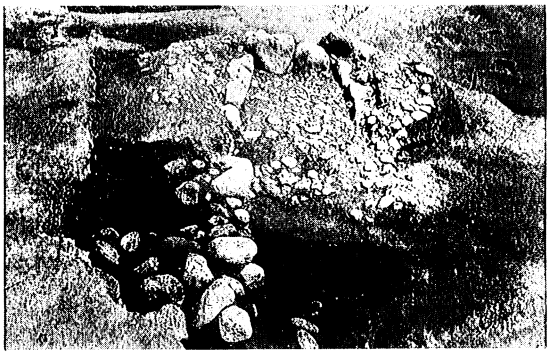
ＪＨ18号住居跡　埋甕炉



Ｄ－11号土坑　遺物出土状態

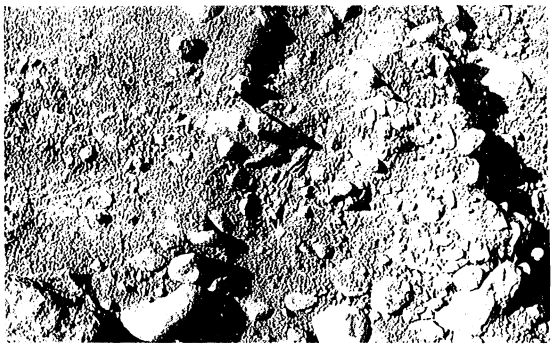


３号墳　石室

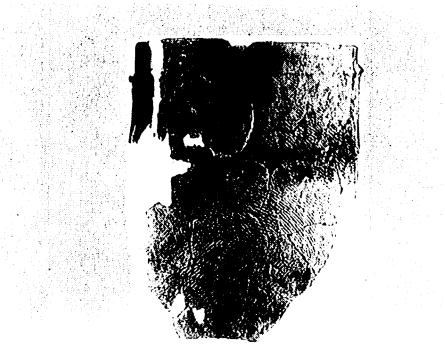


４号墳　石室

５号墳　石室内　鉄剣

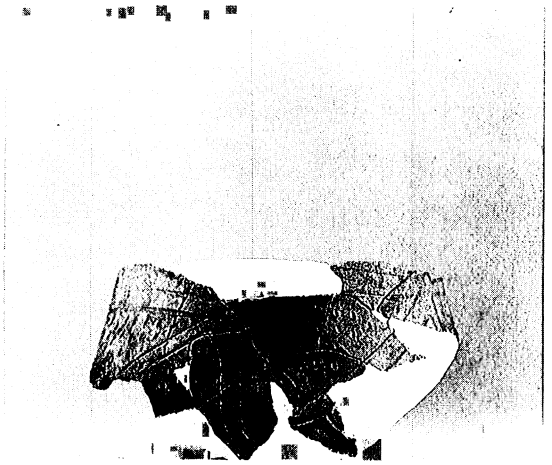


５号墳　石室内　人骨



敷石１号住居跡　(1)

敷石３号住居跡　(39)

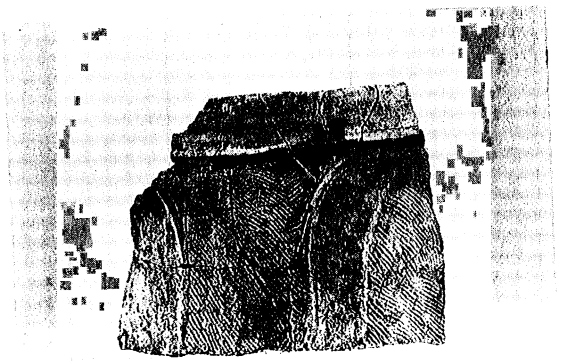


敷石３号住居跡　(31)

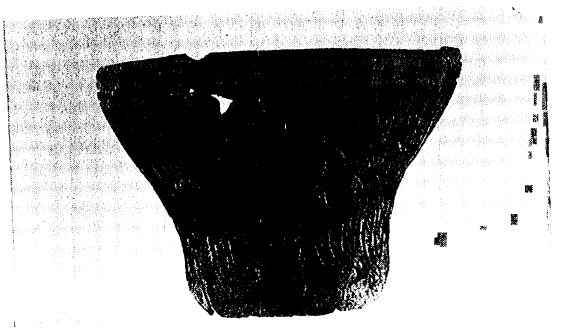
敷石３号住居跡　(32)

ＪＨ22号住居跡　(98)

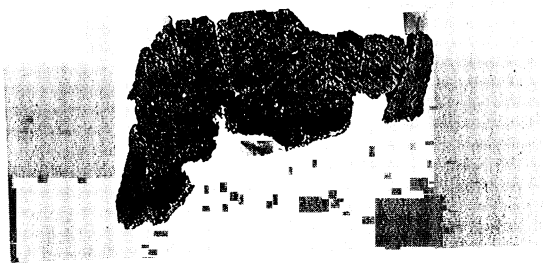
PL. 6



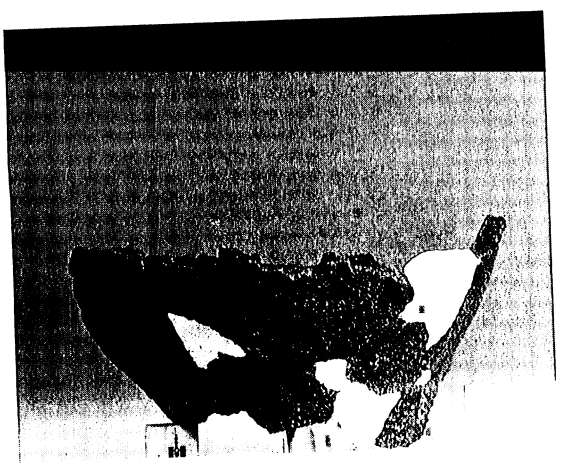
ＪＨ22号住居跡　(97)



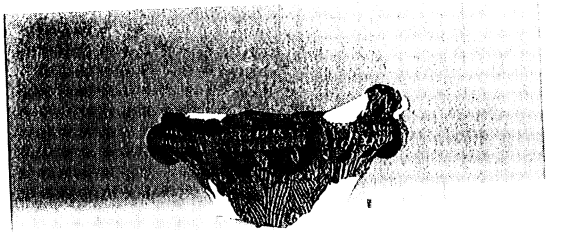
ＪＨ22号住居跡　(104)



ＪＨ５号住居跡　(144)

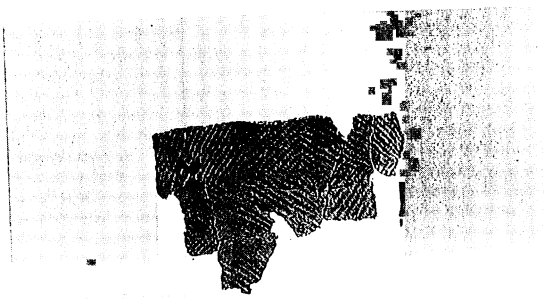


ＪＨ５号住居跡　(145)



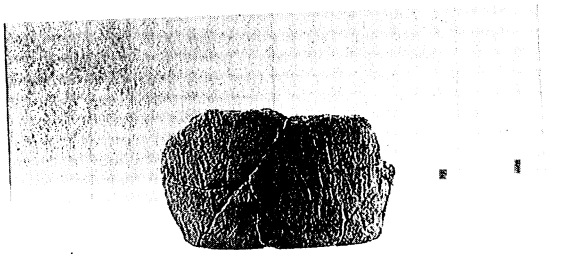
ＪＨ２号住居跡　(117)

ＪＨ５号住居跡　(142)

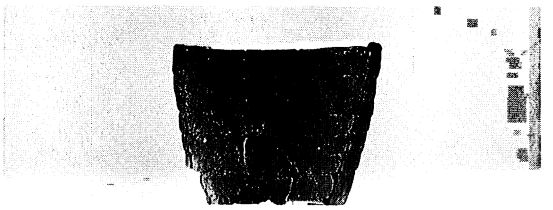


ＪＨ５号住居跡　(143)

ＪＨ５号住居跡　(138)

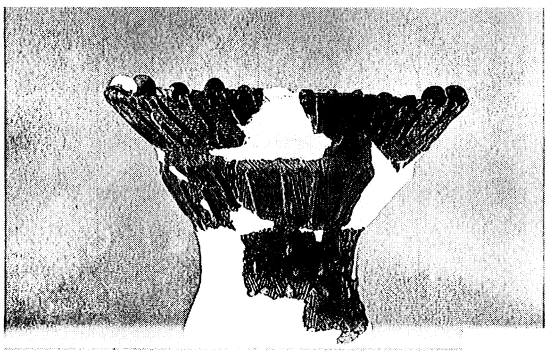


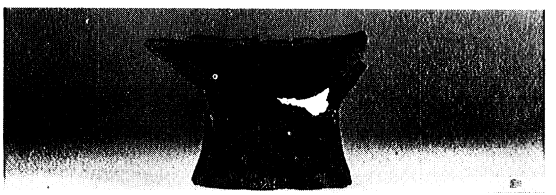
ＪＨ６号住居跡　(155)



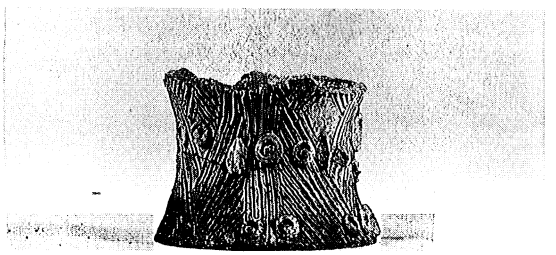
ＪＨ８号住居跡　(160)

ＪＨ８号住居跡　(173)

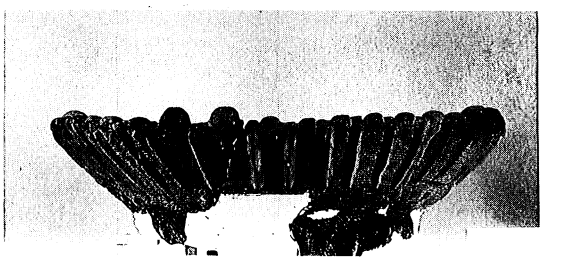




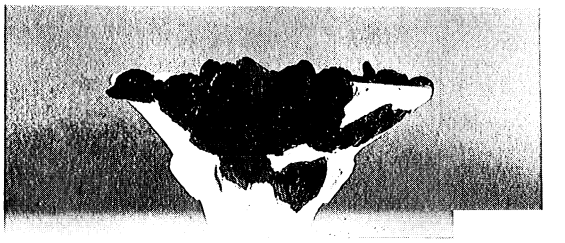
ＪＨ８号住居跡　(166)



ＪＨ12号住居跡　(249)

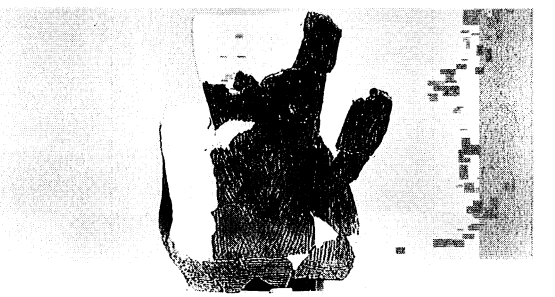


ＪＨ８号住居跡　(162)

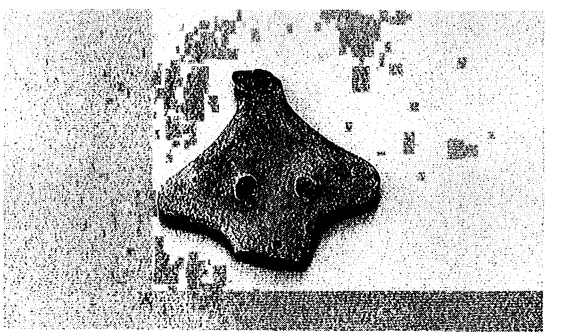


ＪＨ８号住居跡　(161)

ＪＨ８号住居跡　(167)

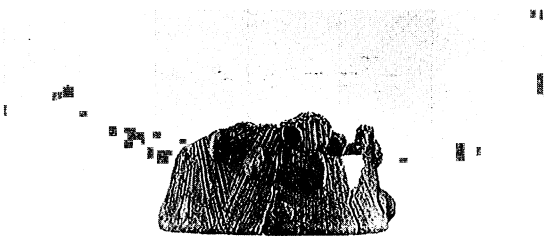


ＪＨ12号住居跡　(250)

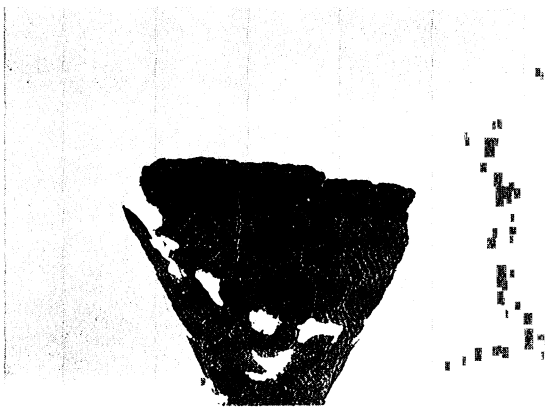


ＪＨ12号住居跡　(251)

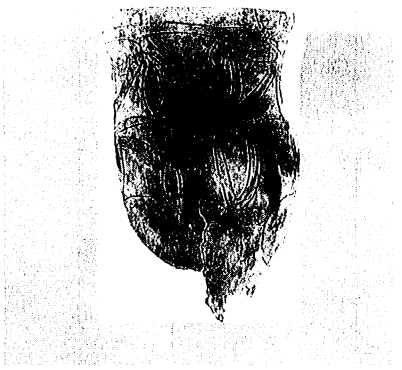
J H12号住居跡　(252)



J H15号住居跡　(295)



J H16号住居跡　(357)



D－11号土坑　(430)

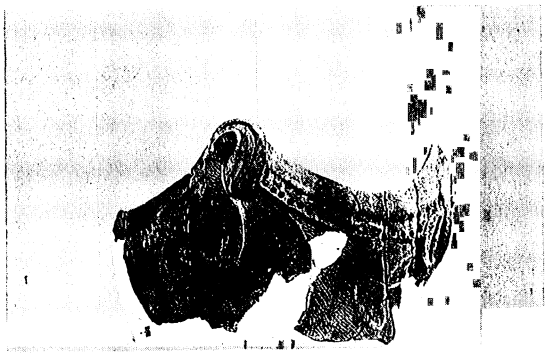
J H15号住居跡　(294)

J H15号住居跡　(298)

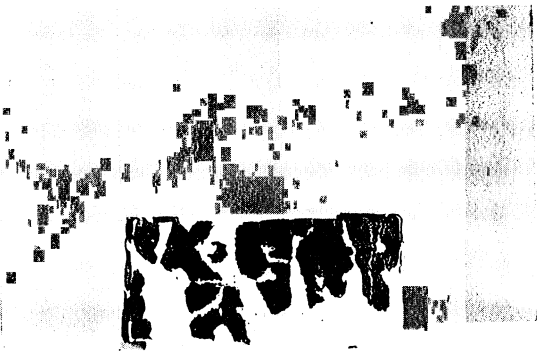
J H18号住居跡　(369)

G－22グリット　(475)

G－23グリット　(476)

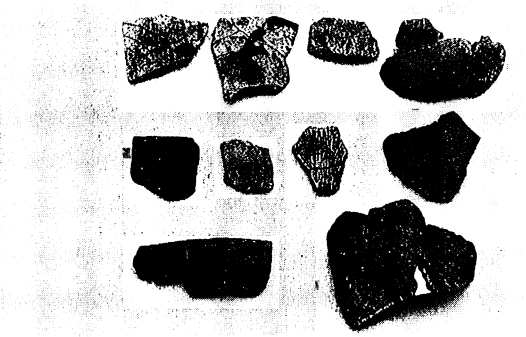


K－14グリット　(555)

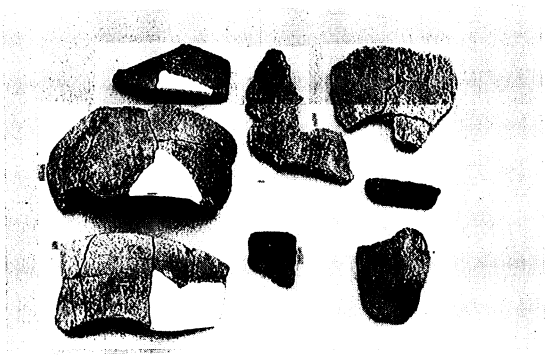


K－25グリット　(603)

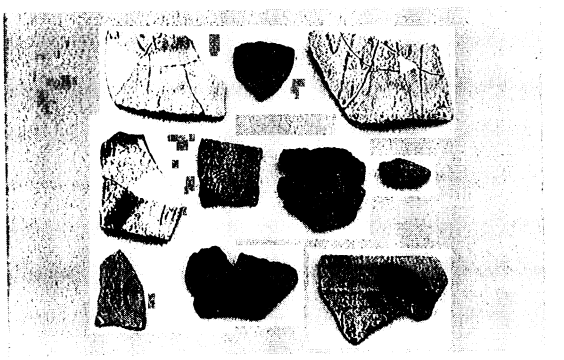
縄文式土器　2～12



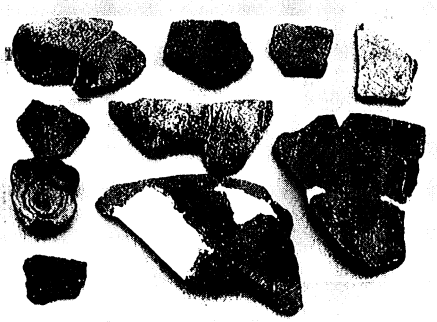
13～22



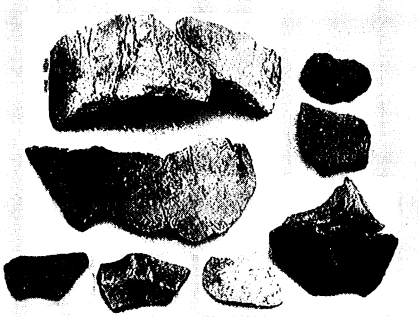
23～30



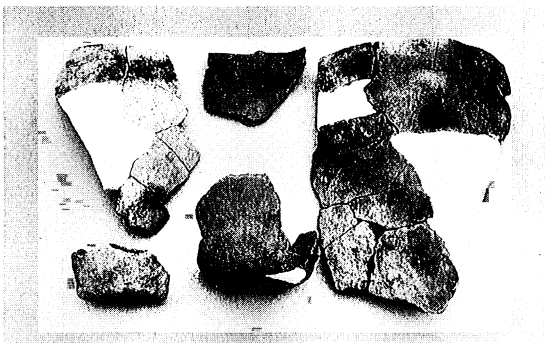
33～38・40～43



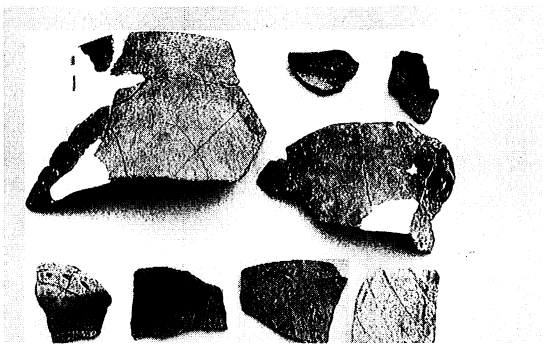
44～53



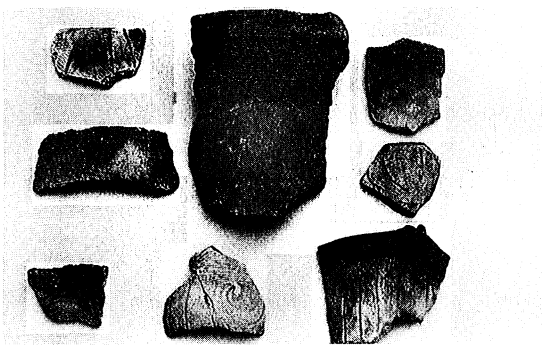
54～61



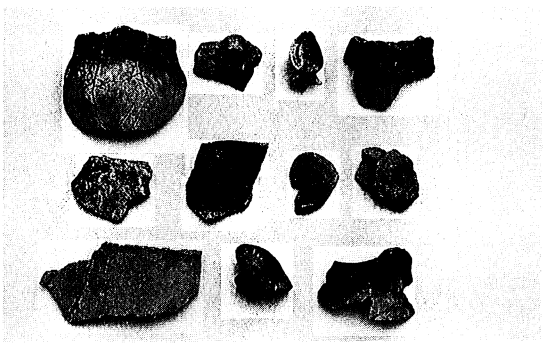
縄文式土器　62～66



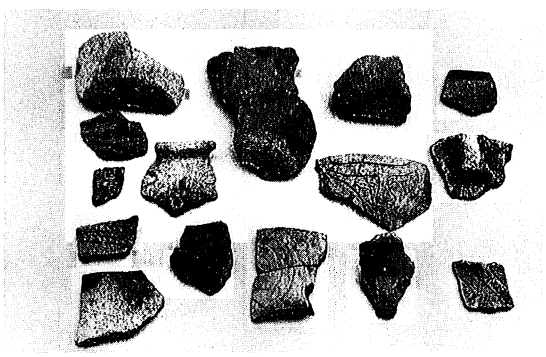
67～74



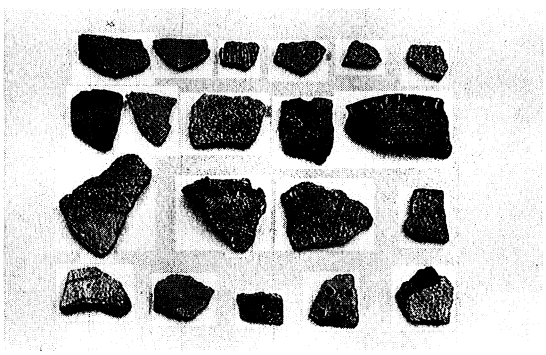
75～82



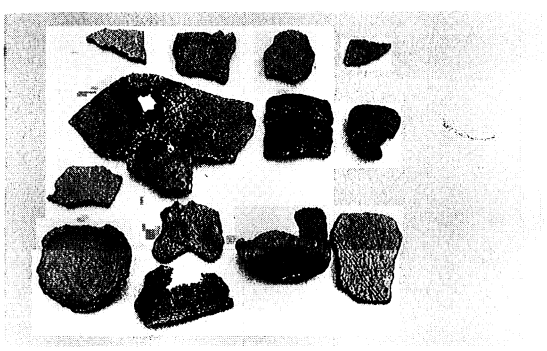
83～93



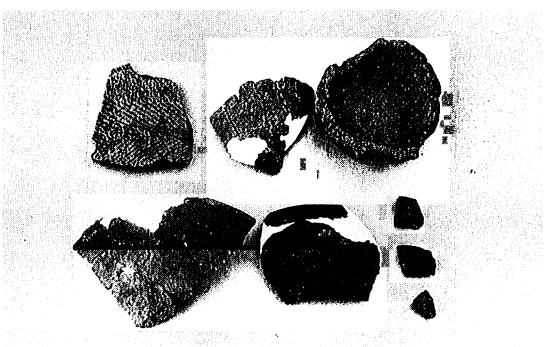
94～96・99～103・105～111



112～116・118～132



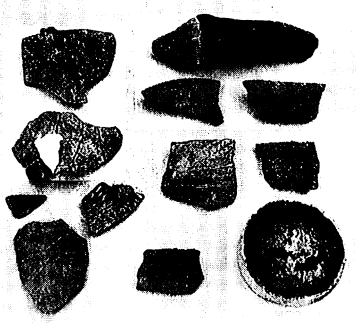
133～137・139～141・146～150



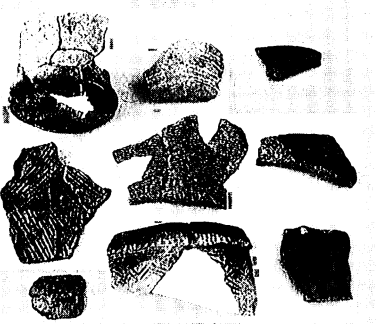
151～154・156～159

縄文式土器　163～165・168～172・174

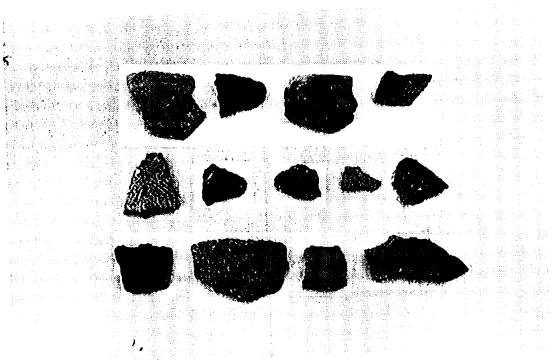
175～185



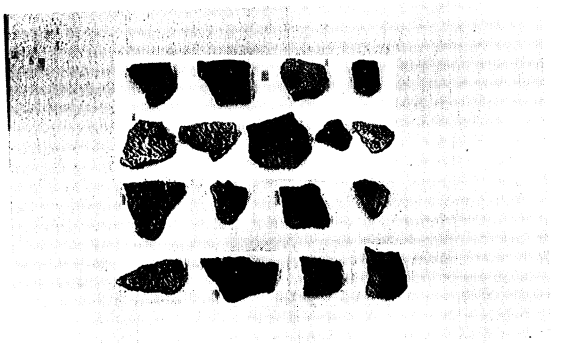
186～197



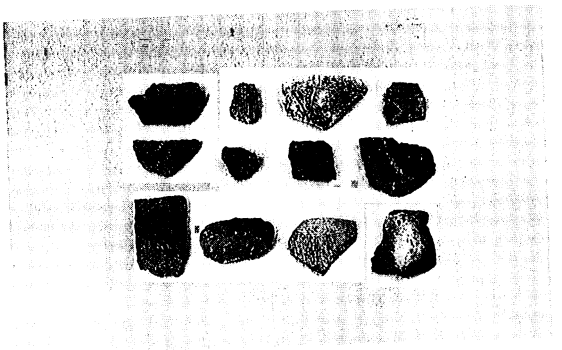
198～206



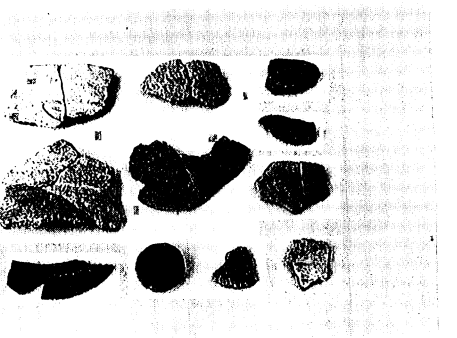
207～219



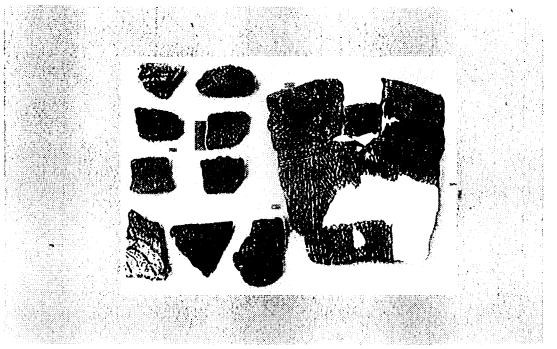
220～236



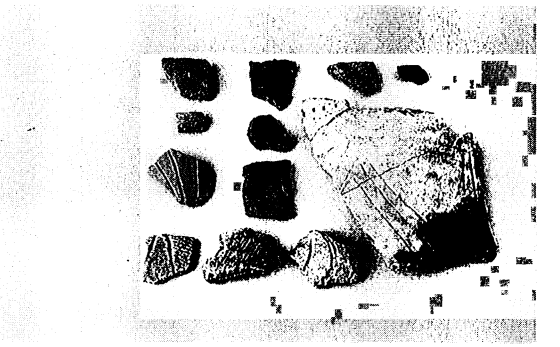
237～248



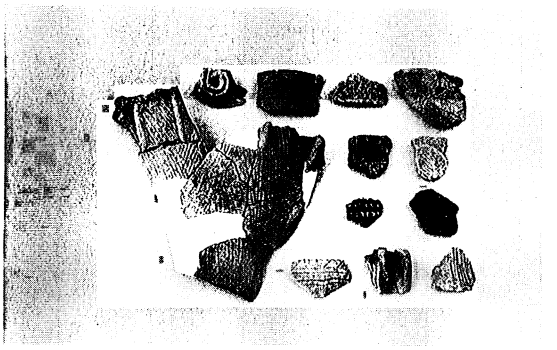
253～263



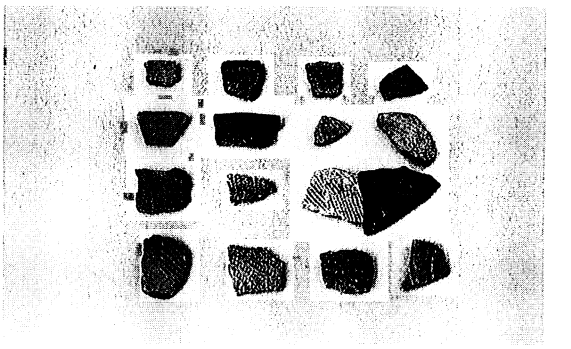
縄文式土器　264～273



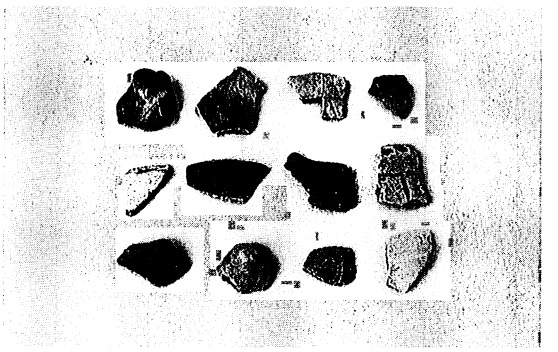
274～285



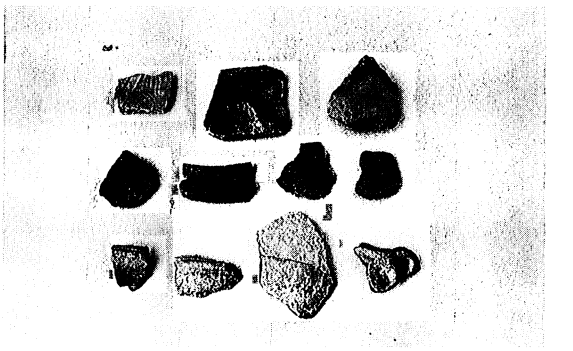
286～293・296・297・299・300



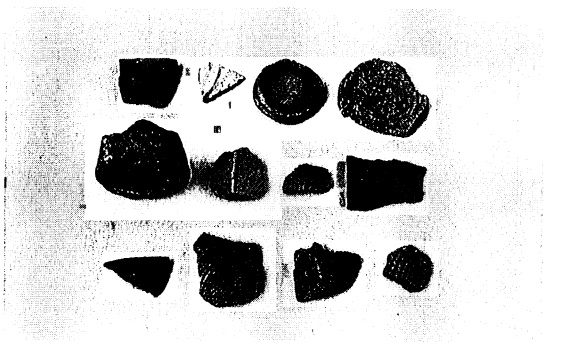
301～315



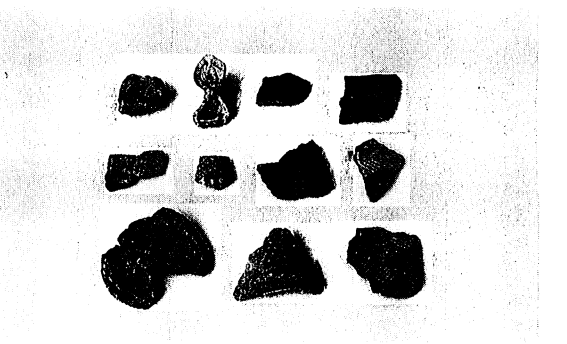
316～327



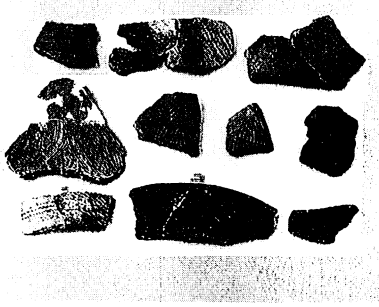
328～338



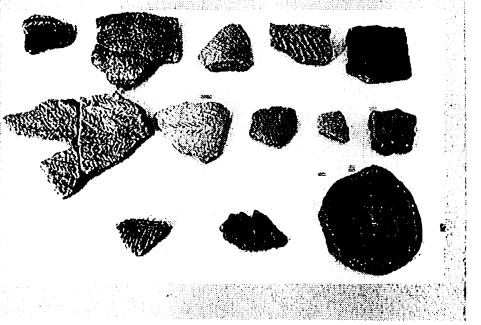
339～350



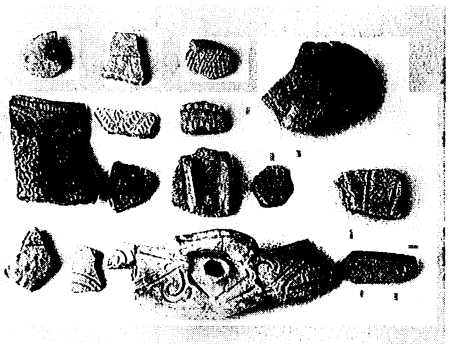
351～356・358～362



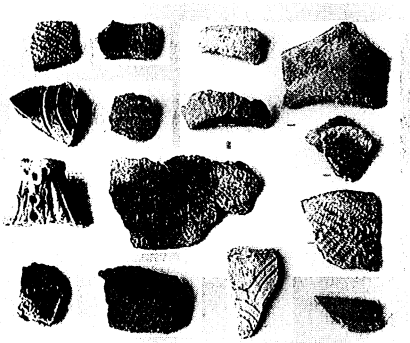
縄文式土器　363～368・370～373



374～386

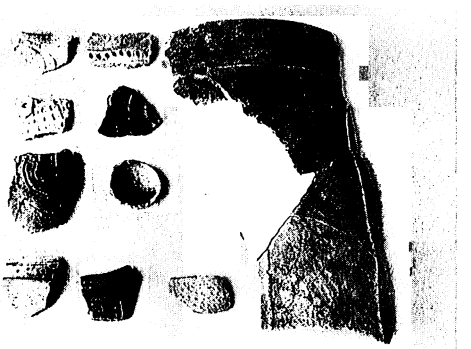


387～401

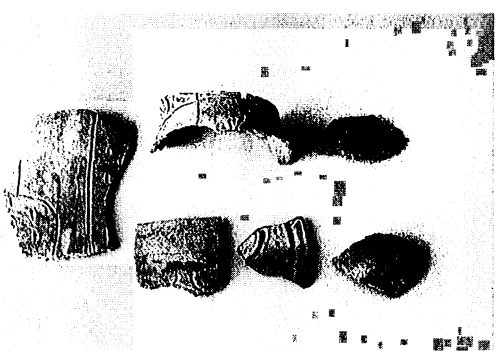


402～416

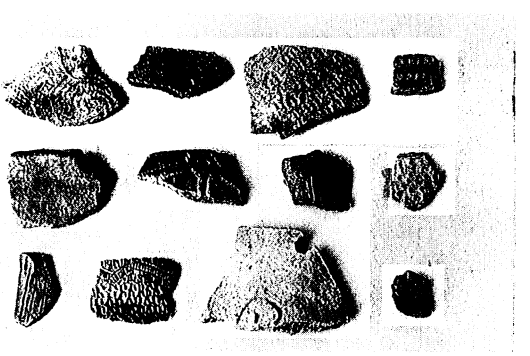
417～424



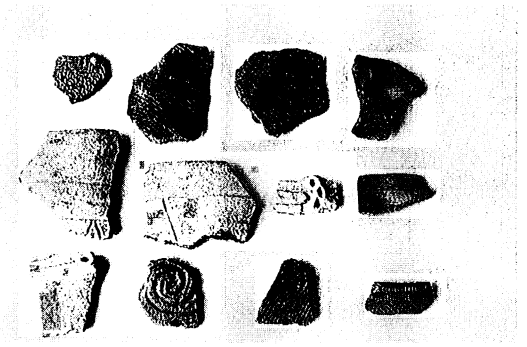
425～429・431～434



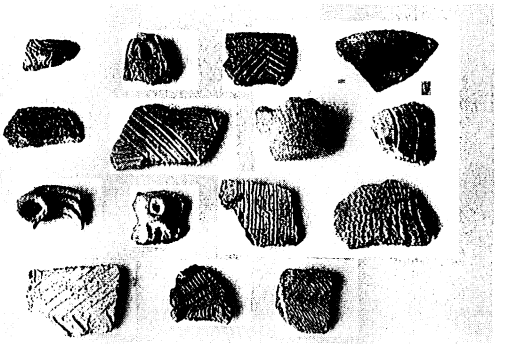
436～441



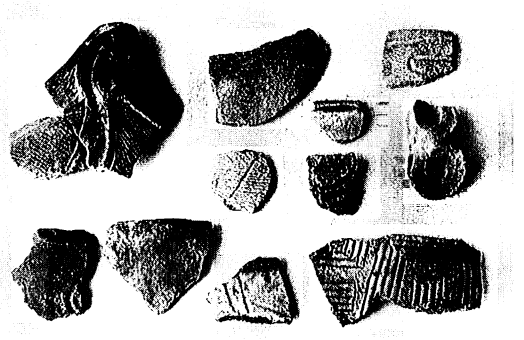
442～453



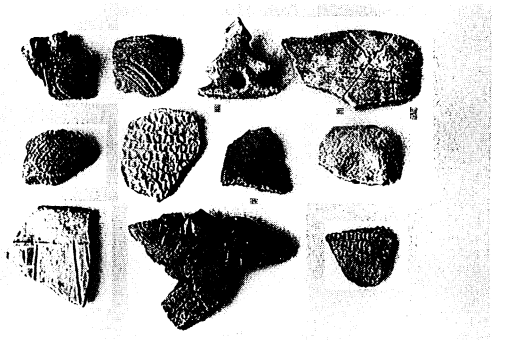
縄文式土器　454～465



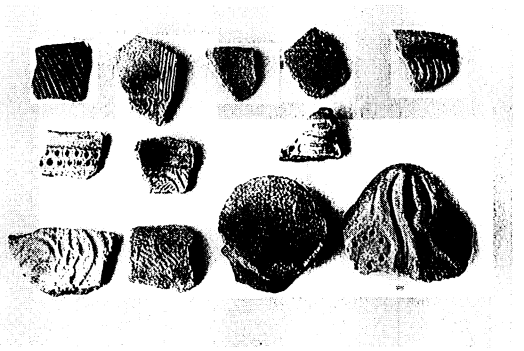
466～474・477～482



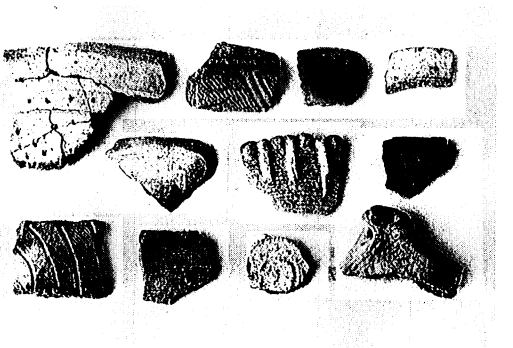
483～493



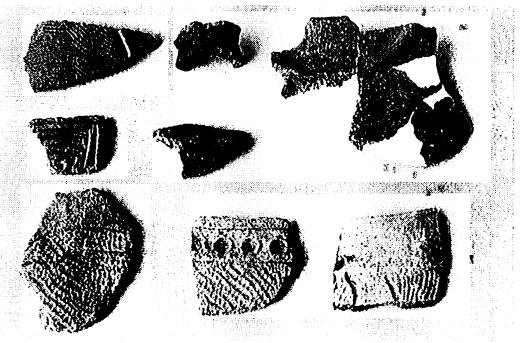
494～504



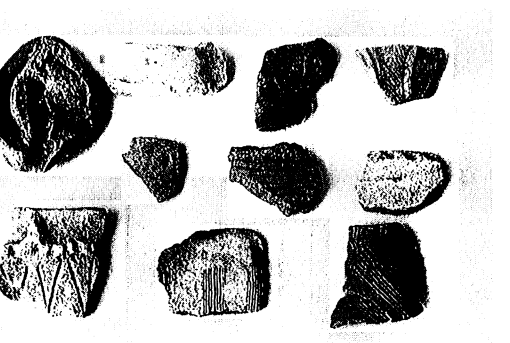
505～516



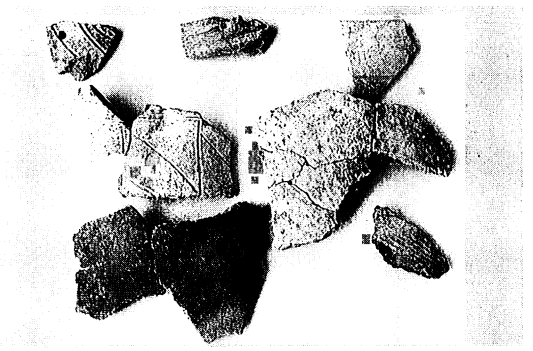
517～527



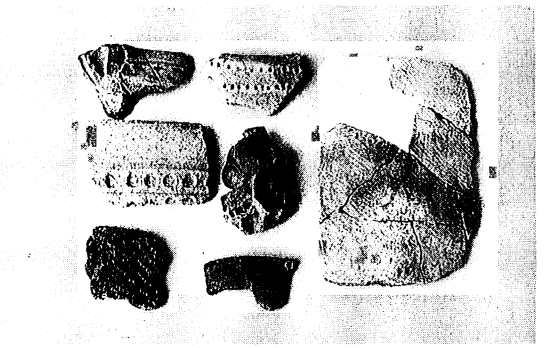
528～535



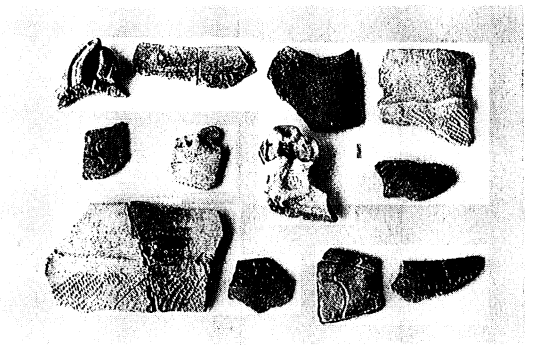
536～545



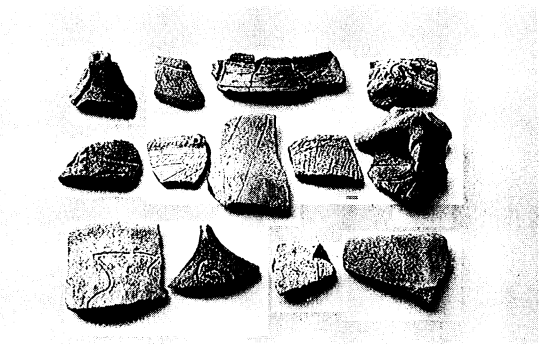
縄文式土器　546～552



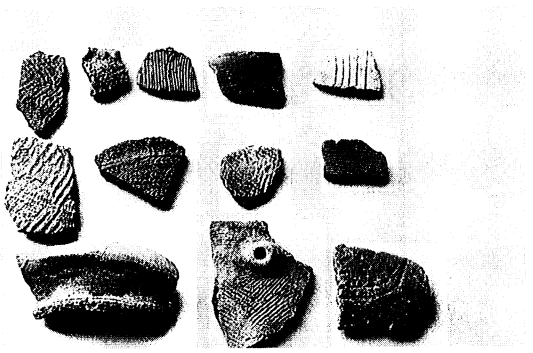
553・554・556～560



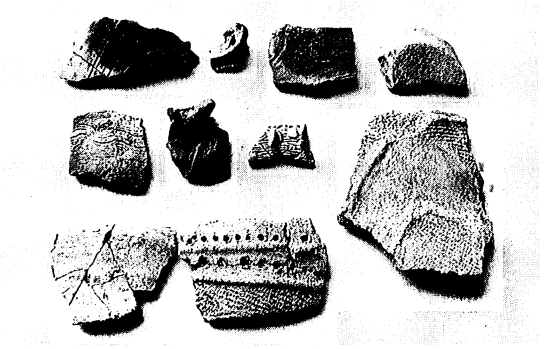
561～572



573～585

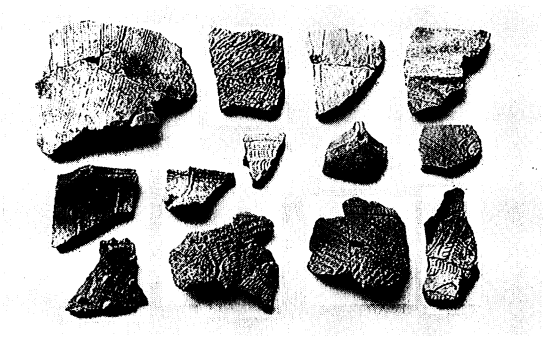


586～597

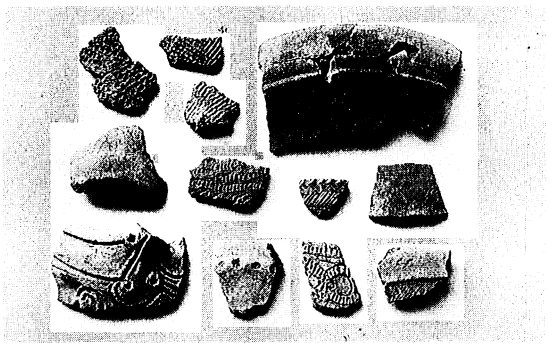


598～602・604　～608

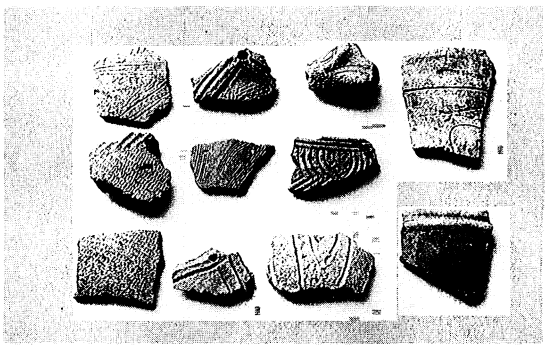
609～616



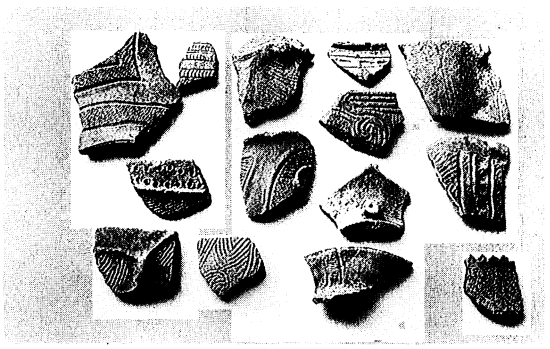
617～629



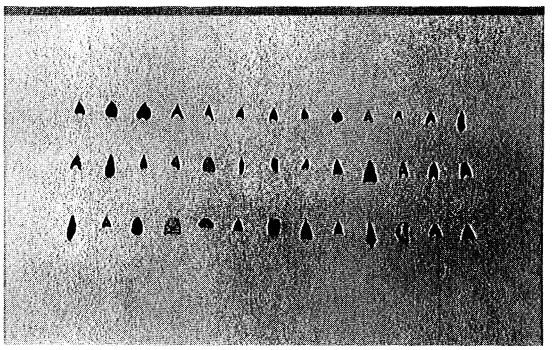
縄文式土器　630～641



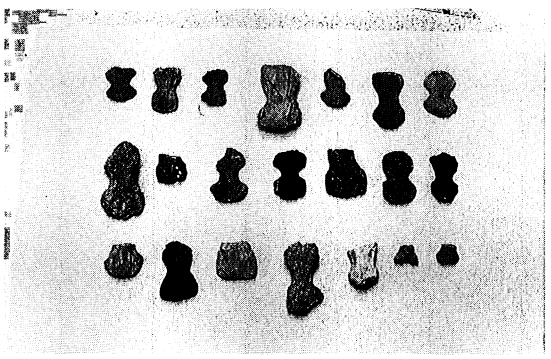
642～652



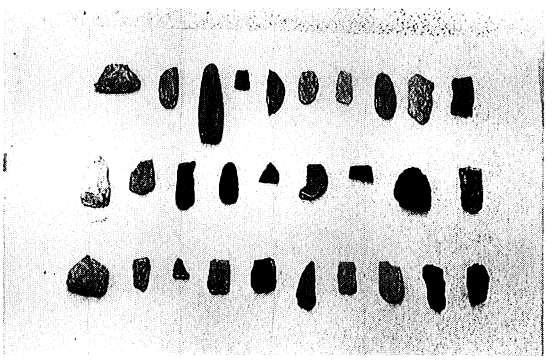
653～666



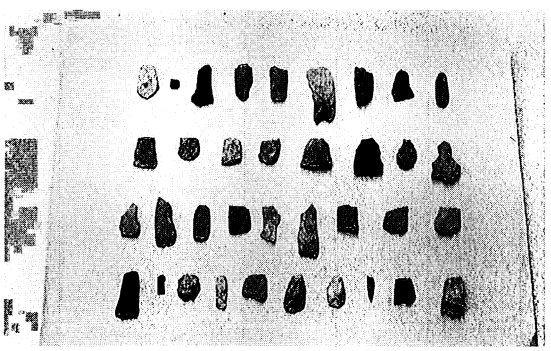
石鏃　1～39



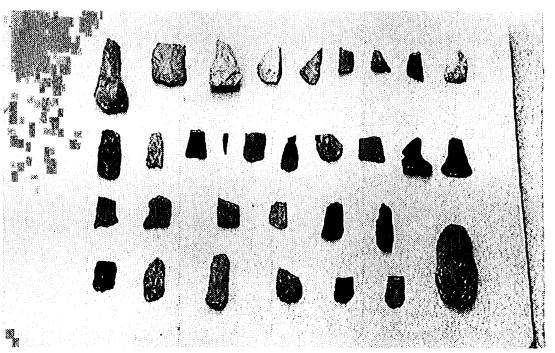
分銅形石斧　40～60



打製石斧　61～89

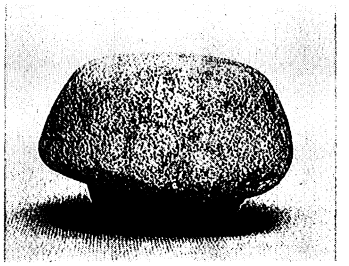


90～125

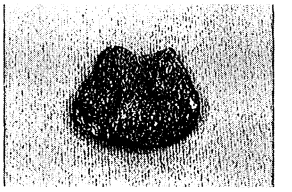


126～157

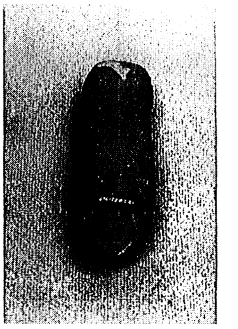
敷石１号住居跡(161) 石棒



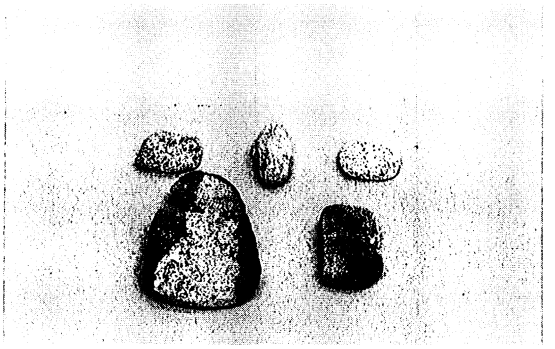
敷石４号住居跡(189) 石棒



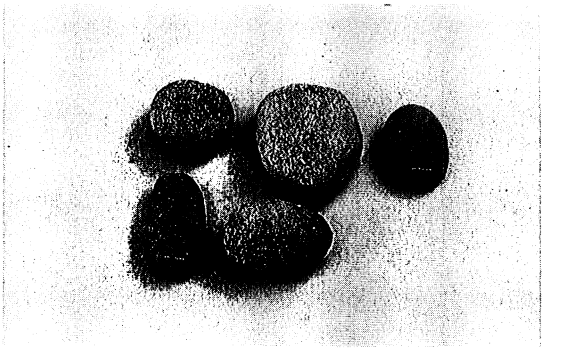
敷石４号住居跡
(190) 矢柄研磨器



敷石４号住居跡(192) 石棒



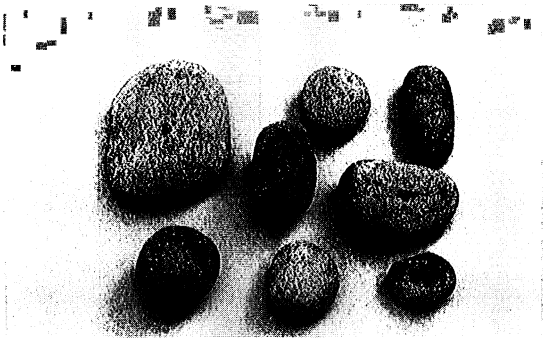
岩版・岩偶 167～170•191



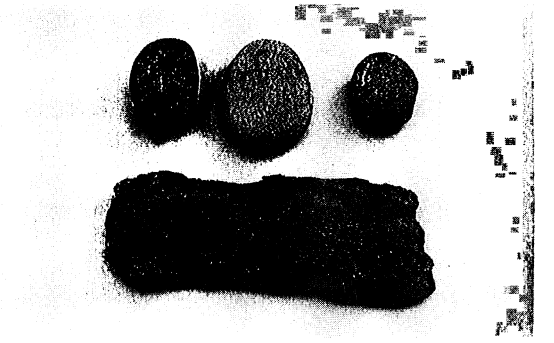
石器　158•162～165

159•160

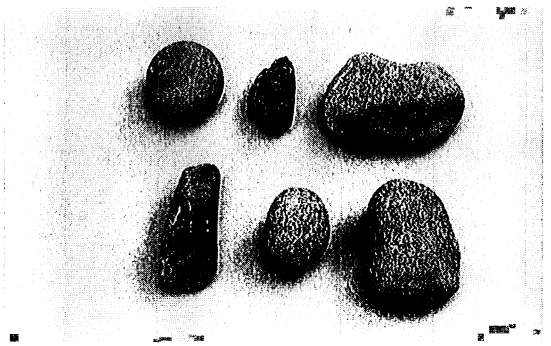
166•171



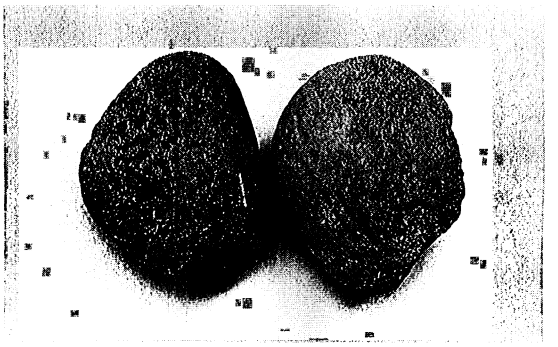
172～179



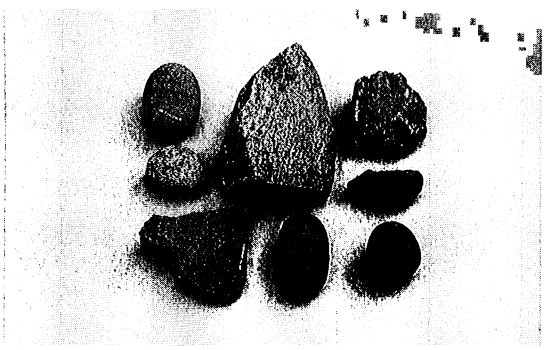
180～183



石器 184～186・188・193・194

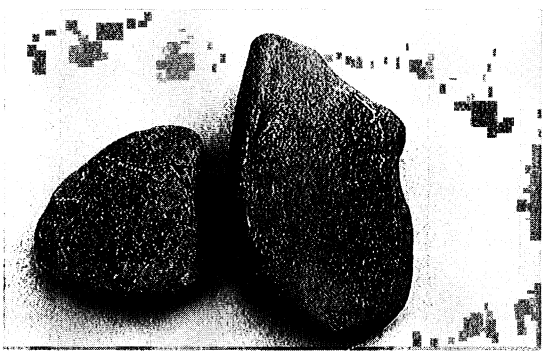


187・198

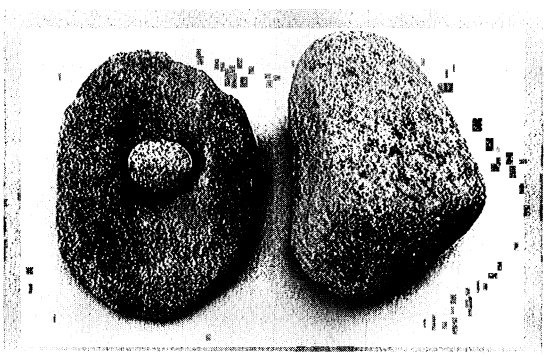


195～197・199・ 200～203

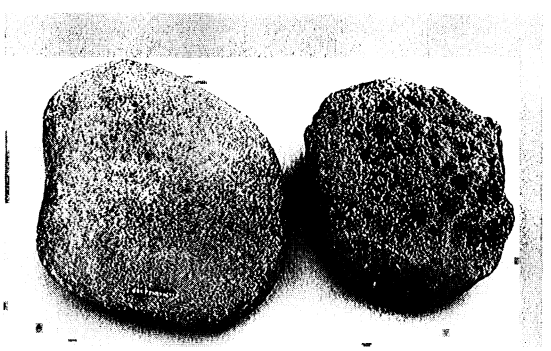
204～207・ 211・213・216・217



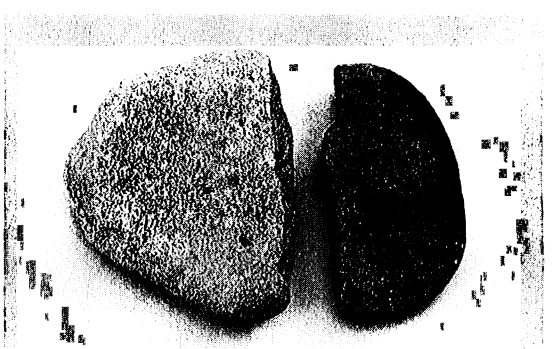
208・209



210・212

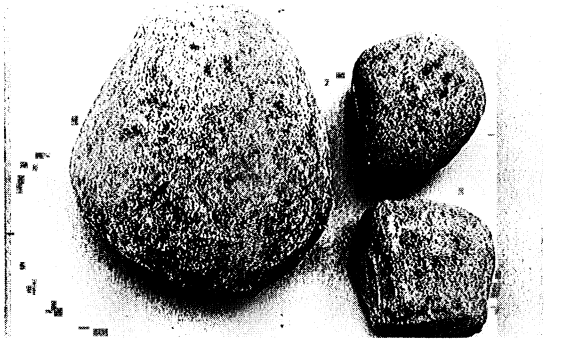


214・215

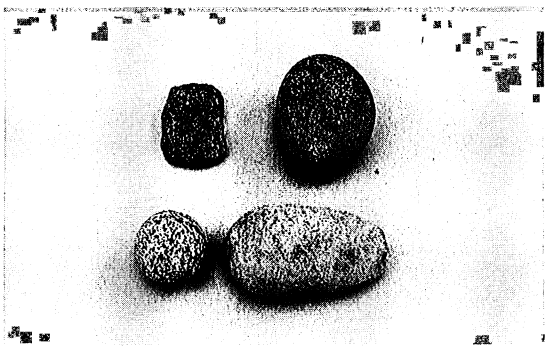


218・219

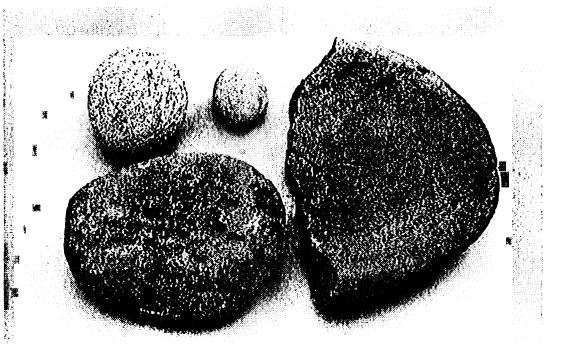
石器 220～222



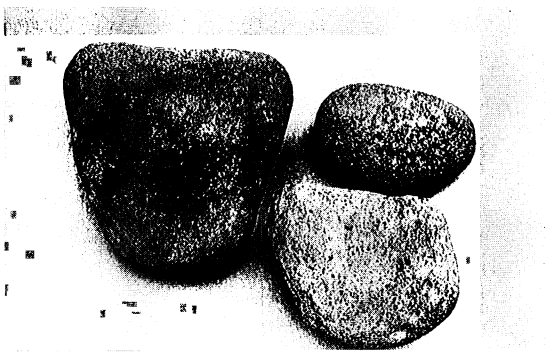
223・225・228



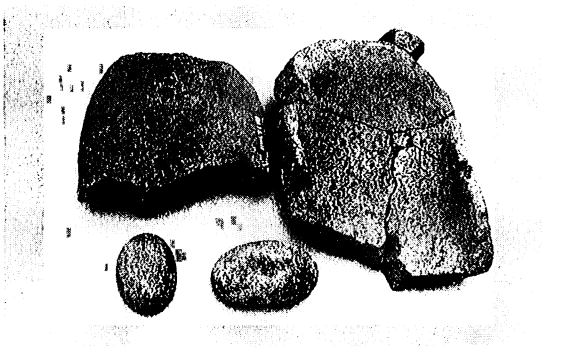
224・226・227・229



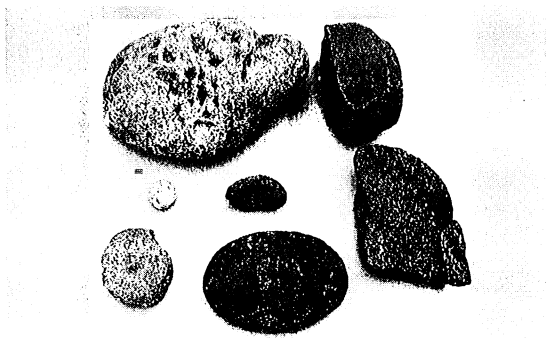
230～233



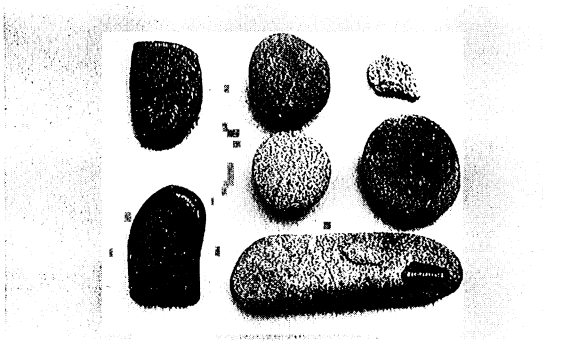
234・235・237



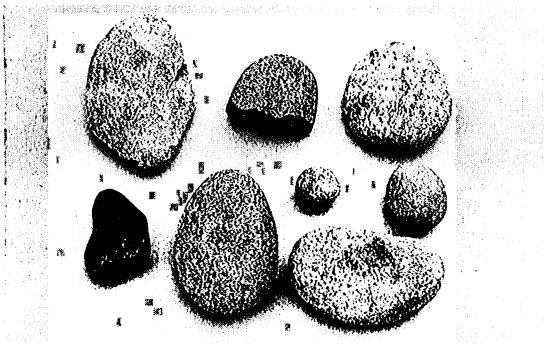
236・238～240



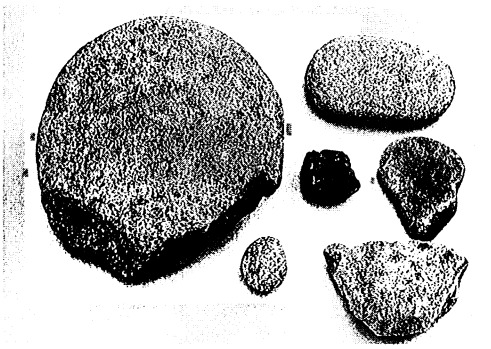
241～247



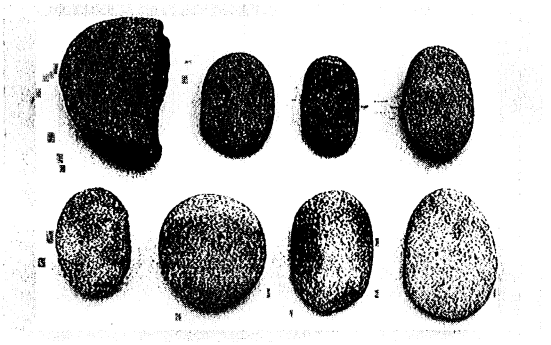
248～254



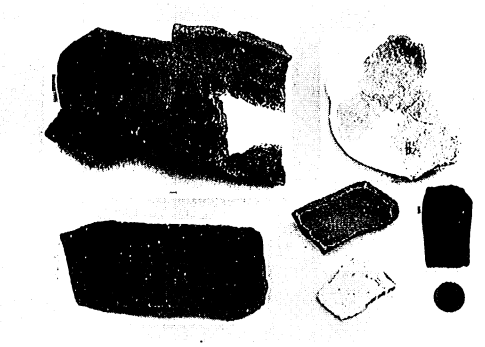
石器 255～262



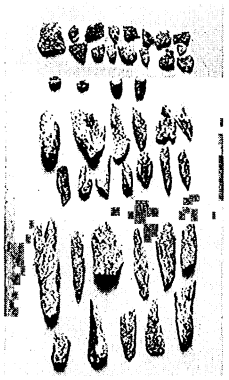
263～268



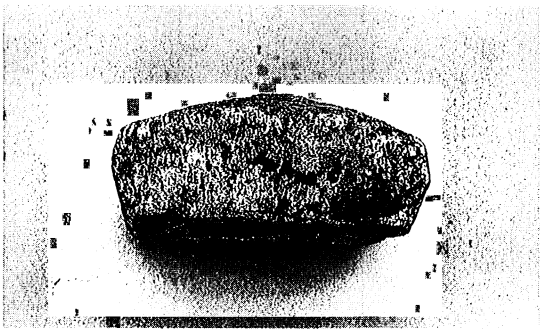
269～276



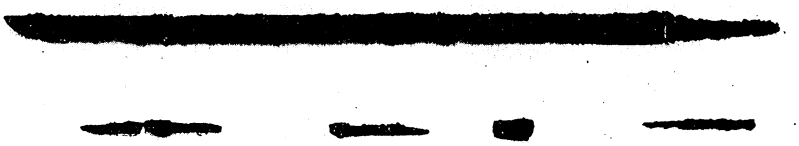
古墳時代以降遺物(5～7・9・10～12)



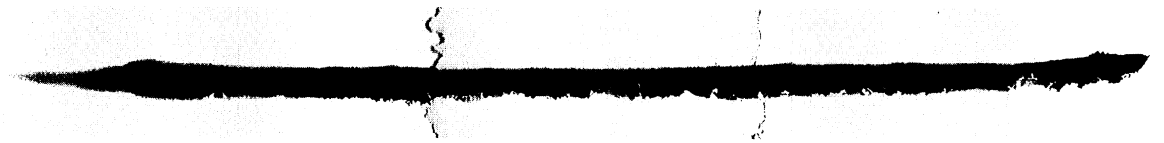
5号墳石室内　人骨



5号墳周溝(13)　笠



鉄製品(1・2・3・4・8)



5号墳石室内　鉄剣　X線写真

調査に参加した方々は次の通りであります。（五十音順）

青木芳子　荒井新也　新井ヒロ子　石井千絵　石川サワ子
石川典子　入沢やい　内山恵美子　岡野とし子　勝沼健也
鎌塚吉松　川口能輝　菊地智　喜楽トヨ　喜楽久子
栗原計子　小沼里子　小林敏子　小林康典　佐々木智恵子
佐鳥直子　篠原徳三　渋沢成一　須賀コト　須藤かつ津ゑ
高橋きしの　高橋やすの　高橋やすの　田代きよ　田中喜代子
田中美鈴　角田朱美　内藤貴美子　内藤貴美子　内藤美代子
萩原チエ子　橋本法子　平野昌平　堀口ふくの　松倉菊江
山崎勘治　山田ひとみ　吉田さだ子　吉田光子

住宅団地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

芳賀北曲輪遺跡

群馬県前橋市

平成2年3月31日　印刷
平成2年3月31日　発行

発行者　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664番地の4

編集　スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地の1

印刷　有限会社サクラヤ印刷所
前橋市石倉町一丁目5番7号